鹿児島県

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(181)

前原和田遺跡(霧島市福山町)

二〇一四年三月　鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（181）

一般県道大川原小村線道路改築事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅰ）

前原和田遺跡
（まえはらわだ）

（霧島市福山町）

2014年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

序　文

この報告書は，一般県道大川原小村線道路改築事業に伴って，平成２３年度から平成２４年度にかけて実施した霧島市福山町佳例川に所在する前原和田遺跡の発掘調査の記録です。

前原和田遺跡では旧石器時代の石器や縄文時代，古墳時代の遺構・遺物，中世の畝状遺構が発見されました。大隅半島と薩摩半島の境界に位置する当遺跡から出土した縄文時代中期後半から後期の遺物は，在地土器と北部九州からの土器との関係を解明する上で貴重な資料となることと思います。

本報告書が，県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に，調査にあたり御協力をいただいた姶良・伊佐地域振興局，霧島市教育委員会，関係各機関及び発掘調査・整理作業に従事された方々に厚くお礼を申し上げます。

平成２６年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　　井ノ上　　秀文

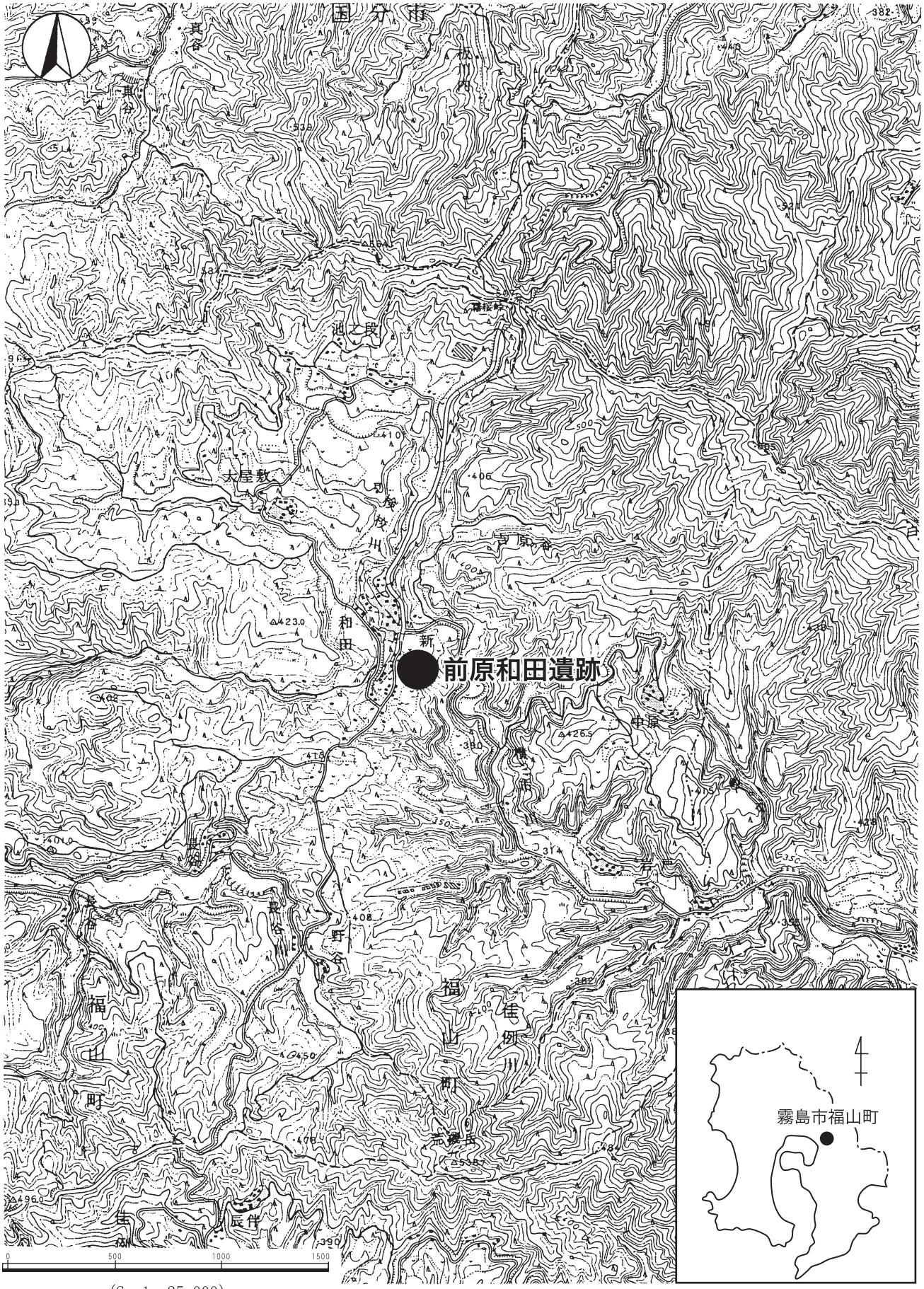
報　告　書　抄　録

ふりがな	まえはらわだ
書名	前原和田遺跡
副書名	一般県道大川原小村線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	(I)
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	181
編著者名	有馬　孝一　　吉元　輝幸
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号　TEL　0995-48-5811
発行年月日	西暦 2014 年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	発掘原因
まえはらわだ 前原和田遺跡	かごしまけん 鹿児島県 きりしまし 霧島市 ふくやまちょう 福山町 かれいがわひそき 佳例川比曽木 の 野	462187	62-9	31° 42' 54"	130° 53' 05"	試掘調査 20120126 本調査 20120801 ～ 20121026	3,800	一般県道大川原小村線道路改築事業に伴う記録保存調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
前原和田遺跡	散布地 散布地 集落跡 散布地	旧石器時代 縄文時代早期 中期末～後期 晩期 古墳時代 中世以降	 竪穴住居跡 土坑 黒曜石ブロック 竪穴住居跡 畝状遺構 帯状硬化面	石核，剥片 前平式土器，押形文土器 並木式土器，大平式土器，阿高系土器，南福寺式土器 入佐式土器，黒川式土器，干河原式土器，石斧，磨石，石皿 成川式土器	

遺跡の概要	古くは旧石器時代の石器から，新しいところでは中世以降の帯状硬化面まで幅広い時代の遺構，遺物を出土する遺跡である。中でも縄文時代中期末から後期初頭にかけての遺物が多量に出土し，薩摩半島，大隅半島の境界に位置する当遺跡は北部九州の土器と在地土器との関係性を考えていく上で重要な役割を占める。



(S＝1：25,000)

遺跡位置図

例　言

1　本書は，一般県道大川原小村線道路改築事業に伴う前原和田遺跡の発掘調査報告書である。
2　本遺跡は，鹿児島県霧島市福山町佳例川に所在する。
3　発掘調査は，姶良・伊佐地域振興局建設部道路建設課（事業主体）から鹿児島県教育委員会が受託し，鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。
4　発掘調査は，平成23年度から平成24年度に実施し，整理・報告書作成作業は平成25年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで実施した。
5　掲載遺物番号は通し番号とし，本文・挿図・表・図版の番号は一致する。
6　遺物注記等で用いた遺跡記号は「マワ」である。
7　挿図の縮尺は，挿図ごとに示した。
8　本書で用いたレベル数値は，海抜絶対高である。
9　本書で使用した方位は，すべて磁北である。
10　発掘調査における実測図作成及び写真撮影は，調査担当者が行った。
11　遺構図及び遺物分布図の作成及びトレースは有馬，吉元が整理作業員の協力を得て行った。
12　出土遺物の実測・トレースは，有馬，吉元が整理作業員の協力を得て行った。
13　出土遺物の写真撮影は，吉岡，辻，今村が行った。
14　本報告書に係る自然科学分析は，株式会社　加速器分析研究所が行った。
15　本書の編集は，有馬が担当し，執筆の分担は次のとおりである。

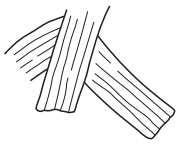
第１章			有馬孝一
第２章			吉元輝幸
第３章	第１節		有馬孝一
	第２節		吉元輝幸
	第３節	１	堂込秀人
		２	有馬孝一
		３	吉元輝幸
		４	吉元輝幸
第４章			文頭に記載
第５章			有馬孝一，吉元輝幸

16　本報告書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示・活用を図る予定である。

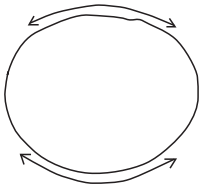
凡　　例

1. 土器の法量の計測にあたり、観察表内の（　　）の表記は、残存状況の良好なものについて図面上で反転復元を行い口径・底径が推測できたもの、器高については口縁からと底部からの残存高である。

2. 土器実測図調整痕表示について

調整痕種		実測図表示例	留意点
ナ	工具ナデ		・工具幅を明瞭に
デ	ナ　デ		・ナデ幅を明瞭に
ハケメ			・工具幅を明瞭に ・始点終点の表示 ・切り合い関係の重視
ミガキ			・ミガキ痕の重なり
指頭圧痕			・指幅の明示

3. 石器実測図表示について



磨　面

4. 実測図スケール

○　土器は、1/3で記載　　○　石器は、1/1、1/2、1/4で記載

5.　縄文時代遺物出土状況のドット表示について

中期末～後期　Ⅲ類：★　Ⅳ類：■　Ⅴ類：▲　Ⅵ類：●　Ⅶ類：◆
石器：○　フレーク：□　チップ：△　その他：●
晩期　Ⅷ類：●　Ⅸ類：▲　Ⅹ類：■　ⅩⅠ類：◆　その他：●

目　　次

巻頭図版
序文
報告書抄録
遺跡位置図
例言
凡例
目次

第１章　発掘調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至るまでの経緯 …… 1
　第２節　事前調査 …… 1
　第３節　本調査 …… 1
　第４節　整理・報告書作成 …… 3

第２章　遺跡の位置と環境 …… 5
　第１節　地理的環境 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5

第３章　発掘調査の方法と成果 …… 9
　第１節　発掘調査の方法 …… 9
　　１　調査の方法 …… 9
　　２　遺構の認定と検出方法 …… 9
　第２節　層序 …… 12
　第３節　調査の成果 …… 15
　　１　旧石器時代の調査 …… 15
　　２　縄文時代の調査 …… 18
　　３　古墳時代の調査 …… 70
　　４　中世以降の調査 …… 80

第４章　自然科学分析 …… 85

第５章　総括 …… 89

挿図目次

第１図　グリッド配置及び周辺地形 ……４
第２図　周辺遺跡位置図 ……７
第３図　グリッド配置図及びトレンチ配置図(1) ……10
第４図　グリッド配置図及びトレンチ配置図(2) ……11
第５図　基本層序 ……12
第６図　土層断面図(1) ……13
第７図　土層断面図(2) ……14
第８図　旧石器時代(Ⅻ層)遺物出土状況 ……15
第９図　旧石器時代石器(1) ……16
第10図　旧石器時代石器(2) ……17
第11図　旧石器時代(Ⅺ層)遺物出土状況 ……17
第12図　縄文時代遺構配置図 ……18
第13図　縄文時代(Ⅴ層上面)竪穴住居跡検出状況及び遺物出土状況 ……19
第14図　縄文時代竪穴住居跡内出土遺物(1)　20
第15図　縄文時代竪穴住居跡内出土遺物(2)　21
第16図　縄文時代土坑1～３号検出状況 ……21
第17図　縄文時代土坑２,３号内出土遺物 ……22
第18図　縄文時代土坑３号内出土遺物 ……23
第19図　土器類別 ……24
第20図　縄文時代遺物出土状況 ……25
第21図　Ⅰ，Ⅱ類土器 ……26
第22図　Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ類土器 ……27
第23図　Ⅴ類土器 ……28
第24図　Ⅵ類土器(1) ……29
第25図　Ⅵ類土器(2) ……30
第26図　Ⅵ類土器(3) ……31
第27図　Ⅵ類土器(4) ……32
第28図　Ⅵ類土器(5) ……33
第29図　Ⅵ類土器(6) ……34
第30図　Ⅵ類土器(7) ……35
第31図　Ⅵ類土器(8) ……36
第32図　Ⅵ類土器(9) ……38
第33図　Ⅵ類土器(10) ……39
第34図　Ⅵ類土器(11) ……40
第35図　Ⅵ類土器(12) ……41
第36図　Ⅵ類土器(13) ……42
第37図　Ⅵ類土器(14) ……43
第38図　Ⅵ類土器(15) ……44
第39図　Ⅵ類土器(16) ……45
第40図　Ⅵ類土器(17) ……46
第41図　Ⅵ類土器(18) ……47
第42図　Ⅵ類土器(19) ……48
第43図　Ⅵ類土器(20) ……49
第44図　Ⅶ類土器 ……50
第45図　底部(1) ……51
第46図　底部(2) ……52
第47図　底部(3) ……53
第48図　底部(4) ……54
第49図　底部(5) ……55
第50図　円盤状土製品 ……56
第51図　Ⅷ，Ⅸ，Ⅹ，Ⅺ類土器 ……57
第52図　縄文時代石器(1) ……64
第53図　縄文時代石器(2) ……65
第54図　縄文時代石器(3) ……66
第55図　縄文時代石器(4) ……67
第56図　縄文時代石器(5) ……68
第57図　縄文時代石器(6) ……69
第58図　古墳時代遺構配置図及び遺物出土状況 ……70
第59図　古墳時代竪穴住居跡１号検出状況 …71
第60図　古墳時代竪穴住居跡１号遺物出土状況 ……72
第61図　古墳時代竪穴住居跡１号内出土遺物(1) ……72
第62図　古墳時代竪穴住居跡１号内出土遺物(2) ……73
第63図　古墳時代竪穴住居跡２号検出状況 …74
第64図　古墳時代竪穴住居跡２号遺物出土状況 ……75

第65図　古墳時代竪穴住居跡２号内出土遺物(1)……75
第66図　古墳時代竪穴住居跡２号内出土遺物(2)……76
第67図　古墳時代竪穴住居跡３号検出状況　…77
第68図　古墳時代竪穴住居跡３号遺物出土状況……78
第69図　古墳時代竪穴住居跡３号内出土遺物(1)……78
第70図　古墳時代竪穴住居跡３号内出土遺物(2)……79
第71図　畝状遺構配置図　……80
第72図　畝状遺構検出状況　……81
第73図　帯状硬化面配置図　……82
第74図　Ⅲ層上面検出帯状硬化面検出状況・断面……83
第75図　Ⅳa層上面検出帯状硬化面検出状況・断面……84

表目次・図版目次

表目次

表１　周辺遺跡一覧表　……８
表２　旧石器時代石器観察表　……16
表３　縄文時代遺構内土器観察表　……53
表４　縄文時代遺構内石器観察表　……55
表５　縄文時代土器観察表(1)　……56
表６　縄文時代土器観察表(2)　……58
表７　縄文時代土器観察表(3)　……59
表８　縄文時代土器観察表(4)　……60
表９　縄文時代土器観察表(5)　……61
表10　縄文時代土器観察表(6)　……62
表11　縄文時代土器観察表(7)　……63
表12　縄文時代石器観察表　……69
表13　古墳時代遺構内土器観察表　……79
表14　古墳時代遺構内石器観察表　……79
表15　古墳時代土器観察表　……79

図版目次

図版１　遺跡遠景　……93
図版２　発掘調査(1)　……94
図版３　発掘調査(2)　……95
図版４　発掘調査(3)　……96
図版５　発掘調査(4)　……97
図版６　発掘調査(5)　……98
図版７　発掘調査(6)　……99
図版８　発掘調査(7)　……100
図版９　旧石器時代石器，縄文時代Ⅰ・Ⅱ類土器……101
図版10　縄文時代竪穴住居跡出土土器，Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類土器　……102
図版11　縄文時代Ⅴ・Ⅵ類土器　……103
図版12　縄文時代Ⅵ類土器(1)　……104
図版13　縄文時代Ⅵ類土器(2)　……105
図版14　縄文時代Ⅵ類土器(3)　……106
図版15　縄文時代Ⅵ類土器(4)　……107
図版16　縄文時代Ⅵ類土器(5)　……108
図版17　縄文時代Ⅵ類土器(6)　……109
図版18　縄文時代Ⅵ・Ⅶ類土器　……110
図版19　縄文時代土器底部，組織痕土器，円盤状土製品　……111
図版20　縄文時代Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ類土器……112
図版21　縄文時代石器(1)　……113
図版22　縄文時代石器・土坑３号出土石器…114
図版23　古墳時代竪穴住居跡１号・２号内出土遺物　……115
図版24　古墳時代竪穴住居跡３号内出土遺物，古墳時代出土土器　……116

第１章　発掘調査の経過

第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し，諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき，鹿児島県土木部道路建設課（姶良・伊佐地域振興局　建設部道路建設課・以下道路建設課）は，一般県道大川原小村線道路改築事業を計画し，事業地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課(以下，文化財課)に照会した。

この計画に伴い文化財課は，事業地が周知の遺跡である前原和田遺跡の範囲内にあることを確認した。この結果をもとに,事業区間内の埋蔵文化財の取扱いについて，道路建設課・文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下埋文センター）の三者で協議を行い，埋蔵文化財の保護と事業推進の調整を図るため，事業着手前に試掘調査を実施することになった。

試掘調査は，文化財課及び埋文センターが担当することとし，平成24年１月26日に実施された。その結果，遺構・遺物の存在が確認された。

そこで，再度三者で協議を行い，前原和田遺跡について本調査を実施することとなった。調査は埋文センターが担当し，平成24年８月１日～平成24年10月26日（実働49日間）にかけて実施した。

第２節　事前調査

１　試掘調査

調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
　　姶良･伊佐地域振興局建設部土木建築課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県教育庁文化財課
　　課　　長　前原　浩一
調査企画　鹿児島県教育庁文化財課
　　課　長　補　佐　平嶺　浩
　　主任文化財主事兼
　　埋蔵文化財係長　前迫　亮一
調査担当　鹿児島県教育庁文化財課
　　文　化　財　主　事　川口　雅之
　　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　　調査第一課第二調査係長　大久保浩二
　　文　化　財　主　事　有馬　孝一

第３節　本調査

本遺跡の本調査を，平成24年８月１日～平成 24 年 10 月 26 日の 49 日間にわたり実施した。

調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
　　姶良･伊佐地域振興局建設部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　　所　　長　寺田　仁志
調査企画　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　　次長兼総務課長　新小田　穣
　　次長兼南の縄文調査室長　井ノ上秀文
　　調査第一課長　堂込　秀人
　　調査第一課第二調査係長　大久保浩二
調査担当　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　　文　化　財　主　事　有馬　孝一
　　文　化　財　主　事　吉元　輝幸
事務担当　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　　主幹兼総務係長　大園　祥子

調査の過程(日誌抄)

発掘調査の過程を日誌抄をもってかえる。

平成24年度　本調査（H24.8.1～H24.10.26）

・H24.8.1～H 24.8.3
　オリエンテーション，グリッド杭打設
　環境整備
　E･F-4～11区　表土剥ぎ
　C･E-21～27区　掘り下げ
　寺田所長，大久保係長　現場視察(3日)

・H24.8.6～H 24.8.10
　A･B-33･34区　グリッド杭打設
　E･F-4～11区　表土剥ぎ
　B･D-21～27区　Ⅲ，Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ
　B-34区　Ⅲ層掘り下げ
　B-33区　Ⅲ層上面で畠畝状遺構検出，精査，写真撮影，実測，完掘
　B-26･27区　帯状硬化面検出，精査，写真撮影
　A･B-31～34区,B･C-26区,B-33区,D-21区　Ⅲ層上面まで掘り下げ
　C-23区　Ⅲ層上面で土坑2検出，精査，写真撮影，

実測
C-24区　Ⅲ層上面で土坑1検出，精査，写真撮影，実測，レベル移動

・H 24.8.16～H 24.8.17
A･B-32～34区　Ⅲ層掘り下げ
B･C-23区　Ⅳa層上面精査
B･C-24～26区　Ⅲ，Ⅳ層遺物取り上げ
C-23区　土坑2平面図実測
B-25～27区　帯状硬化面完掘，精査，写真撮影，実測
E･F-6～8区　トレンチ設定，掘り下げ

・H 24.8.20～H 24.8.24
E･F-3～10区　表土剥ぎ，Ⅲ層上面精査
A･B-34区　Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ
A･B-32･33区　Ⅳ層上面にてピット検出，実測
E･F-6～9区　Ⅲ層上面にて帯状硬化面検出，精査，写真撮影，断面実測，実測位置記録(平板)
A･B-32･34区　Ⅳa，Ⅳb層掘り下げ
B-26･27区　Ⅳ層掘り下げ

・H 24.8.27～H 24.8.28
両日とも雨のため，作業員による作業中止
グリッド杭打設，レベル移動，養生

・H 24.9.3～H 24.9.7
A･B-32～34区，B-27区，B･C-25～27区　Ⅳa 層掘り下げ
B-34区　Ⅳa層上面で土坑5,6検出，精査，写真撮影
E･F-6～9区　Ⅳa層上面にて道跡検出。断面実測，完掘状況写真撮影，実測
B-32～34区　下層確認トレンチ設定。Ⅴ層掘り下げ
B･C-25～27区　Ⅳa層上面遺物出土状況写真撮影
B-28区　Ⅲ層まで掘り下げ

・H 24.9.10～H 24.9.14
B-32～34区　先行トレンチⅥ～Ⅷ層掘り下げ
B･C-25～27区　Ⅳa層遺物取り上げ
B-28･29区　表土剥ぎ，Ⅳa層まで掘り下げ，遺物取り上げ
B-28･29区　Ⅲ層上面にて畝状遺構検出，実測，精査，写真撮影
B-34区　土坑5,6掘り下げ，実測，精査，写真撮影

・H 24.9.18～H 24.9.21
A･B-32～34区　Ⅳa層掘り下げ
B-28･29区　Ⅴ層上面精査
B-32～34区　下層確認トレンチⅥb層まで掘り下げ
B-25～29区　Ⅳa層掘り下げ，遺物取り上げ
A･B-32～34区　黒曜石ブロック出土，取り上げ
安全パトロール(21日)

・H 24.9.24～H 24.9.26
B･C-24～26区　下層確認トレンチ掘り下げ，Ⅶb層遺物出土状況写真撮影，Ⅷ層まで掘り下げ
C-22･23区　住居跡1号，住居跡2号掘り下げ，遺物取り上げ,埋土断面写真撮影
A･B-33･34区　B-25･26区Ⅴ層上面コンタ図作成

・H 24.10.1～H 24.10.5
A･B-31･32区　表土剥ぎ，Ⅲ層まで掘り下げ
E･F-4～9区　トレンチ掘り下げ，土層断面写真撮影
C-22･23区　住居跡1号　ベルト外し，床面精査，炉跡掘り下げ，ピット半裁，炉内遺物取り上げ，完掘，完掘状況写真撮影，炉跡断面実測
C-22･23区　住居跡2号掘り下げ，遺物出土状況写真撮影，遺物取り上げ，実測，ベルト外し
B･C-25～27区　Ⅸ層以下掘り下げ，旧石器時代遺物出土，壁面清掃，土層断面写真撮影

・H 24.10.9～H 25.10.12
B･C-24～25区　Ⅹ～XⅢ層掘り下げ，土層断面実測，写真撮影
A･B-30～31区　表土剥ぎ，Ⅴ層まで掘り下げ
C-22･23区　住居跡1号 完掘状況写真撮影，実測
C-22･23区　住居跡2号 炉跡掘り下げ，実測，住居内遺物取り上げ，完掘状況写真撮影
A･B-31･32区 Ⅲ層上面畝状遺構検出，写真撮影，実測，ボラ抜き，完掘状況写真撮影
A･B-29･30区　Ⅳa層上面にて住居跡3号検出，写真撮影，掘り下げ，　遺物取り上げ，遺物出土状況写真撮影
E･F-5～8区　下層確認トレンチ設定，表土剥ぎ，Ⅸ層まで掘り下げ
E･F-5～8区　Ⅳ層上面コンタ図作成
D-16区 重機にて下層確認トレンチ掘り下げ，土層断面写真撮影

・H 24.10.16～H 24.10.19
A･B-31～32区　Ⅳa層まで掘り下げ，遺物出土状況写真撮影，遺物取り上げ
B･C-23･24区　Ⅸ層上面まで重機で掘り下げ
A･B-27･28区　表土剥ぎ，Ⅲ層上面にて畝状遺構検出，検出状況写真撮影，ボラ抜き，実測，精査，完掘状況写真撮影
F-2～4区　下層確認トレンチ　Ⅸ層まで掘り下げ，

土層断面実測，完掘状況写真撮影
E-2～4区　下層確認トレンチ Ⅸ層まで掘り下げ，土層断面実測，完掘状況写真撮影
A･B-31区　住居跡3号掘り下げ，精査，遺物取り上げ，遺物出土状況写真撮影，平面，断面実測，炉跡断面実測，炉跡完掘，完掘状況写真撮影
B･C-23・24区　Ⅻ層まで掘り下げ

・H 24.10.22～H 24.10.26
A･B-27･28区　Ⅵb層掘り下げ，遺物出土状況写真撮影，遺物取り上げ
B･C-23･24区　Ⅳ層まで掘り下げ
A･B-30･31区　Ⅵb層まで掘り下げ，遺物出土状況写真撮影
A･B-31区　住居跡3号 張り床除去，完掘状況写真撮影
B･C-23・24区　旧石器時代遺物出土状況写真撮影
B-28区　Ⅳb層上面にて，住居跡4号検出，検出状況写真撮影，掘り下げ，遺物取り上げ，遺物出土状況写真撮影，断面･平面実測
調査事務所片付け，リース物品点検，返却
寺田所長，大久保係長終了挨拶(26日)

・H 24.10.29
姶良伊佐地域振興局に引き渡し

第４節　整理・報告書作成

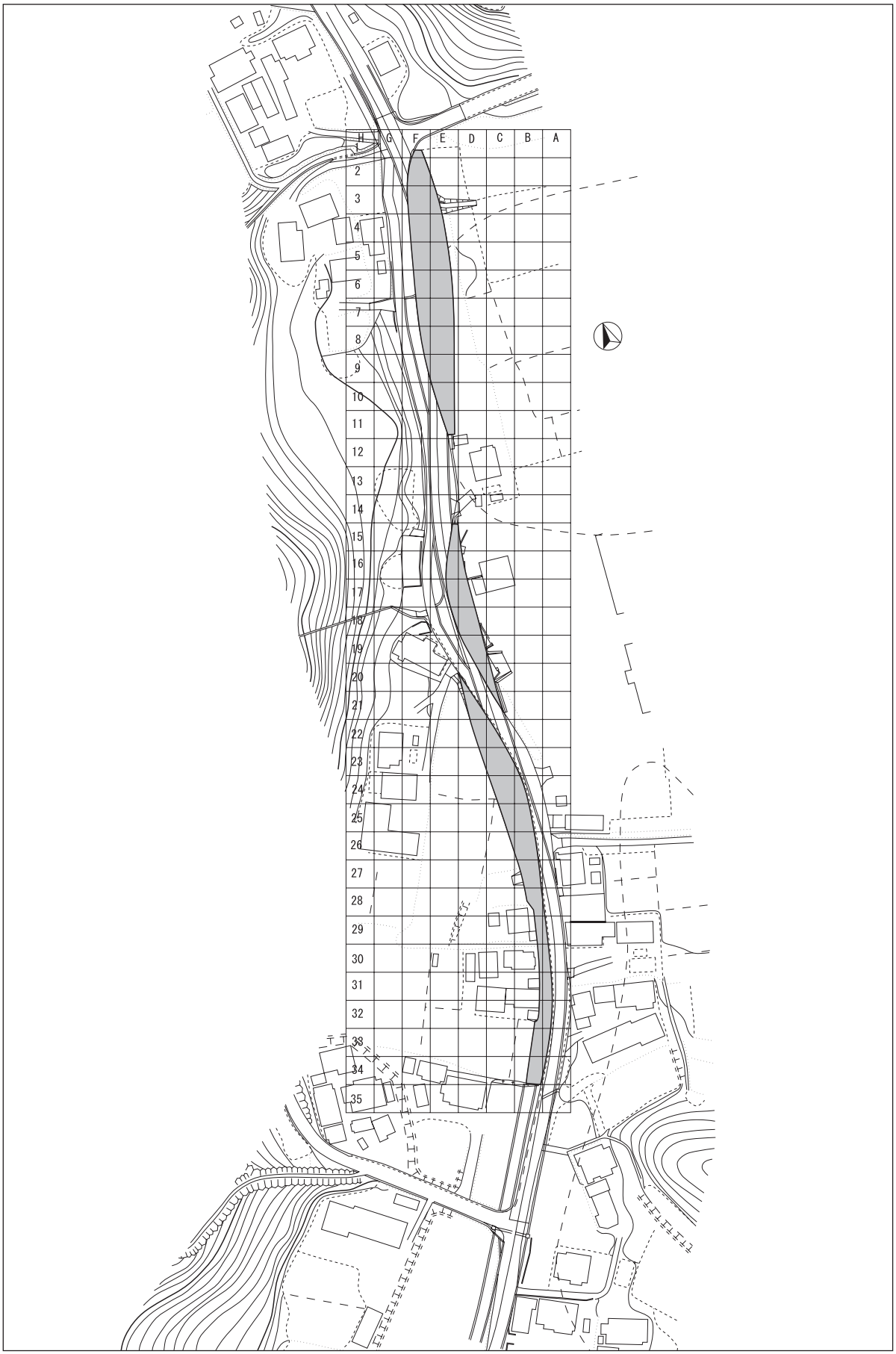
本報告書刊行に伴う整理・報告書作成作業は，平成 25 年４月15日～平成26年３月７日にかけて鹿児島県立埋蔵文化財センターで行った。

出土遺物の水洗い，注記，遺構内遺物と包含層遺物の仕分け，遺物の実測・拓本，図面のトレース・レイアウトや原稿執筆等の編集作業を行った。整理・報告書作成作業に関する調査体制は以下のとおり。

作成体制（平成２５年度）

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
　　姶良･伊佐地域振興局建設部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　　所　　長　　井ノ上秀文
調査企画　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　　次長兼総務課長　　新小田　穣
　　調査課長兼
　　南の縄文調査室長　　堂込　秀人
　　第二調査係長　　大久保浩二
調査担当　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　　文化財主事　　有馬　孝一
　　文化財主事　　吉元　輝幸
事務担当　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　　主幹兼総務係長　　有馬　博文
報告書作成指導委員会　　平成25年11月27日
　　堂込課長ほか５名
報告書作成検討委員会　　平成 25 年11月28日
　　井ノ上所長ほか７名

※遺跡名称について
発掘調査の開始にあたっては，周知の遺跡分布図により「前原和田遺跡」と「和田遺跡」を対象に調査に入ったが，２つの遺跡は同じ台地上に位置する一連の遺跡であると判断され，県文化財課と霧島市教委が協議の上，「前原和田遺跡」に統一して遺跡範囲を拡大し遺跡登録することとなった。



第1図　グリッド配置及び周辺地形

第2章　遺跡の位置と環境

第1節　地理的環境

前原和田遺跡(以下，本遺跡と略記)は，鹿児島県霧島市福山町佳例川比曽木野地区に存在する。霧島市は，鹿児島県本土のほぼ中央部に位置し，平成17年11月に旧国分市とその周辺の５町(隼人町・溝辺町・霧島町・牧園町・福山町)とが合併して誕生した。

そのうち本遺跡が存在するのは，旧福山町である。

その旧福山町は，霧島市の東端に位置し，北は霧島市国分(旧国分市)，南は曽於市輝北町･垂水市，東は曽於市財部町，末吉町，大隅町，西は鹿児島湾に隣接する。

旧福山町が姶良カルデラの東北壁に位置するため，その地勢は，海抜300ｍから400ｍの急峻な断崖が海岸部に迫る下場地区と崖上に展開する丘陵性火山灰台地の上場地区の２つに大別できる。

下場地区は，姶良カルデラの東岸壁にあたるため，急峻な崖が海に迫り，平地があまり見られない。

それに対し，上場地区は，入戸火砕流，いわゆるシラスによって広大な台地が形成され，旧国分市方面から曽於市方面にかけて緩やな傾斜をなし，大平野が形成される。

この上場地区と下場地区の高低差は，気候に影響を与える。下場は寒暖の差が比較的小さい海洋性気候であるのに対し，上場は寒暖の差が大きい高原性の気候であり，冬場は氷点下を記録することもある。

それらの地形や気候などの自然条件は，これまで人々の生産基盤や経済活動等に大きな影響を与えてきた。

たとえば，下場地区では温暖な気候を利用し，急峻な斜面上の段々畑で，柑橘類の栽培が行われてきた。

一方，台地上にあたる上場地区では，高原性の気候を利用した野菜を中心とした農業と畜産業が盛んである。

そこで，本遺跡のある佳例川地区の地形に目を移してみると，同地区は北に黒石岳，東に白鹿岳，南に荒磯岳といった山々に囲まれた細長い台地上にある。

その台地上には，浸食によって形成された小規模な台地や丘陵が点在し，複雑な地形を形成している。台地や丘陵を取り囲む谷部分には小規模な川が流れている場所が多く見受けられる。

本遺跡をはじめ，周辺に存在する遺跡の多くは，そういった小規模な台地や丘陵上に存在している。

遺跡周辺には，国有林，私有林からなる山地が広がっており，そこでは，林業が行われている。それらの山々はかつて藩政時代，荒磯岳から比曽木野一帯にかけて原野が広がり，藩の牧場や狩猟地として利用されていた場所である。それが，藩政体制の終了後に，国有地や県有地になり，杉や檜が植林されたものである。

また，本遺跡の北方に前田川の起点となる分水嶺がある。そこから鹿児島湾，志布志湾，そして日向灘・太平洋へと枝分かれしながら流れている。

前田川は西へと流下し，検校川と合流し鹿児島湾に注ぐ。また，前田川から東に向かって流れる横市川は大淀川と合流し日向灘・太平洋へと注いでいる。南東方向に流れる佳例川は菱田川となり，志布志湾へと注いでいる。

このように，遺跡周辺は，前田川の起点付近から鹿児島湾斜面と志布志湾斜面，そして大淀川斜面とに分かれる分水嶺にあたる。

その周辺では，小規模な台地上で農業が行われ，水田は谷間に，畑は台地上に形成されている。

遺跡内には，明治６年に開校した比曽木野小学校跡がある。集落の中心に位置し，一時は児童数が180名を数える時期もあった。

しかしながら，集落の過疎化とともに，その数は減少していった。昭和47年に創立100周年を迎えるも，児童数の減少は止まらず，昭和51年には閉校となった。現在，その地は比曽木野営農センターとして使用されている。

第2節　歴史的環境

本遺跡の周辺は，東九州自動車道の建設に伴う永磯遺跡(1997，1998：鹿児島県立埋蔵文化財センター，以下「県埋文セ」と略記)，城ヶ尾遺跡(1998，1999県埋文セ)，供養之元遺跡(1998，1999県埋文セ)前原和田遺跡(1998，2000県埋文セ)の発掘調査及び，一般県道大川原小村線改築事業に伴う前原和田遺跡の発掘調査(2003福山町教育委員会)等により，旧石器時代から縄文時代にかけての考古学的にも貴重な資料が多く出土した。

それらの成果から，当地域での人々の生活の様子が次第に明らかになりつつある。

(1) 旧石器時代

城ヶ尾遺跡の発掘調査(1998，1999県埋文セ)では，約12,800年前の桜島起源の薩摩火山灰層直下のＸ層（いわゆるチョコ層）からXV層で，約16,000点の石器群と土坑１基，そして礫群31基が検出された。遺物は，ナイフ形石器，三稜尖頭器，錐状石器，スクレイパー，細石刃，磨石，石皿などである。それらがブロック状にまとまって出土した。

東九州道関連の前原和田遺跡の発掘調査(1998，2000県埋文セ）では，礫群遺構と795点の石器がXI層（黄褐色軟質ローム層）からXVII層（二次シラス堆積層）の間から出土している。遺物はナイフ形石器，台形石器，ハンマーストーン，三稜尖頭器などである。それらが６つの

ブロックを形成して出土した。

また，県道関連の前原和田遺跡の発掘調査(2003福山町教育委員会)では，礫群遺構1基と細石刃，細石核，スクレイパー，ナイフ形石器等が出土した。

また，本遺跡から南東方向に離れた場所に位置する永磯遺跡(1997，1998県埋文セ)の発掘調査では，礫群遺構５基，土坑３基と，三稜尖頭器，台形石器，ナイフ形石器などの石器がⅩⅣ層を中心に，14点出土した。

いずれの遺跡も本遺跡の近くにあることから，本遺跡周辺では旧石器時代には，すでに人々の生活が営まれていたことが窺える。

(2) 縄文時代

東九州道関連の前原和田遺跡の発掘調査(1998，2000県埋文セ) では，Ⅲ層の黒褐色土からⅩ層の黒褐色粘質土(いわゆるチョコ層)において草創期から晩期に至る遺構や遺物が出土した。遺構は，落とし穴状遺構３基，集石遺構２基が検出された。遺物は吉田式，塞ノ神式，春日式，撚糸文，押型文の土器と，石鏃，石斧，磨石などの石器が出土した。

県道関連の前原和田遺跡の発掘調査(2003福山町教育委員会)では，Ⅲ層の黒色土からⅨ層の薩摩火山灰層において，手向山式土器，大平式土器，指宿式土器，西平式土器，入佐式土器などの土器と楔形石器，石鏃，磨石，打製石斧，石皿などの石器，合わせて350点が出土した。

供養之元遺跡の調査(1998，1999県埋文セ)では，集石遺構20基，落とし穴状遺構５基の遺構と，手向山式，平栫式，塞ノ神式などの土器と，石鏃，石匙，異形石器，スクレイパーなどの石器が出土した。

永磯遺跡の調査(1997，1998県埋文セ)では，草創期から晩期にかけての遺物や遺構が出土した。遺構は，集石遺構18基(早期)，落とし穴状遺構40基(早期26基，前・中期12基，後・晩期２基)が，遺物は押型文，下剥峯式，塞ノ神式などの土器と，石鏃，細石刃，石皿，磨石，スクレイパーなどの石器が出土した。

城ヶ尾遺跡の発掘調査(1998，1999県埋文セ)では，集石遺構28基，土坑19基，土器埋設遺構４基の遺構と，塞ノ神式，平栫式，手向山式，下剥峯式，押型文などの早期の土器，及び春日式，深浦式，入佐式などの後期・晩期の様々な型式の土器が出土した。特に塞ノ神式土器は，環状に七つのブロックを形成して出土したことが特筆される。

以上の調査結果から本遺跡周辺では，旧石器時代に引き続き，縄文時代にも草創期から晩期に至るまで連綿と人々の生活が営まれていたことがわかる。

(3) 弥生･古墳時代から中世

弥生・古墳時代以降になると，調査が行われた遺跡において検出された遺物や遺構の数は極端に少なくなる。

城ヶ尾遺跡の発掘調査(1998，1999県埋文セ)では，竪穴住居跡４基と成川式土器片が出土している。

同じく，前原和田遺跡の発掘調査(1998，2000県埋文セ)では，文明ボラ(1471年頃の桜島起源の軽石)にパックされた畠の畝跡が検出された。

また，同遺跡では，文明ボラの上位と下位から古道跡も数条検出されている。

供養之元遺跡(1998，1999県埋文セ)では，ほぼ南北に走る溝状遺構が３条検出された。いずれも，浅い掘り込みがあり，その床面には硬化面も検出されたことから道跡と考えられる。またその周辺に成川式土器が出土したことから，この道跡は古墳時代のものと推測される。

周辺部分まで広げてみると，福沢地区の中尾立遺跡の調査(1992福山町教育委員会)で平安時代の掘立柱建物跡が５棟と，土師器，須恵器，内黒土師器，墨書土器等が出土している。

(4) 中世以降

本遺跡の近くには,かつて小村神社が鎮座していたが,寛永年間に移転したと思われる。

周辺の丘陵には，島津義久によって薩摩藩でも最大規模の福山野馬牧が置かれた。しかし，安永８年(1779)の桜島大噴火の降灰による影響で，一時壊滅状態になったとされている。

〈参考文献〉

○福山町1979『福山町郷土誌』福山町郷土誌編集委員会.
○福山町教育委員会 1994『中尾立遺跡』福山町埋蔵文化財発掘調査報告書(2).
○平凡社 1998『鹿児島県の地名』日本歴史地名体系第47巻.
○鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002『九日田遺跡・供養之元遺跡・前原和田遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(36).
○鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『高篠坂遺跡・永磯遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(61).
○福山町教育委員会 2003『供養之元遺跡』福山町埋蔵文化財発掘調査報告書(5).
○福山町教育委員会 2003『前原和田遺跡』福山町埋蔵文化財発掘調査報告書(6).
○鹿児島県立埋蔵文化財センター2004『九養岡遺跡・踊場遺跡・高篠遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(71).

国分市
真谷
東谷
板川内
池之段
大屋敷
和田
新村
中原
福山町
佳例川
長谷
辰伴
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
0
500
1000
1500
(S=1：25,000)

第2図　周辺遺跡位置図

表1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	池ノ段	鹿児島県霧島市福山町佳例川高松ヶ尾・池ノ段	山腹緩斜面	弥生・古墳	成川式	
2	イラケ谷	鹿児島県霧島市福山町佳例川イラケ谷	台地	縄文・古墳	土器・土師器	
3	寺屋敷	鹿児島県霧島市福山町佳例川寺屋敷	台地	縄文・古墳	土器・土師器	
4	上村	鹿児島県霧島市福山町佳例川上村	台地	縄文	黒曜石・縄文(前)押型文・磨石・石皿・塞ノ神式	
5	小坂本A	鹿児島県霧島市福山町佳例川小坂本A	丘陵	縄文・弥生・古墳	縄文土器・土師器・成川式	
6	新村	鹿児島県霧島市福山町佳例川新村	台地	縄文(中)	岩崎式	
7	前原和田（本報告書）	鹿児島県霧島市福山町佳例川前原	台地	旧石器・縄文・弥生・古墳	縄文土器・土師器・成川式	県埋セ (36) 2002 福山町教委(6) 2005
8	城ヶ尾	鹿児島県霧島市福山町佳例川城ヶ尾A	丘陵	旧石器・縄文・古墳	ナイフ形石器・塞ノ神式・成川式	県埋セ (60) 2003
9	供養之元	鹿児島県霧島市福山町佳例川供養之元A	台地	縄文(早)	縄文土器	県埋セ(36) 2002
10	長谷	鹿児島県霧島市福山町佳例川長谷	台地	弥生	弥生土器・石斧	
11	野谷下	鹿児島県霧島市福山町佳例川野谷下	丘陵	古墳	土師器・成川式	
12	永磯	鹿児島県霧島市福山町佳例川永磯	台地	旧石器・縄文(草・早・中・後・晩), 奈良, 平安, 中世	ナイフ形石器・縄文土器・石鏃・石斧	県埋セ(61) 2003
13	花平陣跡	鹿児島県曽於市財部町南俣	丘陵	中世		
14	辰伴	鹿児島県霧島市福山町佳例川辰伴	台地	弥生	弥生土器	
15	栗ノ脇	鹿児島県霧島市福山町佳例川脇ノ栗	台地	縄文	縄文土器	
16	芹牟田	鹿児島県霧島市福山町佳例川芹牟田	台地	縄文	縄文土器	

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

１　調査の方法

今回発掘調査を行った前原和田遺跡は，県中央部の霧島市福山町佳例川に所在する。牧之原のシラス台地から山間部を抜け，大川原をつなぐ県道上に所在し，地形は山間部に散在する小台地である。

調査区のグリッドは，遺跡全体をカバーできるよう工事用杭Ｔ．３（世界測地系Ｘ＝－142339.519，Ｙ＝－10817.155）と杭Ｔ－３（Ｘ＝－142388.377，Ｙ＝－10837.331）を結んだ線及びその延長線を主軸とし，Ｔ．３で主軸と直交する線を中心に設定した。

具体的には北側から南側に向かって１，２，３…，東から西へＡ，Ｂ…と調査区割りを設定した。

発掘調査は平成24年８月1日から平成24年10月26日まで，作業員実働49日間で実施した。 調査対象面積は約3,800㎡である。

調査の方法は，重機（バックホウ）によって表土を除去した後，遺物包含層は山鍬やジョレン，ねじり鎌などを使用して人力で掘り下げを行った。包含層出土の遺物は出土状況の写真撮影を行ったのち，残存状況良好なものについては取り上げ番号を付し，トータルステーションにて座標及び標高を記録し，その他については，層位ごとのグリッド一括で取り上げを行った。また，層の堆積状況を確認しながらⅢ層上面，Ⅳa層上面，Ⅳb層上面，Ⅴ層上面において，遺構の有無確認の精査を実施し，遺構認定を行った。

各遺構は検出状況の写真撮影，図面作成作業を行った後，埋土観察用のベルトを残し掘り下げを行った。遺物出土状況の記録，遺物取り上げを行い，埋土状況を写真撮影，記録した後，完掘し，図面を完成し完掘状況の写真撮影を行った。遺構内遺物については床着のものは実測図面中に記入し，床面から浮き上がったものは，トータルステーションにて座標及び標高を記録し取り上げを行った。

アカホヤ下位の遺構，遺物包含層の確認については，調査区内に８か所，調査区外に１か所の下層確認トレンチを設定して行った。

１Ｔから６Ｔでは遺物，遺構ともに確認できなかったため，全面調査はⅢ層からⅣ層上面にかけて検出した中世以降と思われる帯状硬化面の調査のみ行った。

７Ｔからは縄文早期，旧石器の遺物が出土したため，トレンチを拡幅して遺物の広がりと遺構の有無を確認したが，周辺への広がりは確認されなかった。８Ｔからは遺構，遺物ともに検出されなかった。

Ｃ～Ｅ－15～21区の旧比曽木野小学校側（東側）調査区については事務手続きの遅れから調査期間中に構造物の撤去が終わらないことが判明したため，急遽，隣接地掘削の承認を取った上で試掘トレンチ（９Ｔ）を設定し，重機掘削と人力掘削を併用し，下層確認を行った。遺物，遺構ともに検出されず，当該調査予定地の調査は必要ないと判断した。

既設道路下については，隣接する調査区の遺物出土レベル，遺構の有無から，遺跡はすでに破壊されているか，もしくは，工事による掘削の及ばないレベルでの検出の可能性に留まると判断し調査は実施しなかった。

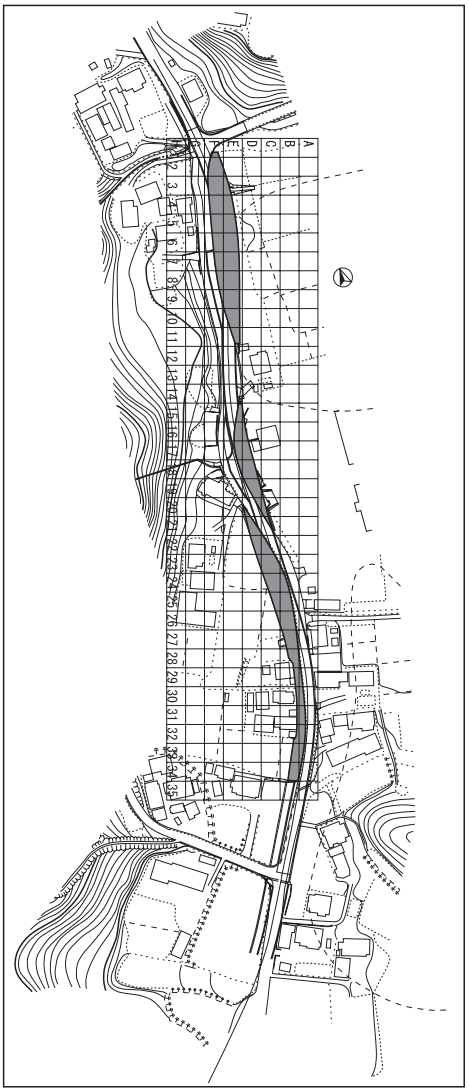
２　遺構の認定と検出方法

検出された主な遺構は，Ⅲ層，Ⅳa層，Ⅳb層上面にかけて見られた。

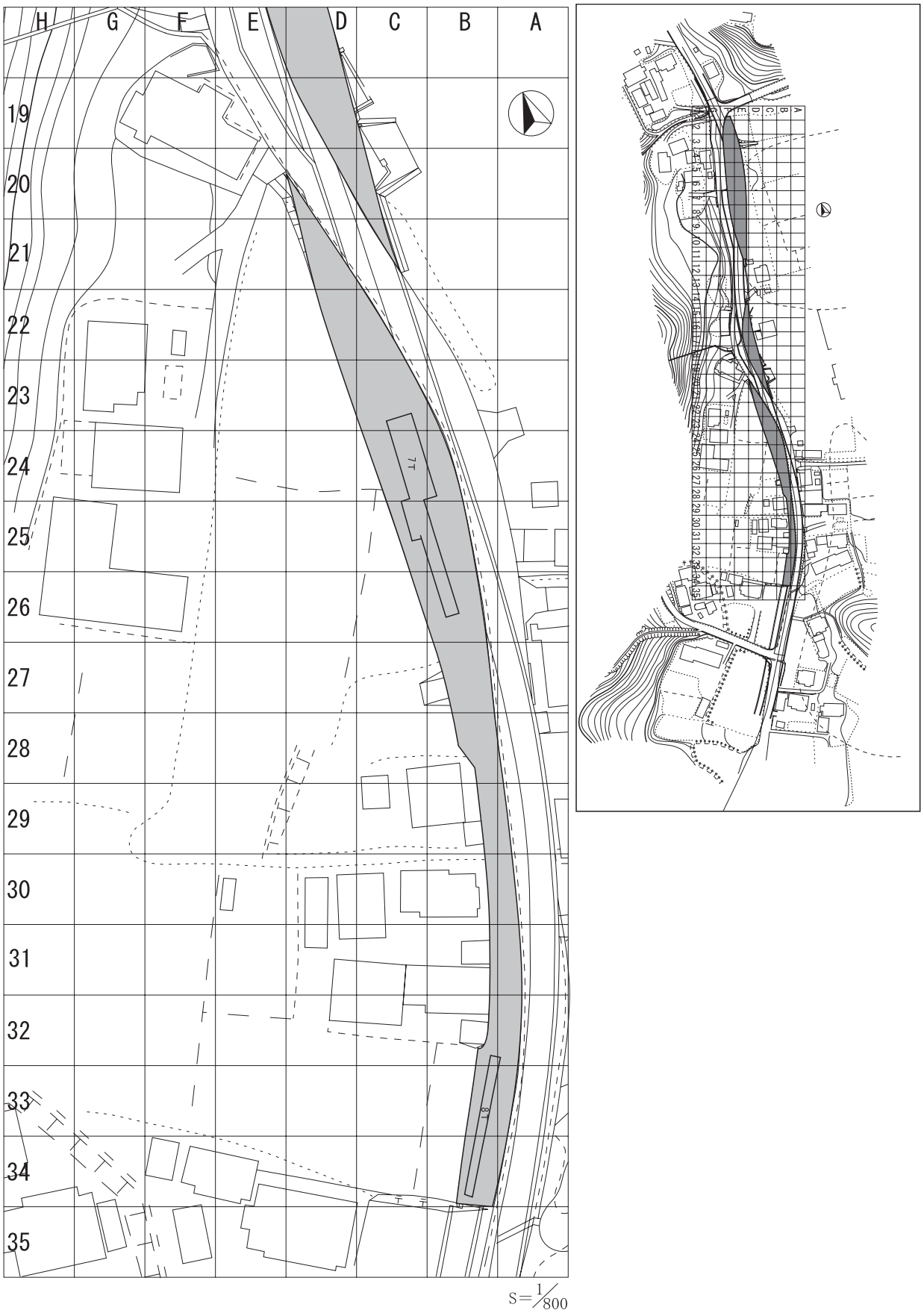
Ⅲ層上面では文明ボラを埋土とする幅40㎝前後，長さ２ｍ前後の筋状に連続する掘り込みを畝状遺構と認定した。

Ⅳa層上面では文明ボラが大量に混ざる黒褐色土を埋土とし，下位に硬化面を有する帯状硬化面を中世以降の道跡と判断した。また黄色パミス混じり黒褐色土を埋土とする４～５ｍ四方の掘り込みを古墳時代の竪穴住居跡と認定し，検出された順番でＳＨ１～３号の名称を付した。

Ⅴ層上面では黄白色パミス（御池火山灰）が多く混じる暗茶褐色土を埋土とする，３ｍ前後の円形を呈する掘り込みを竪穴住居跡，１ｍ前後の円形を呈する掘り込みを土坑と認定した。



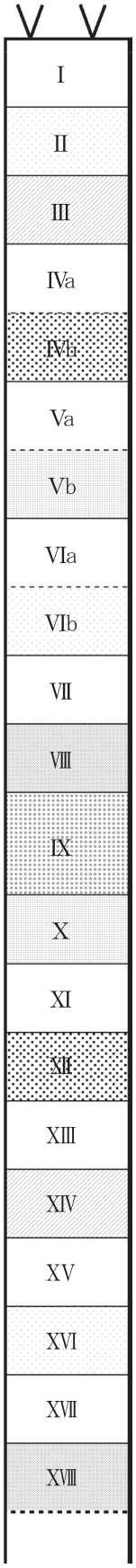
第3図　グリッド配置図及びトレンチ配置図(1)



第4図　グリッド配置図及びトレンチ配置図(2)

層序

前原和田遺跡の基本層序は次の通りである。



Ⅰ層　暗黒褐色土層　現耕作土

Ⅱ層　黄白色軽石層（文明ボラ 1471年の桜島起源の噴出物）

Ⅲ層　黒色土層

Ⅳa層　黄褐色土層

Ⅳb層　黄褐色細粒軽石混土層

Ⅴa層　暗褐色土層（アカホヤ腐食土）

Ⅴb層　橙色火山灰層　（アカホヤ火山灰層）　約7,300年前の鬼界カルデラ噴出物

Ⅵa層　軽石混淡茶褐色土

Ⅵb層　黄褐色軽石層 桜島起源の噴出物　P-11

Ⅶ層　明茶褐色土層

Ⅷ層　暗黒褐色土層

Ⅸ層　黄白色火山灰層 薩摩火山灰層　約12,800年前の桜島噴出物　P-14

Ⅹ層　黒褐色土層

Ⅺ層　黄褐色軟質ローム層

Ⅻ層　軽石混暗茶褐色軟質土

XIII層　暗褐色硬質土

XIV層　暗褐色硬質土　赤色パミス点在 P-15

XV層　暗褐色軟質土

XVI層　暗褐色硬質土　赤色パミス点在 P-17

XVII層　濁黄白色砂質土　二次シラス

XVIII層　シラス　入戸火砕流堆積物 約29,000年前の姶良カルデラ噴出物

第5図　基本層序

基本層序はB・C-25・26区に設定したトレンチを基準土層とした。一部，攪乱を受けている箇所や，横転などにより不安定な堆積が見られる箇所もあったが，全体的に良好な堆積状況であった。

表土を取り除くと，Ⅱ層に文明ボラと呼ばれる1471年の桜島の噴出物である軽石層がある。その下のⅢ層からは，中世のものと考えられる畝状遺構と道跡が，Ⅱ層の文明ボラにパックされた状態で検出された。また，古墳時代の住居跡の検出面でもある。

Ⅳ層は縄文時代中期から晩期の遺物包含層である。そのうち，Ⅳb層は約4,600年前の御池の噴火に伴う軽石を含んだ火山灰層であり，本遺跡で最も多くの遺物が出土した層である。

Ⅴ層はアカホヤ火山灰層と呼ばれる橙色の層で，約7,300年前の喜界カルデラ起源の火山灰層である。

Ⅵ層は黄褐色の軽石を含む層で，P-11と呼ばれる約8,000年前の桜島の噴出物である。なお，本遺跡においてはⅥb層の堆積が不安定な場所もあった。

Ⅸ層は薩摩火山灰層と呼ばれる約12,800年前の桜島起源の黄白色の火山灰層である。本遺跡においては，ブロック状に堆積していた。

Ⅺ層は旧石器時代の細石器文化期相当の層であり，通称チョコ層と呼ばれる粘質土である。

Ⅻ層は旧石器時代のナイフ形石器文化期相当の層である。本遺跡においては，Ⅺ層，Ⅻ層のいずれも遺物・遺構は検出されなかった。

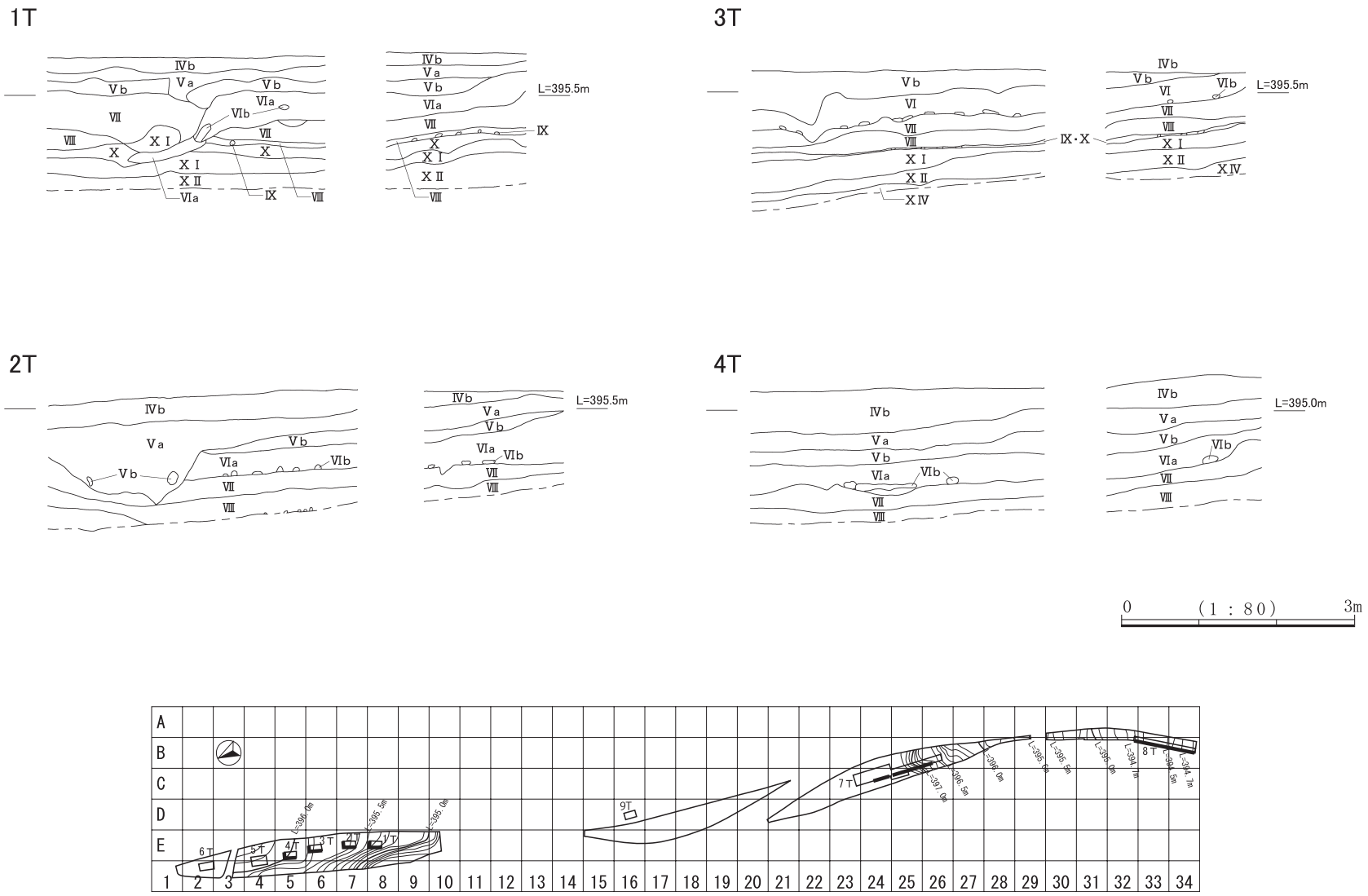
XIII層は，ナイフ型石器文化期の遺物包含層である。本遺跡で，ナイフ形石器，石核，フレークが出土した層で，今回の調査中に旧石器時代の遺物が出土したのはこの層のみである。なお，XIII層は前原和田遺跡の発掘調査(1998,2000鹿児島県立埋蔵文化財センター，以下「県埋セ」と略記)で，４基の礫群とナイフ形石器や三稜尖頭器等153点の石器が出土した層である。

XIV層は，P-15と思われる桜島起源の赤色パミスが点在する層であり，本遺跡の近隣に位置する城ヶ尾遺跡の調査(1998,1999県埋セ)において３基の礫群，前原和田遺跡の発掘調査(1998,2000県埋セ)ではナイフ形石器や台形石器などの石器25点が出土した層である。

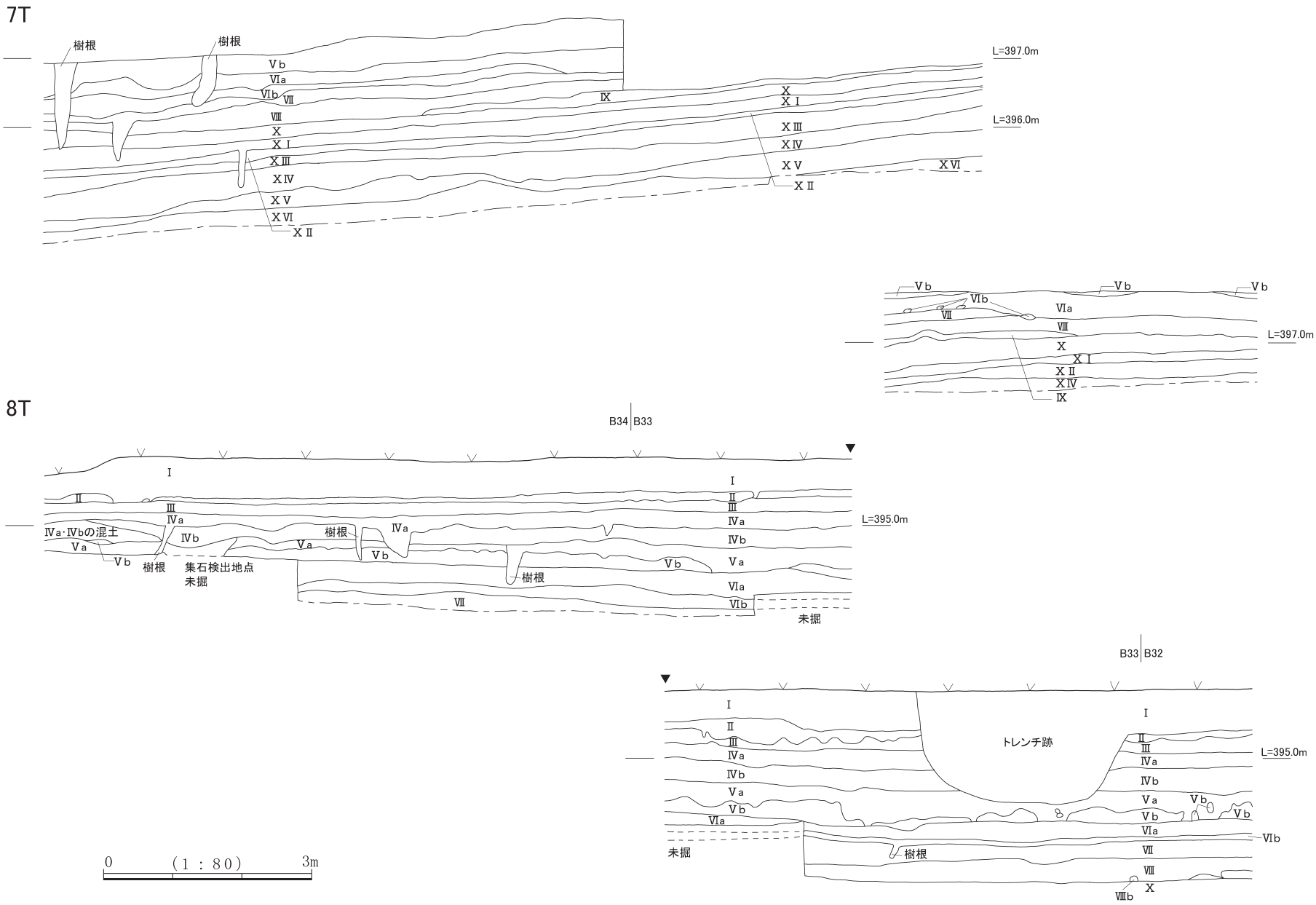
XV層は，暗褐色軟質土で前原和田遺跡の発掘調査(1998,2000県埋セ)で台形石器，敲石など80点が出土した層である。

XVI層は暗褐色硬質土で，P-17と考えられる赤色パミスを含む層である。前原和田遺跡の発掘調査(1998,2000県埋セ)では18基の炭化物を伴う礫群が検出された層である。

以下，XVII層は約29,000年前の姶良カルデラ噴出物である入戸火砕流堆積物，いわゆるシラスの二次堆積層で，XVIII層はシラスである。



第6図　土層断面図(1)


7T
樹根
樹根
Ⅴb
Ⅵa
Ⅵb
Ⅶ
Ⅷ
Ⅸ
Ⅹ
ⅩⅠ
ⅩⅢ
ⅩⅣ
ⅩⅤ
ⅩⅥ
ⅩⅡ
L=397.0m
L=396.0m
8T
B34
B33
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳa
Ⅳb
Ⅴa
Ⅵa
Ⅵb
Ⅶ
Ⅷ
Ⅸ
Ⅹ
ⅩⅠ
ⅩⅡ
ⅩⅣ
ⅩⅥ
L=395.0m
Ⅳa･Ⅳbの混土
樹根
集石検出地点
未掘
未掘
B33
B32
トレンチ跡
Ⅷb
0
(1：80)
3m

第7図　土層断面図(2)

第3節　調査の成果

1　旧石器時代の調査

(1) 調査の概要

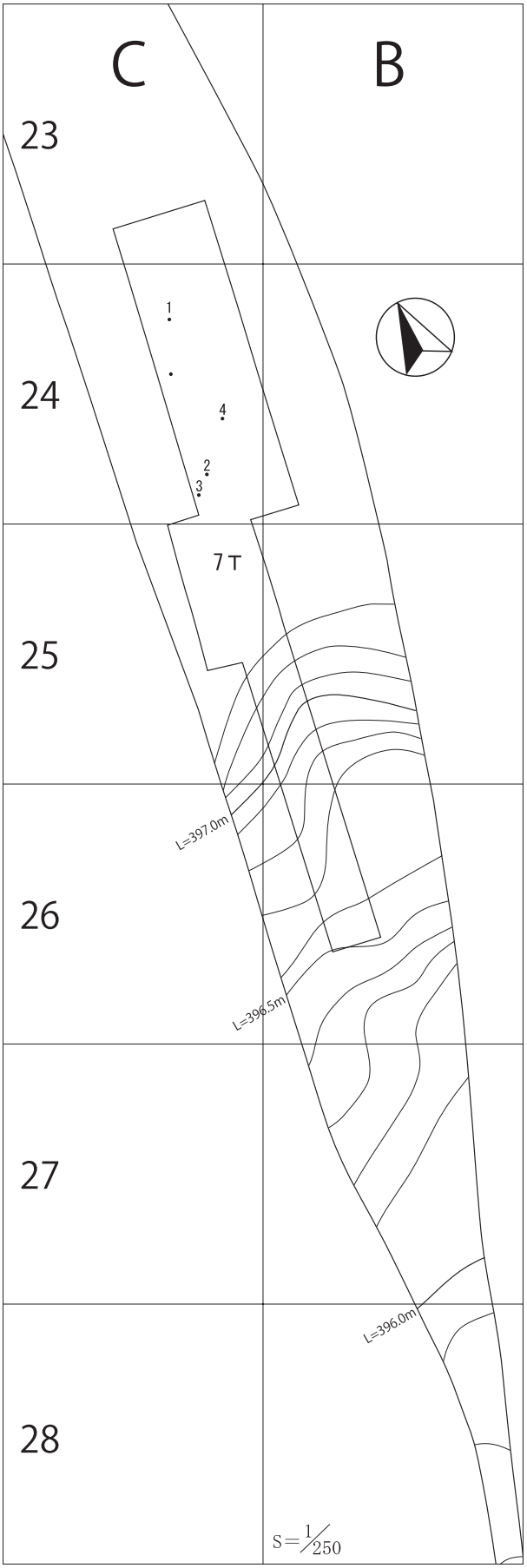
旧石器時代の調査は，まず遺構，遺物が存在するか確認を行う，下層確認トレンチ調査から始めた。トレンチ調査の結果，C－24区から数点の遺物が出土したため周辺部の拡張掘り下げとロングトレンチを設定しての範囲確認を行った。ところが，遺物の出土範囲に広がりはみられず，遺構も確認されなかったため，全面調査の必要性はないと判断した。遺物出土総点数は15点で，内９点を図化した。

(2) 遺物

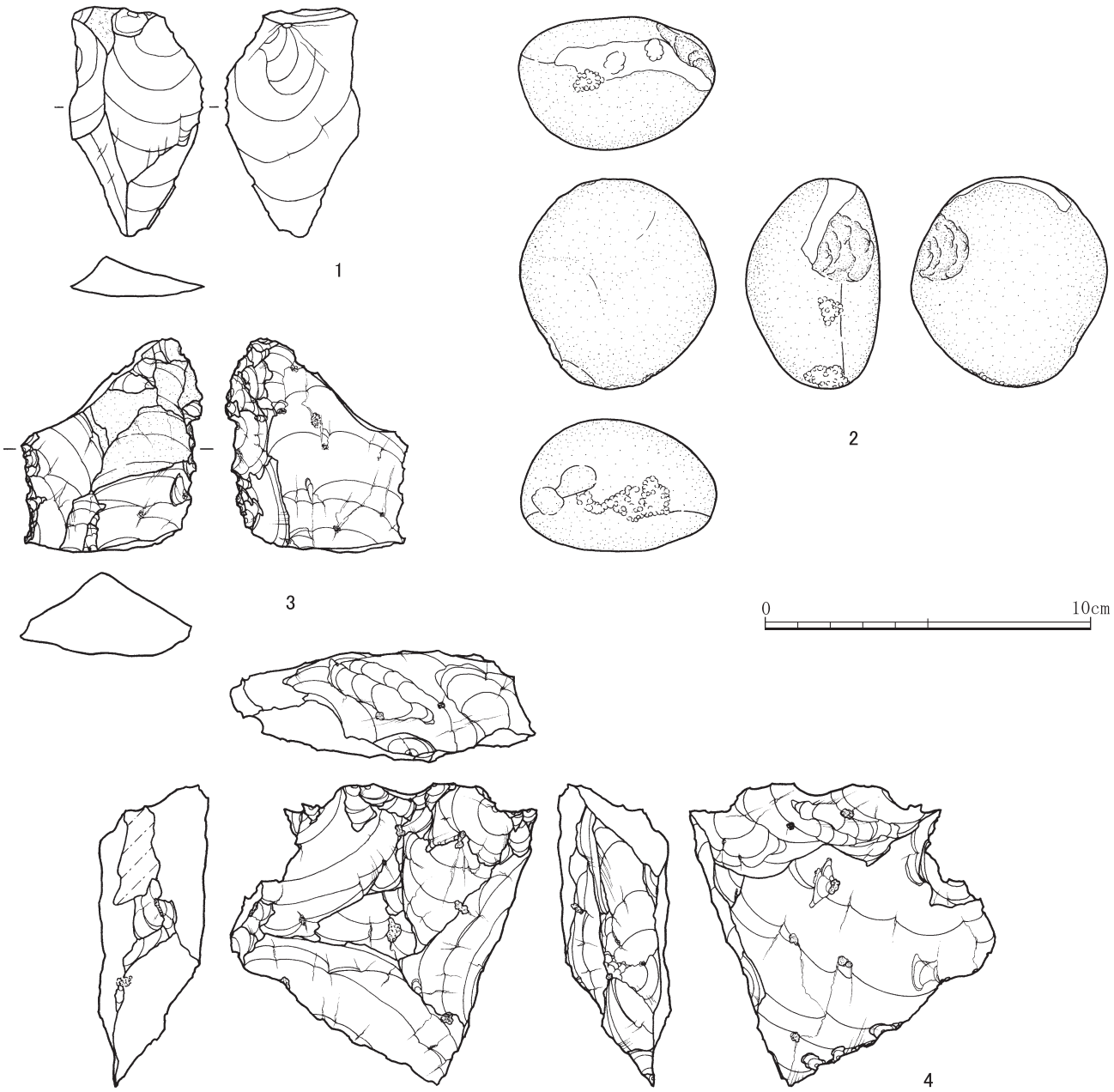
石器

１～４はXII層出土の遺物である。１は，安山岩の縦長剥片である。２は，凝灰岩の円礫素材のハンマーストーンである。３は，黒色を基調とする半透明の黒曜石で，不純物を多く含む。ナイフ形石器の可能性がある。４は，石核である。黒色を基調とする半透明の黒曜石で，不純物を多く含む。縦長の剥片を剥出している。小型ナイフ形石器の素材を取った石核の可能性がある。

５～９は XI 層出土の遺物である。５の細石刃は黒色を基調とした透明度の高い不純物をあまりふくまない黒曜石で，上部が折断されている。６の細石核は黒色を基調とする半透明で不純物が多く，円礫を素材としている。打面転移を繰り返しながら，細石刃を剥出している。作業面が打面を含めて３面観察される。７は，ナイフ形石器の基部の可能性が高いもので，素材は黒色を基調とする半透明で不純物の多い黒曜石で，剥片の片側にブランティングがなされている。８は，安山岩の柳葉状の縦長剥片を使ったナイフ形石器で，打面側の腹面からブランティングが入り，これを基部加工ととらえ，バルブが残っているがナイフ形石器とした。９は，黒曜石の縦長剥片である。黒曜石は，不純物を含まない不透明のもので，風化面は光沢のない暗灰色を呈す。



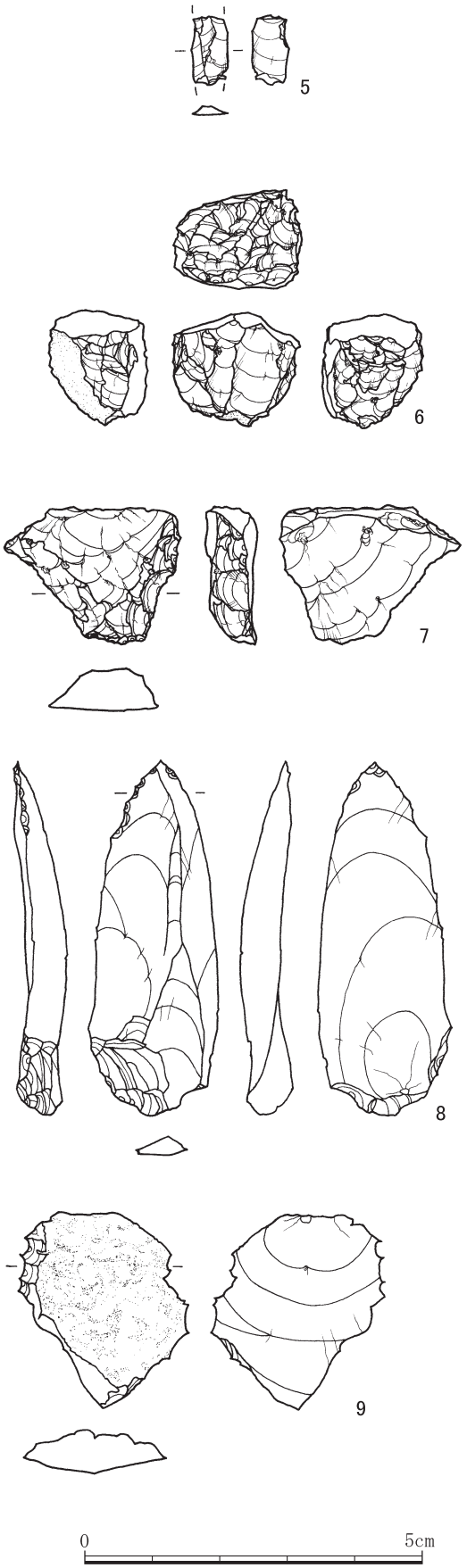
第8図　旧石器時代（XII層）遺物出土状況



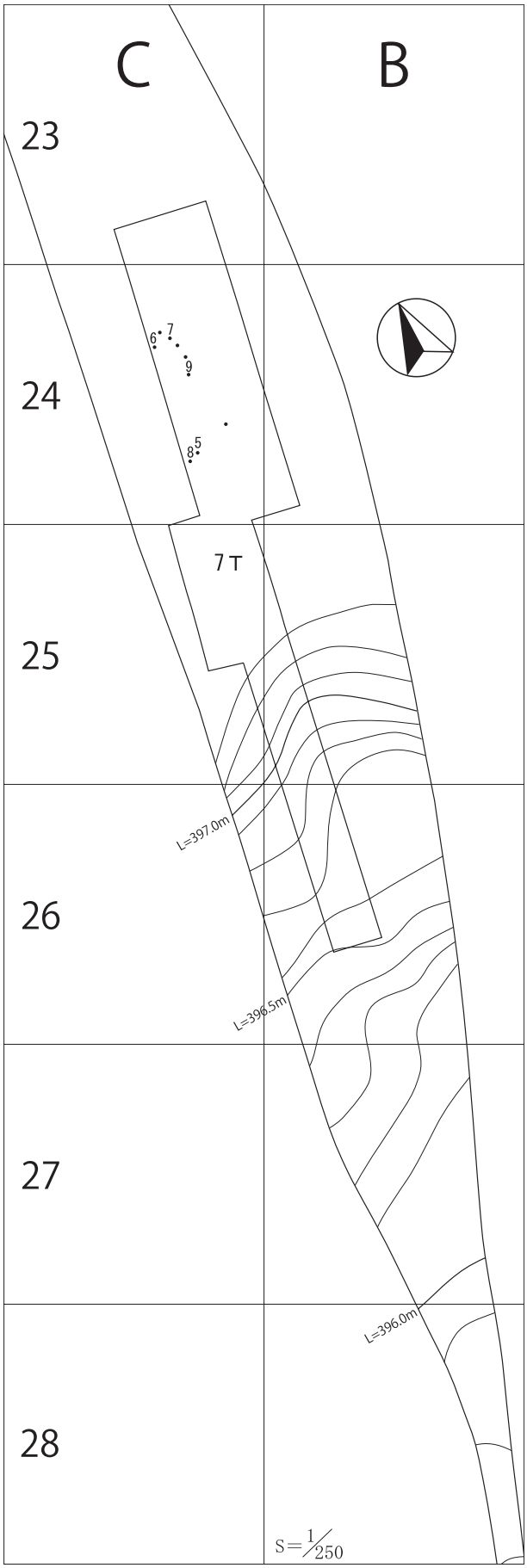
第9図　旧石器時代石器(1)

表2　旧石器時代石器観察表

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	石材	計測値				備考
							長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	
9	1	2632	C－24	XII	縦長剥片	安山岩	34.0	19.5	6.5	3.65	－
	2	2617	C－24	XII	ハンマー	凝灰岩	65.5	61.0	41.5	200.00	－
	3	2616	C－24	XII	ナイフ形石器	黒曜石	33.0	28.5	13.0	10.70	－
	4	2621	C－24	XII	石核	黒曜石	47.0	47.5	17.0	28.06	－
10	5	2619	C－24	XI	マイクロブレード	黒曜石	10.5	5.5	1.5	0.09	－
	6	2629	C－24	XI	マイクロコア	黒曜石	17.5	19.0	14.8	5.19	－
	7	2631	C－24	XI	ナイフ形石器	黒曜石	20.5	26.5	7.5	3.94	－
	8	2618	C－24	XI	ナイフ形石器	安山岩	53.0	18.0	6.0	5.85	－
	9	2622	C－24	XI	縦長剥片	黒曜石	27.5	20.5	5.0	3.89	－



第10図　旧石器時代石器(2)



第11図　旧石器時代(XI層)遺物出土状況

2　縄文時代の調査

(1) 調査の概要

縄文時代の調査は，Ⅲ層掘り下げ時点から，縄文時代晩期の遺物の出土がみられ，順次下層の掘り下げ，遺構精査などを繰り返し，Va 層上面まで行った。

包含層の掘削は人力で行い，出土した遺物のうち小破片は，同一層，各グリッド毎の一括で取り上げを行った。大型の破片等については各遺物の種類，出土層を台帳に記録し，トータルステーションを用いて座標，レベルを記録した。

遺構は主軸方向に埋土観察用のベルトを設定し掘り下げ，もしくは半掘し，遺物出土状況，埋土断面の図面作成，写真撮影を行った上で完掘した。

遺構はVa 層上面において Ｂ－28 区で竪穴住居跡が１基，Ｂ－34 区で土坑３基を検出した。遺物は，Ⅲ層下位からⅣa 層を中心にⅣb 層上位まで出土し，Ｂ・Ｃ－25区～Ａ・Ｂ－30区を分布の中心とする。Ｅ・Ｆ－１～10 区では縄文時代に該当する遺構・遺物は確認されなかった。遺物総数は約 10,000 点で，内399点を掲載した。なお試掘調査ではⅤ層より下位には遺物出土はみられなかったが，下層確認トレンチの調査によりＣ－25区，Ⅶ層で縄文時代早期の同一個体と思われる遺物が数点出土した。そのため周辺拡張掘り下げを行ったが，それ以上の遺物出土は確認できず，全面調査の必要はないと判断した。しかしながら，今回調査地点の西側には良好な平坦地が広がっており早期の遺跡が存在することも十分考えられる。

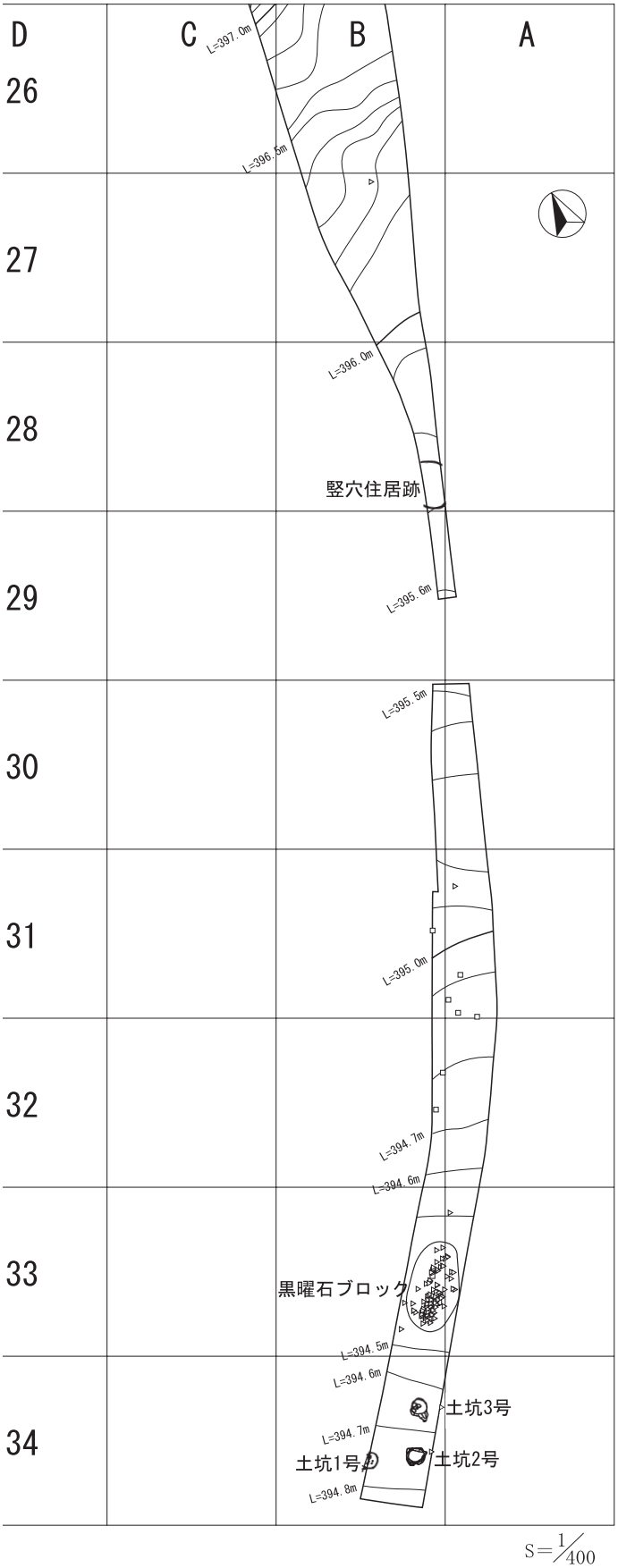
(2) 遺構

竪穴住居跡（第13図）

竪穴住居跡はＢ－８区，Ⅴ層上面で検出された1基のみであった。Ⅳb 層掘り下げ時点から遺物が集中することから遺構の可能性を考えながら精査を試みたがⅣb 層中で遺構の輪郭線を確認することはできなかった。Ⅴ層の上面で黄白色パミス（御池火山灰）が大量に混入する暗茶褐色土の平面形態が円形を呈すると思われる掘り込みを確認できた。東側を県道，西側を調査区境で調査できなかったが直径2.8m前後の円形と考えられる。検出面からの深さは10cm程度である。遺構内にピットなどの付帯施設は確認できなかった。遺物は69点出土し，内21点を図化した。

竪穴住居内出土遺物（第14,15図）

10は二叉状工具による平行する連続刺突文が施され，その間に指頭によると思われる凹線文を施す。胎土には滑石を混入する土器片である。11は口縁肥厚部の破片と思われる。肥厚部下端付近に横位の貝殻腹縁刺突文が施される。肥厚部下位には条痕が残る。12は口縁部で直線的な立ち上がりの器形である。口縁下位に低い突帯を巡らし，肥厚口縁風とする。突帯下端部に指頭状の凹点文



第12図　縄文時代遺構配置図

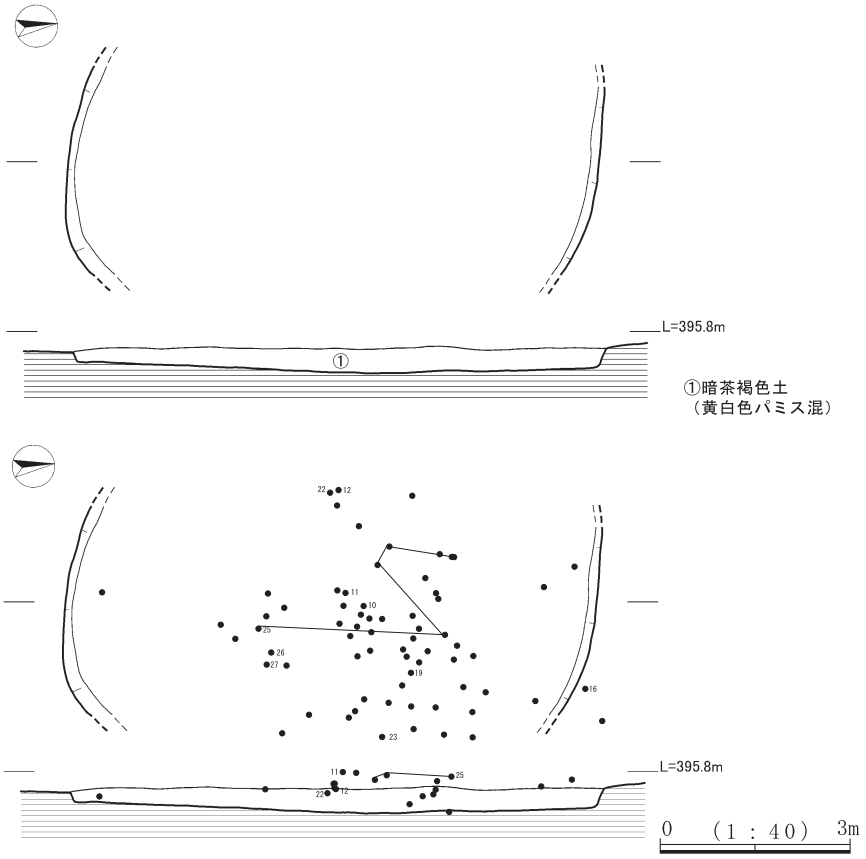
を施す。13は12と異なり口縁部を全体的に肥厚させ，肥厚部下端に指頭状の凹点文を施す。口唇部に粘土を貼り付け，３頂部をもつ突起を設ける。14は口縁部片で口唇直下から縦位に平行する波状文が施される。15は口唇部に押圧により刻みを施す，器面には凹線による曲線文が施される。16は口唇部が平坦で，口唇直下にほぼ横位に細形の凹線文が施される。17は胴部片で凹線文と凹点文を組み合わせる。18は口唇部が平坦で，口縁に沿い１条の太形沈線が巡り，その下に斜位の太形沈線が施される。器面はナデられるが貝殻条痕がわずかに残る。19は口唇部が平坦で，口縁に沿って２条の太形沈線が施され，その下は斜位と思われる沈線が施される。20～22は胴部片で20は横位の太形沈線文が施される。21は斜位と曲線の太形沈線が組み合わさり施される。22はやや外反し，内外面ともに粗いナデ調整が施される。23，24は口縁部で，口唇部を平坦にし，胴部外面には貝殻条痕を残す。内面は粗いナデ調整が行われる。24は口唇部に棒状工具によ刻みを施し，口縁部に縦位の太形沈線が施される。25は鉢形土器で，胴部がわずかに張る。口唇部を平坦にし，口縁を肥厚させる。さらに口唇部には指押さえによる波状のアクセントを２か所に施している。口縁肥厚部には貝殻腹縁の押し引き文が施される。胴部内外面はナデ調整を施すが，貝殻条痕が明瞭に残る。26～30は底部片で26は底面に組織痕が残る。30は底部が外に踏ん張るように張り出す。底径に比して，胴部器壁が薄い。

土坑

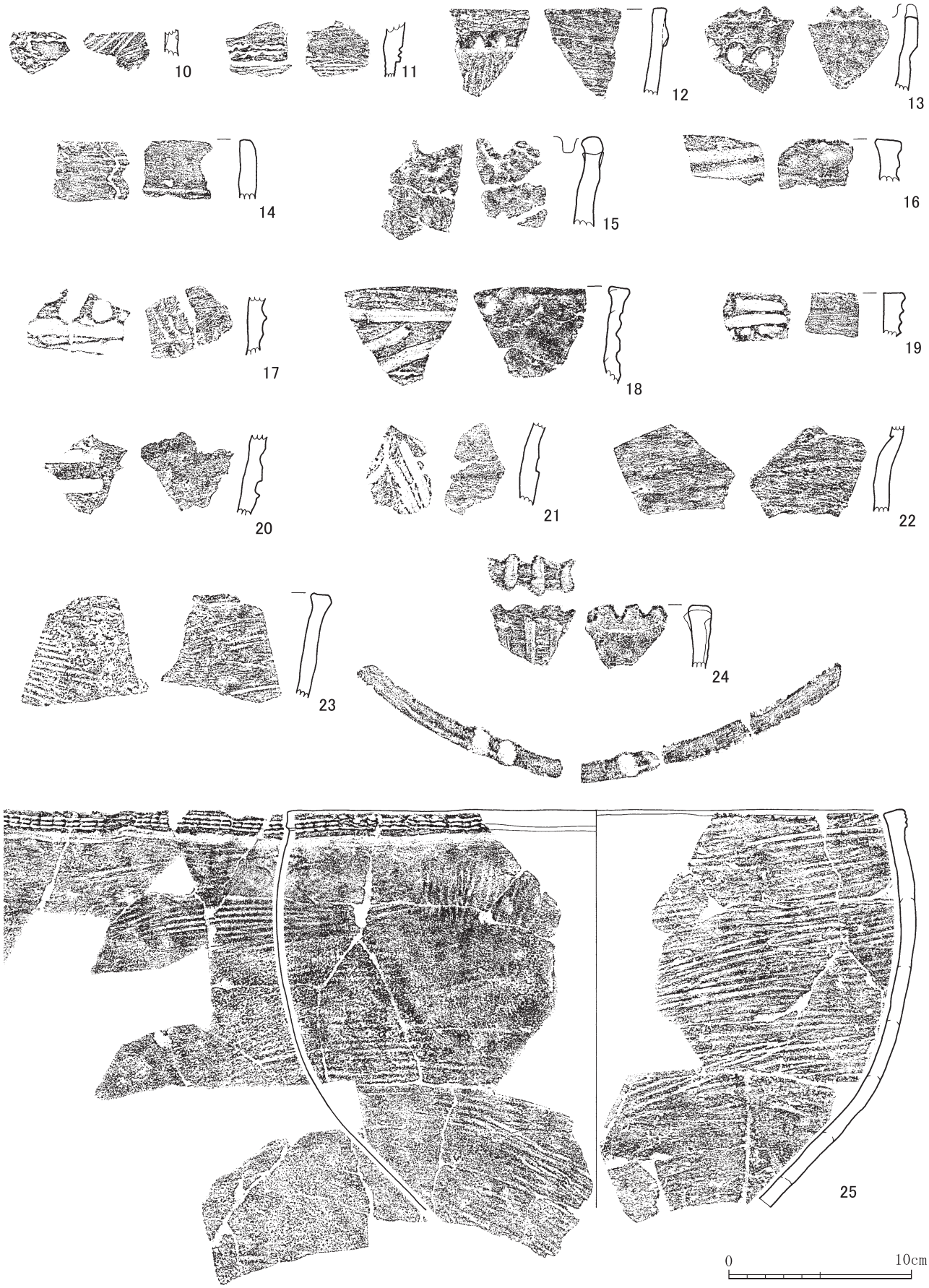
土坑はＢ－34区，Va層上面で３基検出された平面形態はいずれも円形を呈する。

土坑１号（第16図）

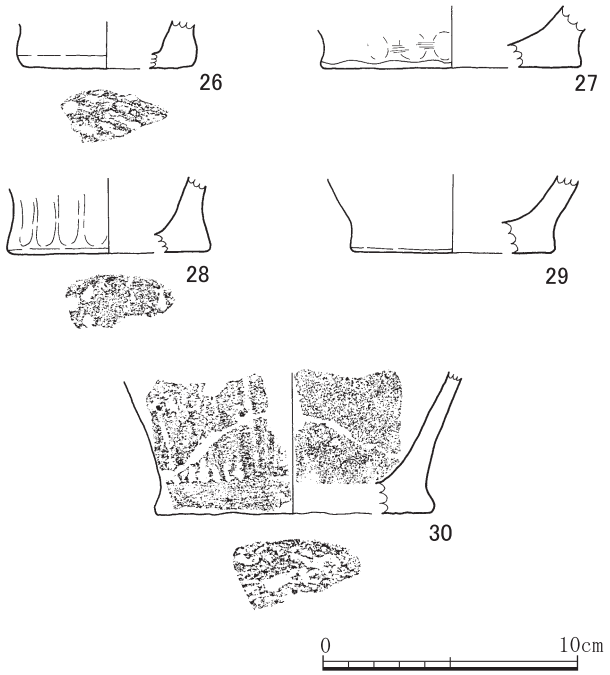
下層確認トレンチ部分で検出された，Va層上面で平面形態が不定形であったため樹痕と判断し掘り下げを進め，Ⅵ層上面相当のレベルで礫が検出され，平面形態が円形となったため，土坑と判断した。平面形態は直径90cm前後の略円形を呈する。認定時点での深さは20cm程度であるが，Ｖ層上面からの掘り込みと捉えると深さ40cmとなる。床面は平坦であるが，壁面の立ち上がりはVb層からⅥ層にかけてはほぼ直に立ち上がるが，Va層から上でなだらかに傾斜し，遺構肩面が崩壊していると思われる。遺構内から礫が10点出土しているが，いずれも安山岩で床面から20cm程度浮いた状態で出土していること，加工痕や使用痕跡がみられないことから土坑廃棄後，しばらく後に流れ込んだ自然礫と考えられる。



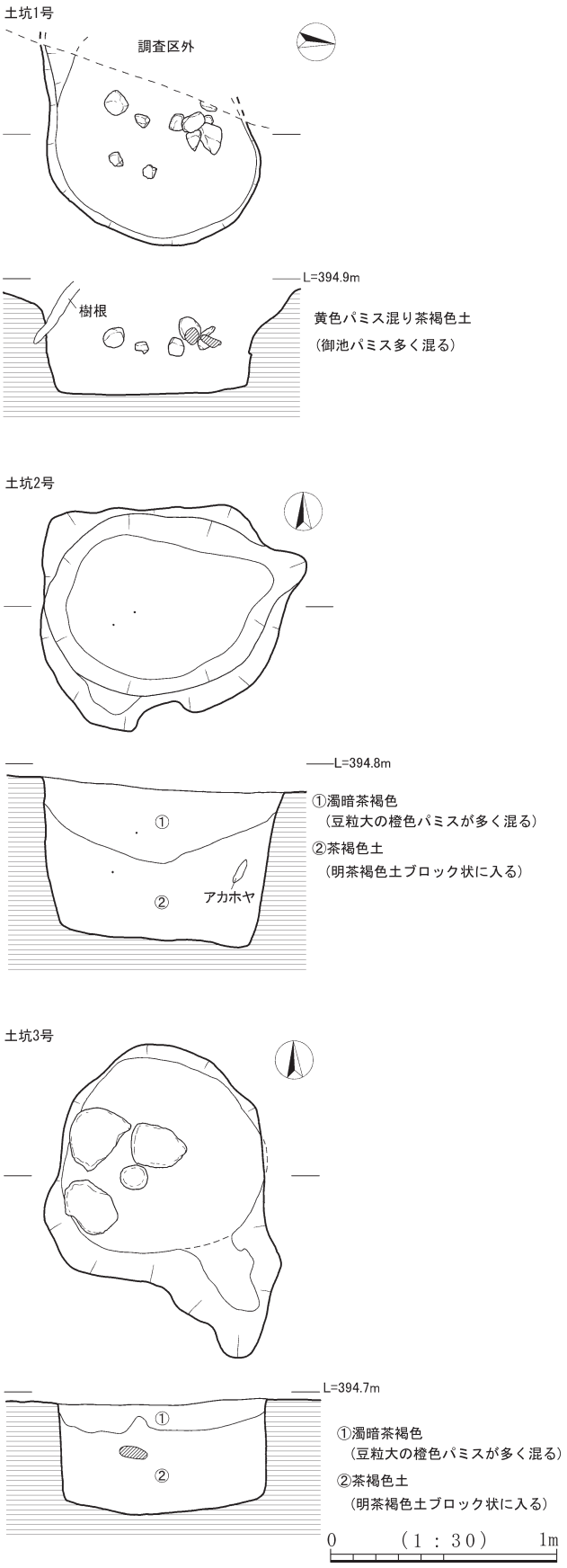
第13図　縄文時代（Ｖ層上面）竪穴住居跡検出状況



第14図　縄文時代竪穴住居跡内出土遺物(1)



第15図　縄文時代竪穴住居跡内出土遺物(2)



第16図　縄文時代土坑1～3号検出状況

土坑２号（第16図）

Va層上面で検出された。平面形態は長軸110cm，短軸90cmの略円形を呈し，検出面からの深さは65cmである。床面は平坦で，壁面立ち上がりはほぼ直である。遺構内から土器口縁部片が２点出土した。

土坑２号内出土遺物（第17図）

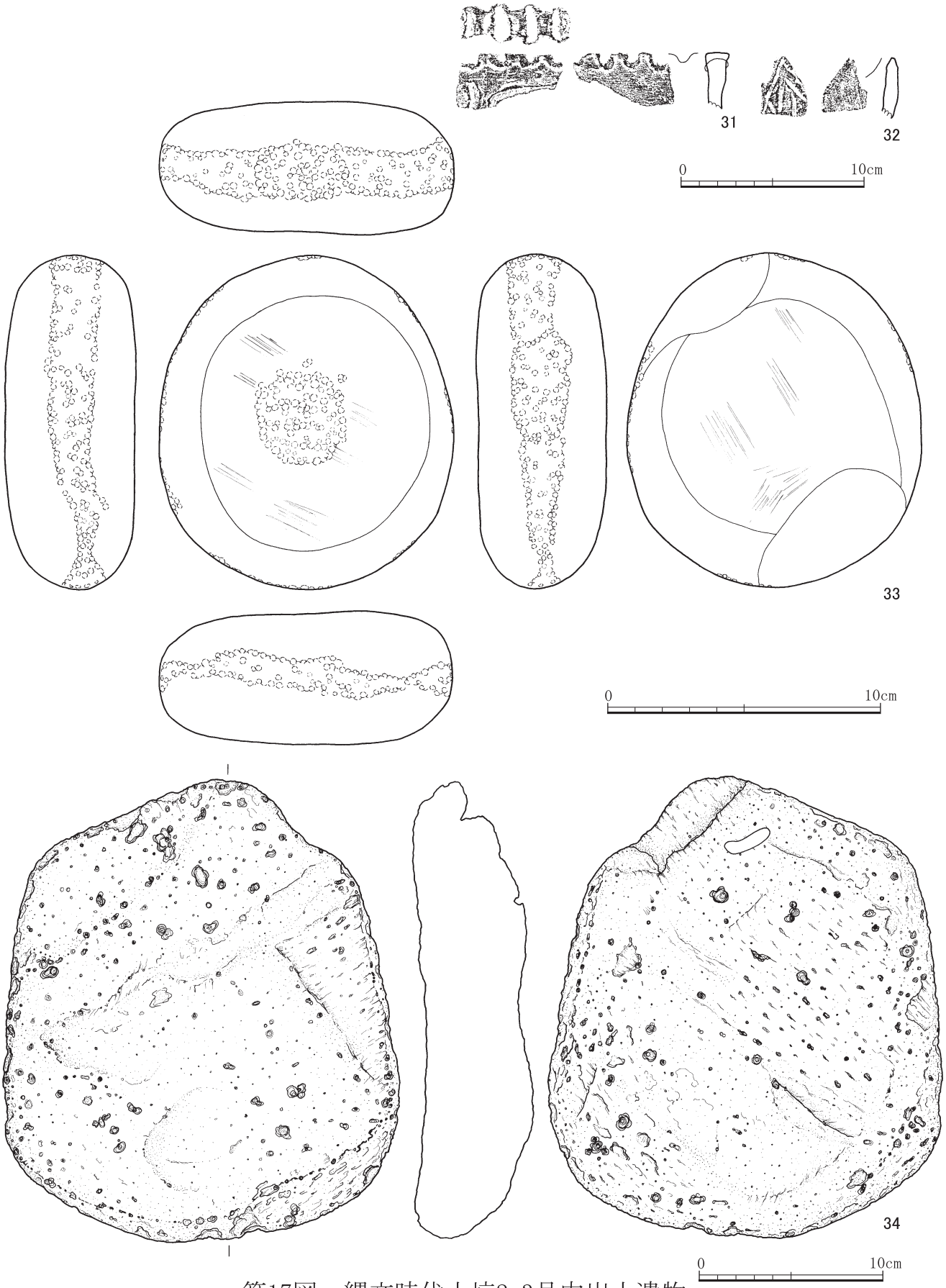
31は口唇部に粘土を盛ったうえで口唇部に棒状工具による刻みを施す。口縁部外面には縦位，楕円もしくは矩形の太形沈線が施される。32は山形飾り突起部である。突起頂部から胴部に向かい山形の沈線文が連続して施される。

土坑３号（第16図）

Va層上面で検出された。一部，樹根により崩れているが，平面形態は直径80cm～100cmの円形を呈し，検出面からの深さは50cmである。床面は平坦で，壁面はほぼ直に立ち上がる。遺構内から磨石と石皿片，軽石製品，自然礫の４点が出土した。軽石製品がほぼ床着の状態，その他の遺物は埋土中に浮いた状態であった。自然礫を除く３点を図化した

土坑３号内出土遺物（第17，18図）

33は砂岩製の磨・敲石で表裏両面とも明瞭な磨り面を有する。側縁及び表面中央部に敲打痕が確認できる34は軽石製品で形状は石皿状を呈するが，岩石の性質上石皿としての用途は考えられない。35は凝灰岩製の石皿片である。



第17図　縄文時代土坑2, 3号内出土遺物

黒曜石ブロック（第12図）

A・B －33区でⅣｂ層下位からⅤ層上面で総数335点の黒曜石のブロックが検出された。長軸４ｍ，短軸３ｍ程度に収まり，微細なチップが大半を占めた。未製品等は出土していないが，石器制作における最終調整的な場であったと想定される。

(3)遺物

前原和田遺跡の縄文時代の調査ではB～D－23～34区にかけて中期末から後期初頭の遺物を中心に，早期，晩期の遺物が出土した。調査範囲は現県道沿いに幅２ｍ強から７ｍ，長さ120 ｍほどの細長い範囲で行った。出土遺物は，総数5517点で内375点の図化を行った。

出土遺物の分類概要を行った後，それぞれの詳細について記述する。

Ⅰ類土器（第21図36～38）

器形は,直線的にほぼ直に立ち上がり円筒形を呈する。胴部外面に斜位の貝殻条痕文を，口唇端部に貝殻腹縁で刻みを施す。口唇部内面に段を有する一群である。

Ⅱ類土器（第21図39）

胴部片１点のみの出土で器形は不明である。外面文様に豆粒状の押型文を施す。

Ⅲ類土器（第22図40～46）

口縁部片，胴部片のみで全体的な器形の把握は困難である。文様は外面に凹線よる文様を施し，その間に二叉状工具による押し引き状の刺突や連続刺突を施す。胎土に滑石を混入することを特徴とする一群である。

Ⅳ類土器（第22 図47～50）

口唇部から口縁部にかけ粘土紐を貼り付け飾りとし，粘土紐上に貝殻腹縁，工具等により刺突を行う土器の一群である。

Ⅴ類土器（第22，23図51～73）

口縁部，胴部片のみ出土のため，全体的な器形は不明である。口縁部の器形はわずかに内湾するするものから直立気味のものである。口縁部の文様帯をわずかに肥厚，もしくは段をもうけ肥厚帯風に成形する。下面に接合痕がみられるものとみられないものがある。また，文様帯有段部に指頭による連点を施すものもみられる。文様は貝殻腹縁による刺突文や鋸歯文，沈線による同様な文様などを施す一群である。

Ⅵ類土器（第24～43図74 ～269）

当遺跡の主体となる土器で，バケツ状，胴の張る深鉢を中心とする。外面上位を中心に，凹線や沈線で直線文や曲線文が横位に展開する土器で，凹点を伴うものもある一群である。文様構成，調整手法等で，細分も可能と考えられるが大括りにⅥ類とした。詳細解説において，小さな区分での説明を行うこととする。

Ⅶ類土器（第44図270～286）

口縁部，胴部片のみ出土のため，全体的な器形は不明である。口唇部に凹点や短沈線を施すものがみられる。口縁部を肥厚させ弧状，Ｓ字状の凹線，縦位，斜位の沈線を施す一群である。

Ⅷ類土器（第51図365）

胴部片１点のみの出土である。器形は胴部に屈曲部をもち屈曲部から上方へ外反しながら内傾する。無文で外面をミガキ調整する。

Ⅸ類土器（第51図366・367）

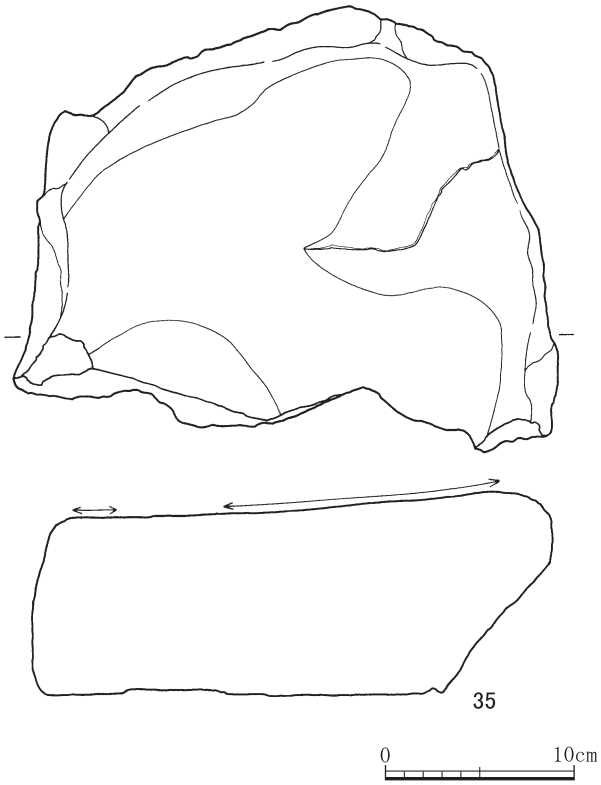
口縁部のみの出土のため全体的な器形は不明である。内外面ともに入念なミガキ調整が行われ口唇部が玉縁状をなす。

Ⅹ類土器（第51図368～373）

口縁は，やや外傾する。内面はミガキ調整が施され，外面は条痕の残る荒いナデ調整が施される。底面外部に組織痕が残るものもみられる一群である。

XI 類土器（第51図374・375）

胴部下半と思われるもので，内外面ともに入念なミガキ調整が施される。器形はやや外反気味に外傾する。



第18図　縄文時代土坑3号内出土遺物

土器

Ⅰ類

C－29区で出土した26点の内口縁部片３点を図化した。36～38はわずかに外傾し直線的に立ち上がる円筒形の土器で，外面に斜位の貝殻条痕文を施す。口唇部内面に段を有し口唇端部に貝殻腹縁による刻みを施す。３点とも同一個体と考えられる。

Ⅱ類

B－32区・Ⅳb層で１点出土した。本来下層から出土する遺物であり，周辺からの流れ込みと考えられる。39は胴部片で外面に豆粒状の押型文が施される。

Ⅲ類

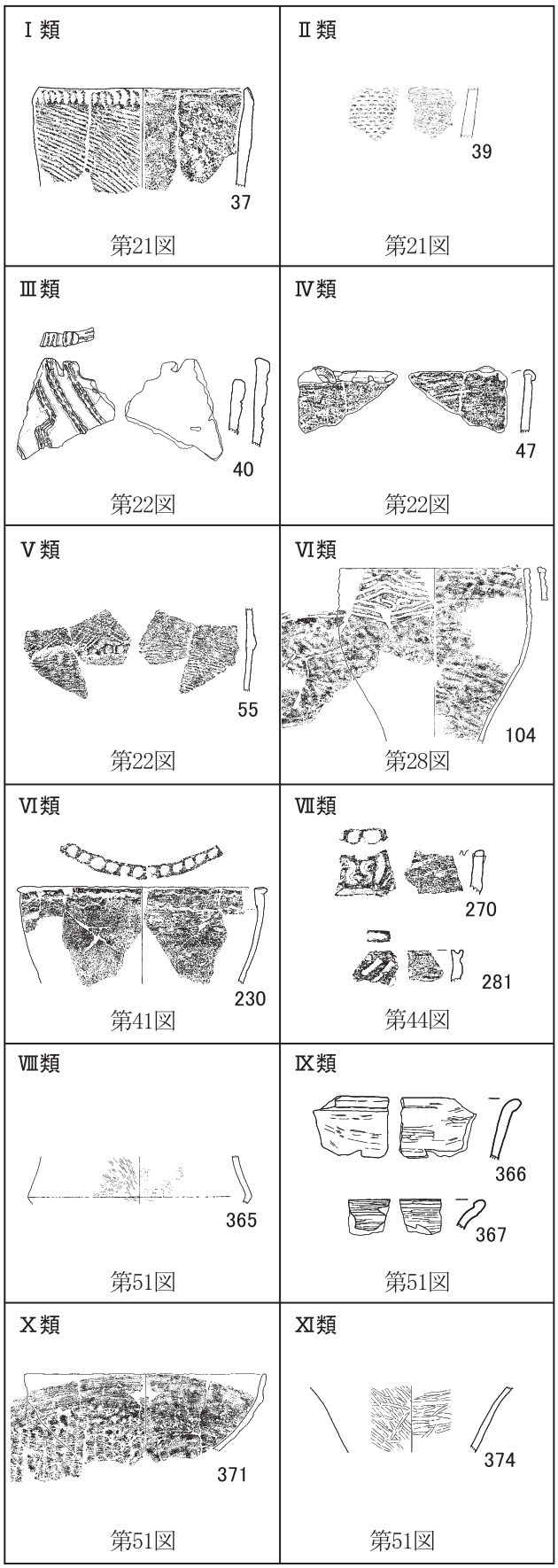
Ⅲ類は24～34区にかけ点在する。７点を図化した。40～46の内41を除く全てが滑石を混入する。40，41は口唇部に突起を有す。40は口唇に２条の沈線が巡り，突起上端には内面から外面に向かい２条の沈線文が施され，そこから口縁外面では２叉状工具による斜位の押し引き文となる。押し引き文は３条みられ，口唇部突起は３分割されているものと思われる。41は突起部が２分割され，さらに分割された頂部に刻みを施し２分割する。突起下位に凹点もしくは凹線が施され，その周辺には貝殻腹縁による刺突文が施される。42は深い凹線文で緩やかな曲線が描かれ凹線間に二叉状工具による連続刺突が施される。43は横走するごく浅い凹線に２叉状工具による連続刺突が平行する。器壁の薄い胴部片である。44は43同様の文様構成であるが連続刺突が密で器壁がやや厚い。45は二叉状工具による押し引き文が施される。刺突時の力が弱いため沈線状になる。46も45同様の施文で，縦位・横位に組み合わさる。

Ⅳ類

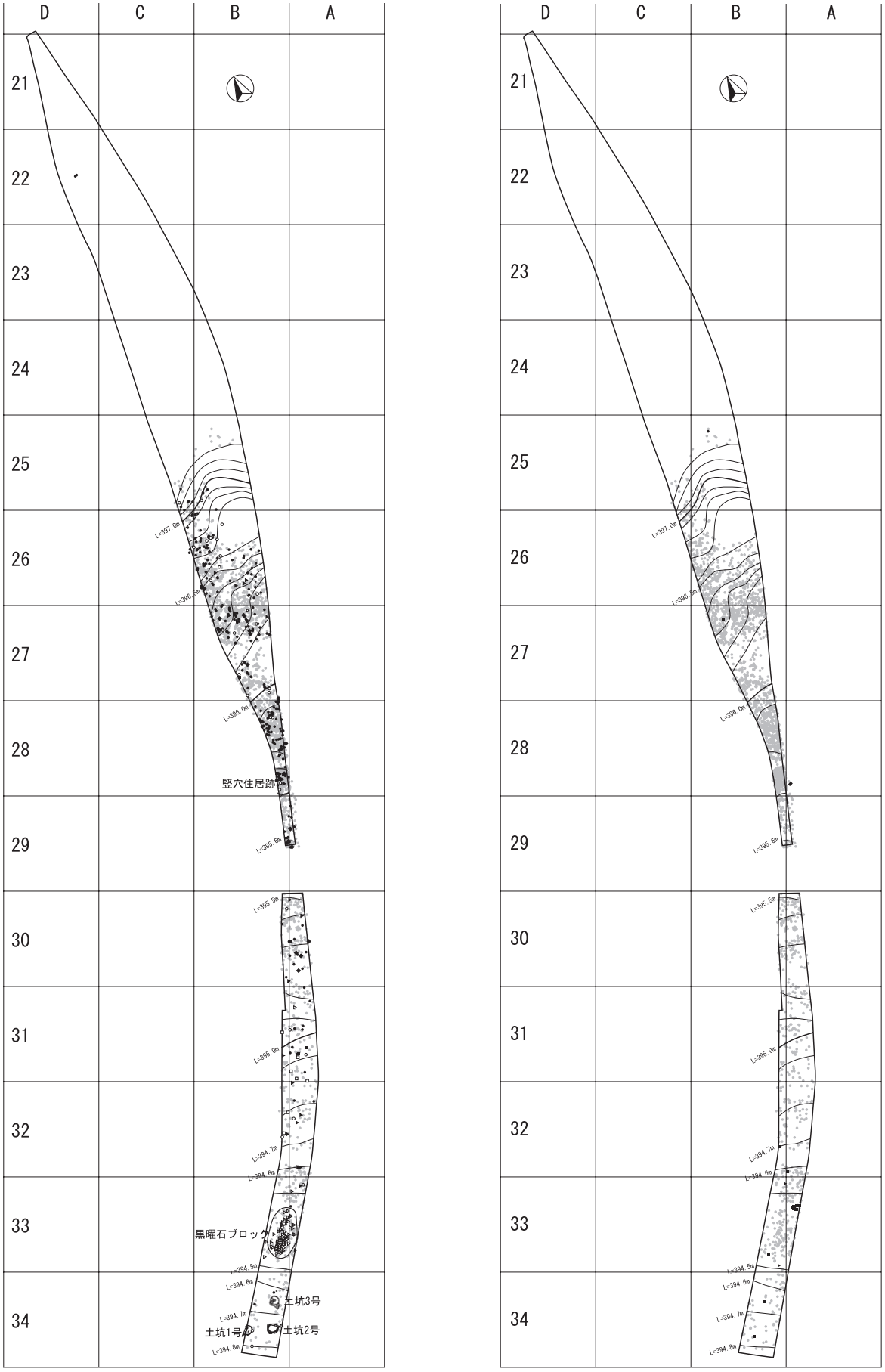
類別可能であった４点を図化した。47は口唇端部に突帯を巡らす。口唇から突帯にかけ粘土紐を弧状に貼り付け，そこに貝殻腹縁により刺突を施す。48は口唇を平坦に仕上げ，口縁部に渦巻き状に粘土紐を貼り付け，そこに貝殻腹縁による刺突を施す。器面には貝殻条痕文が施される。49は48同様の口縁部片である。器面はナデにより調整される。50は口縁部付近，もしくは胴部片と思われる。粘土紐が貼り付けられ，そこには貝殻腹縁による刺突文が施される。器面には貝殻条痕文が施される。

Ⅴ類

類別可能であった23点を図化した。51は幅が狭く，厚手の口縁部肥厚帯で文様は施されず，内面に貝殻条痕を残す。52は51同様の肥厚帯を有し，肥厚帯下端に凹点状の刻みを施す。肥厚帯には斜位に貝殻腹縁刺突文，押圧文が施される。53は口縁下位にわずかな段を有し肥厚帯とし，口唇部に向かい先細る。肥厚帯には横位の貝殻腹縁による刺突が連続する。54は53と同様の器形



第19図　土器類別



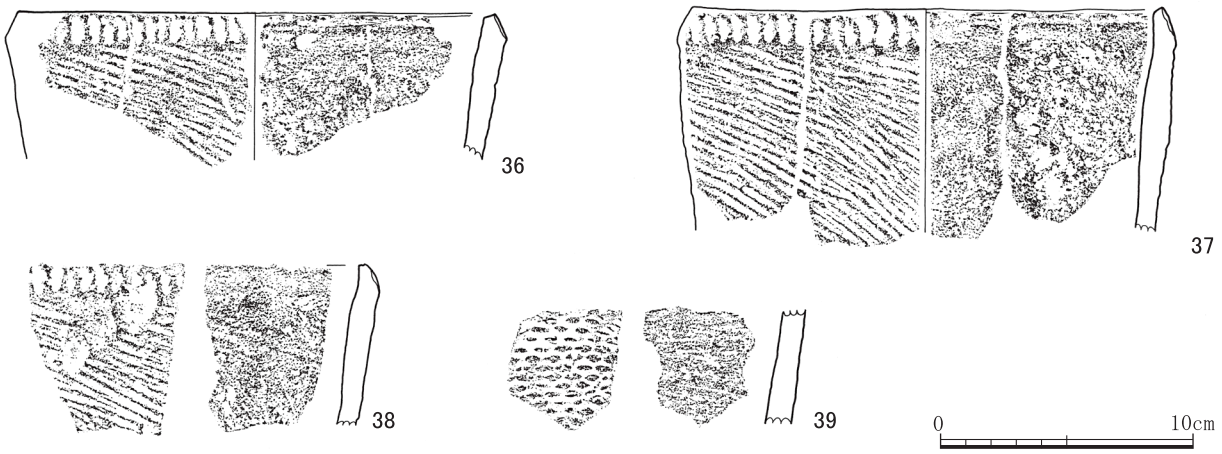
第20図　縄文時代遺物出土状況

S=1/600

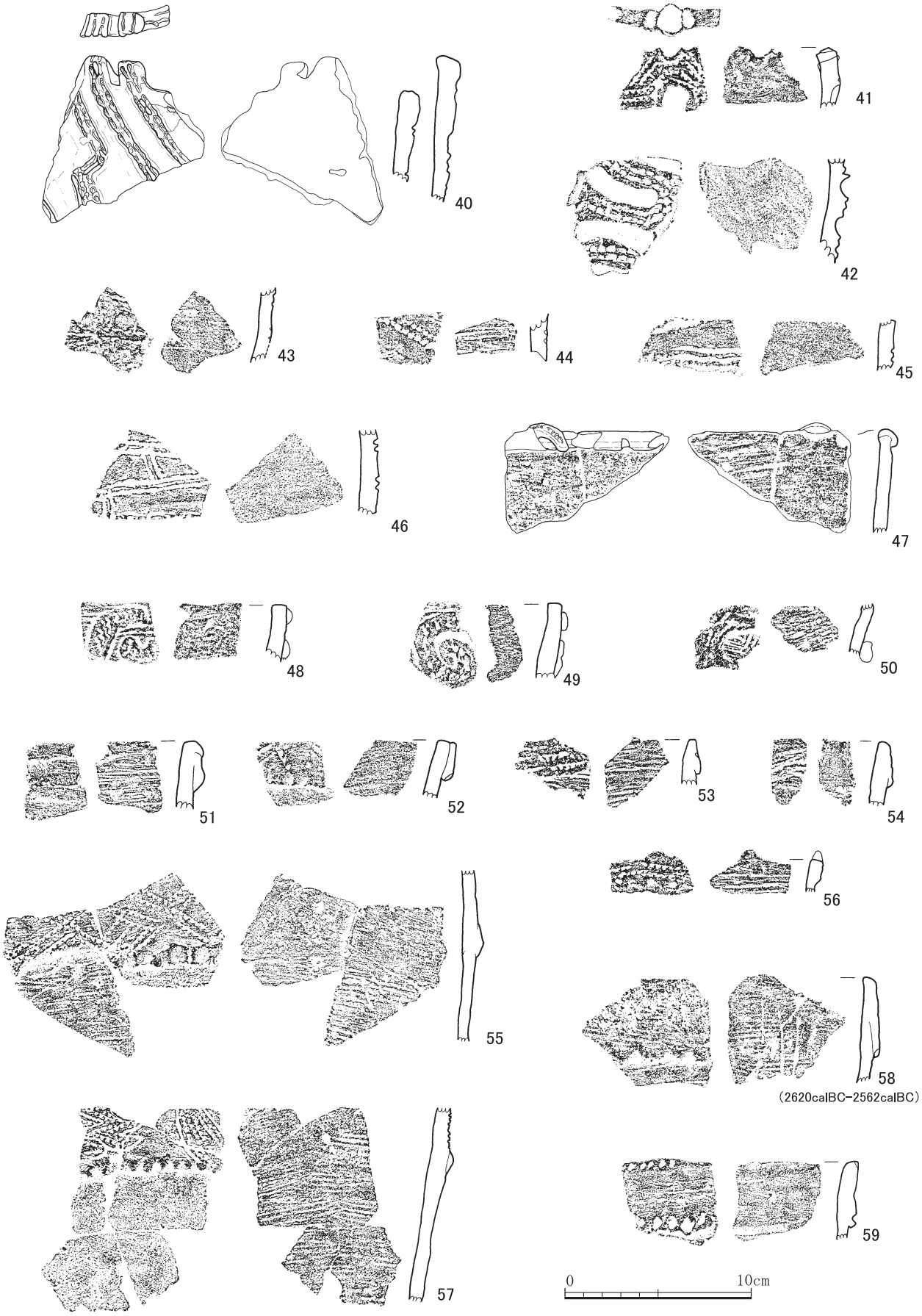
で肥厚帯に横位の沈線が数条施される。55 は口唇部を欠く口縁部片で口縁下位に粘土を貼り付け肥厚帯とする。肥厚帯には斜格子状に貝殻腹縁による刺突文が施され，肥厚部下端には凹点状の刻みが施される。外器面は調整の貝殻条痕がわずかにみられるがナデにより消される。内面の上位は丁寧なナデ調整が施されるが，下位には貝殻条痕が残る。56 は 53 同様の器形・文様で，口唇部に山形の突起が付く。57 は口唇部を欠く口縁～胴部片で口縁下位に粘土を貼り付け肥厚帯とする。胴部は外傾気味に立ち上がり，口縁肥厚部はやや直立する。肥厚部下端には刻みが施され，肥厚部には平行した縦位の鋸歯状沈線，斜位の沈線が施され，それぞれの沈線間は貝殻腹縁刺突文で充填される。58 は 54 同様の器形を呈するが，肥厚帯幅が広い。肥厚帯下端に凹点状の刻みが施され，文様は施されず，器面調整の貝殻条痕をわずかに残すのみである。土器外面に付着した炭化物を年代測定にかけた結果，（2620calBC － 2562calBC）の年代を得ている。59 は 58 同様の器形でわずかに口縁部が外反する。肥厚帯下端と口唇端部に棒状工具による刻みが施される。60 は口縁肥厚部がシャープな段差を有し，口唇やや下位から縦位の貝殻腹縁による押圧文が施される。61 は肥厚部に貝殻腹縁による斜位の刺突文，その下に横位の刺突文が施される。62 は口縁部がやや内湾する。口縁部にわずかに粘土を張り付け肥厚させ，先端の尖った工具で平行する連続刺突を波状に行い，交差させる。口唇部に突起をもち，刻みにより３つ山となる。肥厚帯下位は調整の貝殻条痕が残る。63 ～ 66 は肥厚部に沈線による鋸歯状文を施す。67 は口唇部を平坦に仕上げ，篦状工具による刻みが施される。外面には斜位の浅い沈線が施される。68 は平坦な口唇部に先端の尖った工具で連続する刺突が施される。外面には２条の沈線による鋸歯状文が横位に展開すると思われ，３条の沈線での曲線文が組み合わさる。内面には格子状に貝殻条痕による調整痕が残される。69 は胴部片で２条１単位の沈線が鋸歯状に，縦横に施されると推測される。70，71 は狭小な肥厚帯で，無文である。72 は口縁下位に突帯を巡らし，突帯上に凹点状の刻みを施す。やや趣は異なるが口縁肥厚帯を意識したものと解して，ここに記載した。73 は狭小な肥厚帯に貝殻腹縁による縦位の押圧文で大胆な刻みを施す。その下位にはやや太めの沈線文が巡る。口唇部には，ねじり紐状の飾りが付く。

Ⅵ類

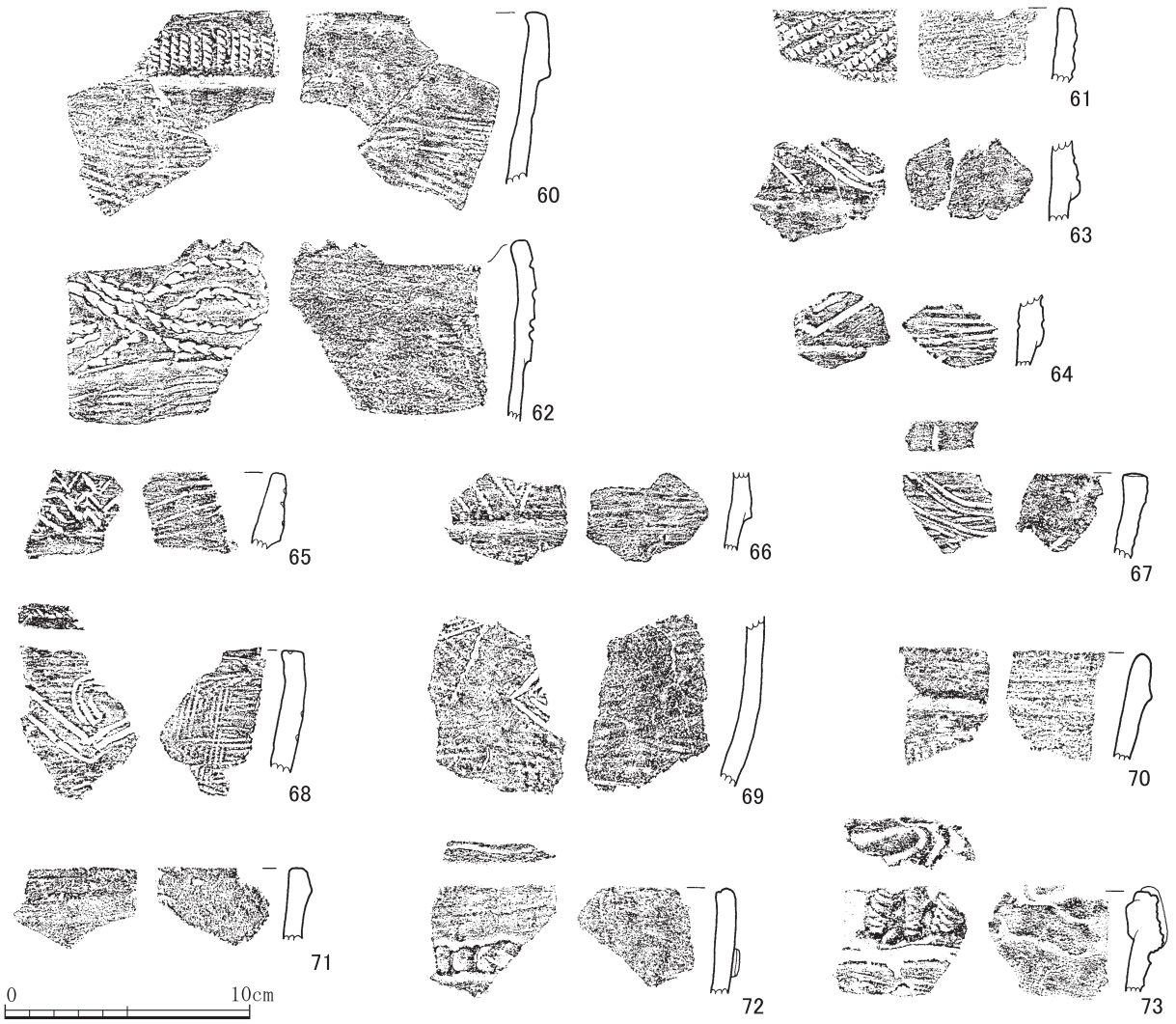
Ⅵ類は22～34区にかけ出土し，B・C － 25～29 区に集中する傾向が伺えた。総点数 780 点を出土し，内196点を図化した。凹線，沈線の使い分けは，線の深さが浅く，線両側の稜線がぼんやりしたものを凹線，線の深さが深く，線両側の稜線がくっきりしエッジのあるものを沈線と表現した。74 ～ 103 はやや太めの凹線で文様を構成するもので器形は内湾するものから口縁部で外反するするものまで多様である。74 は口縁部で外反する器形で口唇部は平坦に仕上げ，口唇部に隆起部を作出し飾り突起とする４か所程度の突起を有すると考えられる。外面にはやや細形の凹線が鋸歯状もしくは波状に，横位に展開すると思われる。75 は 74 と同様な器形を呈し，胴部がわずかに張る。口唇部平坦面に棒状工具による刺突を連続して施し，外面には口唇端部直下に棒状工具による鋸歯状の沈線文，その下位に大中小からなる３重の菱形文が施され，その中間にシンメトリーに太形の凹線文が弧状に施される。施文は胴部中位にまで及ぶ。76 は口縁部が内湾する。口唇部に深い凹点を施し，凹点のわりに細い凹線の横走線や曲線文が組み合わさる。77 はわずかに外傾し直線的に立ち上がる。口唇部に飾り突起剥落痕が観察される。外面には口唇直下に棒状工具による刺突文，２条１単位の凹線が曲線的に描かれる。78 は口唇部に凹線が施され，外面には曲線文，直線文，凹点文の組み合わせで施文される。79 は 77 同様の器形で，口唇部は平坦，口唇直下に爪痕を残す刻みが施され，その下位に曲線文が施される。80 は口唇端部に突帯を巡



第21図　Ⅰ，Ⅱ類土器

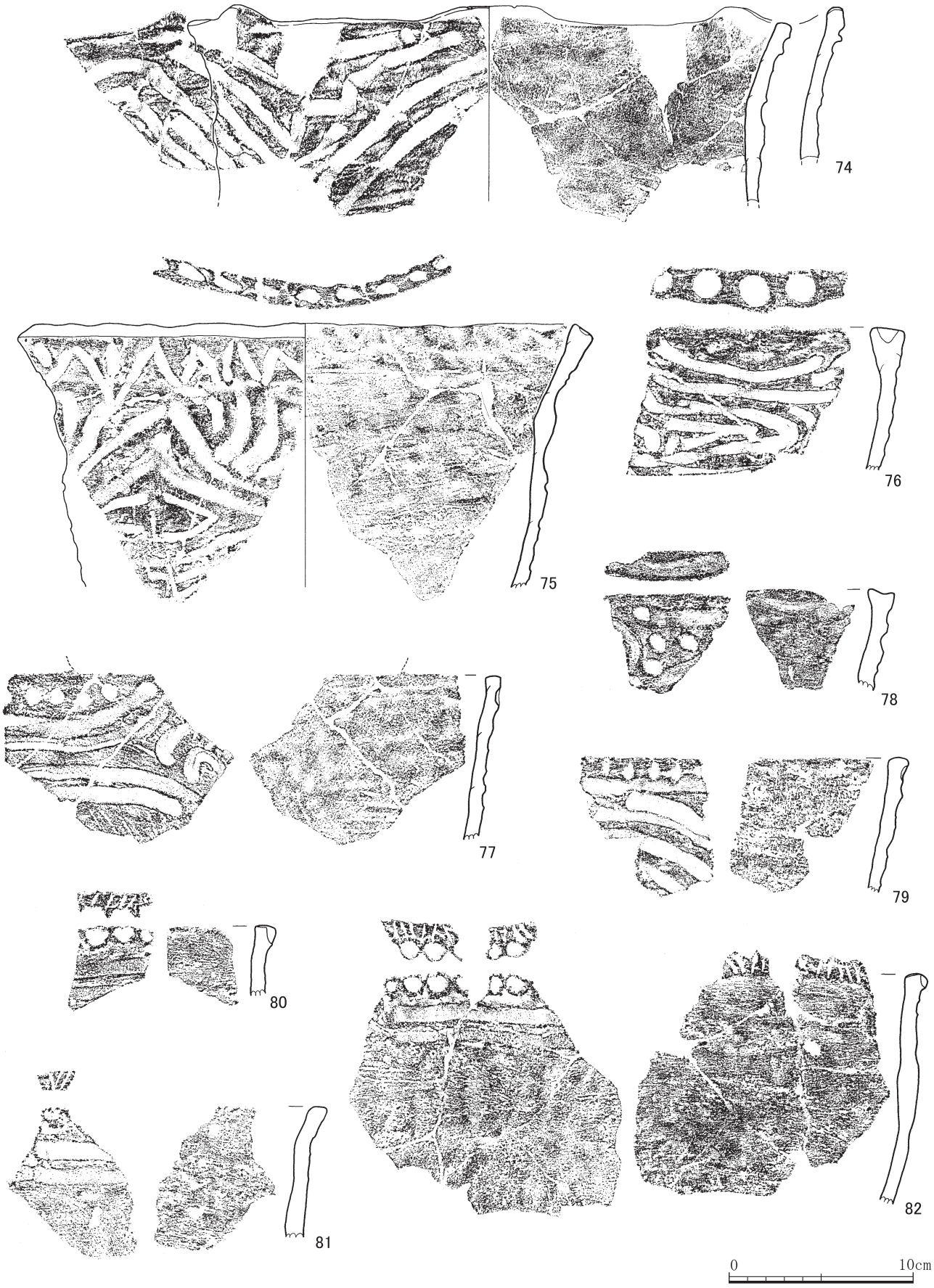

40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
58
(2620calBC−2562calBC)
57
59
0
10cm

第22図　Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ類土器



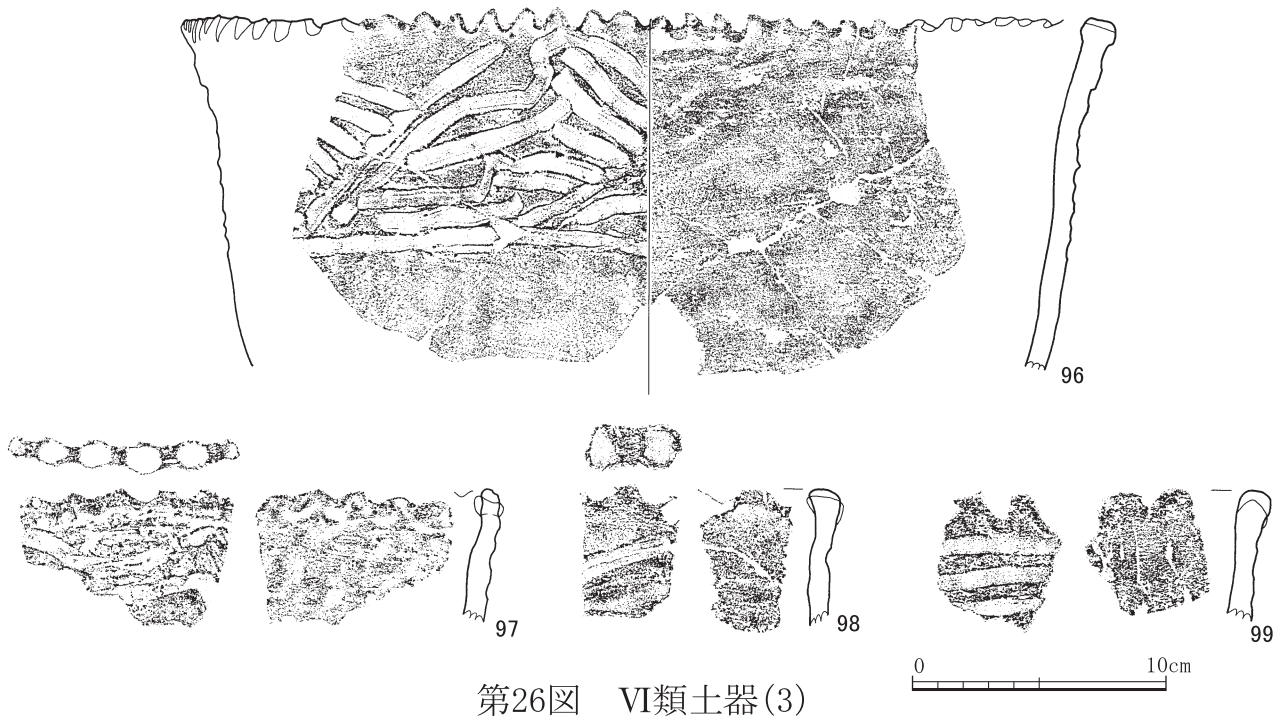
第23図　Ⅴ類土器

らせ，そこに凹点状の刻みを施し，その下位には横走する浅い凹線が施される。口唇部には篦状工具による斜位の刻みを行う。81 は口縁部で外反する器形で，80 と同様の文様が施される。82 も80 同様である。83 は口唇部が平坦で口唇直下に弧状の凹線，その下位に横走する凹線文が施される。口縁はやや外傾する器形を呈する。84 は内湾する口縁部で外面，口唇直下に横走する凹線，そこから下位に斜位及び縦位の凹線文が施される。85 は平坦口縁で口唇直下に併走する曲線文が２～３条施される。86 ～ 92 は口唇部に刻みを施す口縁部片である。86 は胴部上位でわずかに締まり口縁部がわずかに外反する器形を呈する。口唇部に粘土を貼り付け，そこに棒状工具で刻みを施す。口唇直下から棒状工具による刺突文や斜位の凹線,鉤状組み合わせ文などが複合して施される。施文部位は胴部上半に限られる。87は,胴部片であるが，器面調整，胎土などからと86 同一個体の可能性が強い。88 は棒状工具による大ぶりな刻みが施される口唇部をもつ。外面には浅い幅広の凹線が横位，斜位に施される。89 は口唇平坦面にさらに粘土を盛りつけ，そこに棒状工具により刻みを施す。外面から貼り付けが観察できる程度の接合しか行われていない。外面には太形の凹線が横走する。90 はやや肥厚する口唇部上面を棒状工具で内側から外側へ押さえ込むようにして大振りな刻みを施す。外面に２条の横走する太形凹線，その下位に棒状工具先端による刺突文が施される。91 は 89 と同様の口唇部刻みを施す。外面に１条の横走する太形凹線文が施される。92 は口唇部を粘土で包み込むようにして肥厚させ玉縁状にする。口唇部上面から棒状工具で押圧し刻みを施す。93 ～ 95 は胴部片でいずれも太形凹線による曲線文が描かれる。94は胎土中に滑石を混入する。96～ 99 は口縁部片である。96 は口唇部に上から棒状工具を押しつけたような浅い刻みが施される。口縁下位に，横走するやや細めの凹線を横位に施し，その上位から口唇部にかけ斜位を基調とした凹線文を組み合わせた文様が施



第24図　VI類土器(1)

第25図　VI類土器(2)



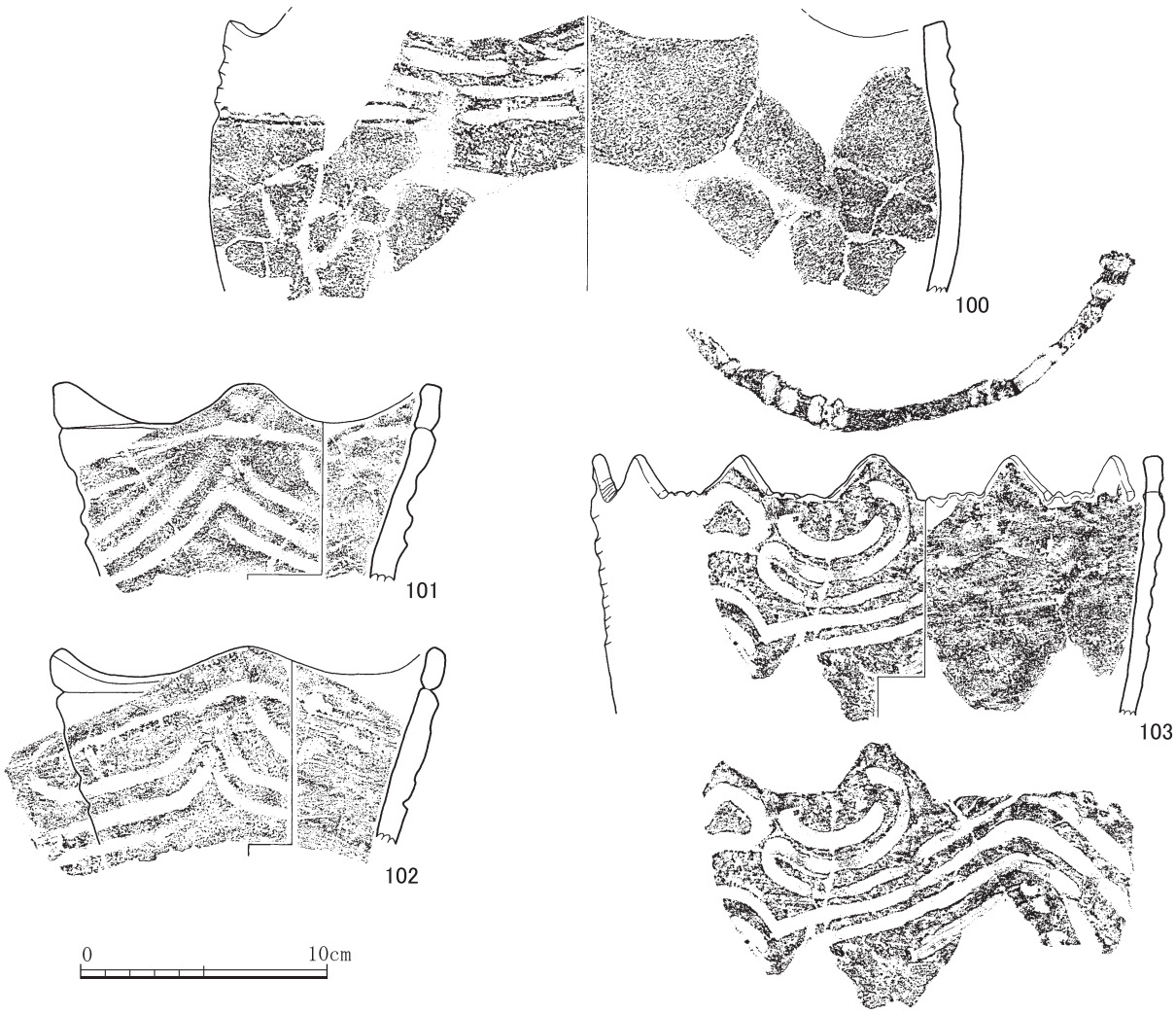
第26図　Ⅵ類土器(3)

される。外面には煤が多量に付着する。97，98は96と同様な手法で口唇部刻みが施される。97は曲線の凹線文が施され，98 は斜位の凹線文が施される。99は97と同様な手法で口唇部刻みが施される。外面には３条の併走する横位の凹線文が施される。

100～103はやや細めの凹線文が施され，波状の口縁を呈するものである。100はやや内湾する。外面には口縁に沿う形で３条の併走する凹線で波状文が展開すると思われる。波頂部は４～５か所程度と思われる。101，102 は口唇部に粘土を上積みし波頂部を作る。外面文様は波頂部を起点とする弧状文がシンメトリーに描かれる。101，102 は文様，胎土等から同一個体の可能性が強い。103 は口唇部に間隔を開けた山状飾り突起が作られ，突起間には棒状工具による浅い刻みが施される。外面には曲線を主体とした細めの凹線文が施される。

104 ～ 117 はやや太めの沈線，細めの凹線で横位に展開する文様に巻きひげ状の文様がみられ文様帯が口縁部に集約されるものである。104 は胴部下半は外反しながら外傾し胴部からわずかに内傾気味に直口する。口唇部にはねじり紐状の飾りが付く。外面の文様はやや太めの沈線で菱形を形作る緩やかな波状文の組み合わせと巻きひげ状の曲線文が横位に展開する。文様は口縁部に集約される。105 は接点が見つからなかったため別掲としたが 104 と同一個体の可能性の高い底部片である。わずかに上げ底となる。106 は B－28区でまとまった状態で出土し，完形に復元できた資料である。平底の底部からやや外反気味に立ち上がり，胴部から口縁にかけ直立する器形である。口唇部には飾り突起が施され，口唇全体に篦状工具による刻みが施される。剥落の状態から３か所の突起が存在したものと思われる。外面にはやや細めの凹線で直線文や曲線文が横位に展開する。文様帯は口縁部付近に集約される。また底面には網代痕が残される。107 は直口する口縁で細めの凹線で巻きひげ状の文様が描かれる。外面には多量の煤が付着する。108 は外面に棒状工具により細く浅い沈線の巻きひげ状の曲線文が施される。口唇には粘土貼り付けの一端が確認でき飾り突起を有するものと考えられる。109 は外面にやや太めの沈線で曲線文が描かれる。110 は口縁端部でわずかに外傾する。口唇部は平坦で，口唇下位に横走する沈線，その下位に曲線文が施される。111 は 110 同様の器形，文様を呈する。112 は直口する口縁で平坦な口唇で下位に横走する沈線，その下位に巻きひげ状曲線文，直線文が描かれる。113, 114 は 112と同様な器形，文様構成を呈する。115 は胴部下位から口縁部へ内湾しながら立ち上がる器形で，文様は細めの凹線で巻きひげ状曲線文を中心として曲線文で構成される。文様は口縁部に集約され，胴部外面上半に多量の煤が付着する。年代測定の結果（2494calBC － 2456calBC）の結果を得た。116 は 115 同様の器形でやや深めの沈線で直線文，曲線文が描かれる。117 はわずかに内湾する口縁で外面に竹管状工具による刺突，細めの凹線で曲線文が施される。

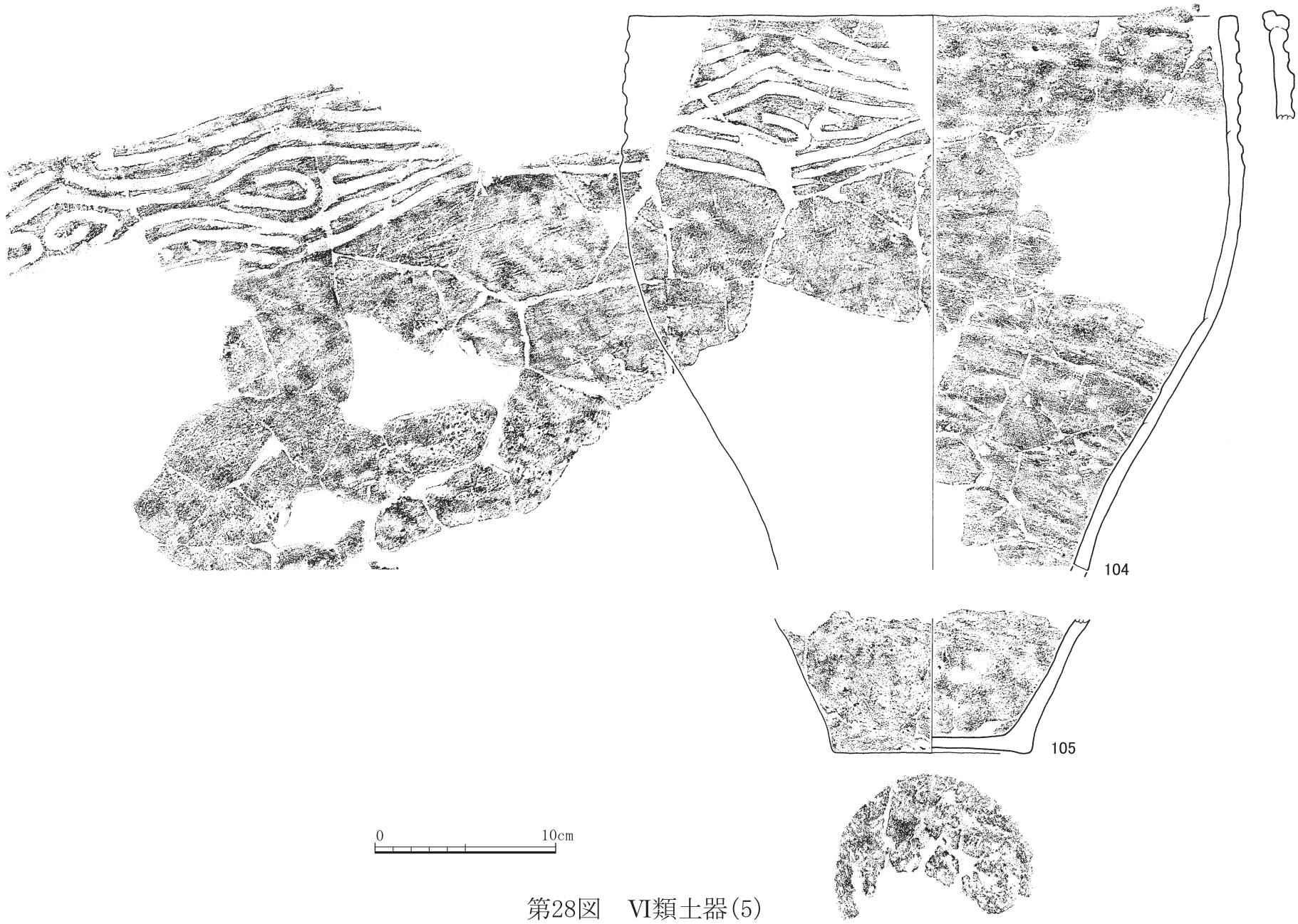
118 ～ 124 は口縁下が張る器形を呈する深鉢，または



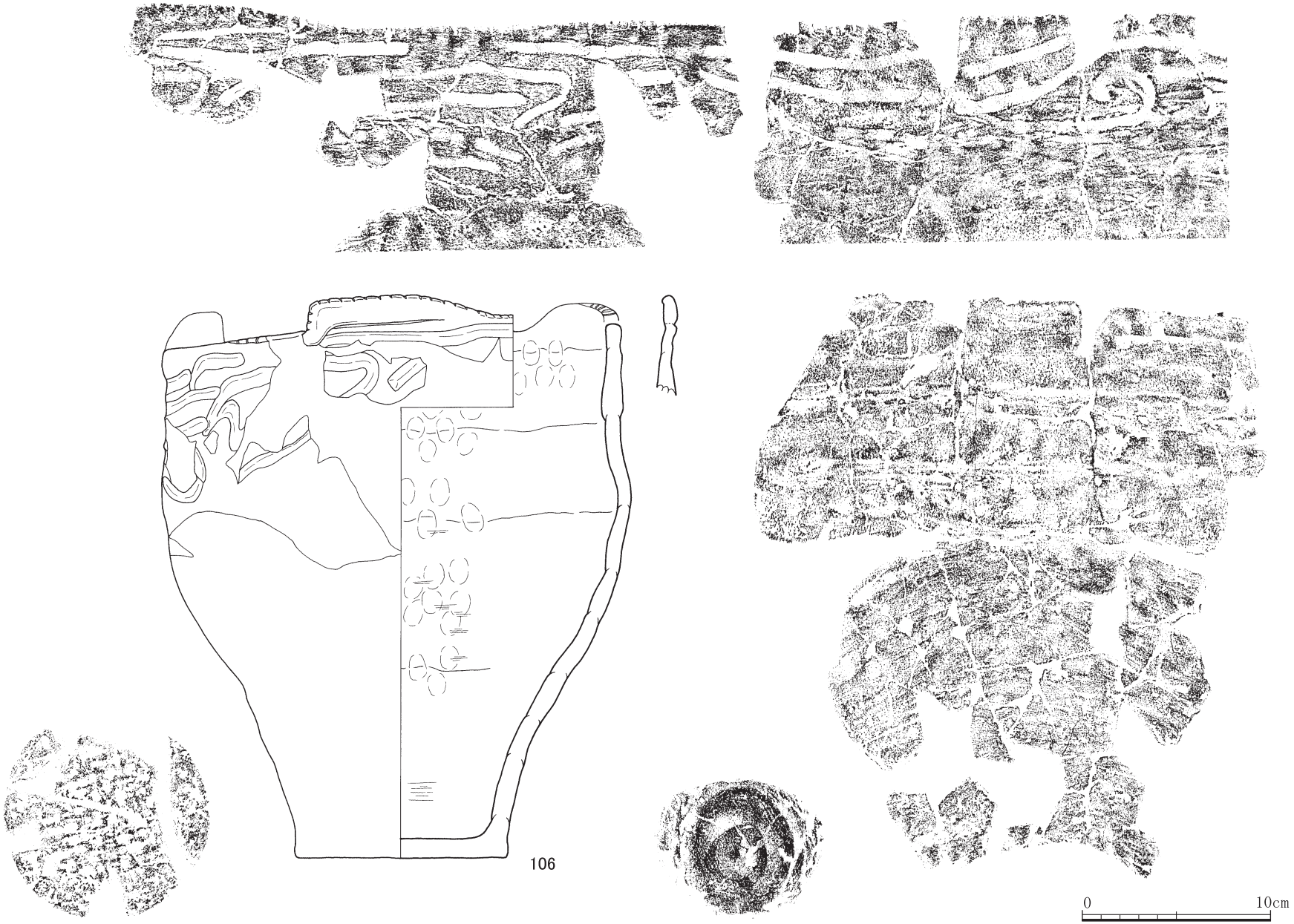
第27図　Ⅵ類土器(4)

鉢である。118 ～ 122 は胴部上位が張り口縁部へと内湾する器形で，118 は胴部の指頭圧痕が顕著で器面が凸凹を呈する。太めの深い沈線が横位・斜位に施され，文様帯は口縁部に集約する。119 は口唇部が平坦で，外面に棒状工具による曲線文が，太めで深い沈線で描かれる。120，121 は口唇部に内面から外面に向かい棒状工具を押しつけ刻みを施し，その直下に凹点が施される。120 は凹点に加え曲線から斜位への変化する太めの沈線文が組み合わさる。胴部下半は最終のナデ調整が荒く，貝殻条痕がかなりの割合で残る。内面調整は比較的丁寧であるが粘土接合痕が明瞭に残っている。121 は残存部位が小さく直立で図化したが，120 と同様の口唇・文様をもつことから内湾することも考えられる。122 は口唇部が平坦で口唇直下から深めの沈線が横位・斜位に施される。123 は胴部から口縁に向けわずかに内湾しながら外開きする鉢と考えられる。口唇部には篦状工具による密な刻みが施され，粘土貼り付けにより小さな波頂部が設けられる。外面には細めの３条１単位の凹線で波文状の文様が描かれる。外面に煤が付着していたため年代測定をした結果（2489calBC － 2450calBC）の結果を得た。124 は胴部片で器形・胎土・調整痕から 120 の同一個体と推定される。

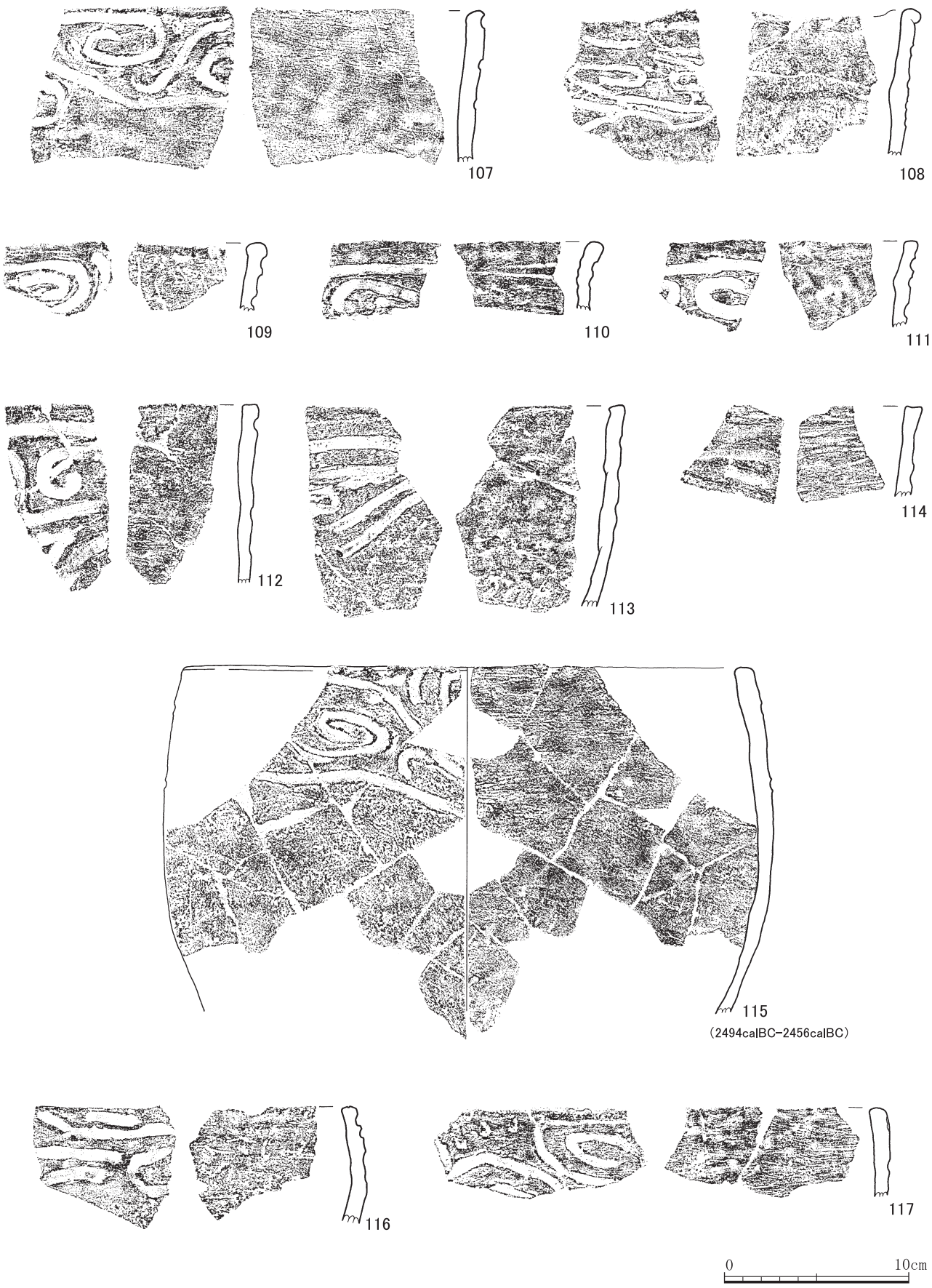
125 ～ 137 は胴部中程から口縁にかけ複数単位の逆Ｕ字状の沈線が縦に伸び，それが横展開する。125 は外傾する胴部が口縁から直口する器形で，口唇部に８の字状に粘土紐を貼り付け装飾する。口唇直下に突帯を巡らし，そこに凹点を施す。その下位に３条の併走する太めの沈線を横走させ，そこに交わるように３条１単位の逆Ｕ字状の沈線が描かれる。126，127 は胴部片で胎土，焼成，文様の状況から 125 と同一個体の可能性が強い。両者には逆Ｕ字状の沈線の終端が描かれており，胴部中程まで伸びていたことがわかる。128 は口唇部に波状の刻みを施す口唇下位に横走する沈線が施され，そこから胴部へと流れるＵ字状の一端が確認でき，その両側には，棒状工具による刺突文がみられる。129 は口唇部に粘土紐が貼り付けられる。また口唇直下から３条１単位で縦



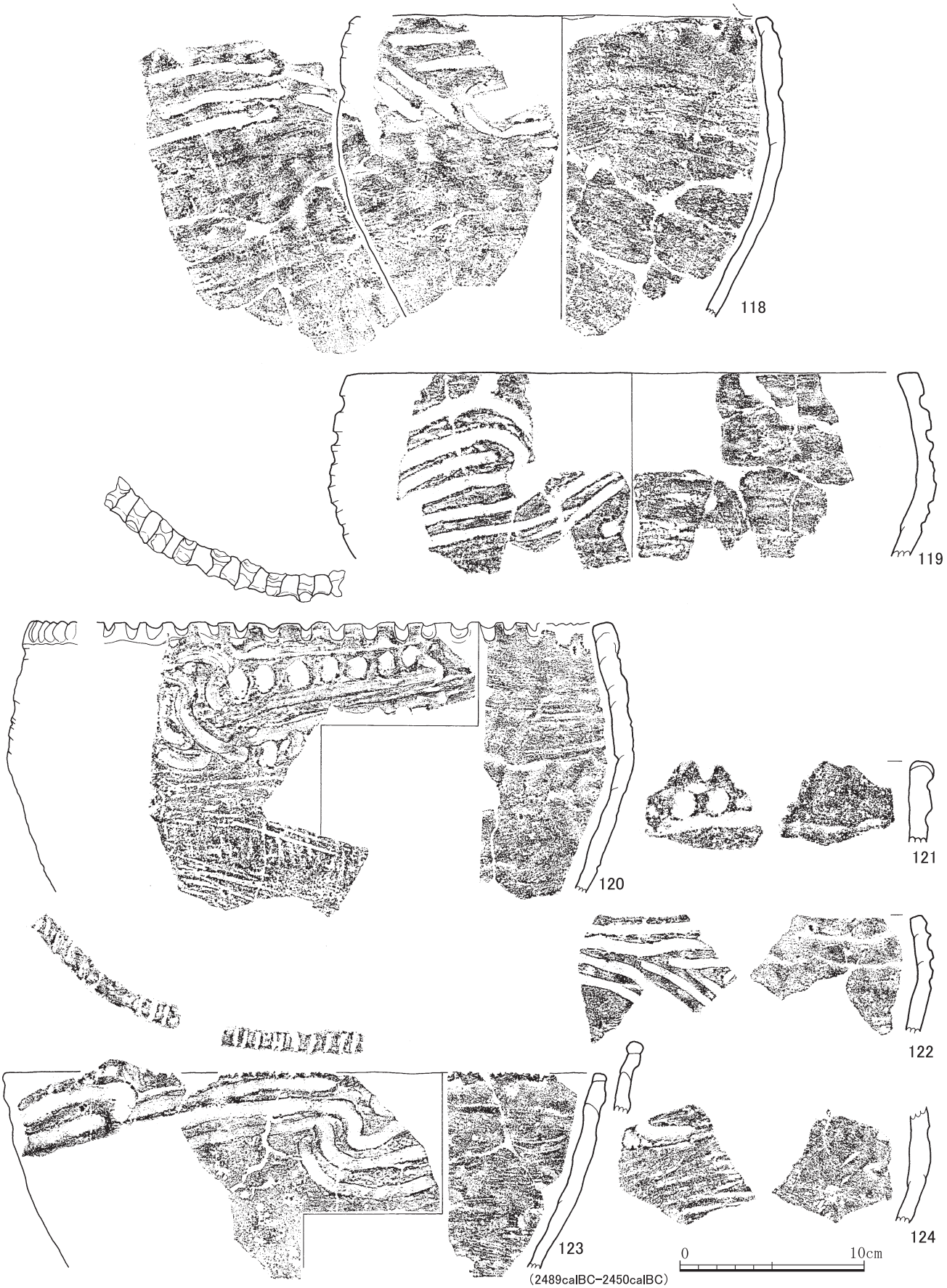
第28図　Ⅵ類土器(5)



第29図　Ⅵ類土器(6)


107
108
109
110
111
112
113
114
115
(2494calBC−2456calBC)
116
117
0
10cm

第30図　VI類土器(7)



第31図　VI類土器(8)

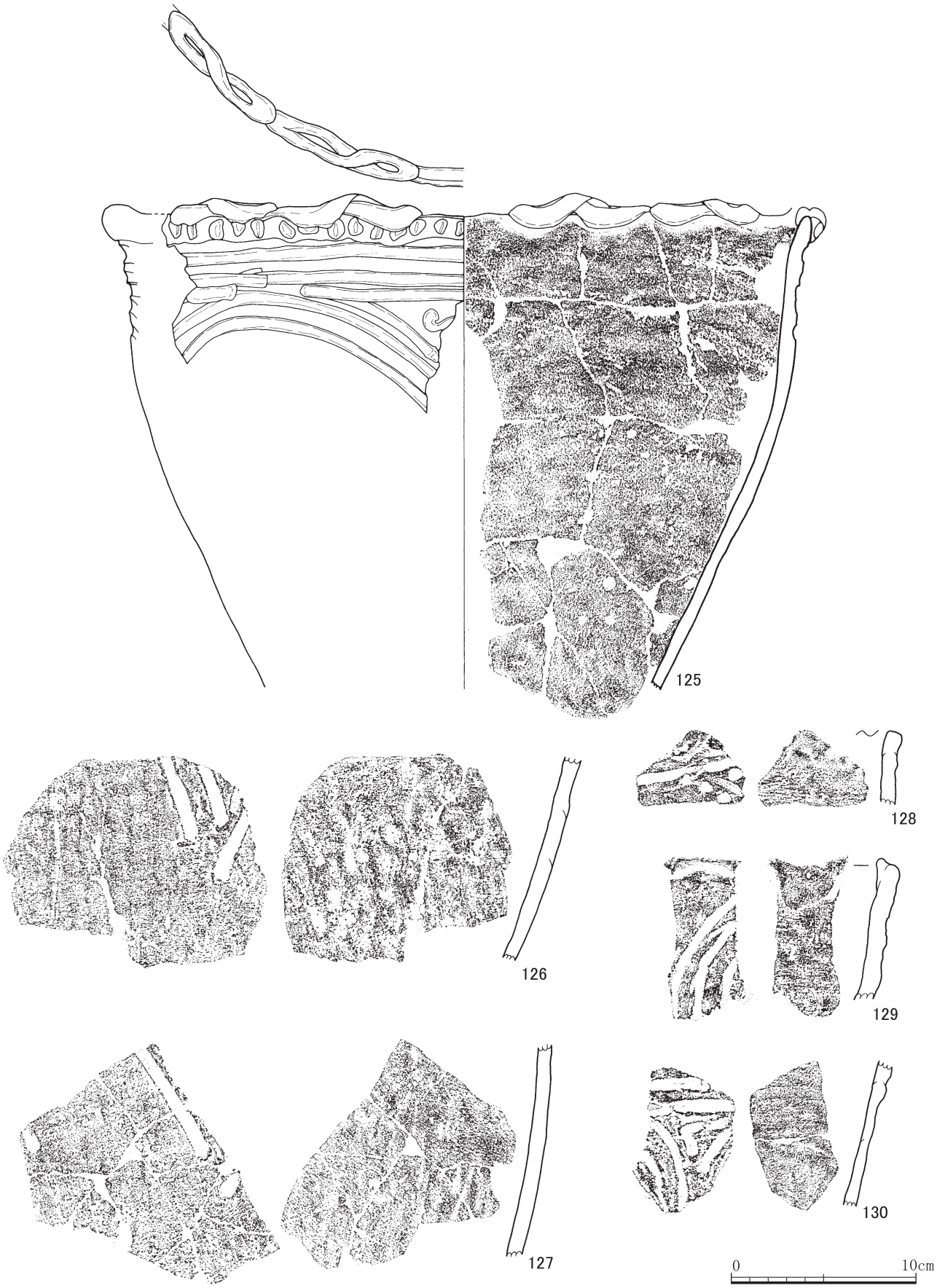
方向に流れるU字状沈線が施されると思われる。130 は胴部片で，横位２条の平行沈線，２条１単位で縦方向に流れる曲線文，その間を埋める三角文が確認できる。

131は完形品で底部から外傾しそのまま直口する。口唇部は棒状工具による刺突を巡らし，外面口唇直下に同様の刺突を施し，その下位から底部まで３条1単位の逆U字状の沈線が施され，その上位に弧状の沈線が加わる。弧状とU字状の沈線の間にも口唇同様の刺突文が施される。底面には網代圧痕が残存する。132，133 は小片のため全体は把握できないが 131 同様の文様構成と思われる。132 には口唇部の刺突がみられない。134 は内湾する口縁で口唇直下に２条の併走する沈線が施され，その下位に逆U字状の沈線が施されると思われる。135 は内傾し口縁部で直立する器形である文様構成は 134 と同様であるが，それに楕円文が加わる。136，137 は胴部片で縦方向に伸びる沈線と竹管状工具による刺突文，縦位の連続する短沈線で構成される文様をもつ。

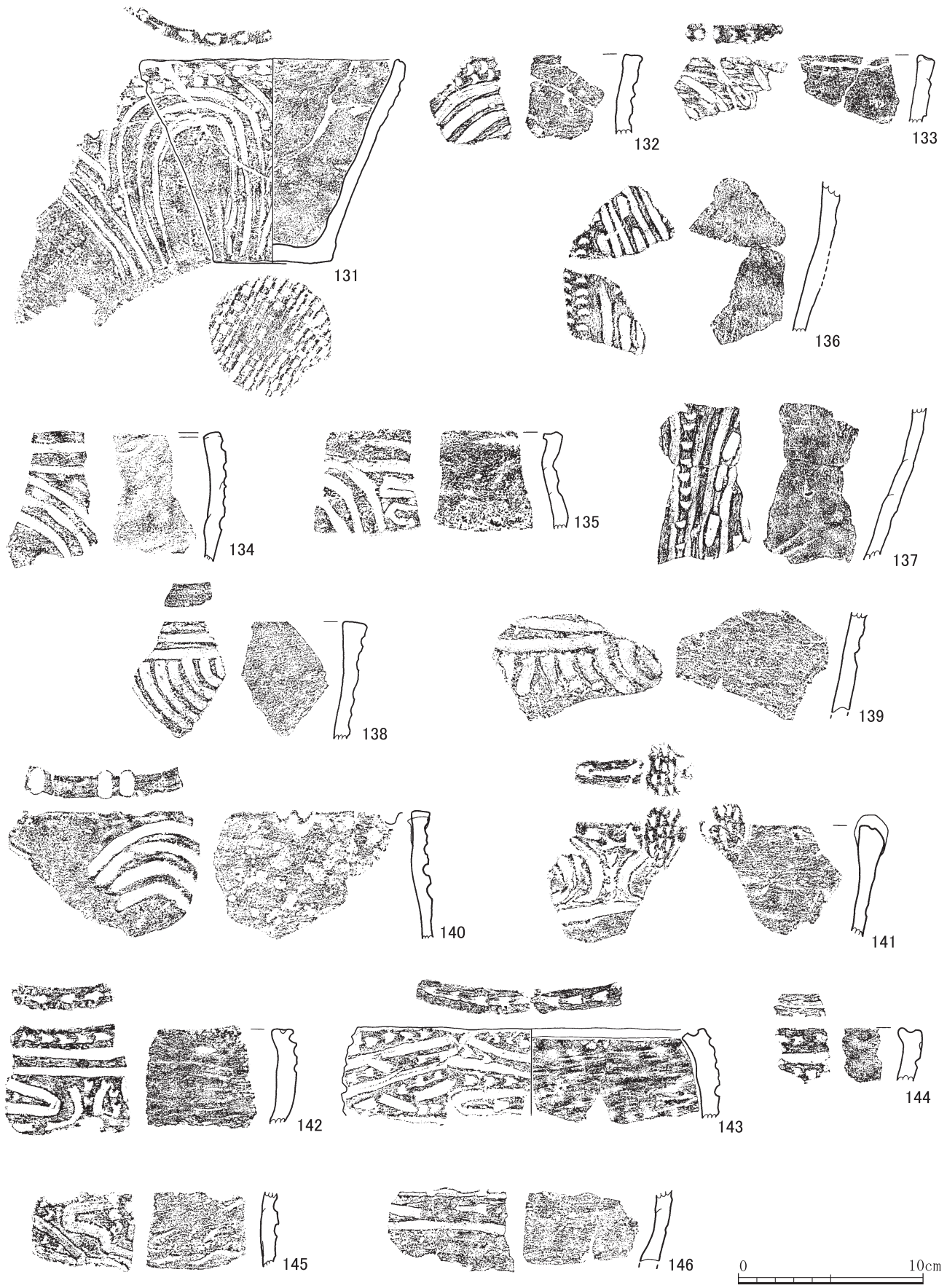
138 ～ 140 は弧状の沈線が展開する口縁部片である。138 は口唇部が平坦で，口唇直下に２条の併走する沈線が巡り，その下位に下向きに広がる７条が併走する弧状の沈線が描かれる。139 は胴部片で横走から曲線へと変化する沈線文とその下位に，やや曲線的な短沈線が施される。140 は平坦な口唇部に棒状工具を押圧して２条のやや大振りな刻みを施す。外面には上に広がる併走した４条の沈線が描かれる。

141 ～ 146 は直線，曲線の沈線に三角形の連続刺突を基調とする文様が施される。胴張りの深鉢もしくは鉢である。141 はやや肥厚する口唇部に半裁竹管状の工具で単位の長い押引が施される。また口唇部を包み込むように粘土を貼り付けて飾りとし，そこを串状工具刺突で満たす。外面は横位の弧状沈線その下位に横位の沈線，さらに半裁竹管による三角形刺突が施される。142 は内湾する口縁で口唇部に半裁竹管により三角形の刺突を巡らす。口唇直下にも同様の刺突を巡らし，その下位に２条の併走する沈線，その下に曲線文と口唇同様の刺突を組み合わす。143 は 142 と同様の器形・文様構成であるが三角形の刺突文が沈線間全体に施される。144 は小破片で形状はほとんど伺い知れないが 143 と同様と考える。145，146 は胴部片で沈線と，半裁竹管による三角形の刺突が確認できることからここに掲載した。147 ～ 161 は横位・斜位の沈線を基調とした文様が描かれる。147 ～ 149 は口唇部が平坦で，147 は内面に貝殻条痕が残る。148 の横走沈線下の斜位の沈線は逆U字状の一部とも考えられるが，断片のためここで扱った。150 は波状口縁になると思われる。波頂部の直下に楕円文が施され，そこを中心に横位・斜位の沈線が展開する。151 は内傾する口縁で口唇部に凹線が巡る。外面には斜位の沈線が複雑に組み合わされ施文される。152 ～ 160 は胴部片で外傾し直線的に立ち上がる器形である。152 は横走するやや太めの沈線間に三角形文が組み合わさり横展開すると考えられる。三角形文の中は弧状の短沈線で充填される。153 は 152 とほぼ同様なモチーフで文様が描かれる。154 は浅い沈線で斜位の沈線が組み合わさる。155 は横走沈線を２条の併走する斜位の沈線で分割し，横走沈線間に弧状，楕円の沈線文が施される。156，157 は小片で文様モチーフの確定はできないが，横走する沈線と斜位の沈線が観察できることから，ここで扱った。158 は沈線施文部に強く押さえたところが多くみられ，施文の開始点が集中する。159 は直線と曲線で構成される文様である。160 は口縁部屈曲付近と考えられる破片で，文様は横位の沈線とやや長めの短沈線で構成される。161 は外傾する口縁で口縁部内面から外面に口唇部をくるむように粘土紐飾りが貼付されていたと考えられる。口唇直下に横位の２条の沈線，その下位にわずかに弧状を呈する短沈線が縦位に施される。

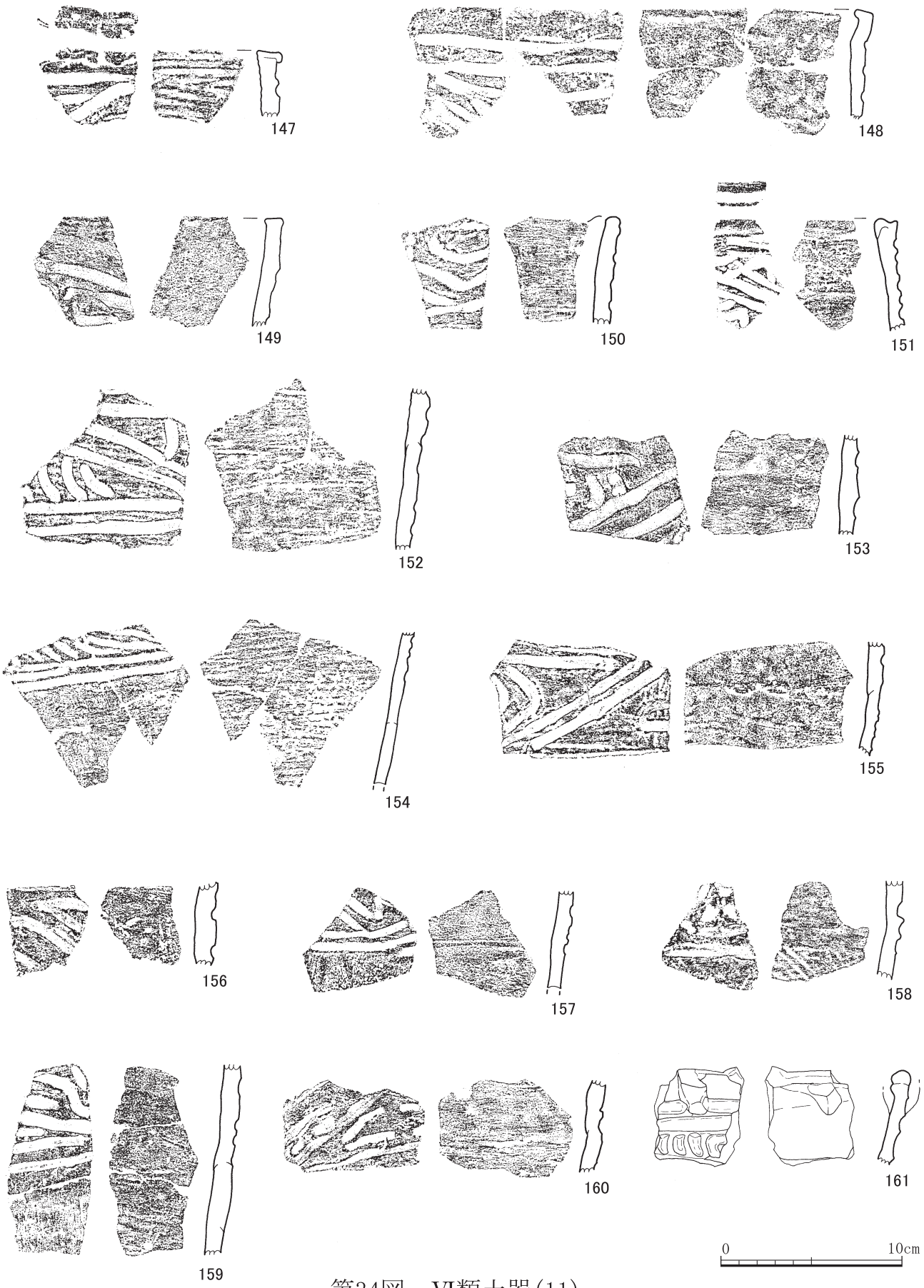
162 ～ 178 はややシャープな沈線で文様を施す深鉢の口縁部，胴部片である。162 は口唇部に棒状工具による刻みを施し，外面には横位，斜位曲線文を組み合わせた文様が横位に展開する。163 は口唇部に棒状工具で内面から外面に力をかけ施したわずかな刻みが巡る。外面には斜位の浅い沈線が描かれる。164 は胴部片でエッジの鈍い沈線で，横位の沈線，２条の併走する沈線で入り組み鉤状文が描かれる。165 は大型の深鉢で胴部片と推測される。浅い沈線で靴形文に類似した文様が描かれる。166 は小片で渦巻き文が施される。167 は肥厚した口縁部に棒状工具で内面から外面に向け力をかけ刻みを施す。刻み時の器壁のつぶれで玉縁口縁状の断面を示す。内面に貝殻条痕が一部残る。168 は口唇部に粘土紐を貼り付けそこに棒状工具による深い刻みを施す。口縁部の粘土接合痕が明瞭に残される。外面には曲線文が観察できる。169 は口唇部が平坦で，外面は曲線文，直線文，弧状文が複雑に組み合わされた文様が施される。170 は胴部片で外面は169 に類似した文様が施される。171 は口唇部が平坦でそこに短沈線が施され，外面には２～３重の矩形文が描かれ，中心には棒状工具の刺突文が充填される。172 ～ 174 は口唇部に沈線が巡る。172 は口唇が厚くなり平坦で，口縁外面には横位の沈線が施される。173 は沈線のためか口唇が内面側に飛び出し突帯状となっている。口縁外面には矩形の沈線文が施される。174 は口縁部内面に指頭圧痕が著しく，そこでわずかに段を有する。口縁外面には横位，曲線の沈線文が施される。175 は口唇部に棒状工具で内面から外面に力を加え大きな刻みを施す，口唇部の粘土積み上げ痕が明瞭に残る。176 は 175 と同様の手法で口唇部に刻みを施す。口縁外面文様は矩形の沈線と思われる。177，178 は胴部片で矩形の沈線が施されている。



第32図　Ⅵ類土器(9)


131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
0
10cm

第33図　Ⅵ類土器(10)


147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
0
10cm

第34図　Ⅵ類土器(11)

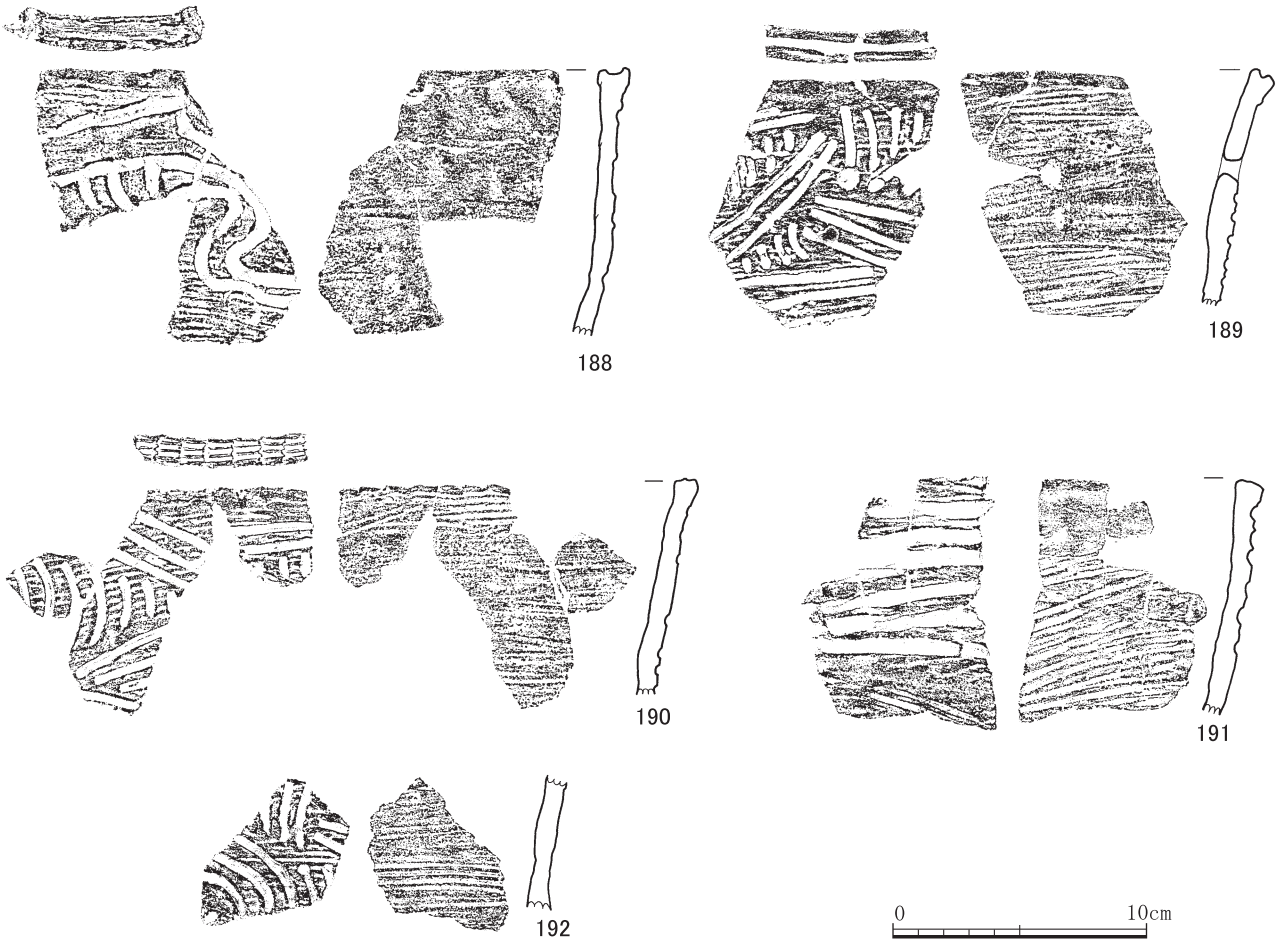
163
162
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
0
10cm

第35図　Ⅵ類土器(12)

第36図　Ⅵ類土器(13)

179 ～ 187 はシャープなエッジをもった深い沈線で文様を施し，棒状工具先端で施した丸い刺突文を主要な文様とする深鉢である。179 は口唇部に四角い突起飾りをもつ，胴部に曲線文と鉤状文を組み合わせた沈線が施され，その間を丸い刺突文で埋める。180 は底部から外反気味に立ち上がり，胴部中位下半からやや内湾気味に口縁へと立ち上がる器形で，口唇部に貝殻腹縁による押し引きの刻みを施す。文様は弧状・斜位の沈線の組み合わせで一部の沈線間に丸い刺突文を施す。内面はナデ調整されるが，底部付近は貝殻条痕が残される。施文範囲は胴部181～183は179と類似する文様が施文される。183 は口唇部に刺突が１か所確認できる。184，185 は口唇部に棒状工具による刻みが施される。184 は大きな波状の刻みで全体に巡ると推定される。185 は平坦な口唇にアクセントとして数か所の刻みが施されるものと想定される。186，187 は胴部片で 179，180 と類似の文様と思われる。

188 ～ 192 はシャープなエッジをもつ沈線で直線文・曲線文が施され，外面に器面調整の貝殻条痕を明瞭に残すものである。188 は平坦な口唇に棒状工具による沈線を巡らせ，口縁外面には併走する２条の沈線がＳ字状に屈曲する沈線文が描かれ，沈線文間に縦位の短沈線が施される。内面は丁寧なナデ調整が施される。189 は口縁部が外傾し，わずかに外反する器形で，口唇部にシャープな沈線が施される。口縁外面には縦位と斜位の沈線を主体にした組み合わせ文が施される。内外ともに貝殻条痕が明瞭である。補修孔と思われる穿孔が外面から内面に向かって穿たれる。190 は 180 と同様な口唇部刻みが

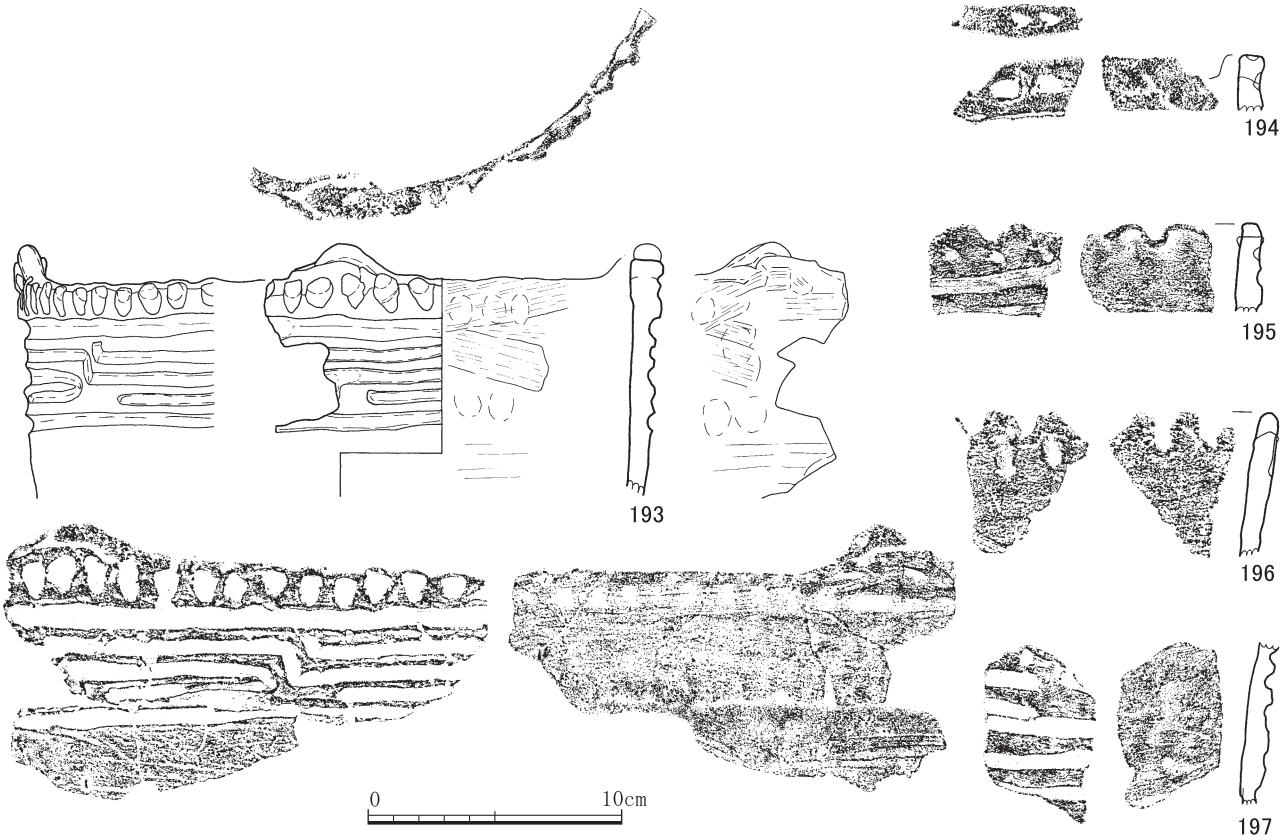


第37図　Ⅵ類土器(14)

施される。横位，斜位，縦位の弧状沈線が組み合わされ施文される。180 と類似するが，沈線幅がより狭く，貝殻条痕の残し具合が異なるため別個体と判断した。191 は口唇部が平坦で口縁外面に横位の沈線が施される。口縁端部内面はナデ調整されるが，口縁下位には貝殻条痕がそのまま残される。192 は胴部片である。胎土・調整・施文などから 190 と同一個体と推測される。

193 ～ 207 は深鉢で，文様が単純化され２条を１施文単位とする文様になる。193 は口唇部にねじり紐状の飾り突起を施し口唇端部に棒状工具による指頭大の連点を巡らす。その下位に深めの沈線を横位に間隔をあけて施文しその間に２条１単位の平行沈線でクランク状の文様を描く。194 ～ 196 は口唇端部に棒状工具による刺突連点文が巡る。194 は口唇部にも同様の手法で刺突が行われる，飾り突起部である。195 は口唇部に棒状工具により刻みを施し，口唇直下にも同様の工具で刺突を施す。刺突文の下位には横位の沈線が２条確認できる。196 は口唇部に棒状工具で内面から外面に向け力を加え，刻みを施す。外面に短沈線状の凹点が施される。197 は胴部片で施文単位が２条１単位であると判断してここに掲載した。198 は内湾気味に外傾する口縁で，口唇部に緩やかな山状突起が施され，口縁下位に２条の併走する沈線文が横位に巡る。口唇端部直下から沈線文間に２～３段の棒状突起による刺突が密に行われる。199 は口縁部に巡る沈線から，枝分かれした沈線が平行し鉤状文となる。200 は直線文と鉤状文の組み合わせである。口唇部に斜位の刻みが施される。201 ～ 204 は鉤状文，もしくは横走沈線のみが確認できる資料のためここに掲載した。いずれも平坦口唇である。204 は口唇部に浅い刻みを施す。205 は口縁部やや下位に併走する２条の沈線で弧状文，斜位の沈線文が施される。口唇部は玉縁状に肥厚させ棒状工具により内外面から力を加え刻みを施す。さらに口唇山部に口縁と平行な刻みを行う。206，207 は胴部片で浅い沈線で鉤状文が描かれる。

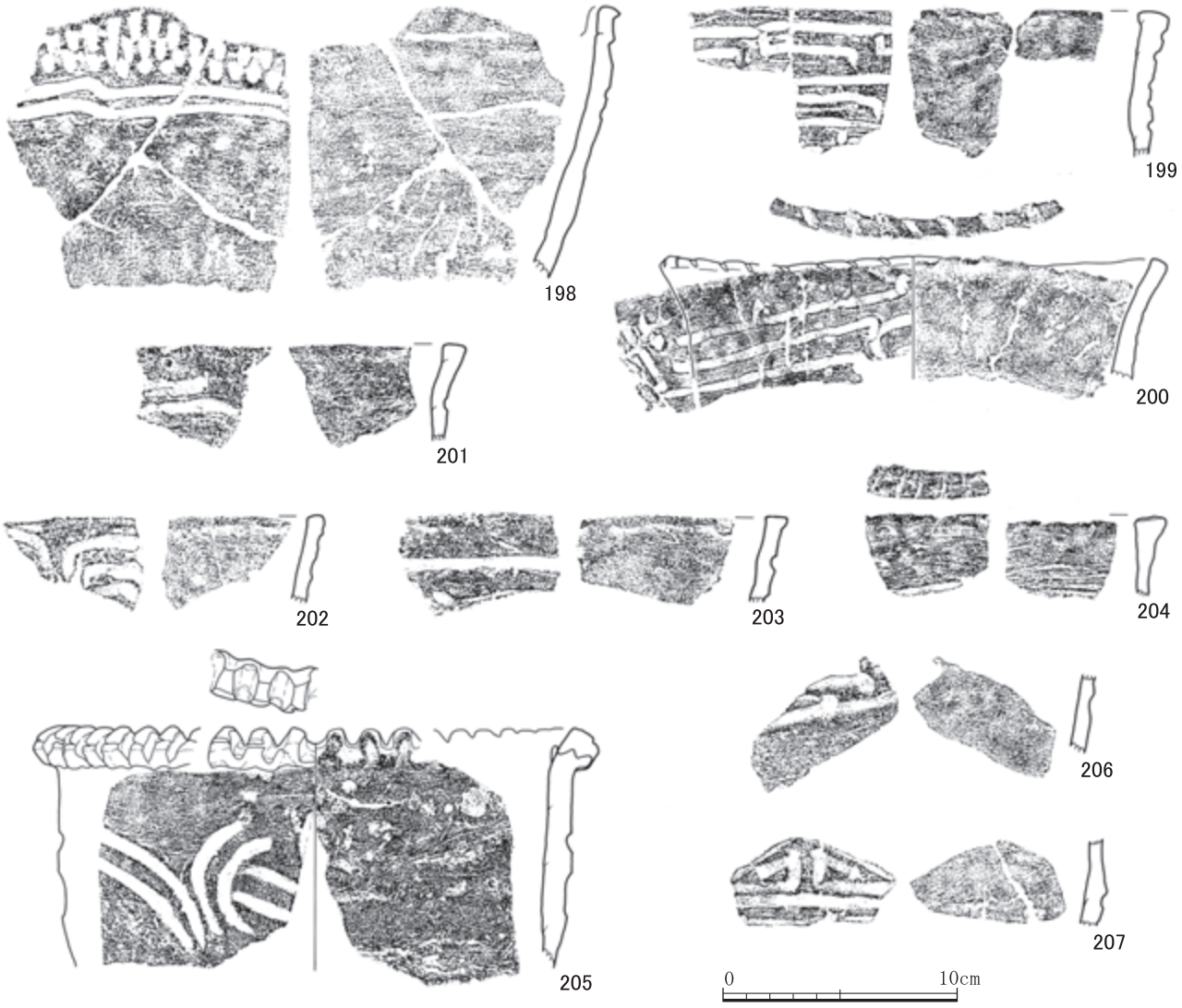
208 ～ 277 は小区分でいずれに属するか判断できなかったもので口唇に刻みを施すものや飾り突起，粘土紐貼り付けなどを行うものを一括した。208 は口唇部粘土貼り付けにより飾り突起を作出し，そこを３分割以上にするものと考えられる。外面には細めの浅い凹線文が描かれる。209 は口唇部にねじり紐状の飾り突起を貼付する。



第38図　Ⅵ類土器(15)

外面には浅く細めの凹線文が描かれる。210 はやや肥厚する口縁端部内外面にかけて広幅の粘土帯をO形に貼付し飾りとする。211，212 は口唇部に粘土紐を蛇行させ貼付し飾りとするか，もしくは巡らせるもので，いずれも粘土紐上に篦状工具先端で刺突を施す。外面には横走する沈線が施される。213 は口唇突起部分に両側含め４か所の刻みで３分割する。外面には曲線文，鉤形文などの沈線が描かれる。拓本からもわかるとおり口唇部が弧状を呈していることから皿，蓋の可能性も考えられる。214 はねじり紐状飾り突起が一部残る。外面には曲線文と斜位の直線文が確認できる。215 は角形の突起を分割したものの一部と思われる。突起状に浅い刻み，外面には横位の沈線が施される。216 は口唇部が肥厚し平坦面を有する。口唇部に楕円形に粘土紐を貼付し，そこに貝殻腹縁による刺突を施す。外面には横位の沈線が施される。217 は口縁端部内面から外面に向けU字に粘土紐を貼付する。218 は逆に外面から内面に向かってU字に粘土紐を貼付していたと推測される。外面にはともに横位の沈線文が施される。219 ～ 224 は口唇部に刻みを施すもので 219，220 は棒状工具により浅い刻みが施される。221 ～ 224 は口縁端部内面から外面に向けて力を加え刻みを施す。221 は刻みが緩く刻み部の断面形状が山形を呈する。222 は肥厚する口唇部に力を加え刻みを施すため口唇が歪んでしまっている。223 は口唇を玉縁状にし，そこに内側から外側に向かって力を加え刻みを施す。224 は手指により刻みを施していると思われ非常に大振りで大胆な刻みとなっている。225 は口縁部を内側に肥厚させ，内面に稜を有する。口唇下位内面に竹管状工具による刺突と刺突から始まる沈線が施される。226 は口縁端部で逆L字状に折れ曲がる。内面に稜を有し，口唇と稜の間には沈線が巡り，貝殻腹縁刺突が施される。227 は口唇は平坦で外傾する口縁部で，口唇直下に細い沈線による区画が施され，区画内に細い工具による連続刺突が施される。

228 ～ 269 は無文の土器である 228 ～ 248 は口唇部に刻み，刺突を施すものである。228 ～ 232 は口唇部が肥厚する器形で 228 は口唇部に篦状工具により密な刻みが施される。229 ～ 232 は口唇部に指頭よる凹点を巡らす。230 は多量の煤が外面に付着しており年代測定の結果（2408calBC ― 2335calBC）の年代を得た。233 は口唇に棒状工具による刺突を巡らす。234 は口唇に棒状工具によるごく浅い凹点が巡る。235 は口唇に貝殻腹縁による刺突が巡る。236 は口唇に棒状工具先端による丸い刺突が巡る。また外側からの衝撃による穿孔が口縁下位にみられるが，人為的なものかアクシデントによるものかは判然としない。237 は口唇を内側から外側に摘んだよ



第39図　Ⅵ類土器(16)

うな傾斜をもった緩い刻みが巡る。238 ～ 240 は口唇部に棒状工具を押しつけ刻みを施す。238，239 は浅い刻み，240 は深い刻みとなる。241 ～ 243 は口唇に内面から外面に向け力を加え刻みを行う。241 は年代測定の結果（2564calBC － 2533calBC）の年代を得ている。244 は内面側からと外面側からの２方向から力を加え刻みを行う。245 ～ 248 は棒状工具を口唇上面から押しつけるようにして刻みを行う。

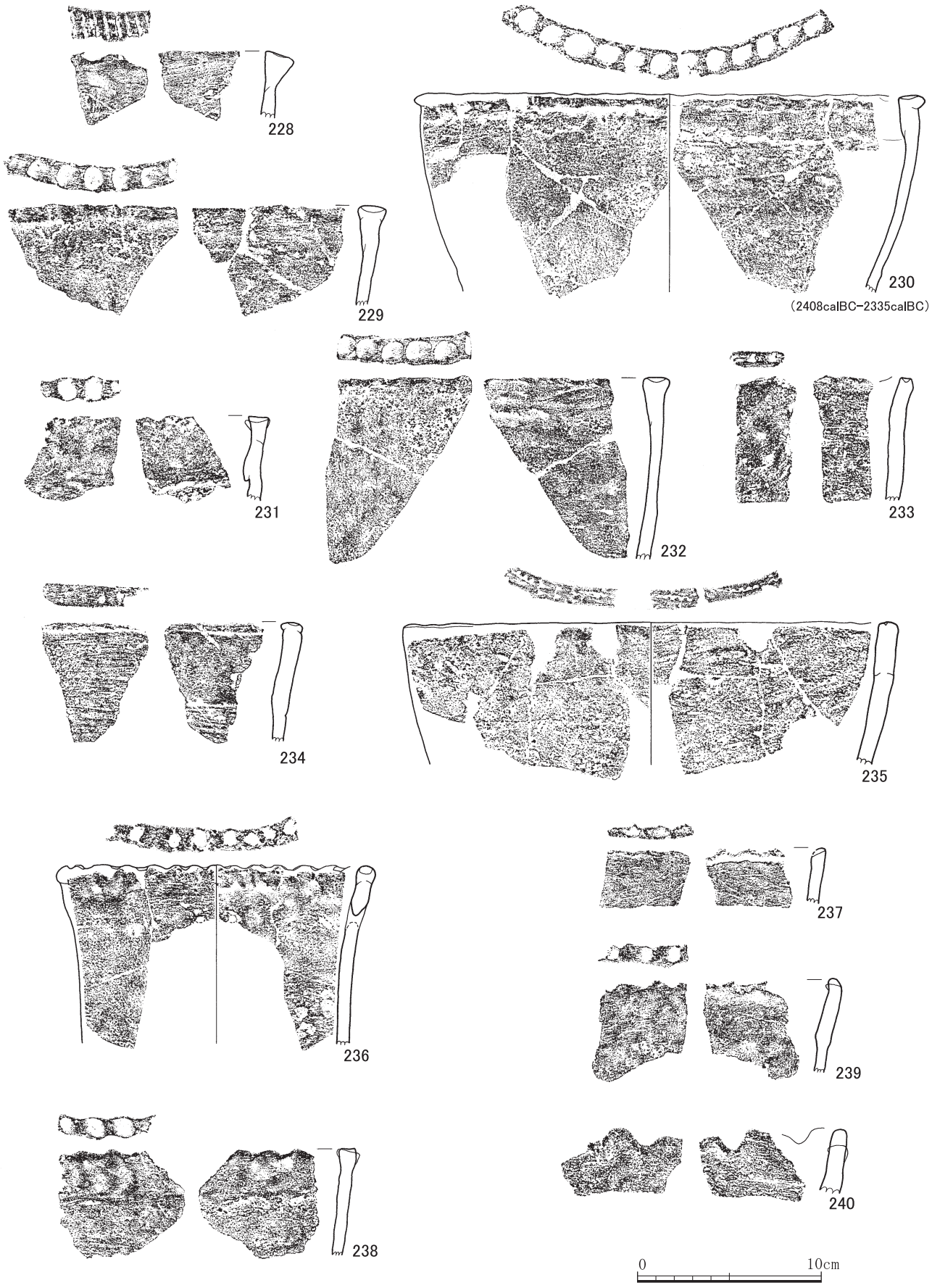
249 ～ 257 は平縁口縁の深鉢である。258，259 は器壁が薄手の波状口縁を呈する口縁部片である。258 は口唇端部に凹点を施す。260 は器壁の薄い小型の鉢形になると推測されるものである。261 ～ 266 は厚手の器壁の波状口縁を呈する深鉢である。４か所程度の波頂部が想定される。264 は口縁部に歪みがみられるため，波状口縁になると想定し，ここに掲載した。267 ～ 269 は補修孔をもつ胴部片である。いずれも外面からの穿孔が行われる。

Ⅶ類

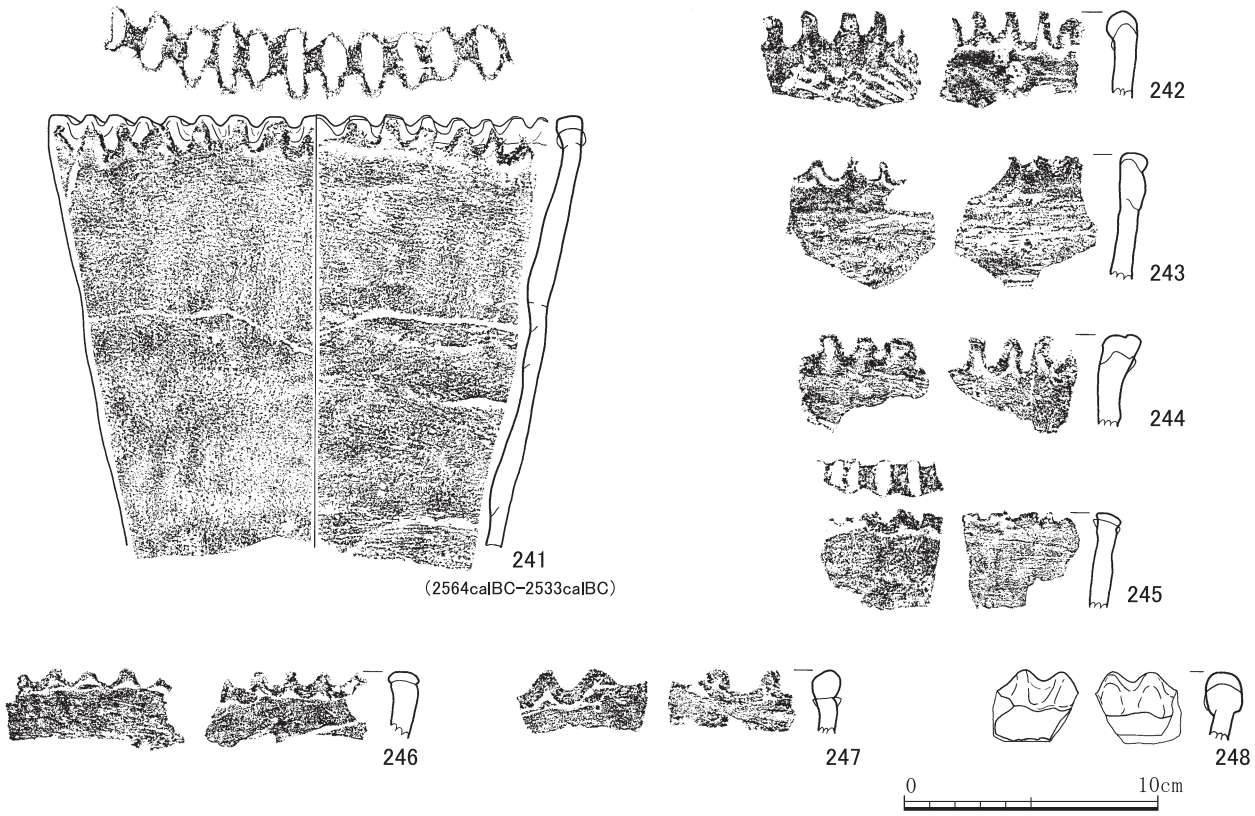
総点数19点出土し，17 点を図化した。270 ～ 284，286 は直口する口縁部片である。270 は口縁部をわずかに肥厚させる。肥厚部に縦位の弧状，逆Ｓ字状，Ｓ字状の浅い凹線が施される。口唇部には棒状工具による刻みが施される。271 は口縁部内側に粘土を貼り付け肥厚させる。肥厚部には円形の浅い凹線，その両側にシンメトリーに弧状の凹線が描かれると思われる。272 は口縁部に浅い弧状の凹線が施される。273 は口縁部をわずかに肥厚させ，肥厚部に縦位のやや太めの短沈線文を連続して施す。口唇部は棒状工具により刻みが施される。274 は口唇部直下に接合痕が残り，口唇は平坦に仕上げられる。口縁部には 273 同様，短沈線が連続して施される。276 は口縁部が平坦で口縁肥厚部は認められない。口縁部に凹部に筋条痕が残る沈線が基本縦位に施される。277 は口唇

208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
0
10cm

第40図　Ⅵ類土器(17)



第41図　VI類土器(18)



第42図　Ⅵ類土器(19)

部は平坦で口縁外面は凹線か指頭圧痕か不明であるが斜位の凹みが観察できる。内面には貝殻条痕が残される。278，279は口唇部を欠く口縁部片で，278は刻みの深いやや太形の沈線が縦位に施される。279は口縁部をわずかに肥厚させ底にやや細めの凹線が縦位に施される。280は口唇部が平坦で口縁部はわずかに肥厚する。肥厚部には斜位の沈線が組み合わさり，綾杉状に施されると思われる。281は平坦な口唇部に棒状工具による刻みと，口唇に沿う短沈線が施される。外面には斜位の沈線が施され厚部に斜位の沈線を巡らす。285は口縁端部で外反する器形で口唇部は平坦に仕上げる。口縁やや下位に粘土紐の貼り付けにより肥厚帯を作出し，そこに凹点状の刻みを施す。口縁外面には横位から斜位の沈線が施される。282は口唇端部が突帯状に肥厚し，口唇には棒状工具による刻みが施される。口唇端部の肥厚部から下位に縦位の短沈線が巡る。283は平坦な口縁に棒状工具による刻みを施し，その下位に斜位の太めの沈線文が施される。284は口唇部を欠く口縁部片で口縁を肥厚させる。286は，口縁部をわずかに肥厚させる。平坦な口縁に指頭による刻みを施し，外面には棒状工具による斜位の沈線，肥厚帯端部には同じく刻みが施される。

底部

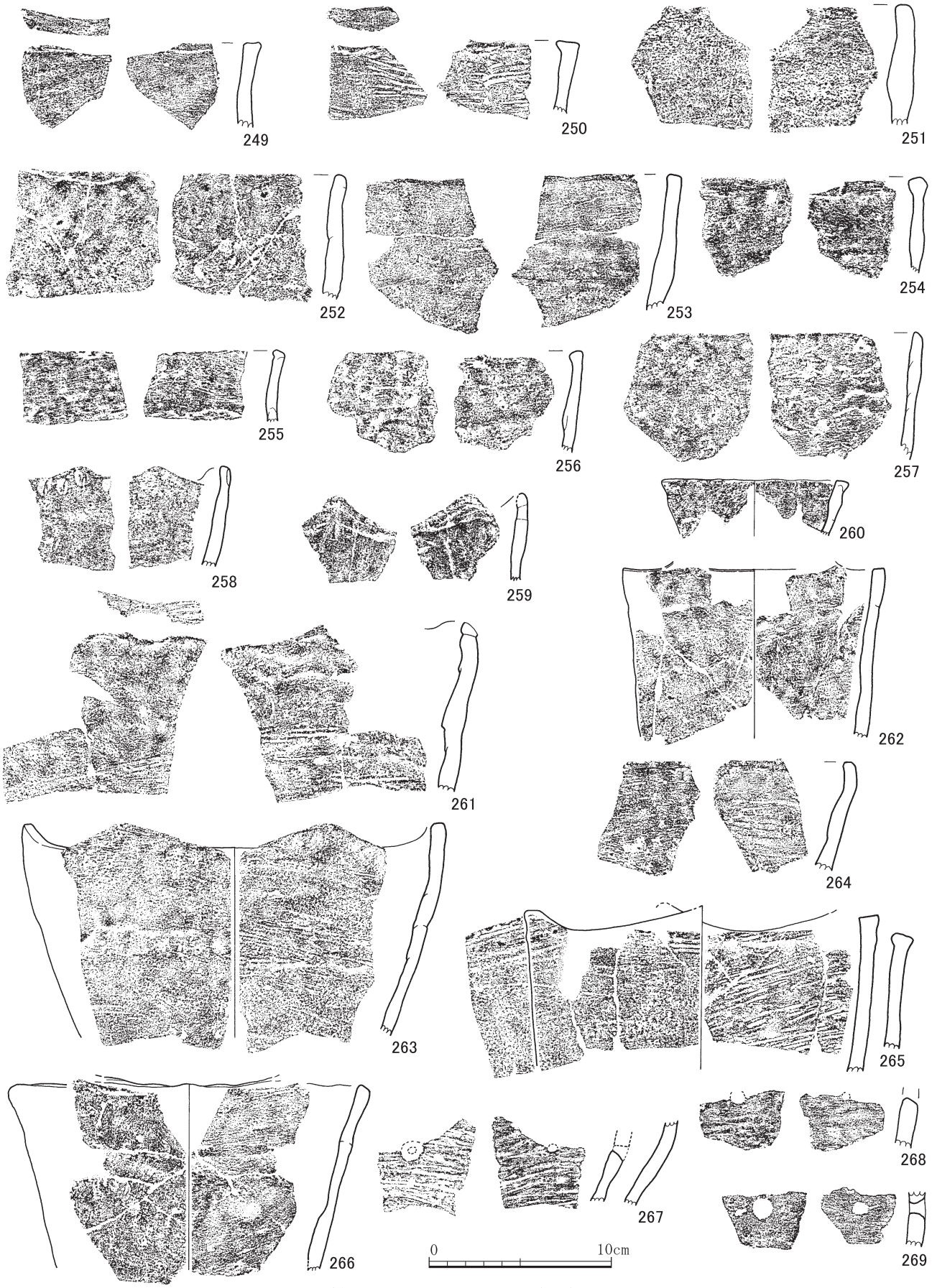
総数292点出土した内71点を図化した。327，330～356は底面に組織痕が残る資料である。287～306は底部底盤があまり張らず，そのまま胴部下位の張り出しへと移行する器形である。288は内面に種子圧痕が残り，分析の結果豆科植物の種子と判明した。307～318は底部底盤付近が外側に張り出し踏ん張るような断面形態を呈す。319～329は外面に沈線や，貝殻条痕を残す資料である。319～321は底部まで縦位の沈線が及んでいる。いずれも小型の鉢形土器と推定される。322～329は内外面のナデ調整が不十分で貝殻条痕が残存するものである。

327，330～341は底部底盤があまり張らずそのまま胴部へと張り出していく器形で底面に組織痕を有する資料である。327，330～333，335，337，339，340は模様編みの網代底で，334，336，341はスタンプが不明瞭で判別できなかった。338は一部しか残存しないため，断定はできないが，綾編みの網代底と思われる。342は底部端部に刻みが施され，340と類似することからここに掲載した。

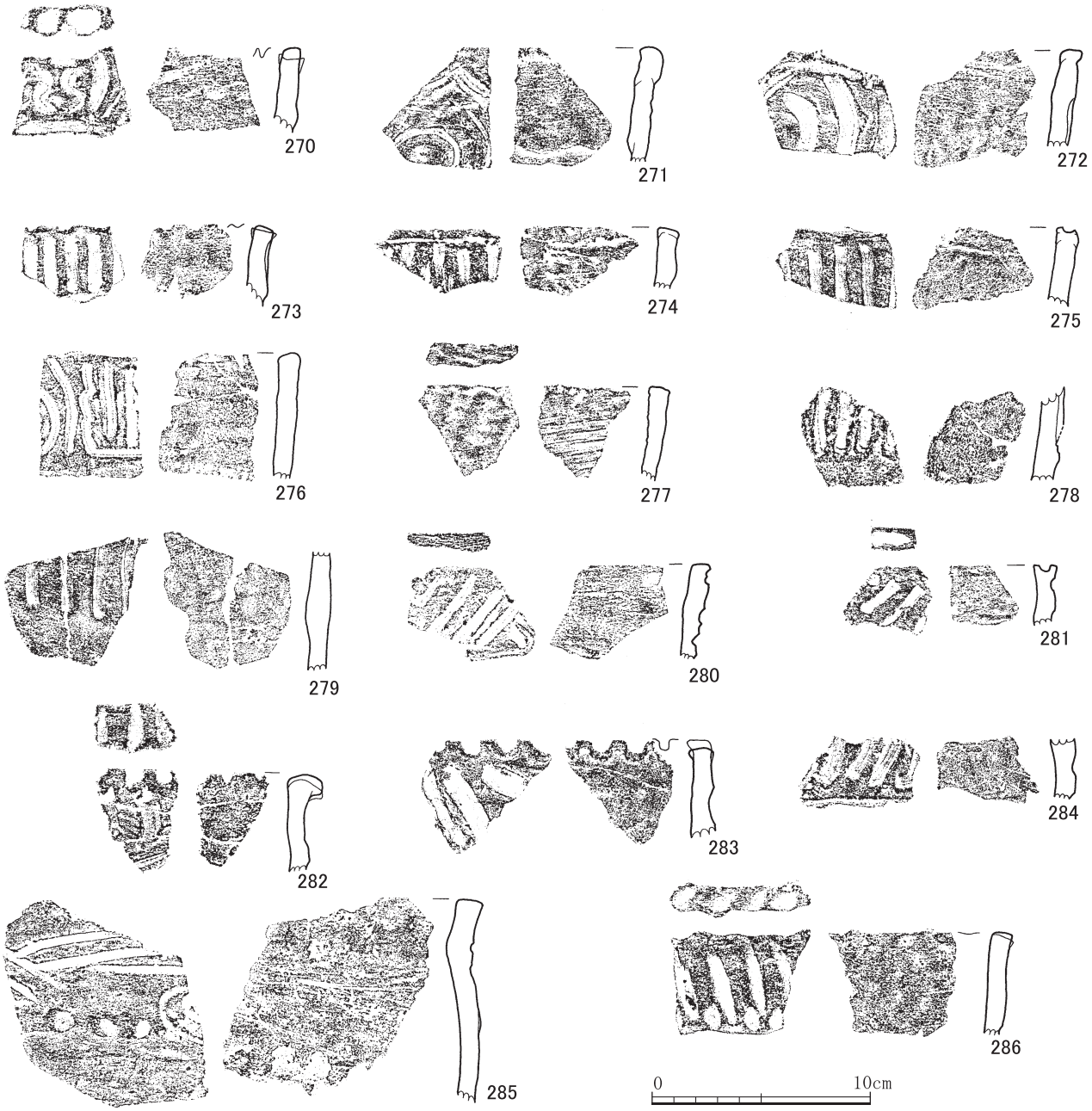
343～356は底部底盤付近が張り出し踏ん張るような断面形態を呈し，底面に組織痕を残す資料である。

343～346は模様編みの網代底，350は大形の木葉痕が残される。その他については何らかの組織痕が残存すると思われるが，ナデ調整等で消失しており，肉眼観察での判別はできなかった。

357は底径が4cm程度と小さく上げ底を呈する。


249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
0
10cm

第43図　Ⅵ類土器(20)



第44図　Ⅶ類土器

円盤状土製品

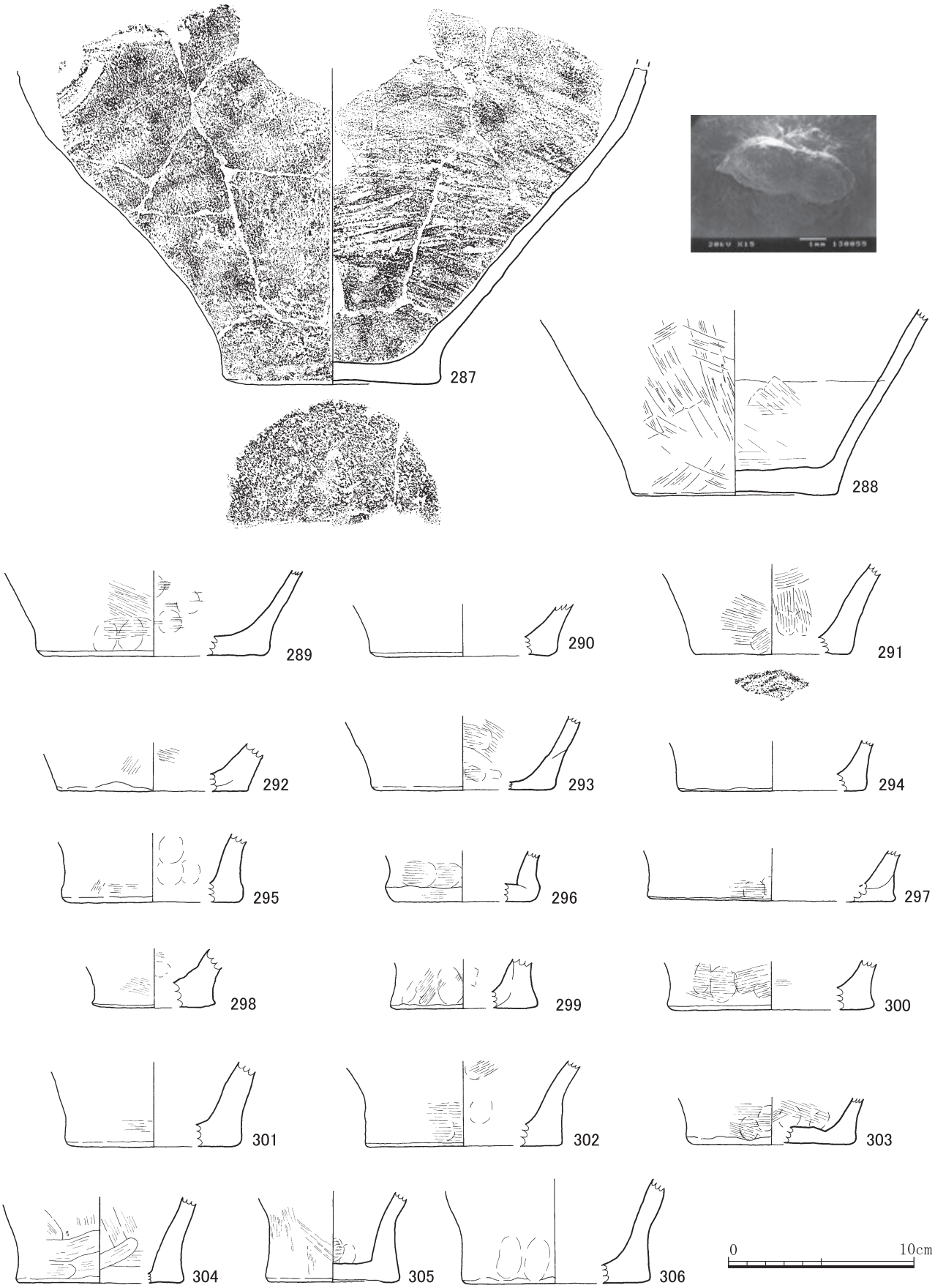
総数７点出土し７点を図化した。358～364 は土器片周縁部を打ち欠き円盤状に仕上げた製品である。358 はⅥ類土器の再生品で器面に沈線文，竹管状工具先端による刺突文が確認できる。359 はⅣ類土器口縁部の再生品と考えられる。粘土紐を渦巻き状に貼り付け，そこに棒状工具による連続刺突が施される。360～364 は底部片の再生品である。いずれも組織痕を伴う底部片と思われるが，362 が網代底である以外は判然としない。

Ⅷ類

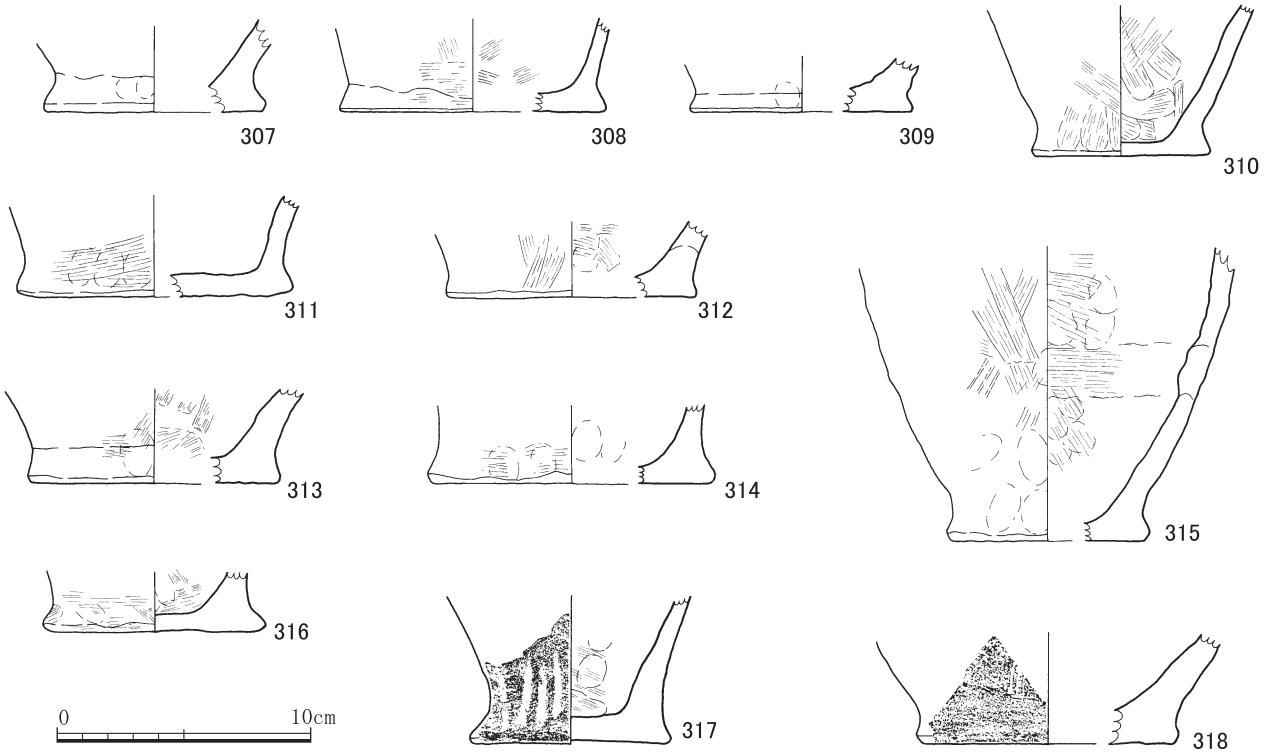
総点数１点を出土し１点を図化した。365 は胴部片で胴部でくの字に屈曲し，屈曲部上位は内傾し，外反しながら立ち上がる器形を呈する外面は丁寧なナデ調整を行い，一部にミガキ痕も観察できる。内面も丁寧なナデ調整が行われるがミガキは行われない。

Ⅸ類

Ⅸ類は２点のみの出土であった。366 は口唇部がやや長めの玉縁状で器壁は薄く鉢形を呈すると思われる口縁部片である。内・外面ともに丁寧なナデ調整が行われ，内面には横位のミガキ痕が残される。367 は精製の浅鉢の口縁で，内・外面ともに入念なミガキ調整が施される。口縁部は大きく外反し，口唇部直下を沈線で締め，口唇


287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
0
10cm

第45図　底部(1)



第46図　底部(2)

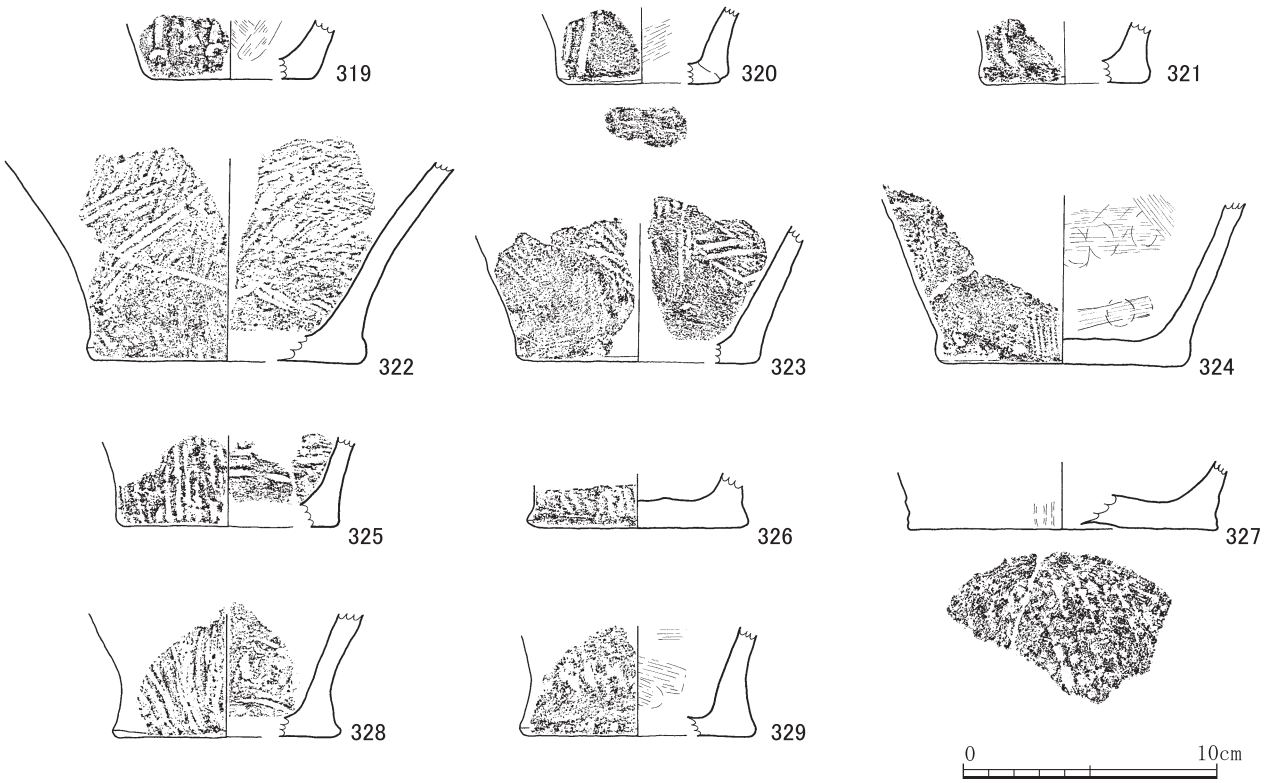
は玉縁状となる。

X類

総点数26点出土し，内６点を図化した。368 ～ 370 は外傾する口縁で，外面は荒いナデ調整を施す。368 は内面を入念なミガキ調整で仕上げる。369 は外面と比較すると丁寧なナデ調整が行われる。370 内面にはわずかにミガキ痕跡が確認できる。371 ～ 373 は組織痕を伴う浅鉢土器で，371 は内湾気味に緩やかに立ち上がる胴部から口縁部でくの字に屈曲し直口する。口縁端部がわずかに肥厚する。屈曲下位外面には網代底平編みの痕跡が明瞭に残され，内面はミガキ調整により仕上げている。372 は 371 同様の圧痕をもつ胴部片で内面は入念なミガキ調整がほどこされる。373 は外面にもじり網み圧痕が残る胴部片である。

XI 類

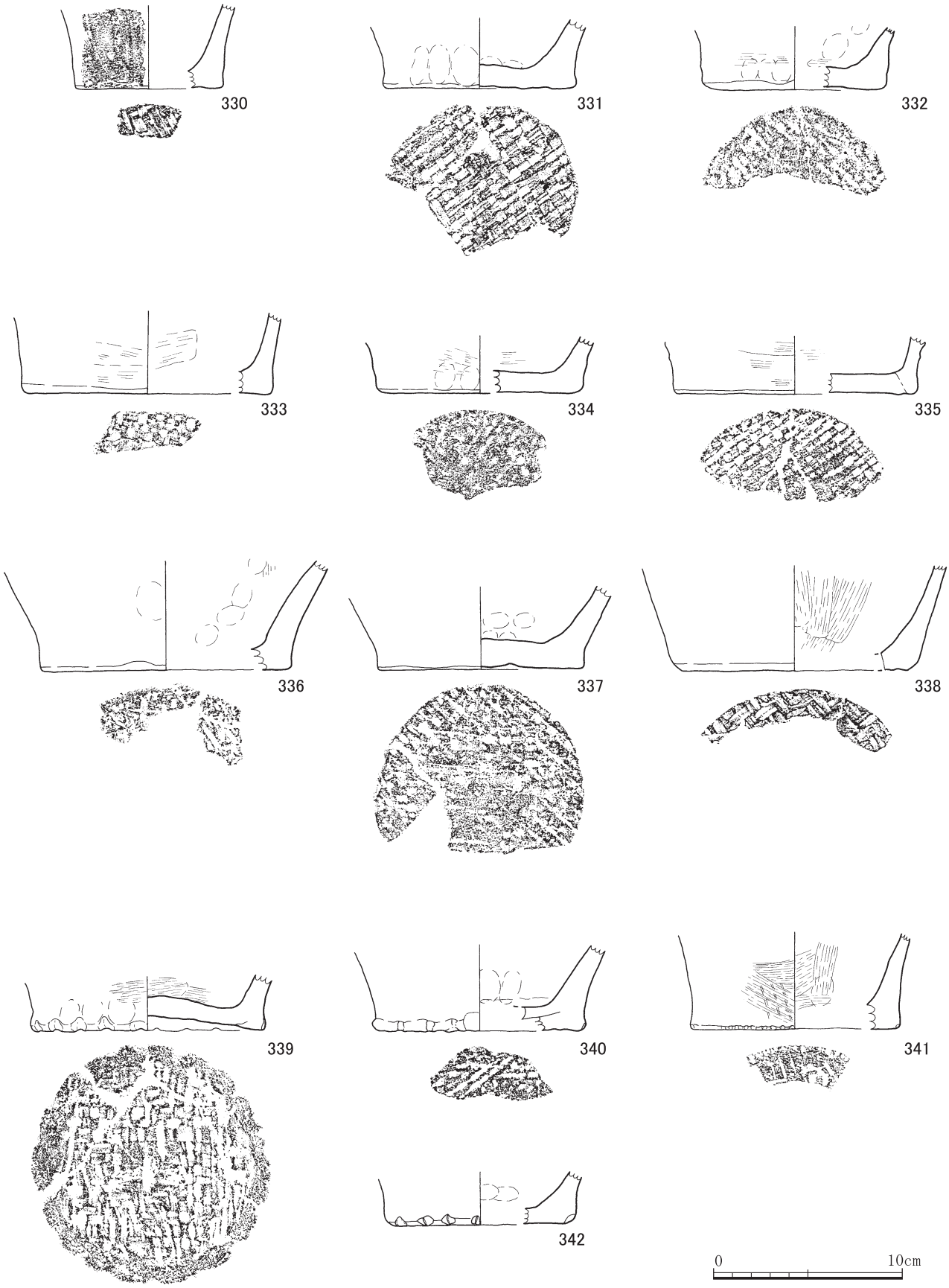
２点のみの出土である。374，375 は胴部下半と思われ，外傾し，わずかに外反しながら立ち上がる。器壁は薄く内・外面ともに入念なナデ調整が施される。



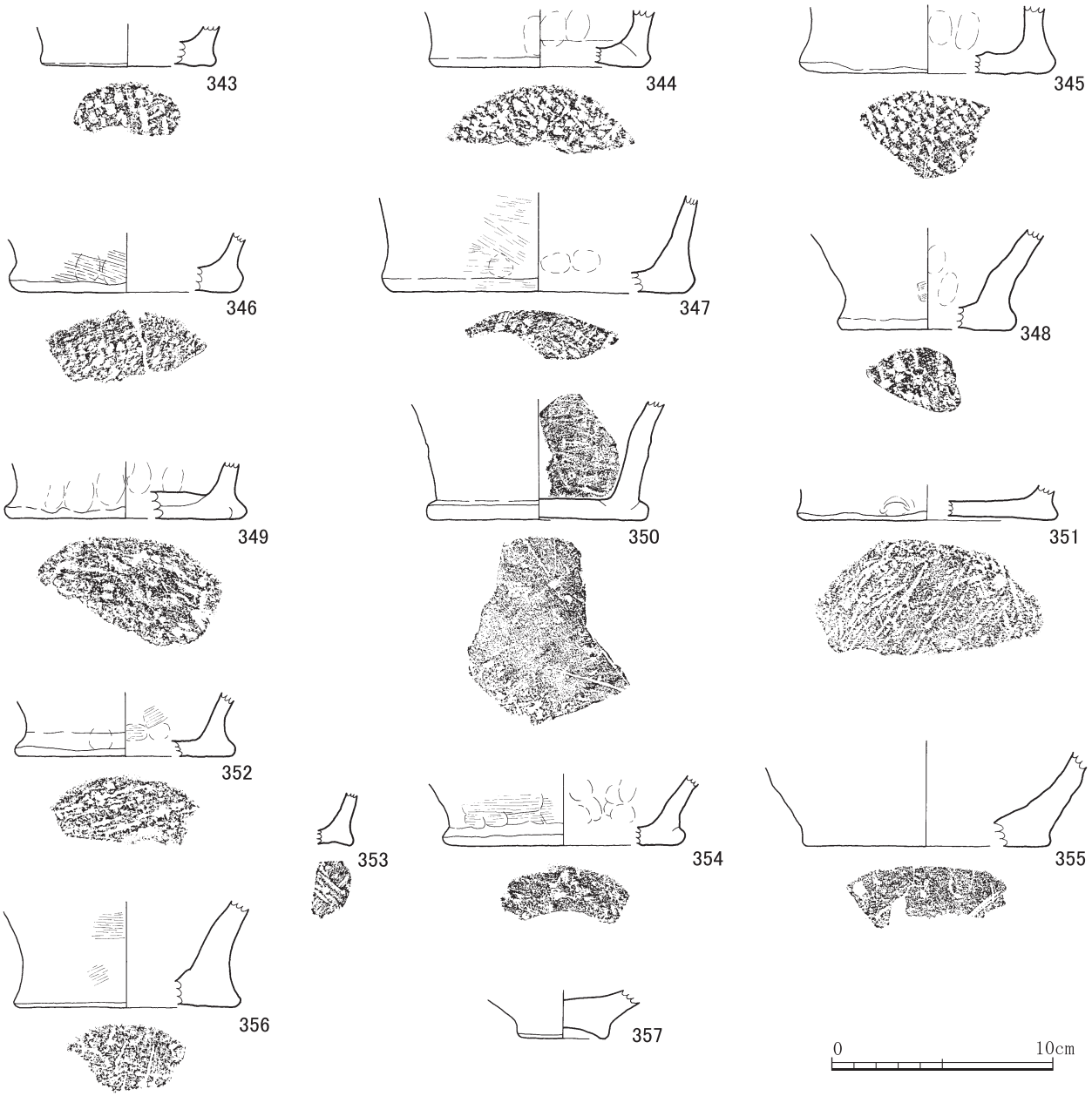
第47図　底部(3)

表3　縄文時代遺構内土器観察表

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	部位	類別	口径・底径	器高	文様・調整(外/内) 文様	文様・調整(外/内) 調整	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 カクセン	胎土 その他	焼成
14	10	SH4－31	B－28	－	深鉢	胴部	Ⅲ	－	－	刺突文	外：ナデ 内：工具ナデ	10YR5/3 (にぶい黄褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○			滑石	良好
	11	SH4－35	B－28	－	深鉢	胴部	Ⅴ	－	－	貝殻腹縁刺突文	外：貝殻条痕のちナデ 内：貝殻条痕のちナデ	5YR3/4 (暗赤褐)	5YR3/4 (暗赤褐)	○		○	砂粒	良好
	12	SH4－61	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	貝点文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR6/4 (にぶい橙)	○	○		砂粒	良好
	13	SH4－一括	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	貝点文	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○		○	砂粒	良好
	14	SH4－一括	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	縄めの沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR5/4 (にぶい褐)	○		○	砂粒	良好
	15	SH4－一括	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	羽状文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○		○	砂粒	良好
	16	SH4－01	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	羽状文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	5YR4/6 (赤褐)	○			砂粒	良好
	17	SH4－一括	B－28	－	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	羽状文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR7/6 (橙)	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○			砂粒	良好
	18	SH4－一括	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	大めの沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：指頭圧痕のちナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
	19	SH4－11	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
	20	SH4－一括	B－28	－	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	5YR3/4 (暗赤褐)	5YR3/4 (暗赤褐)	○		○	砂粒	良好
	21	SH4－一括	B－28	－	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○	○	○	砂粒	良好
	22	SH4－83	B－28	－	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	2.5YR4/6 (赤褐)	○	○	○	砂粒	良好
	23	SH4－60	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：条痕 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
		土坑2－一括	H－34	－														
	24	SH4－一括	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/3 (褐)	○			砂粒	良好
	25	SH4－21	B－28	－	深鉢	口縁	Ⅴ	(33.8)	(21.7)	口縁に貝殻腹縁による押し引き文	外：条痕のちナデ 内：条痕	7.5YR6/4 (にぶい橙)	7.5YR6/6 (橙)	○	○			良好
		SH4－22	B－28	－														
		SH4－23	B－28	－														
		SH4－42	B－28	－														
		SH4－67	B－28	－														
		1653	B－28	Ⅳ b														
		1348	B－28	Ⅳ a														
		1671	B－28	Ⅳ b														
15	26	SH4－41	B－28	－	深鉢	底部	－	(6.5)	(1.8)	－	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○		○	砂粒	良好
	27	SH4－39	B－28	－	深鉢	底部	－	(10.0)	(2.5)	－	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○		砂粒	良好
	28	SH4－一括	B－28	－	深鉢	底部	－	(7.6)	(3.0)	－	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○	○	砂粒	良好
	29	SH4－一括	B－28	－	深鉢	底部	－	(7.7)	(3.1)	－	外：ナデ 内：ナデ	5YR5/6 (明赤褐)	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○	○		砂粒	良好
	30	SH4－一括	B－28	－	深鉢	底部	－	(10.8)	(5.6)	－	外：条痕のちナデ 内：工具ナデのちナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	2.5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
17	31	土坑2－1	H－34	－	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	5YR4/6 (赤褐)	○			砂粒	良好
	32	土坑2－2	H－34	－	深鉢	口縁	－	－	－	沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR5/6 (明褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○		○	砂粒	良好



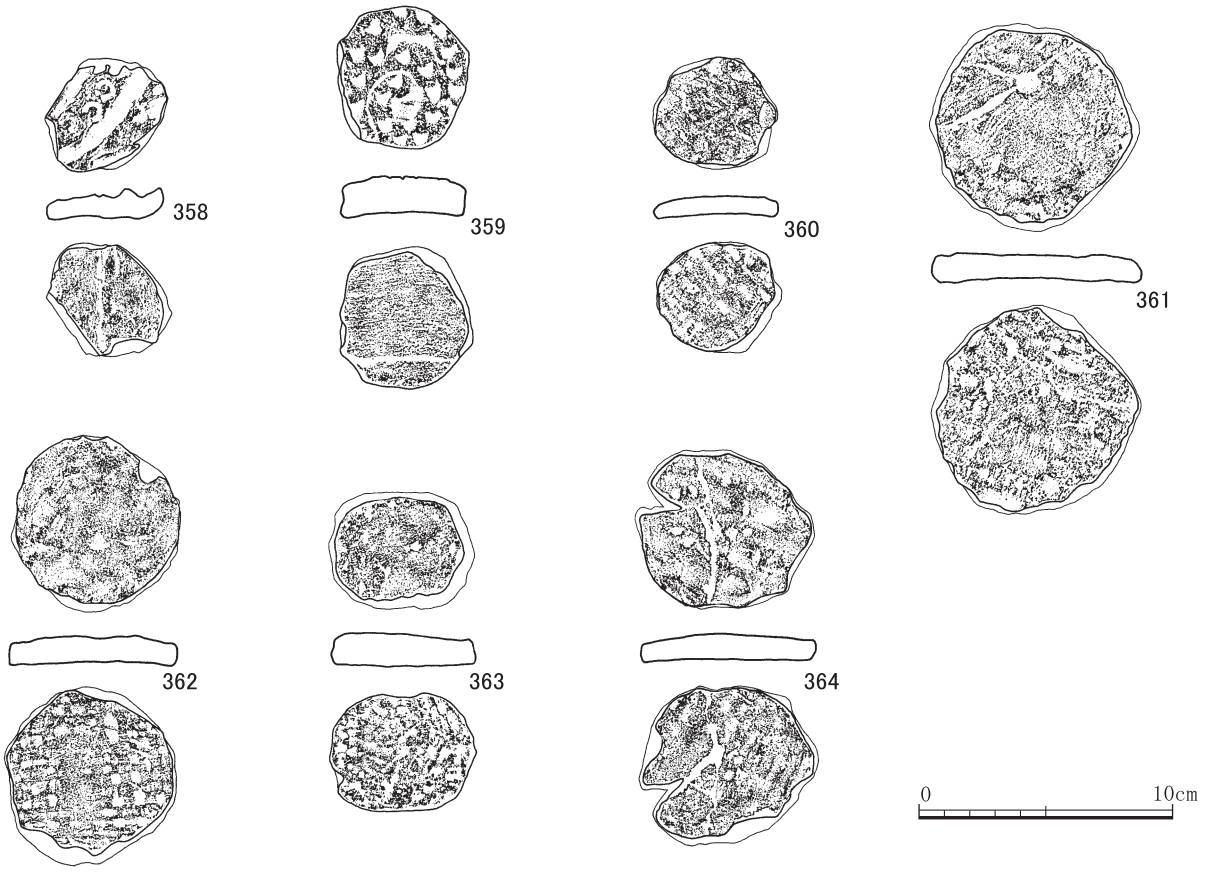
第48図　底部(4)



第49図　底部(5)

表4　縄文時代遺構内石器観察表

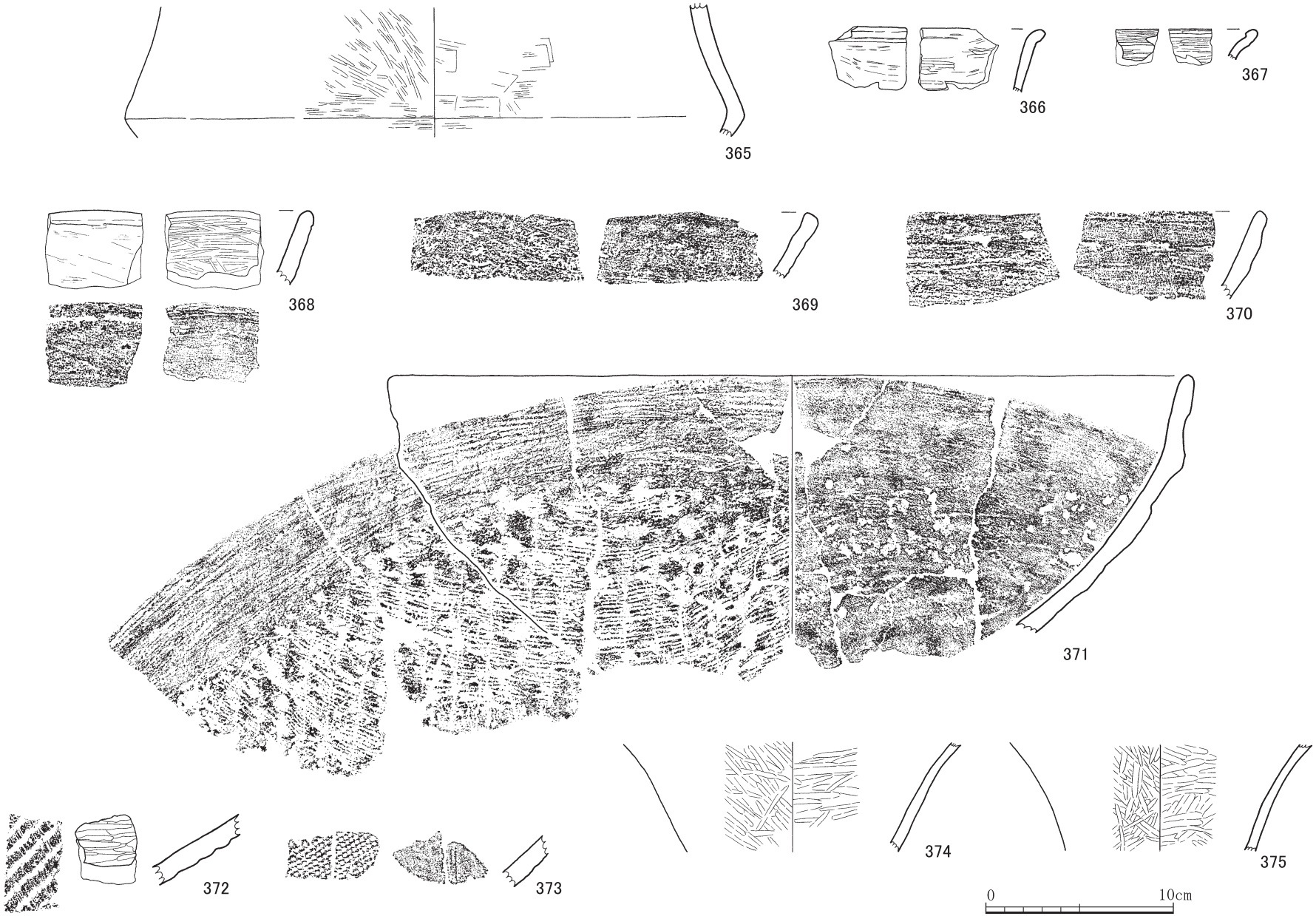
挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	石材	計測値				備考
							長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	
17	33	土坑3−2	B − 34	V層上面検出	磨・敲石	砂岩	123.0	108.5	49.0	1065.00	−
	34	土坑3−4	B − 34	V層上面検出	軽石製品	軽石	254.0	216.5	65.5	1665.00	−
18	35	土坑3−3	B − 34	V層上面検出	石皿	凝灰岩	236.0	289.0	108.0	10400.00	−



第50図　円盤状土製品

表5　縄文時代土器観察表(1)

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	部位	類別	口径・底径	器高	文様・調整(外/内) 文様	調整	色調 外面	内面	胎土 石英	長石	カクセン	その他	焼成
21	36	2101	C－25	Ⅶ	深鉢	口縁	Ⅰ	(19.0)	(5.8)	口縁部に貝殻腹縁刻み	外：貝殻条痕 内：ナデ	7.5YR6/6 (橙)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○		赤色粒	良好
		2105	C－25	Ⅶ														
	37	2097	C－25	Ⅶ	深鉢	口縁	Ⅰ	(18.6)	(8.9)	口縁部に貝殻腹縁刻み	外：貝殻条痕 内：ナデ	10YR7/6 (明黄褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○		赤色粒	良好
		2110	C－25	Ⅶ														
	38	2109	C－25	Ⅶ	深鉢	口縁	Ⅰ	－	－	口縁部に貝殻腹縁刻み	外：貝殻条痕 内：ナデ	5YR6/6 (橙)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○		赤色粒	良好
	39	2146	B－32	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅱ	－	－	押し型文	外：ナデのち施文 内：条痕のちナデ	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	○		○	砂粒	良好
22	40	SH5-1	A－30	－	深鉢	口縁	Ⅲ	－	－	二叉状工具による押引文	外：ナデ 内：ナデ	5YR7/4 (にぶい橙)	5YR7/4 (にぶい橙)	○		○	滑石	良好
		SH5-一括	A－30	－														
	41	3151	B－28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅲ	－	－	貝殻腹縁刺突文，田点文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/2 (灰黄褐)	○			砂粒	良好
	42	1055	B－26	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅲ	－	－	田線文，二叉状工具による刺突文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR3/2 (暗赤褐)	2.5Y3/1 (黒褐)	○			滑石輝石，砂粒	良好
	43	一括	B－29	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅲ	－	－	田線文，二叉状工具による刺突文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR6/3 (にぶい黄橙)	10YR6/3 (にぶい黄橙)	○			滑石	良好
	44	一括	B－29	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅲ	－	－	刺突文	外：ナデ 内：工具ナデ	7.5YR4/1 (褐灰)	7.5YR5/3 (にぶい褐)	○			滑石，砂粒	良好
	45	228	B－34	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅲ	－	－	沈線文の中に刺突文， 二叉状工具による押し引き文	外：ナデ 内：ナデ	2.5YR5/6 (明赤褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○			滑石，砂粒	良好
	46	213	B－34	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅲ	－	－	沈線文，二叉状工具による押し引き文	外：工具ナデ，ナデ 内：ナデ	5YR3/6 (暗赤褐)	2.5YR6/6 (橙)	○			滑石，砂粒	良好
	47	2213	A－31	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅳ	－	－	－	外：条痕のちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR4/3 (にぶい黄褐)	10YR4/3 (にぶい黄褐)	○	○		白色粒	良好
		2217	A－31	Ⅳ a														
	48	1453	B－28	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅳ	－	－	刻み目刺突文，目殻状痕	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR5/4 (にぶい褐)	7.5YR5/4 (にぶい褐)	○			砂粒	良好
	49	2761	B－27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅳ	－	－	口縁付近に沈線文， 粘土紐貼り付けに刺突文	外：工具ナデ 内：工具ナデ	10YR3/2 (黒褐)	10YR3/2 (黒褐)	○			白色粒，砂粒	良好
	50	一括	B－26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅳ	－	－	粘土紐貼り上に貝殻腹縁刺突文	外：条痕 内：条痕のちナデ	10YR5/1 (黒褐)	10YR5/6 (黄褐)	○			砂粒	良好
	51	314	A－33	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	－	外：ナデ 内：条痕	7.5YR3/1 (黒褐)	10YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
	52	2253	B－30	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	口縁肥厚部に棒状工具による刻み， 及び貝殻腹縁による刺突文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○		白色粒	良好
	53	2153	B－32	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	貝殻刺突文	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
	54	一括	A－30	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	口縁部に沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○	○		良好
	55	2135	B－31	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅴ	－	－	上部に貝殻腹縁刺突文， 粘土紐貼り付けの段差部に田点文（刻み）	外：工具ナデ 内：工具ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/2 (灰黄褐)	○	○		白色粒，砂粒	良好
		2166	A－32	Ⅳ a														
	56	2800	B－28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	貝殻腹縁刺突文，棒状工具刺突文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/1 (褐灰)	○			砂粒	良好
	57	2310	A－32	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	貝殻刺突文	外：工具ナデのちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/3 (褐)	10YR3/1 (黒褐)	○	○		砂粒	良好
	58	2169	A－32	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	肥厚部下位に刺突文	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○		白色粒	良好
	59	1013	B－26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅴ	－	－	刺突文	外：工具ナデ 内：工具ナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	5YR4/4 (にぶい赤褐)	○			砂粒	良好



第51図　Ⅷ, Ⅸ, Ⅹ, Ⅺ類土器

表6　縄文時代土器観察表(2)

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	部位	類別	口径・底径	器高	文様・調整(外/内) 文様	調整	色調 外面	内面	胎土 石英	長石	カクセン	その他	焼成
23	60	382-33	A－30	－	深鉢	口縁	V	－	－	口縁に貝殻腹縁による刺突文	外：条痕，ナデ 内：条痕，ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/2 (灰褐)	○	○	○		良好
	61	977	B－26	Ⅳ a	?	口縁	V	－	－	貝殻腹縁文，刺突文	外：工具ナデ 内：工具ナデ	10YR8/6 (明黄褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○			滑石 砂粒	良好
	62	927	B－26	Ⅳ a	?	口縁	V	－	－	刺突文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/4 (褐)	○			輝石 砂流	良好
	63	1467	A－32	Ⅳ b	深鉢	口縁	V	－	－	沈線文	外：ナデ 内：工具ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR6/3 (にぶい黄橙)	○			砂粒	良好
		1468	A－32	Ⅳ b														
	64	924	B－26	Ⅳ a	深鉢	口縁	V	－	－	沈線文	外：工具ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR3/3 (暗褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○		砂粒	良好
	65	507	B－26	Ⅳ a	深鉢	口縁	V	－	－	沈線文	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○		砂粒	良好
	66	1489	A－33	Ⅳ b	深鉢	口縁	V	－	－	沈線文	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/6 (褐)	10YR5/6 (黄褐)	○		○	砂粒	良好
	67	1046	B－27	Ⅳ a	深鉢	口縁	V	－	－	沈線文	外：条痕のちナデ 内：ナデ	7.5YR5/6 (明褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○			砂粒	良好
	68	2332	A－30	Ⅳ b	深鉢	口縁	V	－	－	沈線文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/4 (暗褐)	7.5YR3/3 (暗褐)	○			砂粒	良好
	69	2211	A－31	Ⅳ a	深鉢	胴部	V	－	－	沈線文	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	5YR4/8 (赤褐)	10YR2/2 (黒褐)	○			砂粒	良好
	70	一括	C－23	Ⅳ b	深鉢	口縁	V	－	－	－	外：ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/6 (褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○			良好
	71	789	B－27	Ⅳ a	深鉢	口縁	V	－	－	－	外：ナデ 内：ナデ	10YR5/3 (にぶい黄褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○				良好
	72	1469	A－32	Ⅳ b	深鉢	口縁	V	－	－	突帯貼り付け上に沈点文	外：工具ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○	○	砂粒	良好
	73	41	B－27	Ⅳ a	深鉢	口縁	V	－	－	沈線文，貝殻腹縁による刻み	外：条痕のちナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
24	74	一括	B－28	Ⅳ	深鉢	口縁	Ⅵ	(32.0)	(10.7)	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○			良好
		2870	B－28	Ⅳ b														
	75	一括	B－28	Ⅳ	深鉢	口縁	Ⅵ	(29.2)	(14.4)	太めの沈線文，太めの沈線文	外：ナデ 内：工具ナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○			良好
		2856	B－28	Ⅳ b														
		3056	B－28	Ⅳ b														
	76	910	B－26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ，指頭圧痕	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR3/2 (黒褐)	○	○		白色粒	良好
		1020	C－26	Ⅳ a														
	77	1907	B－25	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	刺突文，太めの沈線文	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○		白色粒	良好
		1908	B－25	Ⅳ b														
	78	3056	B－28	Ⅳ b	?	口縁	Ⅵ	－	－	凹点文，口唇部に沈線文，太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR1/2 (灰黄褐)	○		○	砂粒	良好
	79	3128	B－28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ（粗）	10YR7/6 (明黄褐)	10YR7/6 (明黄褐)	○	○			良好
	80	1267	B－27	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：工具ナデ	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○			良好
	81	一括	B－26	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	82	3155	B－28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，口縁棒状工具刺突文，口唇に刻み	外：工具ナデ，ナデ 内：工具ナデ，ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○	○		良好
25	83	1233	B－27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)		○		白色粒	良好
		1732	B－27	Ⅳ b														
	84	1297	B－27	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
		2031	B－26	Ⅳ b														
	85	2185	A－32	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR1/2 (灰黄褐)	○	○		砂粒	良好
	86	土塁	B－28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	(26.0)	(22.1)	棒状工具の刺突文 口唇部棒状工具による刻み，太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○			良好
		3059	B－28	Ⅳ b														
		3135	B－28	Ⅳ b														
	87	2768	B－28	Ⅳ b	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	棒状工具による刺突文，太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○			良好
	88	1694	B－27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	棒状工具による刻み，太めの沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR7/8 (黄橙)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○			良好
	89	1854	B－26	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	棒状工具による刻み，太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)	○	○			良好
	90	一括	C－26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	棒状工具による刻み，太めの沈線文 棒状工具による刺突文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/4 (にぶい赤褐)	○	○			良好
	91	3073	B－28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	棒状工具による刻み，太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR6/4 (にぶい黄橙)	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○	○			良好
	92	2561	B－27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	棒状工具による刻み，太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	2.5YR5/8 (明赤褐)	2.5YR5/8 (明赤褐)	○	○			良好
	93	769	B－27	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○			良好
	94	2176	A－32	Ⅳ a	?	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○			滑石 砂粒	良好
	95	1131	B－26	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/3 (にぶい黄褐)	○	○			良好
26	96	1779	B－27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	(37.2)	(14.1)	棒状工具による刻み，回線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○			白色粒	良好
	97	1223	B－27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	棒状工具による刻み，回線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	98	1076	B－26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	棒状工具による刻み，回線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR6/6 (明黄褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○			良好
	99	1053	B－27	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	棒状工具による刺突文，回線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	○	○			良好
27	100	2897	B－28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	(29.0)	(11.2)	細めの沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	10YR6/6 (明黄褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○			赤色粒	普通
		2898	B－28	Ⅳ b														
		3013	B－28	Ⅳ b														
	101	3077	B－28	Ⅳ b	鉢	口縁	Ⅵ	(14.4)	(7.9)	太めの沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	7.5YR3/1 (黒褐)	○	○		白色粒	良好
	102	2989	B－28	Ⅳ b	鉢	口縁	Ⅵ	(15.0)	(8.0)	太めの沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	7.5YR3/1 (黒褐)		○		白色粒	良好
	103	土塁	B－28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	(23.2)	(10.5)	太めの沈線文，刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/6 (褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○				良好
		1121	B－26	Ⅳ a														
		3149	B－28	Ⅳ b														
28	104	一括	B－26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	(33.6)	(30.7)	太めの沈線文，刺突文（棒状工具）	外：工具ナデ，ナデ，指頭圧痕 内：工具ナデ，ナデ，指頭圧痕	5YR5/6 (橙)	5YR6/6 (橙)	○	○	○		良好
		一括	B－26	Ⅳ b														
		376	B－26	Ⅳ a														
		377	B－26	Ⅳ a														
		382	B－26	Ⅳ a														
		383	B－26	Ⅳ a														
		384	B－26	Ⅳ a														
		453	B－26	Ⅳ a														
		456	B－26	Ⅳ a														
		457	B－26	Ⅳ a														
		1007	B－26	Ⅳ a														
		1009	B－26	Ⅳ a														
		1011	B－26	Ⅳ a														
		1012	B－26	Ⅳ a														
		1133	B－26	Ⅳ a														
		1136	B－26	Ⅳ a														
		1736	B－27	Ⅳ b														
		1855	B－26	Ⅳ b														
		1861	B－26	Ⅳ b														
		1867	B－26	Ⅳ b														
		1868	B－26	Ⅳ b														
		1871	B－26	Ⅳ b														
		1874	B－26	Ⅳ b														
		1875	B－26	Ⅳ b														
		1890	C－26	Ⅳ b														
		1892	C－26	Ⅳ b														
		2040	B－26	Ⅳ b														
		2052	C－25	Ⅳ b														
		1002	B－26	Ⅳ a														
	105	1850	B－26	Ⅳ b	深鉢	底部	Ⅵ	(10.4)	(7.4)	－	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ，指頭圧痕	2.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/4 (にぶい橙)	○		○		良好
		1851	B－26	Ⅳ b														
		3052	B－28	Ⅳ b														
29	106	3063	B－28	Ⅳ b	深鉢	完形	Ⅵ	口：23.2 底：11.2	30.0	回線文，口唇部に刻み	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	5YR6/6 (橙)	5YR6/6 (橙)	○	○	○		良好
		3058	B－28	Ⅳ b														
		3061	B－28	Ⅳ b														
		3139	B－28	Ⅳ b														

表7　縄文時代土器観察表(3)

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	部位	類別	口径・底径	器高	文様・調整(外/内) 文様	調整	色調 外面	内面	胎土 石英	長石	カクセン	その他	焼成
30	107	3101	B－27	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	胴線文	外：ナデ 内：工具ナデ	7.5YR2/1 (黒)	7.5YR4/4 (褐)	○	○		白色粒	良好
	108	3100	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	棒状工具による太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○			良好
	109	376	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ，指頭圧痕	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/3 (褐)	○	○		白色粒	良好
	110	土集	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/6 (褐)	10YR5/6 (黄褐)	○	○			良好
	111	2975	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	112	3146	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	113	土集	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	浅い沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/3 (褐)	○	○			良好
		2870	B－28	Ⅳb														
	114	一括	B－28	Ⅳ	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	胴線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
	115	2380	B－28	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	(29.2)	(18.7)	胴線文	外：工具ナデ 内：工具ナデ	10YR3/1 (クロ褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○			良好
		2389	B－28	Ⅳa														
		2390	B－28	Ⅳa														
		2393	B－28	Ⅳa														
		2538	B－28	Ⅳa														
	116	一括	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR3/6 (暗赤褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○		白色粒	良好
	117	1760	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	胴線文，竹管状工具による刺突文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○		白色粒	良好
		1761	B－27	Ⅳb														
31	118	一括	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	(22.6)	(16.4)	太めの沈線文	外：条痕のちナデ 内：工具ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
		1800	B－26	Ⅳb														
	119	2455	B－28	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	(30.0)	(9.9)	太めの沈線文	外：条痕のちナデ 内：ナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○		白色粒	良好
		3024	B－28	Ⅳb														
		3025	B－28	Ⅳb														
	120	101	C－25	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	(31.6)	(14.6)	胴線文，口唇に刻み，貝殻条痕	外：条痕，ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○	○		良好
		102	C－25	Ⅳa														
		1029	C－25	Ⅳa														
		1031	C－25	Ⅳa														
	121	一括	B－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，刻み	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○		白色粒	良好
	122	一括	B－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	5YR4/6 (赤褐)	○		○	白色粒	良好
		658	B－27	Ⅳa														
		978	B－26	Ⅳa														
	123	一括	B－26	Ⅳa	鉢	口縁	Ⅵ	(15.2)	(10.6)	胴線文，刻み	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデ	5YR4/6 (赤褐)	1.0YR4/3 (にぶい黄褐)	○		○	砂粒	良好
		2467	B－28	Ⅳa														
		2469	B－27	Ⅳa														
		2473	B－27	Ⅳa														
		2591	B－27	Ⅳa														
		2702	B－27	Ⅳb														
	124	401	B－26	Ⅳa	鉢	胴部	Ⅵ	－	－	胴線文	外：条痕のちナデ 内：ナデ，指頭圧痕	5YR5/8 (明赤褐)	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○	○		砂粒	良好
32	125	1036	B－27	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	(38.0)	(26.2)	太めの沈線文，口縁外面に凹点文	外：ナデ 内：ナデ	10YR5/6 (明黄褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○			良好
		1273	B－27	Ⅳa														
		1279	B－27	Ⅳa														
	126	1449	B－28	Ⅳa	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	胴線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	127	2807	B－28	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	胴線文	外：工具ナデ 内：ナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○	○		良好
	128	1779	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	細めの胴線文，刺突連点文，刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR6/6 (橙)	10YR6/6 (明黄褐)	○				良好
	129	549	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR5/6 (明褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○			良好
	130	2773	B－28	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
33	131	一括	B－26	Ⅳa	鉢	口縁	Ⅵ	口：(13.4) 底：　6.2	11.1	棒状工具による細めの胴線文 棒状工具による刺突文	外：工具ナデ，ナデ 内：工具ナデ，ナデ	5YR6/4 (にぶい橙)	5YR6/4 (にぶい橙)	○	○	○		良好
		1153	B－26	Ⅳa														
		1846	B－26	Ⅳb														
	132	2884	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口縁部付近は刺突文，その下に 棒状工具による細めの胴線文	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	7.5YR6/4 (にぶい橙)	7.5YR6/4 (にぶい橙)	○			砂粒	良好
	133	410	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	胴線文，口唇部に工具による刺突文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○		白色粒	良好
		412	B－26	Ⅳa														
	134	577	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	135	549	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	細めの胴線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR6/6 (橙)	10YR3/1 (黒褐)	○	○			良好
		2767	B－27	Ⅳb														
	136	935	B－26	Ⅳa	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	短沈線，刺突文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR7/6 (橙)	10YR6/6 (明黄褐)	○		○	砂粒	良好
		962	B－26	Ⅳa														
	137	1784	B－27	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	短沈線，刺突文	外：ナデ 内：ナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○			砂粒	良好
		3145	B－28	Ⅳb														
	138	1899	C－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/3 (褐)	○	○			良好
	139	一括	C－26	Ⅳa	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	細めの胴線文，短沈線	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○			良好
	140	3120	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○	○	白色粒	良好
	141	SB-46	D－22	－	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	細めの胴線文，刺突文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR4/6 (褐)	10YR3/1 (黒褐)	○				良好
	142	2636	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口縁部近くに刺突文，沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR3/3 (暗褐)	○			砂粒	良好
	143	2601	B－28	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	(18.7)	(4.7)	棒状工具による太めの沈線文，刺突文 口唇部に押し引き状の刺突文	外：工具ナデ 内：工具ナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	5YR4/4 (にぶい赤褐)	○	○		砂粒	良好
	144	3167	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，刺突文 口唇部：棒状工具による押し引き文	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	7.5YR3/3 (暗褐)	○			砂粒	良好
	145	2914	B－30	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，棒状工具による刺突文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/3 (褐)	○	○			良好
	146	3135	B－28	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	細い胴線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○			良好
34	147	433	b－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	胴線文，貝殻条痕	外：ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	148	3019	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	細めの胴線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR6/6 (明黄褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○			良好
		3162	B－28	Ⅳb														
		3163	B－28	Ⅳb														
	149	2738	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	胴線文	外：条痕のちナデ 内：ナデ	10YR3/3 (暗褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	150	一括	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	151	1784	B－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，凹線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/3 (褐)	○		○	白色粒	良好
	152	2267	A－30	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	153	2905	B－28	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	細めの胴線文，沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○			良好
	154	2209	A－31	Ⅳa	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	細めの胴線文，沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○			良好
		2211	A－31	Ⅳa														
	155	1962	B－25	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	156	2855	B－28	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	157	489	B－26	Ⅳa	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/2 (灰黄褐)	○	○			良好
	158	2323	A－31	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR7/4 (にぶい橙)	○			砂粒	良好
	159	一括	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	細めの胴線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR2/2 (黒褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○				良好
		354	B－26	Ⅳa														
		1899	C－26	Ⅳb														
	160	一括	B－26	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，短沈線	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○		雲母	良好
	161	1388	A－29	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，短沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○	○			良好

表8　縄文時代土器観察表(4)

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	部位	類別	口径・底径	器高	文様・調整(外/内) 文様	調整	色調 外面	内面	胎土 石英	長石	カクセン	その他	焼成
35	162	1717	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	(27.8)	(7.7)	太めの沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○		○	砂粒	良好
		1721	B－27	Ⅳb														
	163	1014	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，刻み	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	164	2558	B－27	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	細めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
		2559	B－27	Ⅳb														
	165	1374	B－29	Ⅳa	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	細い沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR5/6 (黄褐)	○				良好
	166	3033	B－28	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR3/4 (暗褐)	7.5YR3/1 (黒褐)	○		○	砂粒	良好
	167	2024	C－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	貝殻条痕，沈線文，刻み	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○		白色粒	良好
	168	3029	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	10YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
	169	2279	A－30	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/3 (にぶい黄褐)	○			白色粒	良好
	170	一括	B－26	Ⅳa	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR4/4 (褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○				良好
		541	B－26	Ⅳa														
	171	2779	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	短沈線，棒状工具による刺突文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	172	1896	C－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR5/2 (灰黄褐)	○	○		白色粒	良好
	173	3116	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR3/1 (黒褐)	○	○	○		良好
	174	1141	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	細めの沿線文，沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	10YR4/3 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	175	1864	B－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，沿線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR7/4 (にぶい黄橙)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○		白色粒	良好
		2022	B－26	Ⅳb														
	176	2837	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○			良好
	177	2994	B－28	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR2/2 (黒褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○		○	白色粒	良好
	178	1214	B－27	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR5/2 (灰黄褐)	○	○	○	砂粒	良好
		1735	B－27	Ⅳb														
36	179	1353	B－29	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	(24.0)	(10.6)	太めの沈線文，棒状工具刺突文 口唇に貝殻腹縁による押し引き文	外：条痕のちナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○			良好
		1354	B－29	Ⅳa														
	180	1350	B－29	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，刺突文 口唇に貝殻腹縁による押引き文	外：条痕のちナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○		白色粒	良好
		1351	B－29	Ⅳa														
		1352	B－29	Ⅳa														
		1357	B－29	Ⅳa														
	181	2870	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文，沿点文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR6/3 (にぶい黄橙)	10YR4/2 (灰黄褐)	○		○	砂粒	良好
	182	498	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，棒状工具による刺突文	外：ナデ 内：ナデ	5YR5/8 (明赤褐)	10YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
	183	522	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，刺突文	外：工具ナデ 内：ナデ	10YR7/6 (明黄褐)	10YR7/6 (明黄褐)	○			砂粒	良好
	184	一括	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文，刺突文，刻み	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○			砂粒	良好
	185	2909	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文，刺突文，刻み	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR2/2 (黒褐)	○			砂粒	良好
	186	1638	A－29	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文，刺突文	外：条痕のちナデ 内：ナデ，指頭圧痕	5YR4/6 (赤褐)	7.5YR4/3 (褐)	○			砂粒	良好
	187	1351	B－29	Ⅳa	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，棒状工具による刺突文	外：条痕のちナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR5/4 (にぶい褐)	○	○		白色粒	良好
		1359	A－29	Ⅳa														
37	188	1711	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，口唇に棒状工具で沈線文，貝殻条痕	外：条痕 内：工具ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR2/3 (黒褐)	○	○			良好
		1715	B－27	Ⅳb														
	189	825	B－27	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文一部刺突痕，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	5YR4/3 (にぶい赤褐)	5YR4/3 (にぶい赤褐)	○			砂粒	良好
		2576	B－27	Ⅳb														
		2722	B－27	Ⅳb														
	190	2540	B－27	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，口唇に貝殻腹縁による押し引き文	外：条痕 内：貝殻条痕	10YR3/1 (黒褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)	○	○		砂粒	良好
		2725	B－27	Ⅳb														
		2726	B－27	Ⅳb														
		2750	B－27	Ⅳb														
	191	一括	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：条痕，口縁部付近はナデ	2.5YR1/3 (黒褐)	5YR4/4 にぶい赤褐	○				良好
		824	B－27	Ⅳa														
		1227	B－27	Ⅳb														
	192	1627	A－29	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沈線文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR4/2 (灰黄褐)	○	○		砂粒	良好
38	193	2430	B－28	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口縁部に刺突文，口縁下部に太めの沈線文	外：工具ナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR5/6 (明褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○			良好
		2859	B－28	Ⅳb														
		3032	B－28	Ⅳb														
		3033	B－28	Ⅳb														
	194	2768	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，棒状工具による刺突文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
	195	1849	B－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文，棒状工具による刺突文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR5/6 (明褐)	10YR7/6 (明黄褐)	○				良好
	196	353	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	短沈線，沈線文，刺突文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	197	3143	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，口縁部近くに刺突文	外：工具ナデ 内：ナデ	10YR2/2 (黒褐)	10YR6/3 (にぶい黄橙)	○	○		砂粒	良好
39	198	1202	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，刺突文	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR3/1 (黒褐)	○	○	○		良好
		1203	B－27	Ⅳb														
		1204	B－27	Ⅳb														
		1206	B－27	Ⅳb														
	199	1191	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/3 (褐)	7.5YR4/3 (褐)		○			良好
		1756	B－27	Ⅳb														
	200	一括	B－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	(20.8)	(5.2)	沈線文	外：ナデ 内：ナデ，指頭圧痕	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○			良好
		686	B－27	Ⅳa														
		1049	B－27	Ⅳa														
	201	1421	B－28	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
	202	990	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR4/2 (灰黄褐)	10YR4/2 (灰黄褐)	○			砂粒	良好
	203	1242	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	10YR3/3 (暗褐)	○	○		白色粒	良好
	204	1345	A－29	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，刻み	外：工具ナデのちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○			良好
	205	2801	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	(22.2)	(10.2)	沈線文，刻み	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR5/6 (明赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○			良好
	206	一括	B－26	Ⅳa	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	沿線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	5YR4/6 (赤褐)	○			砂粒	良好
	207	3070	B－28	Ⅳb	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	細い沿線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○			良好
40	208	1148	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文	外：ナデ 内：工具ナデ	7.5YR4/6 (褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○			良好
	209	953	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/6 (褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	210	728	B－27	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR6/6 (明黄褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○				良好
	211	一括	B－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，粘土紐飾り，刺突文	外：ナデ 内：ナデ	5YR6/4 (赤褐)	5YR6/4 (赤褐)	○	○	○	砂粒	良好
	212	一括	B－26	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，粘土紐飾り，刺突文	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR3/2 (黒褐)	○		○	砂粒	良好
	213	1201	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	214	2216	A－31	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：条痕のちナデ 内：工具ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/2 (黒褐)	○	○	○	砂粒	良好
	215	601	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，突起部口唇に刻み	外：ナデ 内：ナデ	10YR4/3 (にぶい黄褐)	10YR4/3 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	216	2377	A－30	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：条痕のちナデ	10YR3/1 (黒褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○		白色粒	良好
	217	1232	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR5/6 (明褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○			良好
	218	一括	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	219	2427	B－28	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	細めの沿線文，刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	220	2406	B－28	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	太めの沈線文，刻み	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR4/3 (褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○			良好
	221	1739	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沿線文，刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○			良好
	222	1601	B－28	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR5/6 (明褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○		白色粒	良好
	223	1909	B－25	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○				良好
	224	1774	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	刻み	外：条痕のちナデ 内：ナデ	10YR3/4 (暗褐)	10YR3/4 (暗褐)	○	○			良好
	225	3060	B－28	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	浅い沈線文，沈線文，刺突文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○		砂粒	良好
	226	481	B－26	Ⅳa	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に貝殻刺突文，沈線文	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○			砂粒	良好
	227	1196	B－27	Ⅳb	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	沈線文，刺突文	外：工具ナデ 内：工具ナデ	5YR4/8 (赤褐)	7.5YR4/1 (褐灰)	○			砂粒	良好

表9　縄文時代土器観察表(5)

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	部位	類別	口径・底径	器高	文様・調整(外/内) 文様	調整	色調 外面	内面	胎土 石英	長石	カクセン	その他	焼成
41	228	1873	B －26	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	刺突文，刻み	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○			白色粒 赤粒	良好
	229	912	B －26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇部に田点文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/4 (黒褐)	○	○		白色粒	良好
	230	一括	B －26	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	(28.0)	(11.0)	口唇部に刺突文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR3/4 (暗褐)	7.5YR4/3 (褐)	○			砂粒	良好
		439	B －26	Ⅳ a														
		916	B －26	Ⅳ a														
	231	3099	B －28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に田点文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	232	448	B －26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○		白色粒	良好
		606	B －26	Ⅳ a														
	233	1714	B －27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
	234	一括	B －26	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	田線文	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/4 (褐)	7.5YR4/4 (褐)	○				良好
	235	2543	A －31	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	(27.0)	(7.7)	口唇部に貝殻腹縁刺突文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	10YR4/1 (褐灰)	○	○			良好
		2927	B －30	Ⅳ b														
		2928	A －30	Ⅳ b														
	236	2383	A －30	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	(16.2)	(9.7)	口唇部に棒状工具による刺突文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
		2942	A －30	Ⅳ b														
	237	一括	C －27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突，刻み	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/3 (暗褐)	10YR3/1 (黒褐)	○	○			良好
	238	706	B －27	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突，刻み	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○				良好
	239	3127	B －28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突，刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
	240	2246	A －31	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突，深い刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR5/6 (明褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○			良好
42	241	一括	B －28	Ⅳ	深鉢	口縁	Ⅵ	(20.8)	(17.0)	口唇に刺突，深い刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
		2645	B －28	Ⅳ b														
		2898	B －28	Ⅳ b														
	242	一括	C －24	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突，深い刻み	外：条痕のちナデ 内：ナデ	7.5YR3/3 (暗褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○			良好
	243	1017	C －26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突，深い刻み	外：ナデ 内：工具ナデ	10YR2/2 (黒褐)	10YR4/3 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	244	1172	B －27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突，深い刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○			良好
	245	2356	A －31	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突，深い刻み	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	10YR3/1 (黒褐)	○	○		白色粒	良好
	246	一括	B －26	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	10YR5/1 (黒褐)	○	○			良好
	247	81	B －26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突	外：ナデ 内：ナデ	10YR4/2 (灰黄褐)	10YR4/3 (にぶい黄褐)	○			白色粒	良好
	248	SH5-52	D －22	－	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口唇に刺突	外：ナデ 内：ナデ	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○	○		良好
43	249	2004	C －25	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：工具ナデ 内：工具ナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	250	SH5-22	A －30	－	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：条痕，ナデ 内：条痕，ナデ	10YR3/2 (黒褐)	10YR4/1 (褐灰)	○				良好
	251	1695	B －27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：工具ナデ 内：工具ナデ	10YR4/4 (褐)	10YR4/4 (褐)	○	○		赤色粒 赤粒	良好
	252	1812	B －26	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：ナデ，指頭圧痕 内：工具ナデのちナデ，指頭圧痕	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/4 (褐)	○	○			良好
	253	216	B －34	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：ナデ 内：工具ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○			良好
	254	704	B －27	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○		白色粒	良好
	255	936	B －26	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：工具ナデのちナデ，指頭圧痕 内：工具ナデのちナデ，指頭圧痕	10YR3/2 (黒褐)	10YR3/2 (黒褐)		○		白色粒	良好
	256	1765	B －27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/4 (暗褐)	10YR4/3 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	257	2779	B －28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：ナデ，指頭圧痕 内：工具ナデのちナデ	5YR4/6 (黒褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○			良好
	258	838	B －27	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	口縁部に指押えによる田点文	外：ナデ 内：ナデ	10YR4/2 (灰黄褐)	10YR3/1 (黒褐)	○				良好
	259	3059	B －28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：ナデ 内：ナデ	10YR4/4 (褐)	10YR4/4 (褐)	○	○			良好
	260	1884	B －26	Ⅳ b	鉢	口縁	Ⅵ	(10.2)	(3.0)	－	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	5YR4/4 (にぶい赤褐)	○	○			良好
	261	2228	A －31	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
		2320	A －31	Ⅳ b														
	262	一括	B －26	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	(14.4)	(9.3)	－	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	10YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
		一括	B －26	Ⅳ a														
		661	B －27	Ⅳ a														
	263	2508	B －27	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	(23.1)	(11.7)	－	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○	○			良好
		2509	B －27	Ⅳ a														
	264	2442	B －28	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：ナデ 内：工具ナデ，ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/3 (にぶい黄褐)	○	○			良好
	265	2276	B －30	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅵ	(19.4)	(8.7)	－	外：条痕のちナデ 内：条痕ナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.4YR4/1 (褐灰)	○	○	○		良好
		2579	A －30	Ⅳ b														
		2915	A －30	Ⅳ b														
		2933	A －30	Ⅳ b														
	266	3030	B －28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	(18.6)	(10.2)	－	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	267	703	B －27	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅵ	－	－	－	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR4/6 (褐)	10YR5/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
	268	1482	A －33	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅵ	－	－	－	外：条痕のちナデ 内：工具ナデ	5YR5/8 (明赤褐)	5YR5/8 (明赤褐)	○		○	砂粒	良好
	269	220	B －34	Ⅳ a	深鉢 or 甕	胴部	Ⅵ	－	－	－	外：ナデ 内：ヘラナデ	7.5YR4/6 (褐)	7.5YR4/6 (褐)	○		○	砂粒	良好
44	270	3104	B －28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	田線文	外：ナデ 内：工具ナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	271	2074	B －27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	田線文	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR3/2 (黒褐)	○	○			良好
	272	2075	B －27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	田線文	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○	○			良好
	273	2701	B －27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	太めの短沈線，沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR4/3 (灰黄褐)	○	○			良好
	274	1732	B －27	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	短沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR7/6 (明黄褐)	10YR7/6 (明黄褐)	○	○		赤色粒	良好
	275	2935	A －30	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	沈線文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR2/2 (黒褐)	○			砂粒	良好
	276	2206	A －30	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR5/3 (にぶい黄褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○	○		白色粒	良好
	277	2216	A －31	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	田線文，貝殻条痕	外：ナデ 内：条痕ナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	2.5YR4/8 (赤褐)	○			砂粒	良好
	278	1291	B －27	Ⅳ a	深鉢	胴部	Ⅶ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR7/6 (明黄褐)	○	○		砂粒	良好
	279	2969	A －30	Ⅳ b	深鉢	胴部	Ⅶ	－	－	田線文	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ，指頭圧痕	10YR2/2 (黒褐)	10YR4/3 (黄褐)	○			砂粒 雲母	良好
	280	1629	A －29	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	沈線文	外：条痕のちナデ 内：ナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	7.5YR4/4 (褐)	○	○			良好
	281	1342	B －29	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	太めの沈線文	外：工具ナデ 内：ナデ	10YR3/2 (黒褐)	7.5YR4/6 (褐)	○			砂粒	良好
	282	3054	B －28	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	短み，短沈線	外：ナデ 内：ナデ	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○	○			良好
	283	1810	B －26	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	棒状工具による刻み，沈線文	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○			良好
	284	1867	B －28	Ⅳ b	深鉢	胴部	Ⅶ	－	－	沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR5/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
	285	1337	A －29	Ⅳ a	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	太めの沈線文，爪痕上に押圧連点文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR3/2 (黒褐)	5YR4/6 (赤褐)	○	○		白色粒	良好
	286	2932	A －30	Ⅳ b	深鉢	口縁	Ⅶ	－	－	短沈線，刺突文，刻み	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR3/3 (暗褐)	○			白色粒	良好
45	287	409	B －26	Ⅳ a	深鉢	底部	－	(11.6)	(17.1)	棒状工具による田線文	外：条痕，ナデ 内：条痕，ナデ	7.5YR5/4 (にぶい褐)	10YR6/2 (灰黄褐)	○	○	○		良好
		431	B －26	Ⅳ a														
		435	B －26	Ⅳ a														
		474	B －26	Ⅳ a														
		476	B －26	Ⅳ a														
		506	B －26	Ⅳ a														
		979	B －26	Ⅳ a														
		985	B －26	Ⅳ a														
		1060	B －26	Ⅳ a														
		1061	B －26	Ⅳ a														
		1062	B －26	Ⅳ a														
		1822	B －26	Ⅳ b														
		1886	B －26	Ⅳ b														
	288	1199	B －27	Ⅳ b	深鉢	底部	－	(10.8)	(10.0)	縄纏痕	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR5/6 (明褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○		○	砂粒	良好
		1749	B －27	Ⅳ b														
	289	2491	B －27	Ⅳ a	深鉢	底部	－	(12.0)	(4.6)	縄纏痕	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ，指頭圧痕	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○		○	砂粒	良好
	290	322	A －33	Ⅳ a	深鉢	底部	－	(9.3)	(2.8)	縄纏痕	外：ナデ 内：ナデ	10YR6/6 (明黄褐)	10YR7/6 (明黄褐)	○		○	砂粒 雲母	良好
	291	2382	A －30	Ⅳ b	深鉢	底部	－	(8.4)	(5.0)	縄纏痕	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/3 (にぶい赤褐)	2.5YR4/6 (赤褐)	○			砂粒	良好
	292	2831	B －27	Ⅳ b	深鉢	底部	－	(10.2)	(2.6)	縄纏痕	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	7.5YR4/2 (灰褐)	○			砂粒	良好

表10　縄文時代土器観察表(6)

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	部位	類別	口径・底径	器高	文様・調整(外/内) 文様	調整	色調 外面	内面	胎土 石英	長石	カクセン	その他	焼成
45	293	2503	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(9.3)	(4.0)	組織痕	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR4/4 (褐)	10YR3/1 (黒褐)	○		○	砂粒	良好
	294	1346	B－29	Ⅳa	深鉢	底部	－	(9.8)	(2.7)	組織痕	外：ナデ 内：ナデ	10YR7/6 (明黄褐)	10YR7/6 (明黄褐)	○			砂粒	良好
	295	2760	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(9.2)	(3.7)	組織痕	外：ナデ 内：ナデ，指頭圧痕	5YR6/6 (橙)	10YR7/6 (明黄褐)	○	○	○	砂粒	良好
	296	572	B－26	Ⅳa	深鉢	底部	－	(7.4)	(2.8)	組織痕	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/8 (赤褐)	5YR4/8 (赤褐)	○			砂粒	良好
	297	3056	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(13.0)	(2.8)	組織痕	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○		○	砂粒	良好
	298	1916	B－27	Ⅲ	深鉢	底部	－	(6.6)	(3.2)	組織痕	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR4/4 (にぶい赤褐)	5YR4/4 (にぶい赤褐)	○		○	砂粒	良好
	299	1406	B－28	Ⅳa	深鉢	底部	－	(7.4)	(2.7)	組織痕	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	5YR4/8 (赤褐)	5YR4/8 (赤褐)	○		○	砂粒	やや強い
	300	3056	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(10.0)	(2.7)	組織痕	外：ナデ 内：ナデ	5YR4/8 (赤褐)	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○			砂粒	良好
	301	SH5-83	B－30	－	深鉢	底部	－	(8.8)	(4.6)	組織痕	外：ナデ 内：不明	7.5YR6/4 (にぶい橙)	10YR7/4 (にぶい黄橙)	○	○	○		良好
	302	2269	A－30	Ⅳa	深鉢	底部	－	(10.4)	(4.6)	組織痕	外：工具ナデ 内：工具ナデ，指頭圧痕	5YR5/4 (にぶい赤褐)	10YR7/4 (にぶい黄橙)	○		○	砂粒 輝石	良好
	303	1878	B－26	Ⅳb	深鉢	底部	－	(8.2)	(2.5)	組織痕	外：ナデ 内：ナデ	2.5YR5/6 (明赤褐)	7.5YR3/1 (黒褐)	○		○	砂粒	良好
	304	SH5-23	A－30	－	深鉢	底部	－	(8.8)	(4.6)	組織痕	外：条痕，ナデ 内：ナデ	5YR5/4 (にぶい橙)	10YR7/3 (にぶい黄橙)	○	○	○		良好
	305	2134	B－31	Ⅳa	深鉢	底部	－	(7.0)	(4.9)	組織痕	外：条痕のちナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○		○	砂粒	良好
	306	1023	B－25	Ⅳa	深鉢	底部	－	(9.8)	(5.6)	組織痕	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
46	307	2142	B－31	Ⅳa	深鉢	底部	－	(8.8)	(3.4)	－	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	5YR5/6 (明赤褐)	10YR6/2 (灰黄褐)	○			砂粒	良好
	308	317	A－33	Ⅳa	深鉢	底部	－	(10.5)	(3.7)	－	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR3/2 (黒褐)	○		○	砂粒	良好
	309	917	B－26	Ⅳa	深鉢	底部	－	(8.8)	(2.2)	－	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	2.5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
	310	1769	B－27	Ⅳb	深鉢	底部	－	7.0	(6.0)	－	外：指頭圧痕，ナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	○			砂粒	良好
	311	7	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(9.0)	(4.0)	－	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	2.5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
	312	一括	B－26	Ⅳb	深鉢	底部	－	(9.6)	(3.0)	－	外：ヘラ状工具による ナデ 内：工具ナデ	2.5YR5/8 (明赤褐)	2.5YR5/8 (明赤褐)	○		○	砂粒	良好
	313	3026	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(8.6)	(3.7)	－	外：ナデ，指頭圧痕 内：工具ナデ	5YR5/4 (にぶい赤褐)	2.5YR4/1 (黒灰)	○		○		良好
	314	784	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(11.0)	(3.1)	－	外：指頭圧痕，ナデ 内：指頭圧痕，ナデ	5YR4/4 (にぶい赤褐)	10YR1/3 (黒褐)	○			砂粒	良好
	315	一括	B－27	Ⅳb	深鉢	底部	－	(7.6)	(11.6)	－	外：条痕のち工具ナデのちナデ，指頭圧痕 内：工具ナデのちナデ，指頭圧痕	5YR4/8 (赤褐)	5YR4/8 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
		1	B－27	Ⅳa														
		1043	B－27	Ⅳa														
		1044	B－27	Ⅳa														
		1045	B－27	Ⅳa														
		1289	B－27	Ⅳa														
	316	1584	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	7.8	(2.4)	－	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	5YR4/8 (赤褐)	10YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
	317	1785	B－26	Ⅳb	深鉢	底部	－	7.6	(5.9)	－	外：条痕のちナデ 内：指頭圧痕のちナデ，工具ナデ	2.5YR4/8 (赤褐)	2.5YR4/8 (赤褐)	○		○		良好
	318	2202	A－31	Ⅳa	深鉢	底部	－	(9.8)	(4.0)	－	外：ナデ 内：ナデ	2.5YR4/6 (赤褐)	7.5YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
47	319	2067	B－26	Ⅳb	鉢	底部	－	(6.4)	(2.4)	貝殻条痕，沈線文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR6/4 (にぶい黄橙)	10YR4/1 (褐灰)	○			砂粒	良好
	320	2986	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(6.0)	(3.0)	沈線文，貝殻条痕	外：ナデ 内：ナデ	5YR5/6 (明赤褐)	10YR7/4 (にぶい黄橙)	○			砂粒	良好
	321	3056	B－28	Ⅳb	鉢	底部	－	(6.4)	(2.5)	沈線文，貝殻条痕	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ	10YR6/4 (にぶい黄橙)	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○				良好
	322	1204	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(10.4)	(8.1)	沈線文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	○			砂粒	良好
		1724	B－27	Ⅳb														
	323	289	B－33	Ⅳa	深鉢	底部	－	(9.0)	(5.5)	沈線文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：条痕のちナデ	7.5YR5/4 (にぶい褐)	7.5YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
	324	2225	A－31	Ⅳa	深鉢	底部	－	9.2	(6.5)	沈線文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：工具ナデのちナデ，指頭圧痕	5YR3/6 (暗赤褐)	5YR3/6 (暗赤褐)	○			砂粒	良好
		2360	A－32	Ⅳb														
	325	SH5-53	A－30	－	深鉢	底部	－	(8.6)	(3.6)	沈線文，貝殻条痕	外：条痕，ナデ 内：条痕，ナデ，指頭圧痕	7.5YR5/4 (にぶい褐)	7.5YR5/6 (明褐)	○	○	○		良好
		SH5-70	A－30	－														
	326	2331	A－30	Ⅳb	深鉢	底部	－	(8.0)	(2.2)	沈線文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：ナデ	7.5YR6/6 (橙)	10YR6/5 (明黄褐)	○			砂粒	良好
	327	692	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(12.0)	(2.8)	綱代痕，貝殻条痕，沈線文	外：条痕のちナデ 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR3/1 (黒褐)	○	○	○	砂粒	良好
	328	2849	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(8.6)	(4.9)	沈線文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
	329	536	B－26	Ⅳa	深鉢	底部	－	(8.8)	(4.3)	沈線文，貝殻条痕	外：条痕のちナデ 内：ナデ	10YR7/6 (明黄褐)	10YR7/6 (明黄褐)	○		○	砂粒	良好
48	330	822	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(7.6)	(4.4)	綱代痕	外：条痕のちナデ 内：ナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○			砂粒	良好
	331	1353	A－29	Ⅳa	深鉢	底部	－	(9.8)	(3.7)	綱代痕	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ，指頭圧痕	2.5YR5/6 (明赤褐)	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○		○	砂粒	良好
		1375	B－29	Ⅳa														
		1380	B－29	Ⅳa														
	332	土器	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(8.6)	(3.4)	綱代痕	外：ナデ 内：指頭圧痕のちナデ	2.5YR6/6 (橙)	10YR7/4 (にぶい黄橙)	○			砂粒	良好
	333	39	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(13.0)	(4.4)	綱代痕	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○		○	砂粒	良好
	334	1593	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(10.0)	(3.1)	組織痕?	外：ナデ 内：ナデ	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○		○	砂粒	良好
	335	3132	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(12.6)	(3.1)	綱代痕	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	○			砂粒	普通
	336	一括	B－29	Ⅳa	深鉢	底部	－	(13.0)	(5.8)	組織痕?	外：ナデ 内：ナデ，指頭圧痕	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR6/6 (明黄褐)	○	○		砂粒	良好
	337	土器	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(10.8)	(4.4)	綱代痕	外：ナデ 内：ナデ，指頭圧痕	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○		○	砂粒	良好
		3148	B－28	Ⅳb														
	338	2770	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(12.0)	(5.6)	綱代痕	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	○		○	砂粒	良好
	339	218	B－34	Ⅳa	深鉢	底部	－	12.2	(2.9)	綱代痕，底部端に刻み	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR7/4 (にぶい黄橙)	○		○	砂粒	良好
	340	944	B－26	Ⅳa	深鉢	底部	－	(10.6)	(4.6)	綱代痕，底部端に刻み	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ，指頭圧痕	5YR4/6 (赤褐)	7.5YR5/4 (にぶい褐)	○		○	砂粒	良好
	341	1047	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(10.8)	(5.1)	組織痕?，底部端に刻み	外：条痕のちナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR4/3 (褐)	7.5YR4/3 (褐)	○			砂粒 輝石	良好
	342	754	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(9.0)	(2.8)	底部端に刻み	外：ナデ，指頭圧痕， 内：ナデ，指頭圧痕	10YR7/4 (にぶい黄橙)	10YR7/4 (にぶい黄橙)	○		○	砂粒	良好
49	343	1222	B－27	Ⅳb	深鉢	底部	－	(7.6)	(1.9)	組織痕	外：ナデ 内：ナデ	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○			砂粒	良好
	344	1249	B－27	Ⅳb	深鉢	底部	－	(9.5)	(2.6)	綱代痕	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ，指頭圧痕	5YR4/6 (赤褐)	7.5YR5/4 (にぶい褐)	○		○	砂粒	良好
	345	581	B－26	Ⅳa	深鉢	底部	－	(9.8)	(2.1)	綱代痕	外：ナデ 内：ナデ，指頭圧痕	5YR4/6 (赤褐)	10YR5/6 (黄褐)	○			砂粒	良好
	346	2886	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(9.6)	(2.7)	綱代痕	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○		○	砂粒	良好
	347	428	B－26	Ⅳa	深鉢	底部	－	(13.4)	(4.2)	綱代痕	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	5YR6/6 (橙)	5YR6/6 (橙)	○		○	砂粒	良好
	348	3160	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(8.0)	(4.6)	－	外：工具ナデのちナデ 内：ナデ，指頭圧痕	5YR4/6 (赤褐)	7.5YR6/6 (橙)	○			砂粒	良好
	349	1181	B－27	Ⅳb	深鉢	底部	－	(10.6)	(2.6)	綱代痕	外：指頭圧痕，ナデ 内：ナデ，指頭圧痕	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
	350	1332	B－26	Ⅳa	深鉢	底部	－	(8.6)	(5.4)	木葉痕	外：工具ナデのち丁寧なナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR3/4 (暗褐)	7.5YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
		1414	A－28	Ⅳa														
	351	1696	B－27	Ⅳb	深鉢	底部	－	(11.6)	(1.6)	綱代痕，側面に刺突痕	外：－ 内：ナデ	7.5YR5/4 (にぶい褐)	7.5YR5/4 (にぶい褐)	○		○	砂粒 輝石	良好
	352	2794	B－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(9.6)	(2.9)	綱代痕	外：工具ナデのちナデ指頭圧痕 内：工具ナデ 指頭圧痕	5YR4/6 (赤褐)	2.5YR3/1 (黒褐)	○		○	砂粒	良好
	353	一括	B－26	Ⅳa	深鉢	底部	－	－	－	綱代痕	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
	354	2533	B－27	Ⅳa	深鉢	底部	－	(10.0)	(3.2)	綱代痕	外：ナデ，指頭圧痕 内：ナデ，指頭圧痕	10YR5/4 (にぶい黄褐)	5YR4/6 (赤褐)	○			砂粒	良好
	355	2349	A－31	Ⅳb	深鉢	底部	－	(10.9)	(4.3)	組織痕	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	○		○	砂粒	良好
	356	1615	A－28	Ⅳb	深鉢	底部	－	(9.6)	(4.8)	組織痕	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○		○	砂粒	良好
	357	2203	A－31	Ⅳa	深鉢	底部	－	4.0	(2.2)	－	外：工具ナデのちナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	○			砂粒	良好
50	358	2542	B－27	Ⅳa	円盤状土製品	側部	－	－	－	沈線文，竹管による刺突文	外：工具ナデ 内：工具ナデ	10YR3/1 (黒褐)	10YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
	359	1401	B－28	Ⅳa	円盤状土製品	口縁	－	－	－	装飾用粘土紐上に棒状工具による連続刺突文	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	7.5YR3/1 (黒褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)	○	○		砂粒	良好
	360	533	B－26	Ⅳa	円盤状土製品	底部	－	－	－	組織痕?	外：欠ッナデ 内：ナデ	7.5YR6/6 (橙)	5YR5/6 (明赤褐)	○		○	砂粒	良好
	361	935	B－26	Ⅳa	円盤状土製品	底部	－	－	－	組織痕?	外：ナデ 内：工具ナデのちナデ	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○		○	砂粒	良好
	362	262	B－33	Ⅳa	円盤状土製品	底部	－	－	－	綱代痕	外：－ 内：指頭圧痕のちナデ	7.5YR6/6 (橙)	10YR6/6 (黄橙)	○		○	砂粒	良好
	363	2179	A－32	Ⅳa	円盤状土製品	底部	－	－	－	組織痕?	外：ナデ 内：指頭圧痕	10YR3/1 (黒褐)	10YR7/4 (明黄褐)	○		○	砂粒	良好
	364	1454	B－28	Ⅳa	円盤状土製品	底部	－	－	－	組織痕?	外：ナデ 内：ナデ	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)	○		○	砂粒	良好

表11　縄文時代土器観察表(7)

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	部位	類別	口径・底径	器高	文様・調整(外/内) 文様	文様・調整(外/内) 調整	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 カクセン	胎土 その他	焼成
51	365	133	B －25	Ⅲ	深鉢	胴部	Ⅷ	－	－	－	外：ミガキのようなヘラナデ 内：ナデ	10YR3/4 (にぶい黄褐)	10YR4/2 (灰黄褐)	○	○		白色粒	良好
	368	一括	A －33	Ⅳ a	浅鉢	口縁	Ⅸ	－	－	－	外：ナデ　ミガキ 内：ナデ	10YR7/4 (にぶい黄橙)	10YR5/2 (灰黄褐)				精緻	良好
	367	255	B －33	Ⅳ a	浅鉢	口縁	Ⅸ	－	－	沈線文	外：ミガキ 内：ミガキ	10YR5/3 (にぶい黄褐)	10YR3/1 (黒褐)				精緻	良好
	368	270	B －33	Ⅳ a	浅鉢	口縁	Ⅹ	－	－	－	外：工具ナデ 内：工具ナデのちミガキ	7.5YR3/2 (黒褐)	7.5YR3/3 (暗褐)	○				良好
	369	701	B －27	Ⅳ a	浅鉢	口縁	Ⅹ	－	－	－	外：工具ナデ 内：工具ナデのちナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	10YR3/2 (黒褐)	○	○		白色粒	良好
	370	196	B －33	Ⅳ a	浅鉢	口縁	Ⅹ	－	－	－	外：ナデ 内：ミガキ	10YR3/1 (黒褐)	5YR5/6 (明赤褐)	○			砂粒	良好
	371	211	A －32	Ⅳ a	浅鉢	口縁	Ⅹ	(42.4)	(13.7)	縄代底平編み	外：条痕のちナデ 内：ミガキ下擦なナデ	10YR7/6 (明黄褐)	10YR7/6 (明黄褐)	○	○			良好
		301	A －33	Ⅳ a														
		302	A －33	Ⅳ a														
		303	A －33	Ⅳ a														
		304	A －33	Ⅳ a														
		305	A －33	Ⅳ a														
		331	A －33	Ⅳ a														
		332	A －33	Ⅳ a														
		333	A －33	Ⅳ a														
		334	A －33	Ⅳ a														
		337	A －33	Ⅳ a														
		1484	A －33	Ⅳ b														
	372	2159	B －32	Ⅳ a	浅鉢	胴部	Ⅹ	－	－	縄代底平編み	外：－ 内：ミガキ	10YR7/6 (明黄褐)	10YR3/2 (黒褐)	○				良好
	373	138	B －34	Ⅲ	浅鉢	胴部	Ⅹ	－	－	もじり編み	外：ナデのち施文 内：ナデ	5YR4/6 (赤褐)	7.5YR3/1 (黒褐)	○			砂粒	良好
		151	B －34	Ⅲ														
	374	894	A －28	Ⅳ a	鉢	胴部	ⅩⅠ	－	－	－	外：ナデ 内：ナデ	10YR4/1 (褐灰)	10YR4/1 (褐灰)				精緻	良好
	375	893	A －28	Ⅳ a	鉢	胴部	ⅩⅠ	－	－	－	外：ナデ 内：ナデ	10YR4/1 (褐灰)	10YR4/1 (褐灰)				精緻	良好

石器

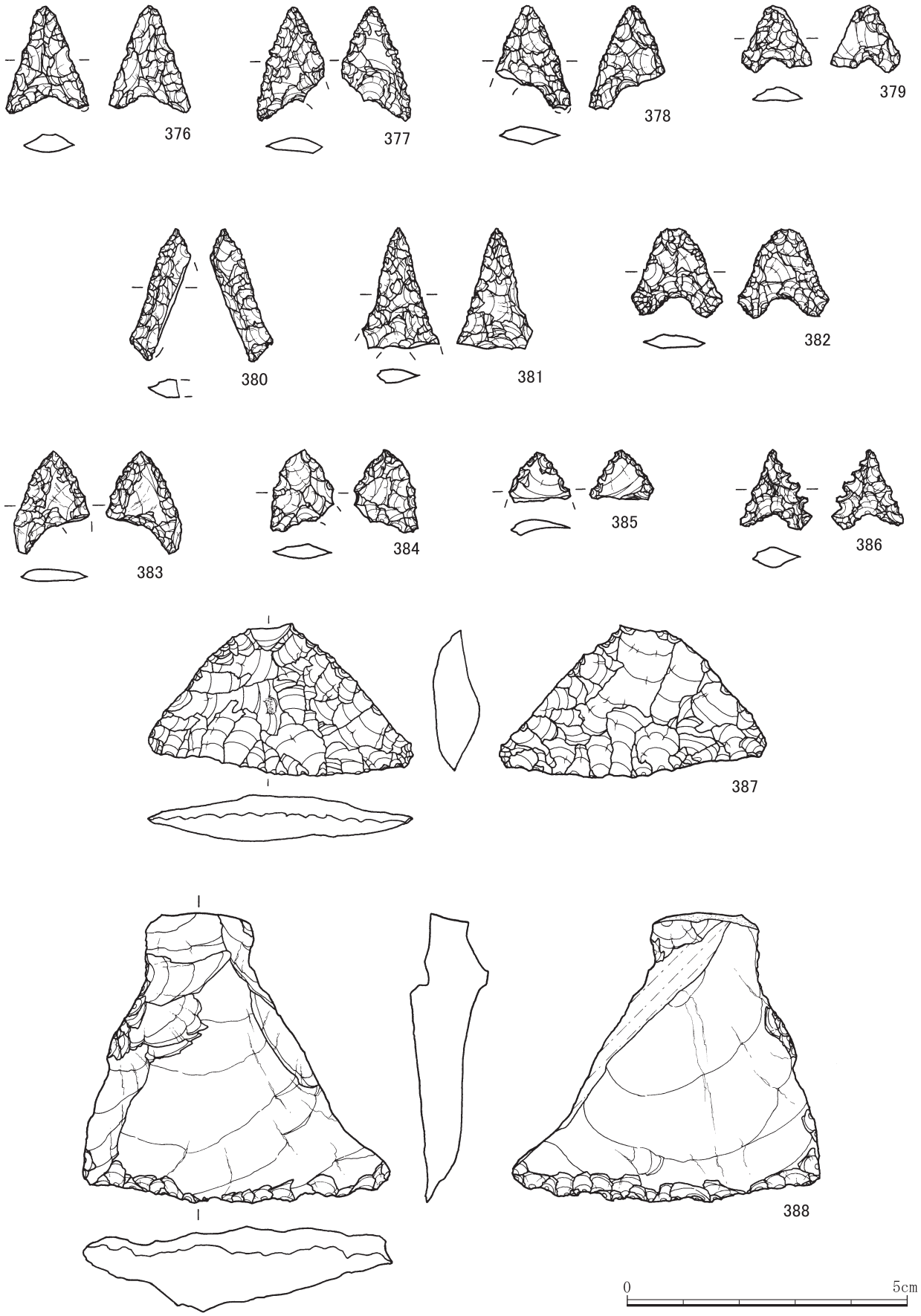
376 ～ 386 は石鏃である。376 は安山岩を用いた二等辺三角形状の石鏃で，抉りが浅い。377 は黒色を基調とするガラス光沢の強い半透明の黒曜石で，主要剥離面が残る比較的抉りの浅い石鏃である。378 は赤みがかった灰色のチャートで，扁平で抉りが深い。379 は灰白色の珪質の強い砂岩で，正三角形状のものである。380 は灰色のチャートで節理で破断したものである。381 は白色を基調に黒色の班文が入るもので，先端部から基部にかけての部分がふくらむ，抉りの深い石鏃と思われる。382 は白色のチャートで，扁平で先端が鈍い。383 は灰色の節理の多いチャートで，扁平で抉りが深い。384 は安山岩で抉りの浅いものである。385 は黒曜石の石鏃の先端部で未製品の可能性がある。386 は，黒色を基調とするガラス光沢の強い半透明の黒曜石で，鋸歯状の刃部をもつ。

387，388 は石匙である。387 は白色のチャートで，つまみ部を欠損している。388 は灰白色の節理の多いチャートを用い，節理でわずかに破断したが，その節理面をそのまま再利用したものと考えられる。389，390 は節理の多い灰色チャートの使用痕剥片である。391 は黒色を基調とする半透明で不純物が多い黒曜石の二次加工剥片である。392，393 はガラス光沢のない漆黒の黒曜石の剥片である。394 はガラス光沢のある不透明な若干の不純物を含む黒曜石の石核である。打面転移を繰り返しながら，小剥片を繰り返し剥出している。

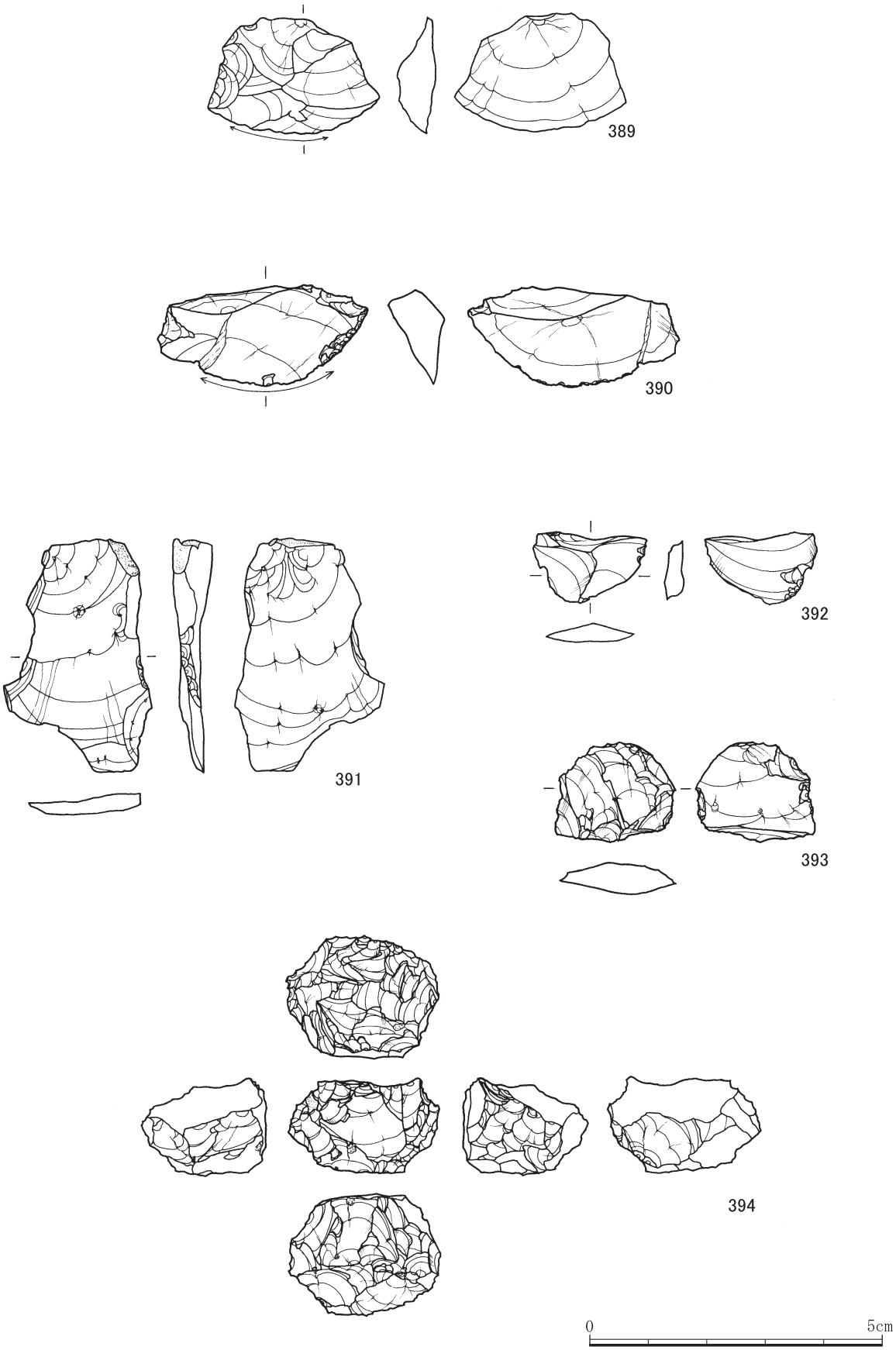
395 は硬質頁岩の磨製石斧，396 ，397 は同じく硬質頁岩の磨製石斧の基部にあたる。398 は頁岩のノミ形の石斧で，剥離により整形後に研磨し，刃部を研ぎ出している。399 は凝灰岩の磨・敲石である。400 は砂岩の磨・敲石であり，片面が繰り返しの強い打撃によるものか，貝殻状の剥離が見られる。 401～403 は凝灰岩を用いており，401 は，周縁部分は敲打され，平坦面は磨られている。402 は平坦面が磨られ，403 は先端部に敲打痕が顕著である。

404 ～ 407 の石皿はすべて凝灰岩のものである。404 は石皿の半欠品で，中央部に凹みがある。405 は表裏面に凹みがある石皿の破片である。406 は片面に顕著な凹面の平滑面を有す。407は大きな敲打痕を中央部にもつ。

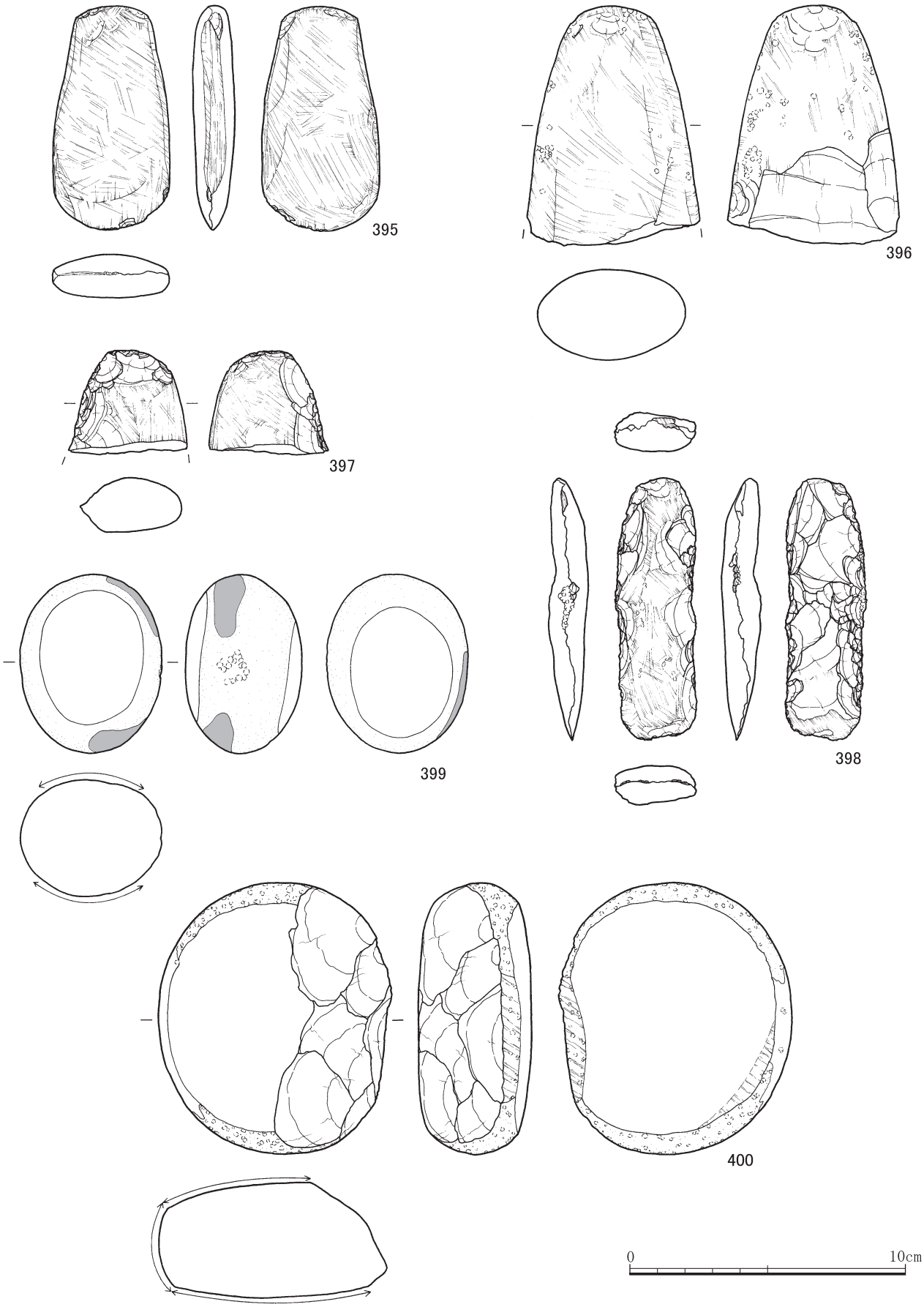
408 は軽石の面取りされたもので，用途は不明である。



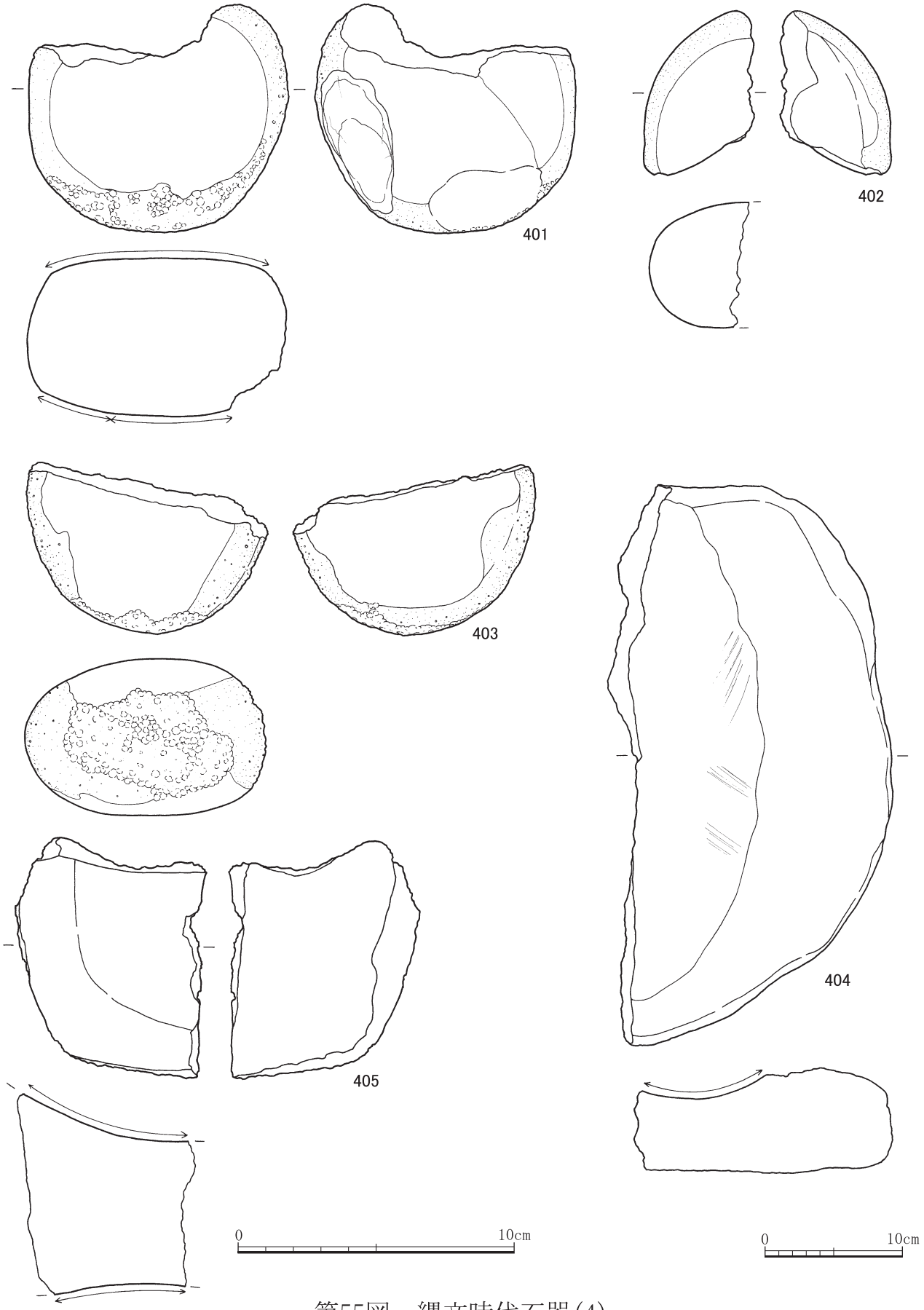
第52図　縄文時代石器(1)



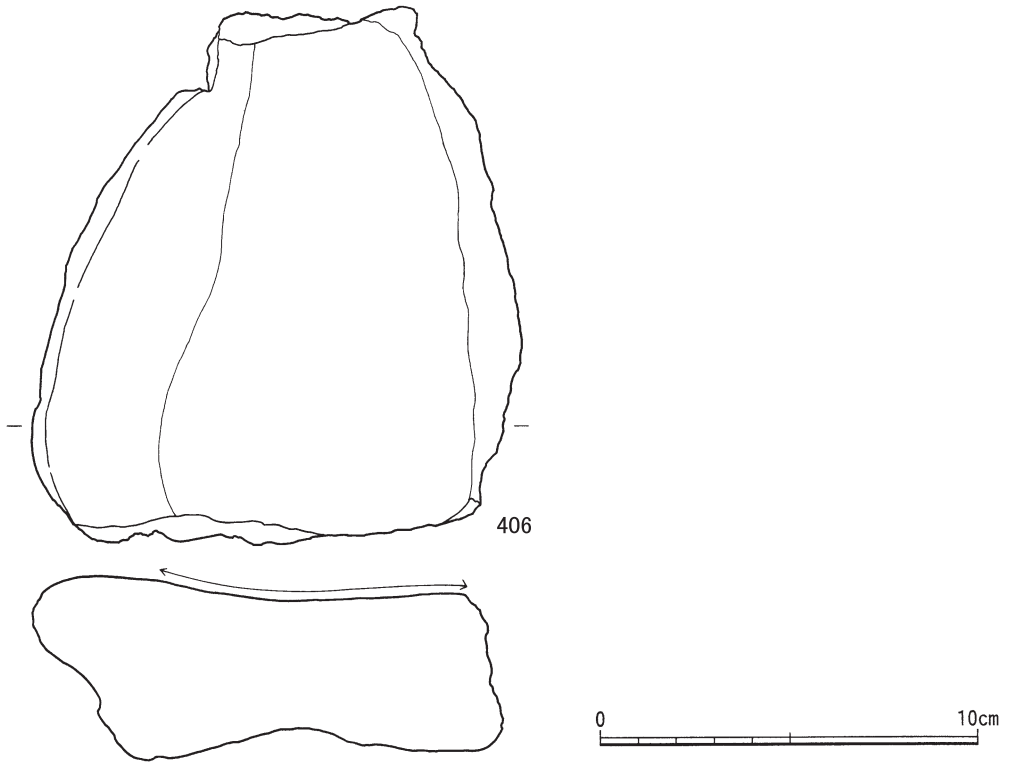
第53図　縄文時代石器(2)

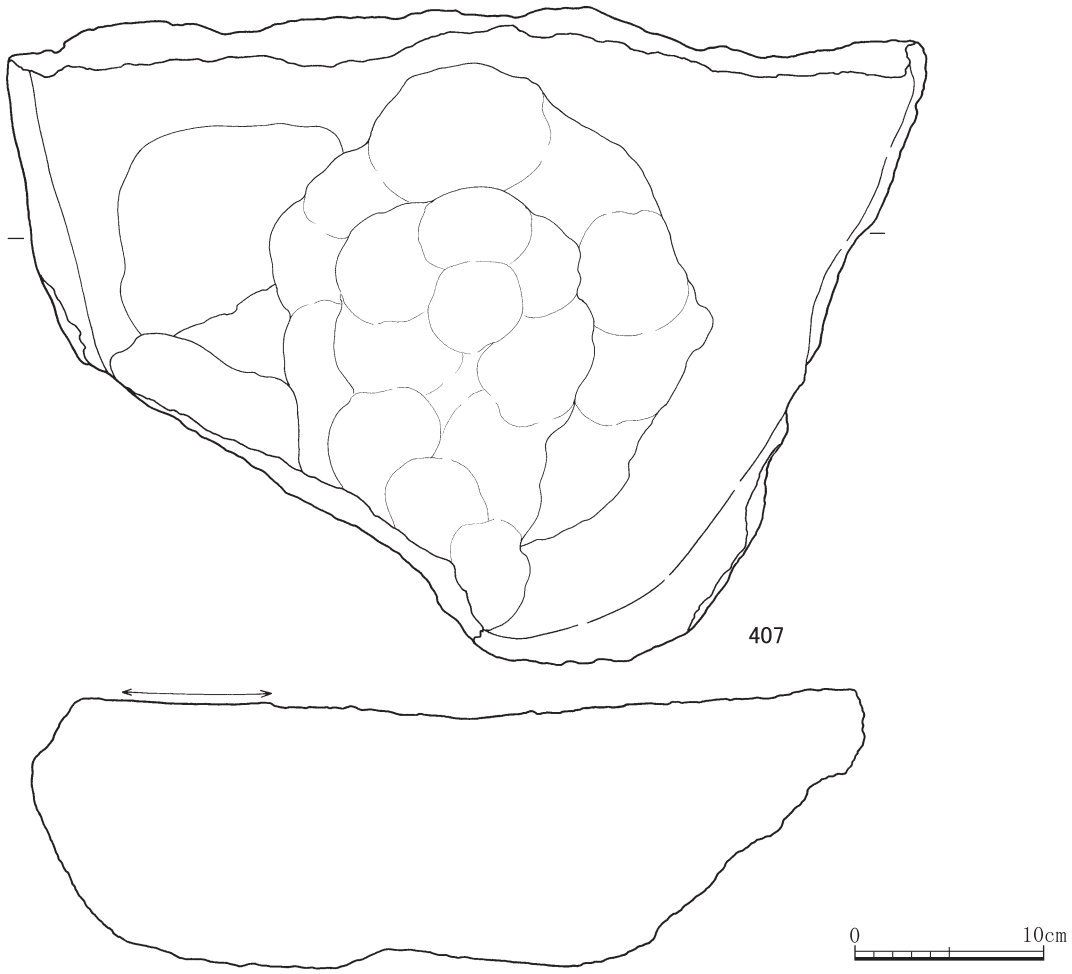


第54図　縄文時代石器(3)

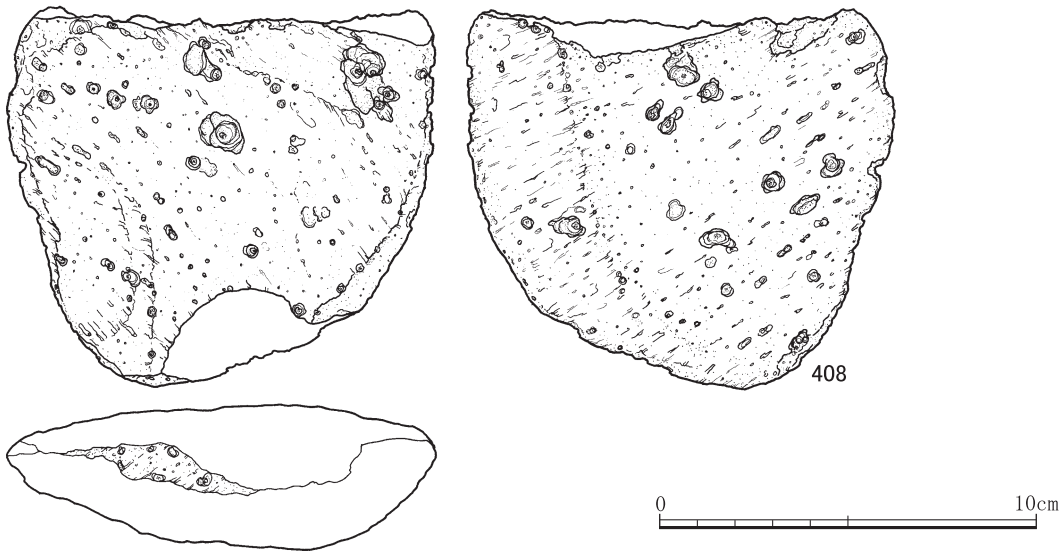


第55図　縄文時代石器(4)





第56図　縄文時代石器(5)



第57図　縄文時代石器(6)

表12　縄文時代石器観察表

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド	層位	器種	石材	計測値				備考
							長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	
52	376	1716	B－27	Ⅳb	石鏃	安山岩	19.5	15.0	3.0	0.72	－
	377	SH3-29	B－30	－	石鏃	黒曜石	20.5	12.5	3.0	0.53	－
	378	2811	B－27	Ⅳb	石鏃	チャート	18.5	13.5	3.5	0.52	－
	379	2006	B－33	Ⅴa	石鏃	チャート	12.0	12.5	2.5	0.22	－
	380	1729	B－27	Ⅳb	石鏃	チャート	24.0	11.5	3.0	0.42	－
	381	2818	B－27	Ⅳb	石鏃	チャート	22.0	14.0	3.0	0.65	－
	382	1691	B－28	Ⅳb	石鏃	チャート	16.0	16.5	2.5	0.59	－
	383	1618	B－28	Ⅳb	石鏃	チャート	18.5	14.0	2.5	0.46	－
	384	106	C－25	Ⅳa	石鏃	安山岩	14.5	11.5	2.5	0.36	－
	385	1547	B－33	Ⅳb	石鏃	黒曜石	9.0	11.5	3.0	0.20	－
	386	205	A－33	Ⅲ	石鏃	黒曜石	14.5	13.0	3.5	0.35	－
	387	828	B－34	Ⅳb	石匙	チャート	(25.5)	47.5	8.5	8.47	－
	388	2479	B－27	Ⅳa	石匙	チャート	52.0	55.5	15.0	27.24	－
53	389	789	B－27	Ⅳa	使用痕剥片	チャート	20.0	29.5	6.5	3.24	－
	390	78	B－26	Ⅳa	使用痕剥片	チャート	17.5	36.0	10.0	4.54	－
	391	2309	B－32	Ⅳb	二次加工剥片	黒曜石	40.0	26.0	7.0	4.34	－
	392	1496	B－33	Ⅳb	剥片	黒曜石	12.5	19.5	4.0	0.78	－
	393	3058	B－28	Ⅳb	剥片	黒曜石	17.5	20.5	6.0	2.27	－
	394	3057	B－28	Ⅳb	石核	黒曜石	16.5	26.0	22.0	9.37	－
54	395	2513	B－27	Ⅳa	磨製石斧	硬質頁岩	81.5	43.0	16.0	84.65	－
	396	369	B－26	Ⅳa	磨製石斧	硬質頁岩	86.5	63.0	33.0	240.00	基部
	397	124	B－26	Ⅳa	磨製石斧	硬質頁岩	38.0	43.5	20.5	44.02	基部
	398	1082	B－26	Ⅳa	ノミ形石斧	頁岩	95.0	29.5	14.5	48.96	－
	399	2295	A－32	Ⅳb	磨・敲石	凝灰岩	65.0	51.5	42.5	209.00	－
	400	983	B－26	Ⅳa	磨・敲石	砂岩	98.0	85.0	41.5	515.00	－
55	401	2093	B－25	Ⅴa	磨・敲石	凝灰岩	83.5	95.0	57.5	590.00	－
	402	989	B－26	Ⅳa	磨・敲石	凝灰岩	60.0	41.0	46.0	137.20	－
	403	2234	A－31	Ⅳa	磨・敲石	凝灰岩	63.0	88.5	57.5	355.00	－
	404	1000	C－26	Ⅳa	石皿	凝灰岩	408.0	197.0	77.0	8600.00	－
	405	2207	A－31	Ⅳa	石皿	凝灰岩	87.5	69.5	72.5	585.00	－
56	406	226	B－34	Ⅳa	石皿	凝灰岩	142.5	130.5	50.5	1065.00	－
	407	367	B－26	Ⅳa	石皿	凝灰岩	348.0	487.0	150.0	28800.00	－
57	408	1010	B－26	Ⅳa	軽石製品	軽石	101.5	113.5	38.5	95.90	－

3 古墳時代の調査

古墳時代の遺構及び，遺物はⅣ層上面で検出された。Ⅲ層は黒色土で，ボラ抜きや耕作等で一部削平されている箇所もあった。

Ⅰ層の表土，Ⅱ層の文明ボラは重機で除去した後，Ⅲ層上面から掘り下げを開始した。遺構は竪穴住居跡が３基とその中から成川式土器と磨石や石皿などが出土した。

竪穴住居跡１号

C.D-22区においてⅣb層上面で住居２号と並んで検出された。西側部分は，調査区外であったため未調査である。検出時のプランは，一辺が4m，調査区外に広がる部分を含めるとほぼ方形であるが，未調査部分を入れると，住居の形状は長方形を呈すると考えられる。

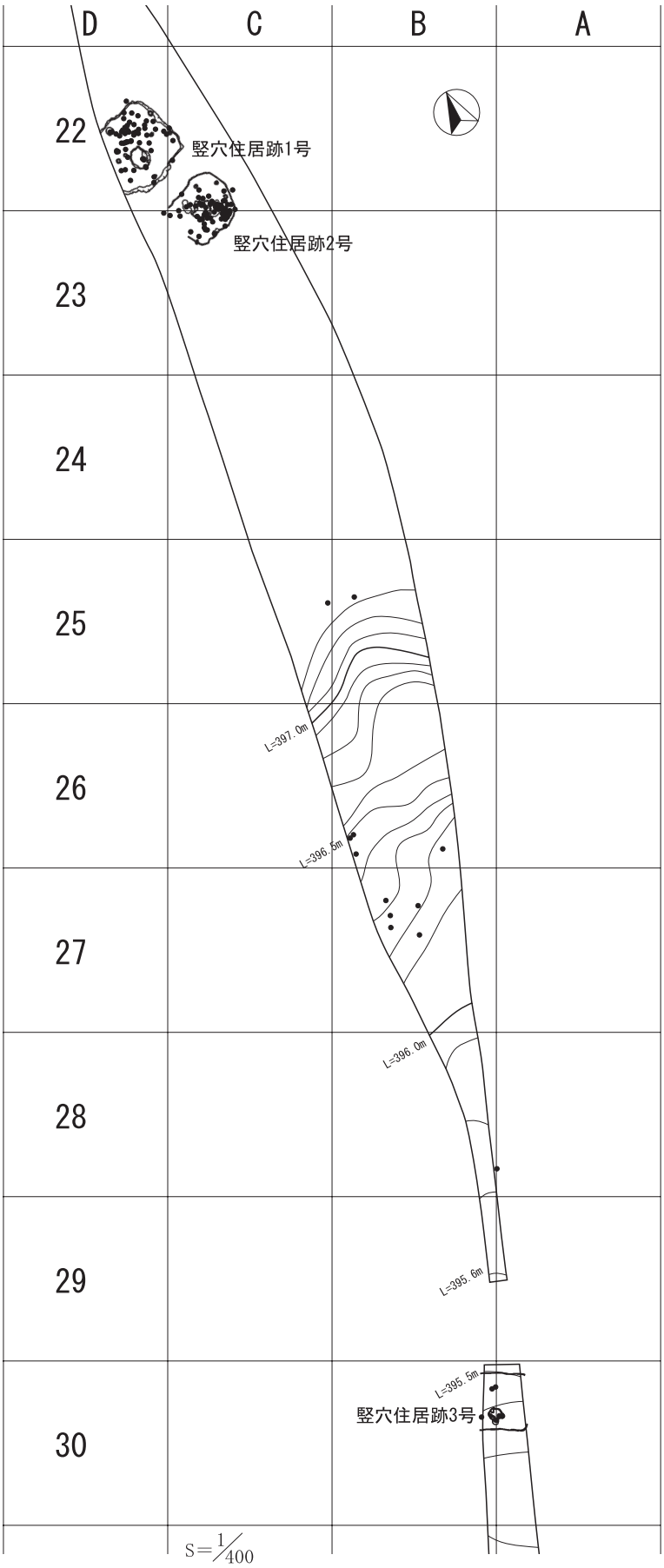
調査は，中央を通る2本の直行するベルトを設定して掘り下げを開始した。中央部分は深さ25cm程度であった。床面には張り床と考えられる硬化面が検出され，それを除去した後，柱穴と考えられるピットが７基検出された。検出されたピットのうち，P4～P6は深く，いずれも50cm程であった。住居のほぼ中央部分に炉跡と考えられる掘り込みと，焼土及び炭化物が広がっている部分が確認された。掘り込みの深さは，床面から15cm程度であった。埋土からは土器片54点，磨石と考えられる石器３点の計57点が出土した。

その内，古墳時代のものと判断される土器片のうち，壺２点，甕６点の計８点，石器３点を図化した。

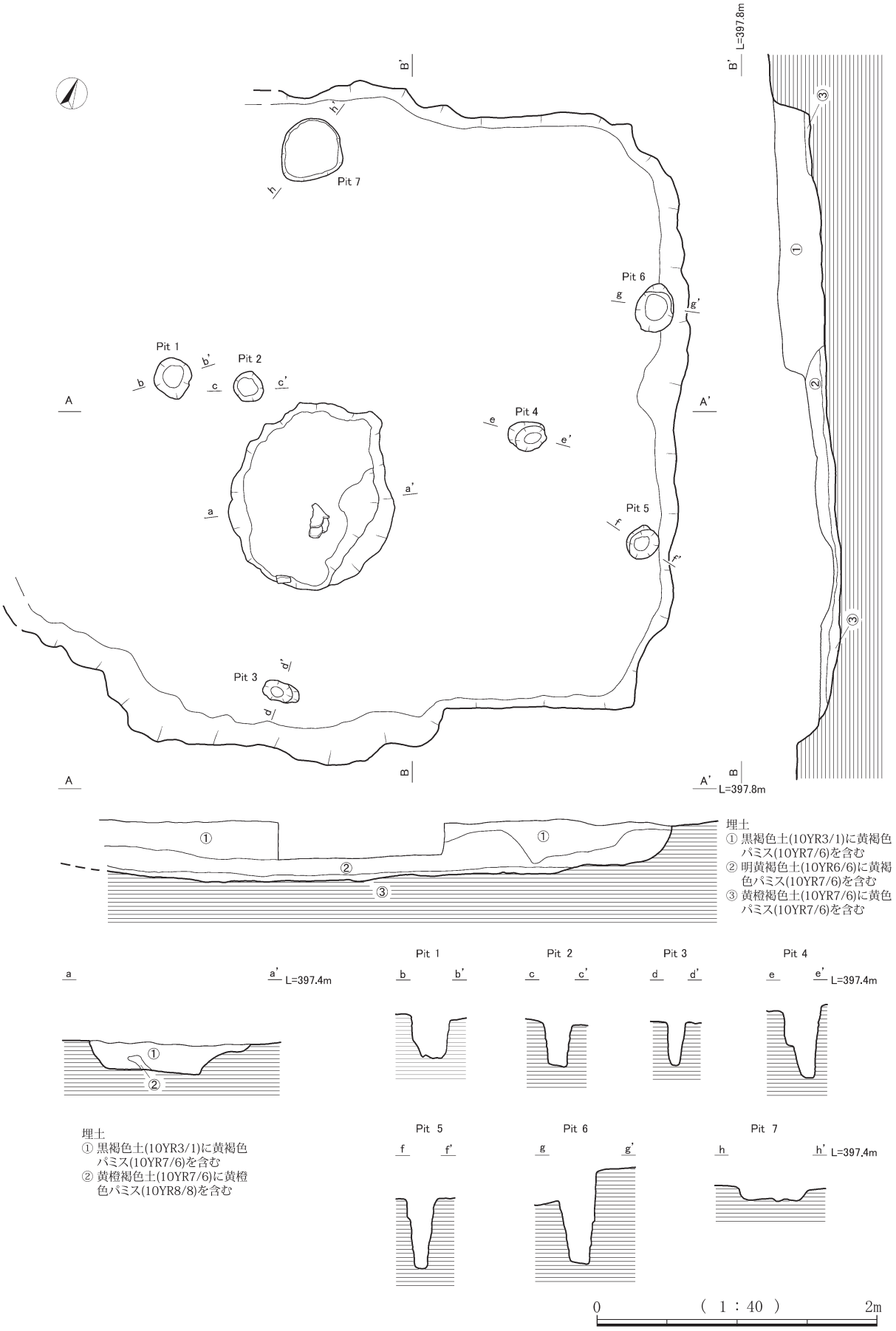
409は壺の底部である。底部から胴部に向かって緩やかに開く器形である。外面は横方向のナデ調整が施されているが，表面は凹凸が見られる。

410は底部の欠損した甕で炉の掘り込み内から出土した。外面の頸部にススの付着が見られることから煮炊きに使用した可能性が考えられる。

器形は底部から胴部にかけて開き，

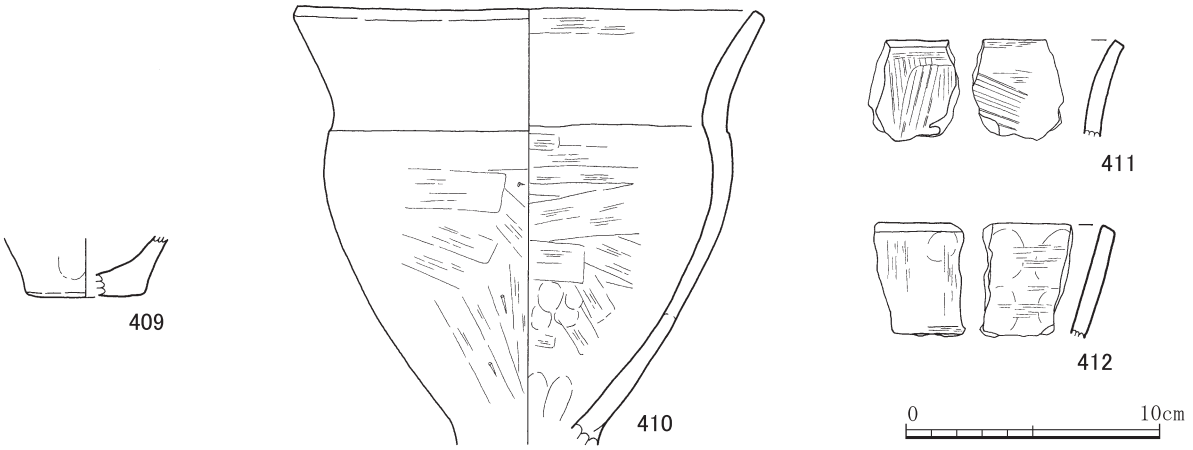


第58図　古墳時代遺構配置図及び遺物出土状況



第59図　古墳時代竪穴住居跡1号検出状況

第60図　古墳時代竪穴住居跡1号遺物出土状況



第61図　古墳時代竪穴住居跡1号内出土遺物(1)

頸部が窄まり，口縁部にかけて緩やかに立ち上がる。

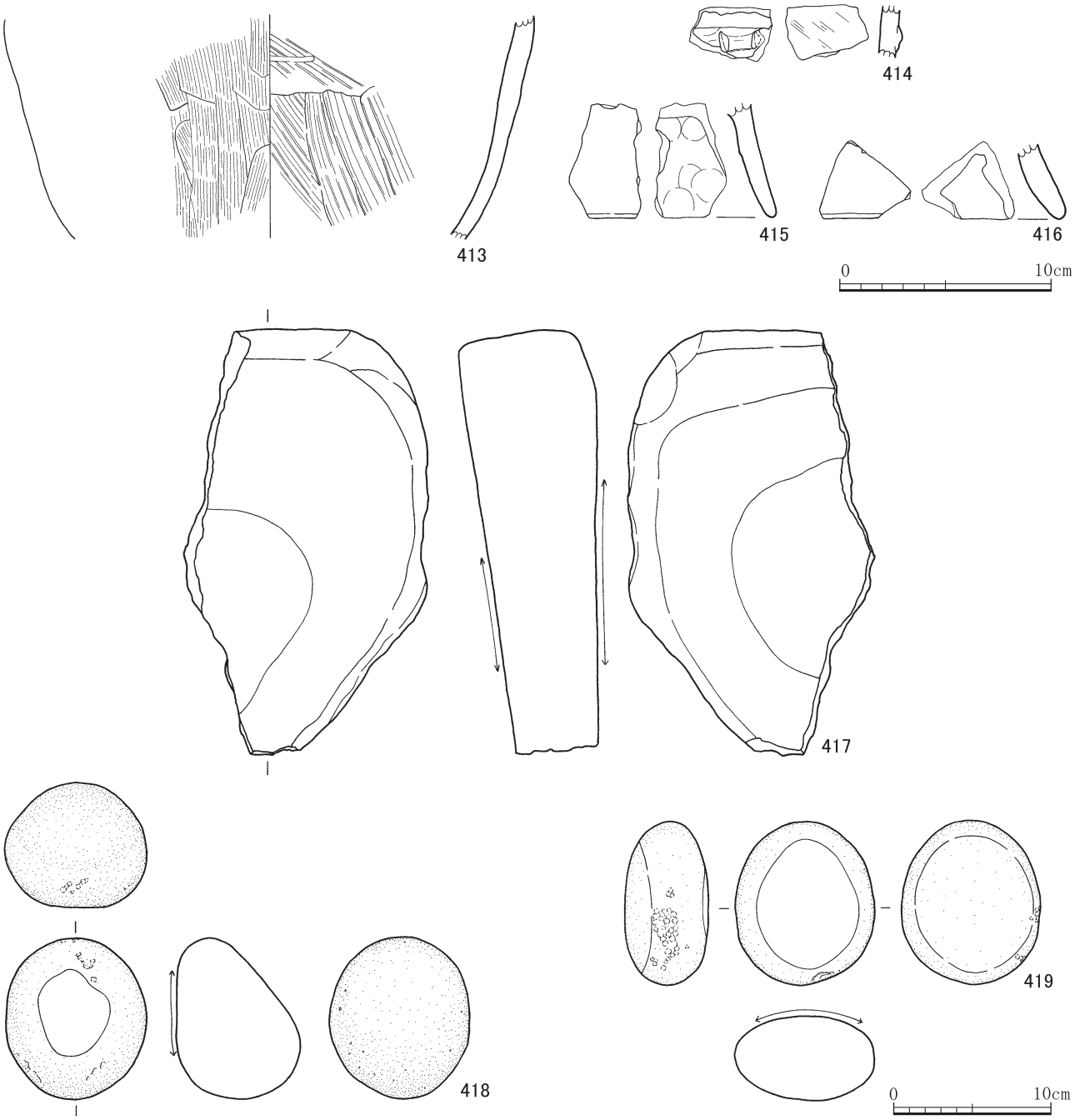
調整の特徴として，口縁部内面と胴部内面との境界付近は，ナデ調整により稜が形成されている。これは中津野式土器の一つの指標でもある調整方法である。外面に着目してみると，口縁部外面と胴部の境界付近はヘラナデ調整が施され，稜線が不明瞭である。また，胴部下半はヘラ状工具により調整が施されているが，粗雑でケズリ痕が残る上に調整を施す際，胎土に含まれていた小石が移動した時についた痕跡が明瞭に残る。

411，412 は甕の口縁部で，いずれも口唇部には，ナデ調整により平坦面が形成される。411 は口縁部がわずかに外反する器形である。口唇部の平坦面に浅い刺突痕と浅い溝が観察される。

412 は口縁部が直行する器形である。外面にはススが付着している。413 ～ 416 の 4 点は甕で，その内 413と 414 は胴部である。

413 は器壁の厚みが 0.8 ～ 1cm とばらつきが見られる。外面にはわずかにススが付着する。内面外面ともハケメ調整痕が残る。414 は幅 1cm 程の突帯が付く。

415，416 の 2 点は甕の脚部である。415 は外面に調整の



第62図　古墳時代竪穴住居跡1号内出土遺物(2)

際に胎土中の小石の移動によってついた線が明瞭に残る。底部があまり広がらない。416は，上部の厚みが11mmと厚い。底部から脚部にかけてわずかに開く。

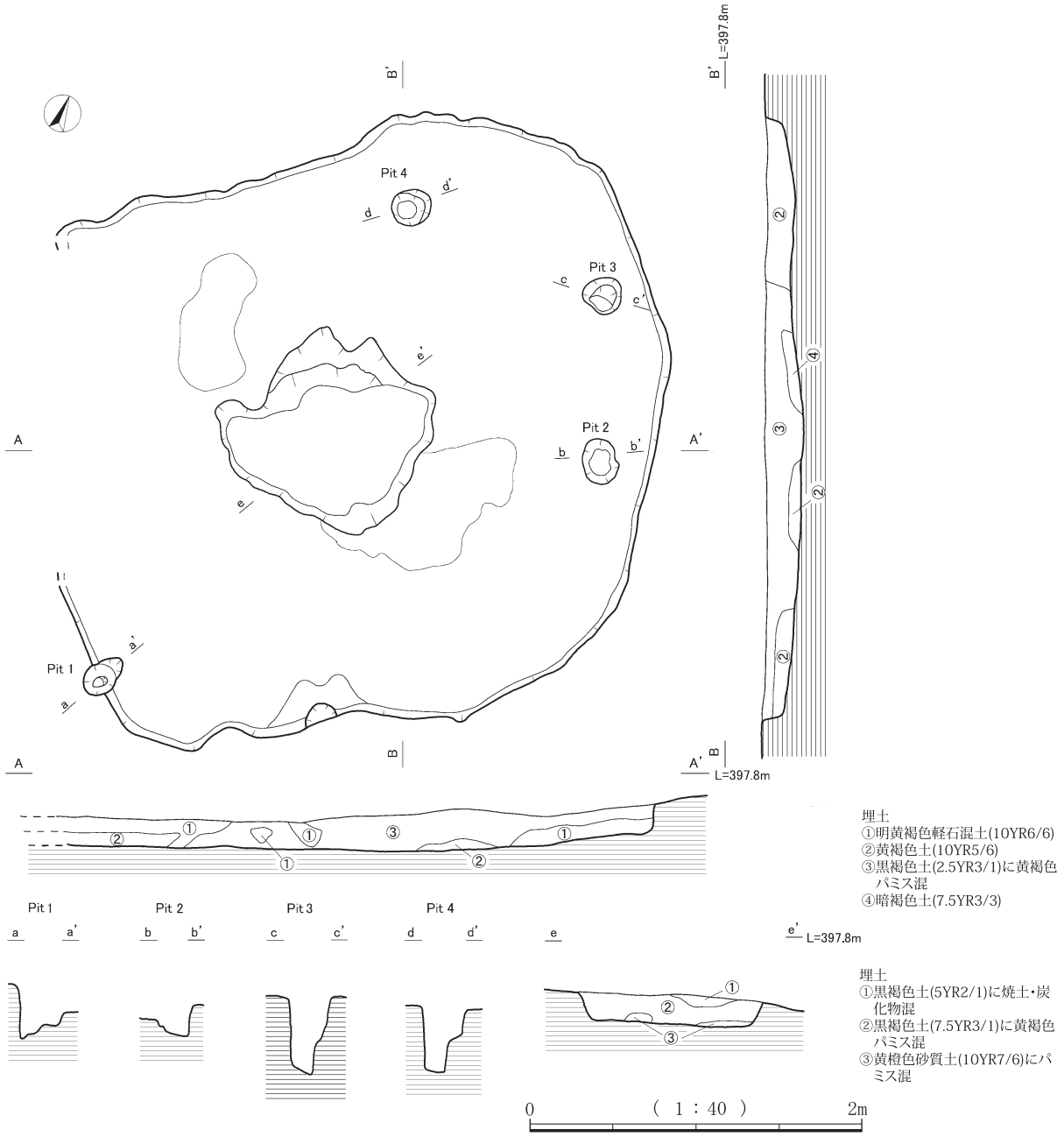
417は安山岩製の平型の石皿である。半分が欠損し，両面の中央に擦り面がある。

418,419はいずれも安山岩製の磨石で片面に擦り面がある。側面には敲打痕が残る。

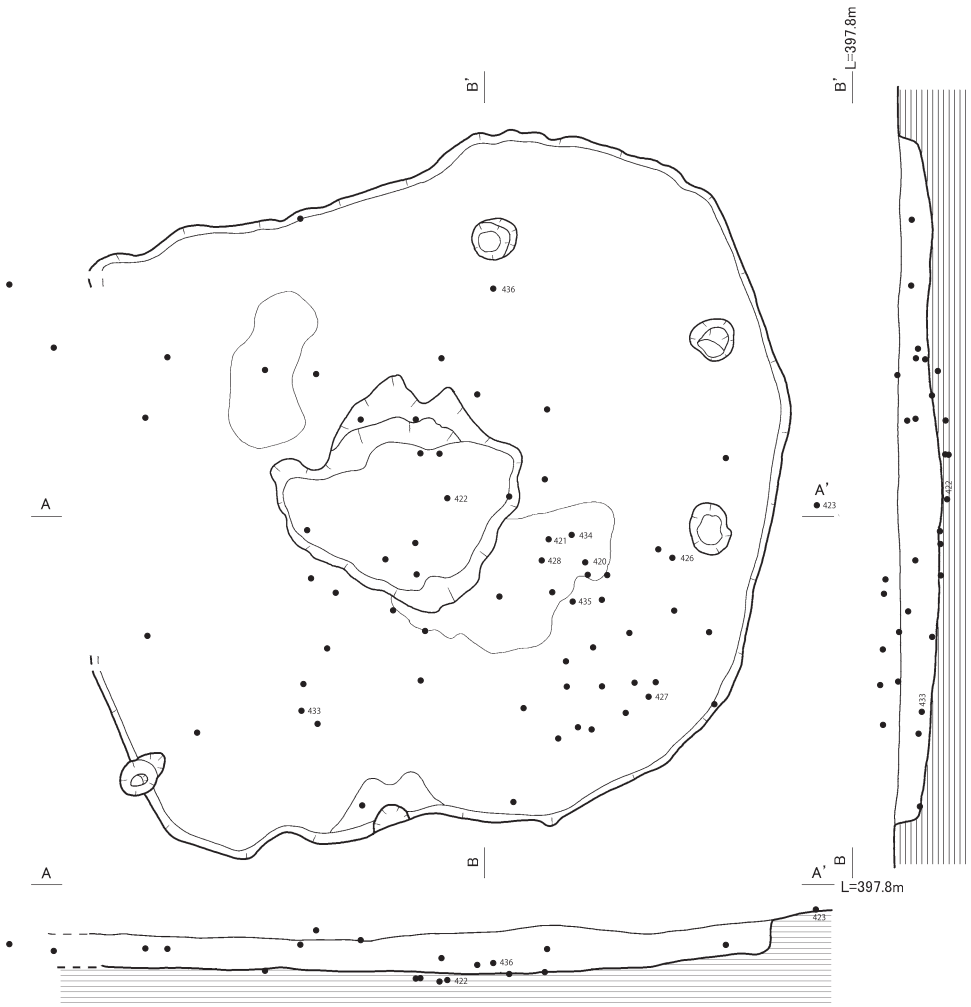
竪穴住居跡2号

C-22・23区において，竪穴住居跡1号と並んでⅣb層上面で検出された。検出時のプランは，長辺3.3m，短辺3.2mのほぼ方形を呈する。調査は，中央を通る2本の直行するベルトを設定して掘り下げた。中央部分は深さ35cm程度である。中央部分に炉跡と考えられる掘り込みと，焼土及び炭化物が広がっている部分が確認された。掘り込みの深さは床面から12cm程度であった。炉をはさんで，東西両方向に炭化物が広がっており，その東側部分には，浅い掘り込みが確認された。床面には硬化面が検出され，それを除去したところ，柱穴と考えられるピットが4基検出された。そのうち，P3とP4は深く掘り込まれ，いずれも45cm程であった。

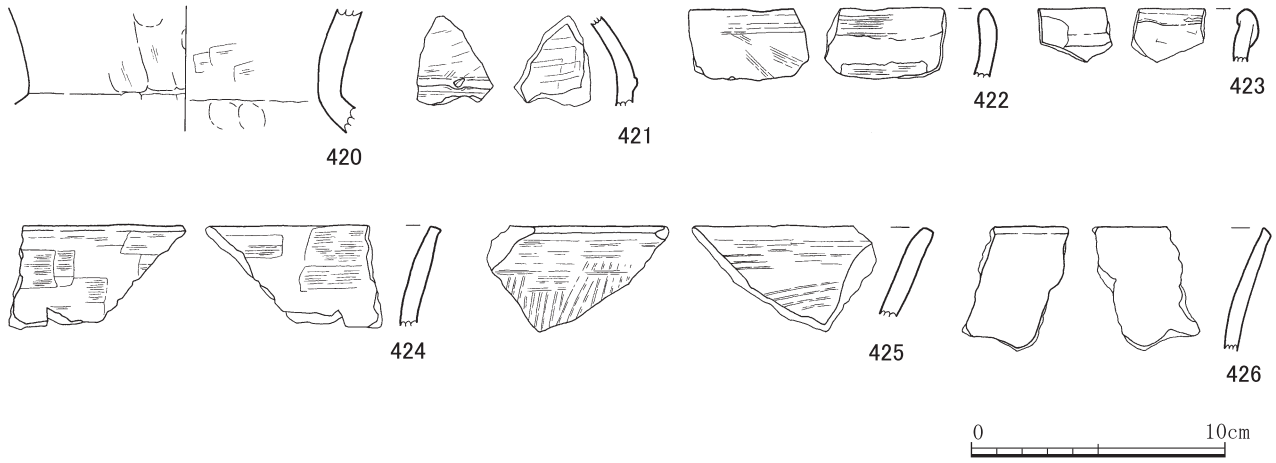
住居内から，土器片110点，石器1点，計111点の遺物が出土した。その内，突帯を持つ成川式土器片が床着で出土したため，住居は古墳時代のものと判断した。古墳時代の土器片の内，壺2点，鉢1点，甕14点の計17点を図化した。



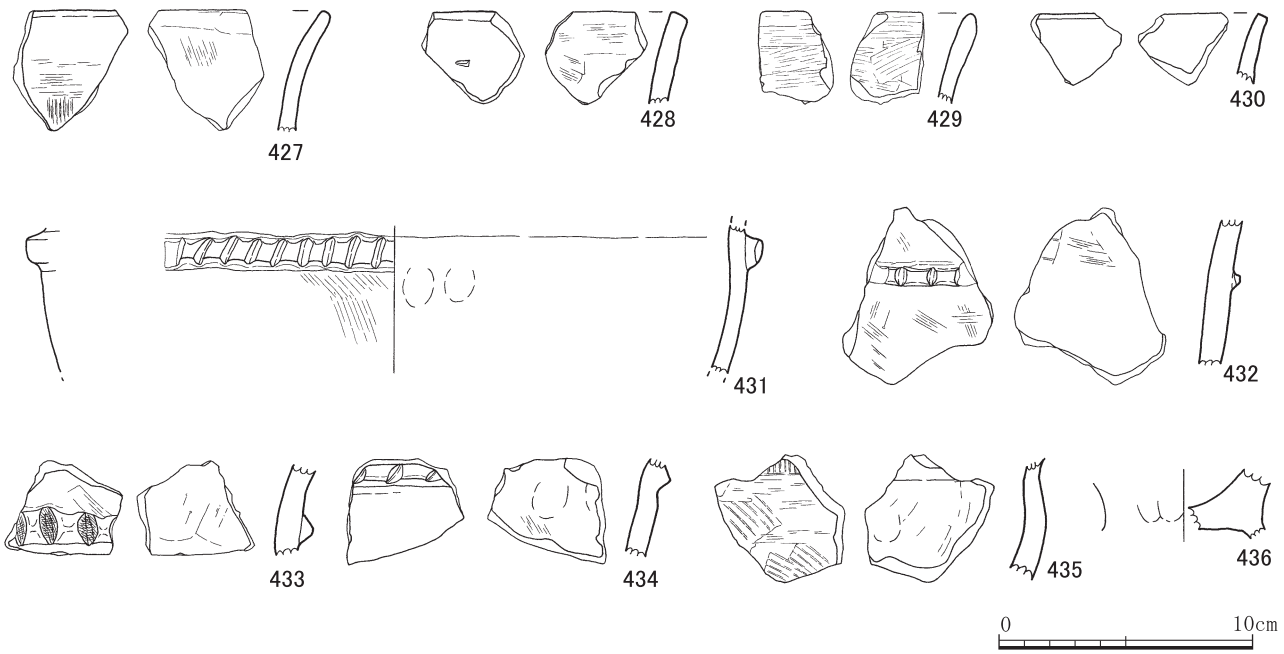
第63図　古墳時代竪穴住居跡2号検出状況



第64図　古墳時代竪穴住居跡2号遺物出土状況



第65図　古墳時代竪穴住居跡2号内出土遺物(1)



第66図　古墳時代竪穴住居跡2号内出土遺物(2)

420，421 は，壺の一部であり，420 は頸部である。頸部から口縁部に向かって緩やかに開く。頸部付近は器壁が0.8cmと薄いが，口縁部に向かって厚くなる。421 は胴部で胴部から口縁部にかけて内湾する器型である。幅の細い突帯が付く。

422，423 は鉢の口縁部である。422 は口縁部付近がわずかに内湾する器形である。外面の稜線は不明瞭である。口唇部は丸みを帯びる。423 は，口縁部外面 に突帯が付く。424 ～ 430 は甕の口縁部である。424 は胴部から口縁部にかけわずかに外反する。口唇部には，平坦面が作られる。425 は胴部から口縁部にかけて直線的に開く。外面は胴部から口縁部にかけて縦方向のハケメ調整が施されるが,口縁部付近 はその上から横方向にナデられる。

426 は胴部から口縁部にわずかに 開く器形である。427 は胴部からやや 直線的に立ち上がり，口縁部にかけてわずかに外反する。

428 は直線的に立ち上がる器形で，口唇部には平坦面が作られる。429 は胴部から緩やかに立ち上がり，口縁部付近がわずかに直立する。外面に不明瞭ながら稜を形成する。430 は口縁部がわずかに 外反し，口唇部には平坦面が作られる。

431 ～ 436 は甕の胴部である。431 は脚部から胴部に向かって開き，突帯付近から口縁部に向かってわずかに内湾する。突帯の幅は1.3cm 程である。外面の一部に被熱痕が残る。

432 は幅 0.5cm 程度の細めの突帯が付く。突帯下にススが付着する。胴部から口縁部にかけてわずかに開く。

433 は幅 1.3cm 程の突帯が付き，突帯から口縁部にかけて開く器形で布目痕が残る突帯が付く。434は幅 1cm 程の突帯が付く。突帯下が溝状に凹んでいる。

435 は甕の胴部で，突帯の一部が残る。脚部から突帯の下部にかけてわずかに開き，口縁部にかけて直線的に立ち上がる器型である。

436 は甕の胴部から脚部に至る部分である。脚部がわずかに開く器型である。

竪穴住居跡３号

A・B-30 区において Ⅳb 層上面 で 検出された。南東部分と北西部分 は調査区外 に伸びていると 考えられる 。調査は，中央を通る 2 本の直行するベルトを設定して掘り下げた。 中央部分は深さ 25cm 程度であった。床面には硬化面が検出され，それを除去したがピット等は確認されなかった。南側部分に炉跡と考えられる掘り込みが確認された。深さは，検出面から深い所で 25cm，中央付近は 15cm であった。 隣には炭化物の広がる区域があり，そこから成川式土器の底部が出土した。埋土から土器片が 54 点，石器が 2 点が出土した。その内，土器 4 点，石器 2 点を図化した。

437 は甕の底部である。底の部分にヘラ状工具で表面を削り取った痕が残る。外面は底部中央から放射状に調整痕が残る。

438 は甕の口縁部で，胴部から口縁部にかけてわずかに外反する。口唇部には平坦面が形成され，中央部分に溝が入れられる 。 439，440 は甕の脚部である。

439 は全体が赤褐色を呈する。内面，外面とも表面が粗く，調整痕が不明瞭である。底部から胴部にかけて直

線的に開く。440 は脚部が一部残る。器形は底部からわずかに開く脚部を持ち，底部から胴部にかけてやや開く形状が想定される。

441 は軽石製の石皿である。一部が欠損している。表裏両面に凹みが見られる。442 は頁岩製の砥石である。半分が欠損し，表裏及び側面に平滑面がある。側面に敲打痕が観察される。

古墳時代の遺物

443～450 は，住居跡以外から出土した古墳時代の遺物である。すべて，成川式土器片である。443 は壺で，口縁部から頸部に該当し，口縁部にかけて直線的に開く。

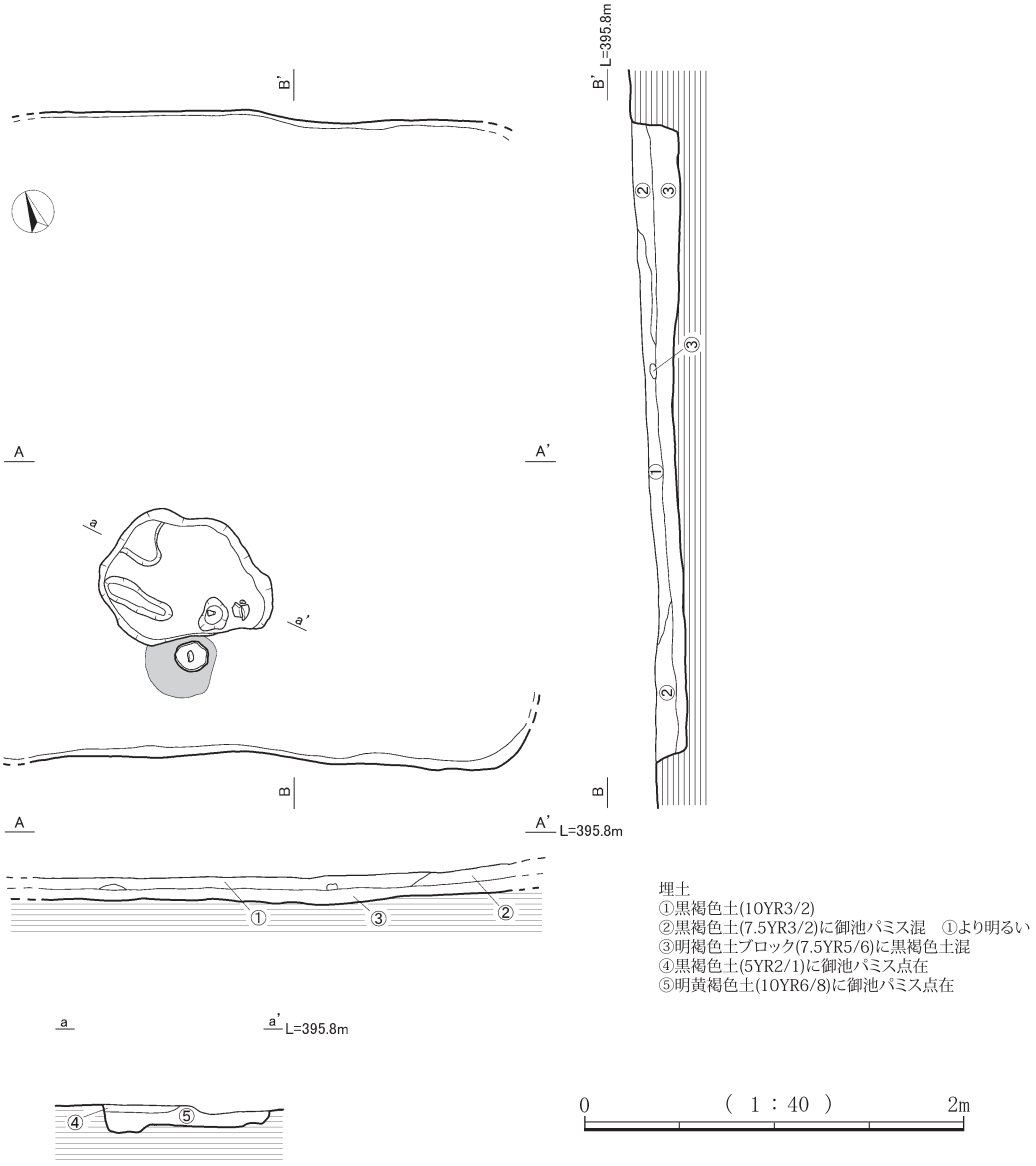
444 は壺の頸部で，胴部から頸部にかけてすぼまる器形である。445 は壺の底部で，底にはわずかに平坦面が形成される。

446 は甕の口縁部で，口縁部が大きく外反する器形で口唇部に平坦面が形成される。

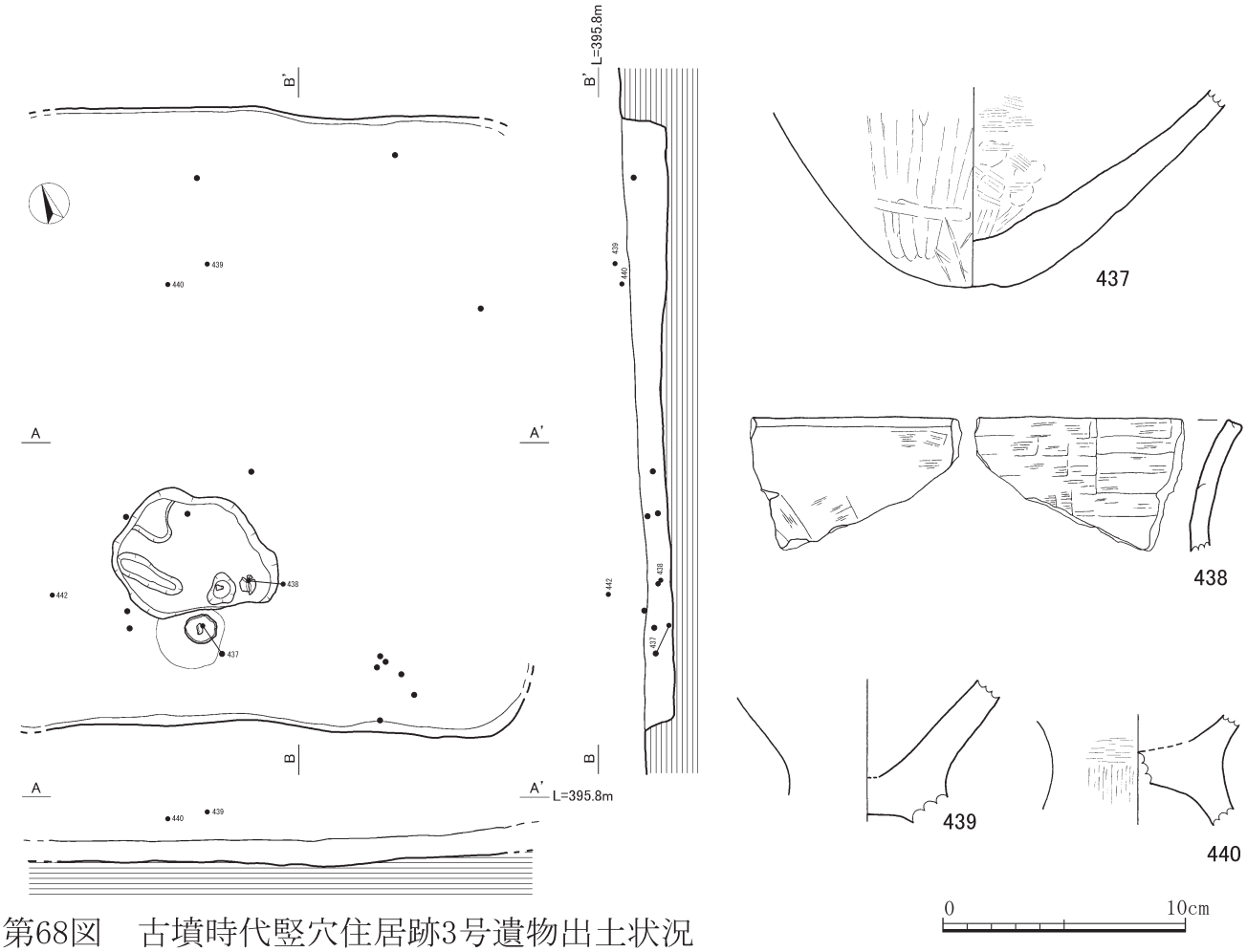
447 は甕の口縁部である。口縁部がわずかに外反する。口唇部は内面，外面両側からナデられ，平坦部がない。

448，449 はいずれも甕の胴部であり，1cm 幅の突帯が貼付される。448 は刻目に布目痕が明瞭に残る。449 は全体が赤褐色を呈し，器壁が 6mm とやや薄い。

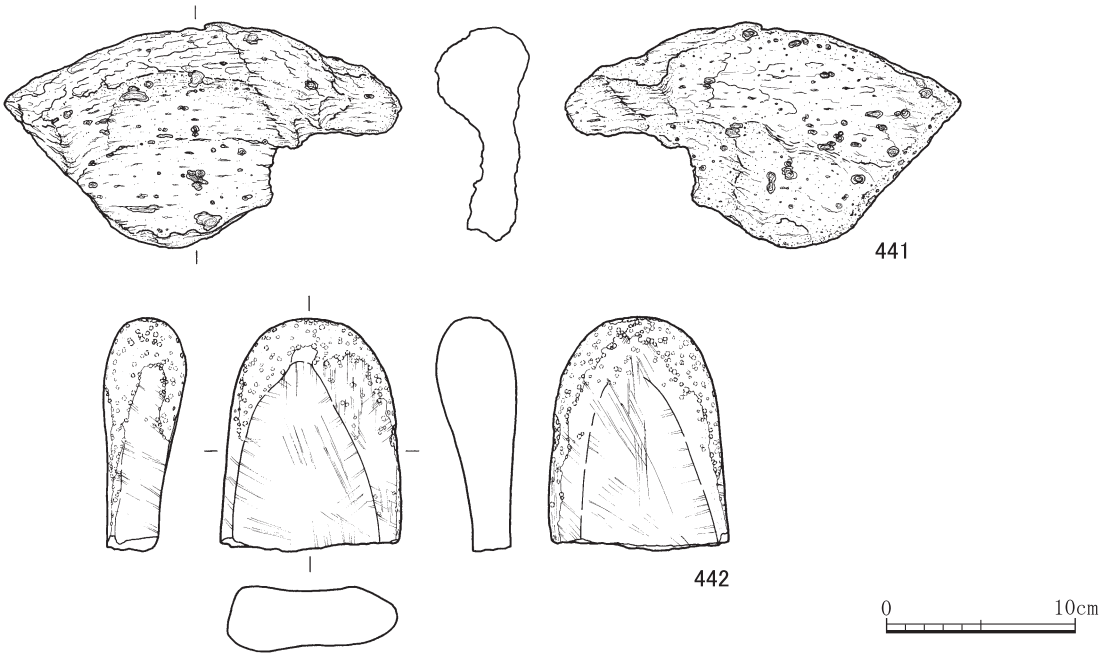
450 は，甕の脚部から胴部にかけての部分で，器面に胎土に含まれていた砂粒が露出する。底部から胴部にかけて直線的に立ち上がる器形である。



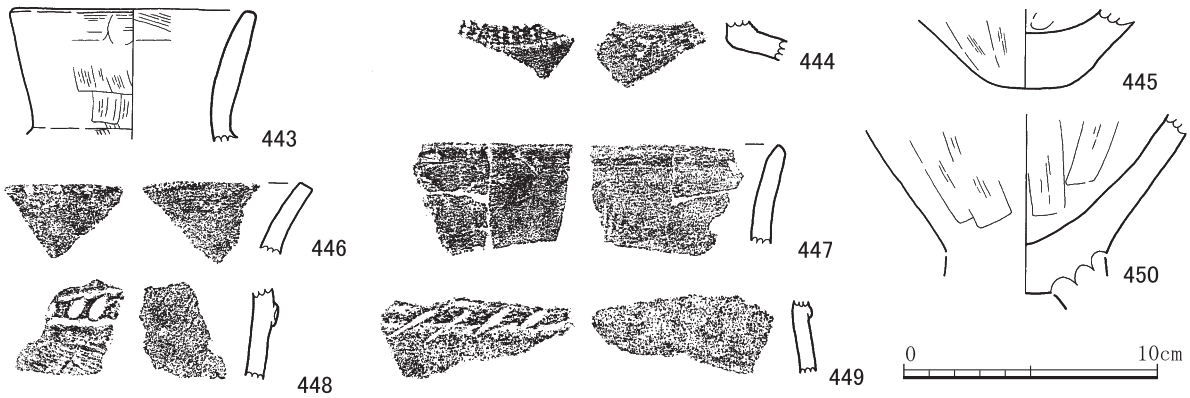
第67図　古墳時代竪穴住居跡3号検出状況



第68図　古墳時代竪穴住居跡3号遺物出土状況



第69図　古墳時代竪穴住居跡3号内出土遺物



第70図　古墳時代出土遺物

表13　古墳時代遺構内土器観察表

挿図	番号	遺構名	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	色調 内面	色調 外面	文様	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 砂粒	胎土 他	焼成	備考
61	409	竪穴住居跡1号	壺	底部	—	(4.5)	(2.3)	指頭圧痕，ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	—				○		良好	
	410	竪穴住居跡1号	甕	口縁～胴部	18.3	—	(17.2)	ヘラナデ，ハケナデ	ハケナデ，指頭圧痕	赤褐色 (5YR4/6)	赤褐色 (5YR4/6)	—				○		良好	スス付着
	411	竪穴住居跡1号	甕	口縁部	—	—	—	ハケメ，ナデ	ハケメ，ナデ	明赤褐色 (5YR5/6)	明赤褐色 (5YR5/6)	口唇部に沈線・刺突状か?	○			○		良好	
	412	竪穴住居跡1号	甕	口縁部	—	—	—	ヘラナデ	指頭圧痕，ヘラナデ	明赤褐色 (7.5YR5/6)	黒褐色 (10YR3/1)	—	○			○		良好	スス付着
62	413	竪穴住居跡1号	甕	胴部	—	—	—	ハケメ，指頭圧痕	ハケメ	赤褐色 (5YR4/6)	黒褐色 (7.5YR3/1)	—				○		良好	スス付着
	414	竪穴住居跡1号	甕	胴部	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	突帯に刻み(布目)	○			○		良好	
	415	竪穴住居跡1号	甕	脚部	—	—	—	ナデ	指頭圧痕，ナデ	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	—				○		良好	
	416	竪穴住居跡1号	甕	脚部	—	—	—	ハケメ	ナデ	明褐色 (7.5YR5/6)	明褐色 (7.5YR5/6)	—	○	○		○		良好	
65	420	竪穴住居跡2号	壺	頸部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ，指頭圧痕	明赤褐色 (5YR5/6)	明赤褐色 (5YR5/6)	—	○			○		良好	
	421	竪穴住居跡2号	壺	胴部	—	—	—	ハケナデ後ナデ	ナデ	灰黄褐色 (10YR5/2)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	突帯				○		良好	
	422	竪穴住居跡2号	鉢?	口縁部	—	—	—	ヘラナデ，ナデ	ヘラナデ，ナデ	明黄褐色 (10YR7/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	—				○		良好	
	423	竪穴住居跡2号	鉢?	口縁部	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	突帯	○	○		○		良好	
	424	竪穴住居跡2号	甕	口縁部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	灰黄褐色 (10YR4/2)	灰黄褐色 (10YR4/2)	—	○			○		良好	スス付着
	425	竪穴住居跡2号	甕	口縁部	—	—	—	ハケメ，ヘラナデ	ハケメ，ヘラナデ	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (5YR6/6)	—				○		良好	スス付着
	426	竪穴住居跡2号	甕	口縁部	—	—	—	不明瞭	ナデ	明褐色 (7.5YR5/6)	暗褐色 (10YR3/3)	—	○			○		良好	スス付着
66	427	竪穴住居跡2号	甕	口縁部	—	—	—	ハケメ，ヘラナデ	ナデ	黄褐色 (10YR5/6)	黄褐色 (10YR5/6)	—	○			○		良好	スス付着
	428	竪穴住居跡2号	甕	口縁部	—	—	—	ナデ	ナデ	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR6/6)	—	○			○		良好	
	429	竪穴住居跡2号	甕	口縁部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	黒褐色 (10YR3/2)	—				○		良好	スス付着
	430	竪穴住居跡2号	甕	口縁部	—	—	—	ナデ	ナデ	赤褐色 (5YR4/8)	黒褐色 (10YR3/1)	—				○		良好	スス付着
	431	竪穴住居跡2号	甕	胴部	—	—	—	ハケメ	ナデ，指頭圧痕	明黄褐色 (10YR6/6)	明黄褐色 (10YR6/6)	突帯に刻み(布目)	○			○		良好	スス付着
	432	竪穴住居跡2号	甕	胴部	—	—	—	ナデ	ヘラナデ，ナデ(丁寧)	明褐色 (7.5YR5/6)	黒褐色 (7.5YR3/1)	突帯に刻み(布目)				○		良好	スス付着
	433	竪穴住居跡2号	甕	胴部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	突帯に刻み(布目)				○		良好	
	434	竪穴住居跡2号	甕	胴部	—	—	—	ナデ	ハケメ，指頭圧痕	明赤褐色 (5YR5/6)	黒褐色 (10YR3/1)	突帯に刻み(布目)	○	○		○		良好	
	435	竪穴住居跡2号	甕	胴部	—	—	—	ハケメ後ナデ	ハケメ後丁寧なナデ	灰黄褐色 (10YR4/2)	黒褐色 (10YR3/1)	突帯	○			○		良好	スス付着
	436	竪穴住居跡2号	甕	胴部～腰部	—	—	—	ナデ，指頭圧痕	ナデ	黒褐色 (10YR3/1)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	—	○			○		良好	内面スス付着
69	437	竪穴住居跡3号	甕	底部	—	2.5	(8.2)	ヘラナデ(丁寧)	指頭圧痕，ナデ	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	灰黄褐色 (10YR6/2)	—	○	○		○		良好	スス付着
	438	竪穴住居跡3号	甕	口縁部	—	—	—	ナデ	ナデ	褐灰色 (5YR4/1)	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	○			○		良好	スス付着
	439	竪穴住居跡3号	甕	脚	—	—	—	不明	不明	橙 (2.5YR6/6)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	—	○	○		○		良好	
	440	竪穴住居跡3号	甕	脚	—	—	—	ナデ	ナデ，指頭圧痕(脚部)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	—	○			○		良好	

表14　古墳時代遺構内石器観察表

挿図	番号	遺構名	器種	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
62	417	竪穴住居跡1号	石皿	安山岩	26.9	15.5	7.9	5,600	
	418	竪穴住居跡1号	磨石	安山岩	10.3	9.0	7.9	1,200	敲打痕
	419	竪穴住居跡1号	磨石	安山岩	10.4	8.9	5.4	760	敲打痕
69	441	竪穴住居跡3号	石皿	軽石	12.0	21.0	5.45	300	
	442	竪穴住居跡3号	砥石	頁岩	12.35	9.6	4.5	695	敲打痕

表15　古墳時代土器観察表

挿図	番号	層	区	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	色調 内面	色調 外面	文様	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 砂粒	胎土 他	焼成	備考
70	443	Ⅳa	C-26	壺	口縁部	(9.6)	—	(5.0)	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/4)	赤褐色 (5YR4/6)	—	○					良好	
	444	Ⅲ	B-32	壺	頸部	—	—	—	ナデ	ナデ	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)	外面に貝殻腹縁刺突	○			○		良好	
	445	Ⅲ	A-28	壺	底部	—	(1.6)	(3.2)	工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙色(10YR7/4)	にぶい黄橙色(10YR7/4)	—	○	○	○			良好	
	446	Ⅲ	B-33	甕	口縁部	—	—	—	ナデ	ナデ	明黄褐色(10YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)	—	○	○				良好	
	447	Ⅲ	B-34	甕	口縁部	—	—	—	ナデ	ナデ	赤褐色(5YR4/6)	赤褐色(5YR4/6)	—	○	○				良好	スス付着
	448	Ⅲ	C-25	甕	胴部～腰部	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	赤褐色(5YR4/6)	赤褐色(5YR4/6)	突帯に刻み(布目)	○					良好	
	449	Ⅳa	B-32	甕	胴部	—	—	—	ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	綾状突帯に刻み(布目)	○			○		良好	スス付着
	450	Ⅳa	B-25	甕	胴部	—	—	—	ナデ	ナデ	赤褐色(2.5YR4/6)	赤褐色(2.5YR4/6)	—	○	○		○		良好	

4 中世以降の調査

中世以降の調査は，重機でⅠ層の表土，Ⅱ層の文明ボラと呼ばれる軽石層を取り除き，Ⅲ層上面を検出することから開始した。

耕作が行われていた場所などでは，すでにⅢ層までが削平を受けていたが，それ以外の場所では比較的安定した堆積状況であった。

削平を受けていない場所では，Ⅲ層上面からⅡ層の軽石が帯状に検出され，それを畠の畝状遺構であると判断した。なお，いずれの畝状遺構内及び畝間の軽石層内からは遺物の出土は見られなかった。

調査は，畝間の軽石層を丁寧に取り除いた後，実測・写真撮影を行った。

なお，今回の調査において，畝状遺構と同時期と考えられる他の遺構は確認されなかった。

畝状遺構

A･B－28・29 区及び A･B－31・33 区において，Ⅲ層上面から検出された帯状の軽石帯を慎重に除去しながら畝状遺構を調査した。

畝間に積もった軽石の厚さは，深い所で約 11cm，浅い所では軽石の堆積が見られない箇所もあった。そのような軽石の堆積が見られなかった畝は，土圧等の二次的な影響を受けて形状が崩れたものと考えられる。

なお，畝間の軽石を取り除いた後，掘り込みの深さを観察してみると，その深さはⅢ層までに留まり，Ⅳ層まで掘り込まれたものは見られなかった。

畝状遺構１　（A･B－28・29区）

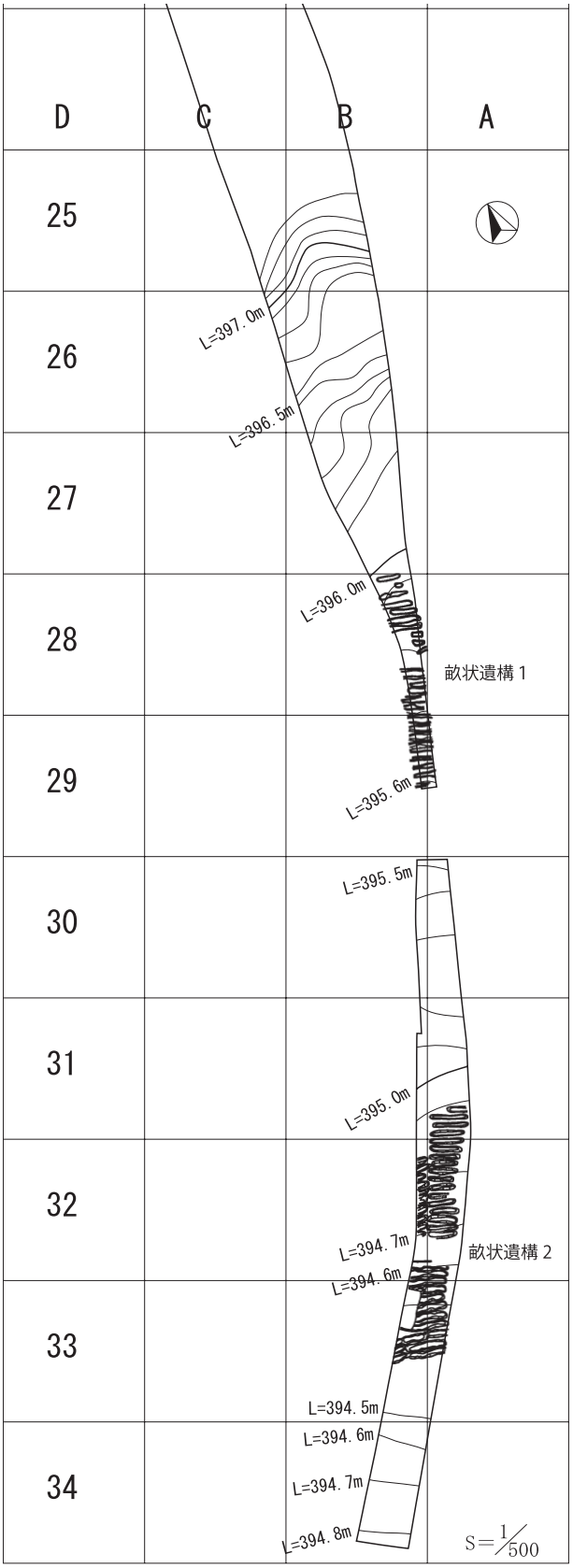
A･B－28・29 区でほぼ東西方向に並ぶ 27 条の畝間が確認された。両端は途切れているが，調査区外に伸びていると考えられる。

形状が不明瞭な畝も見受けられるが，土圧等の二次的な影響により本来の形状が崩れたことによるものと考えられる。

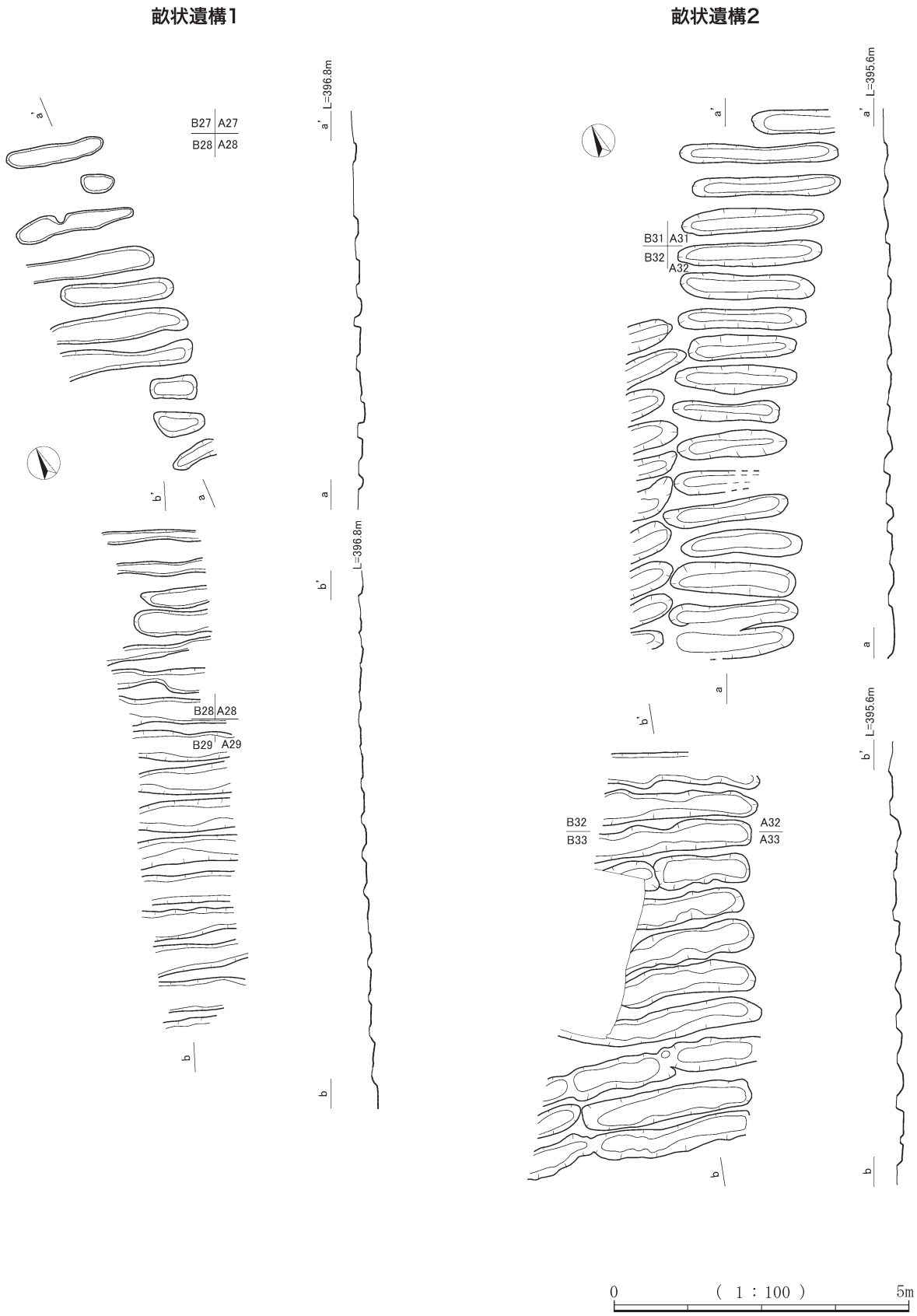
畝状遺構２　（A･B-31 ～ 33 区）

ほぼ東西方向に並ぶ 42 条の畝間が確認された。西側は途切れているが調査区外に伸びていると考えられる。

比較的保存状態が良く，ほぼ一定の間隔で並んでいる様子が復元できた。A-32 区と B-32 区の境界付近は畝が途切れているが，畠境を示す盛土等の目印は確認されなかった。



第71図　畝状遺構配置図



第72図　畝状遺構検出状況

帯状硬化面

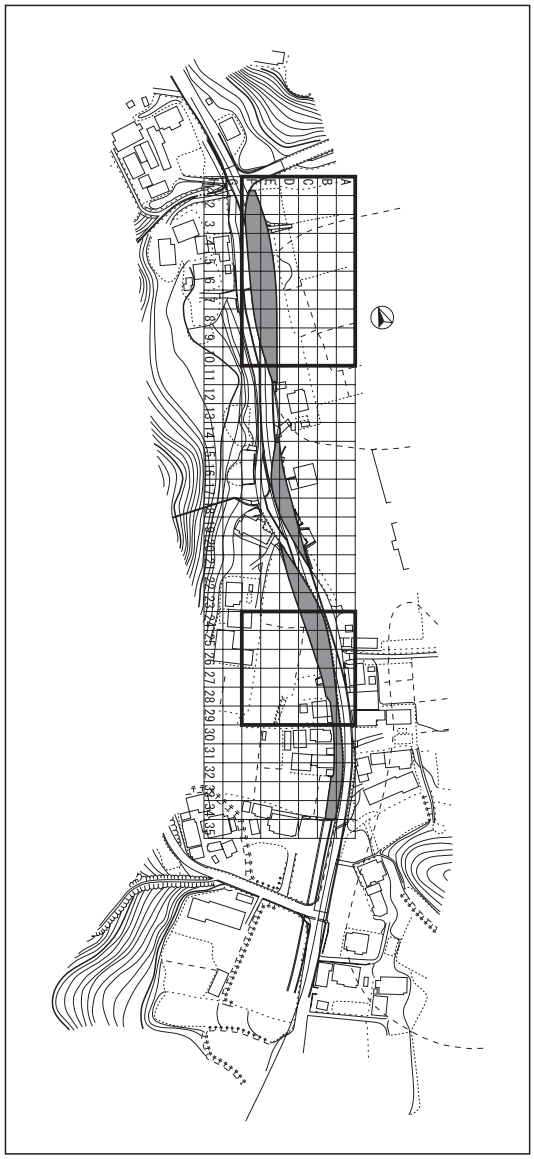
E･F－6～9区のⅢ層上面から5条の硬化面が，B･C－25～27区のⅣa層上面から2条の硬化面が検出された。

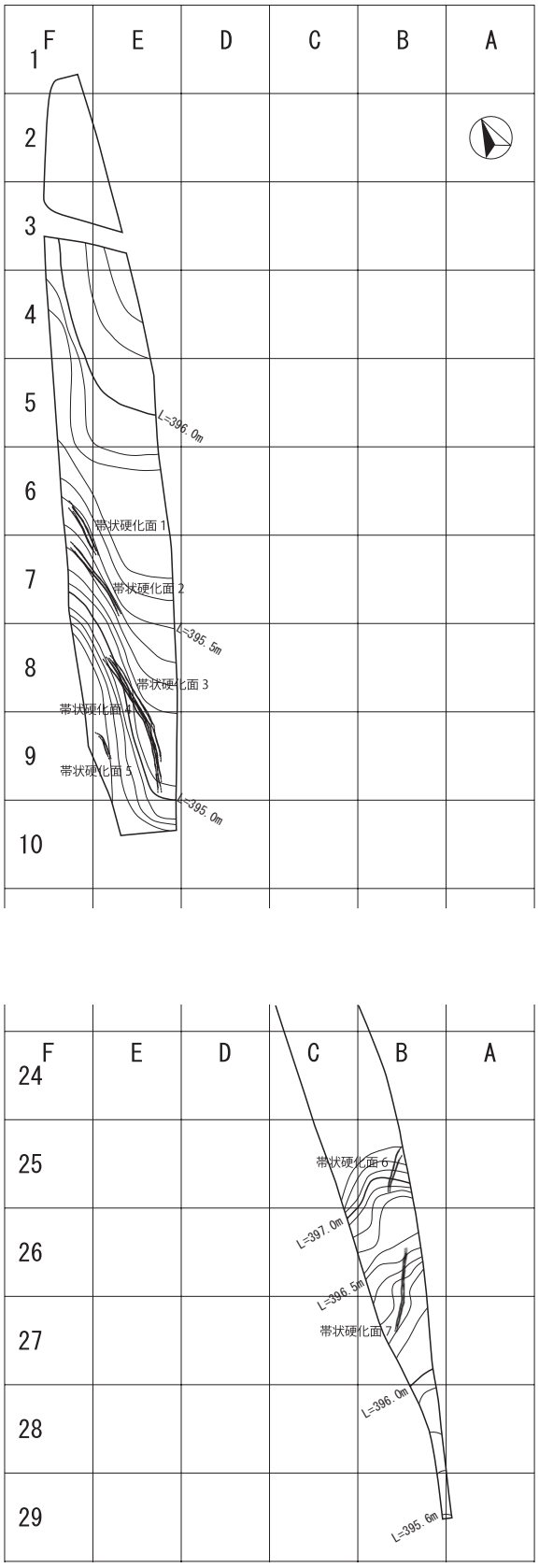
いずれも，その形状から古道であると判断した。

調査は検出後，写真撮影をした後，一部にベルトを設定して掘り下げた後，実測･写真撮影を行った。

2か所の硬化面は検出層が異なるが，いずれもほぼ県道に沿って南北に走っており，一連の古道であった可能性が考えられる。

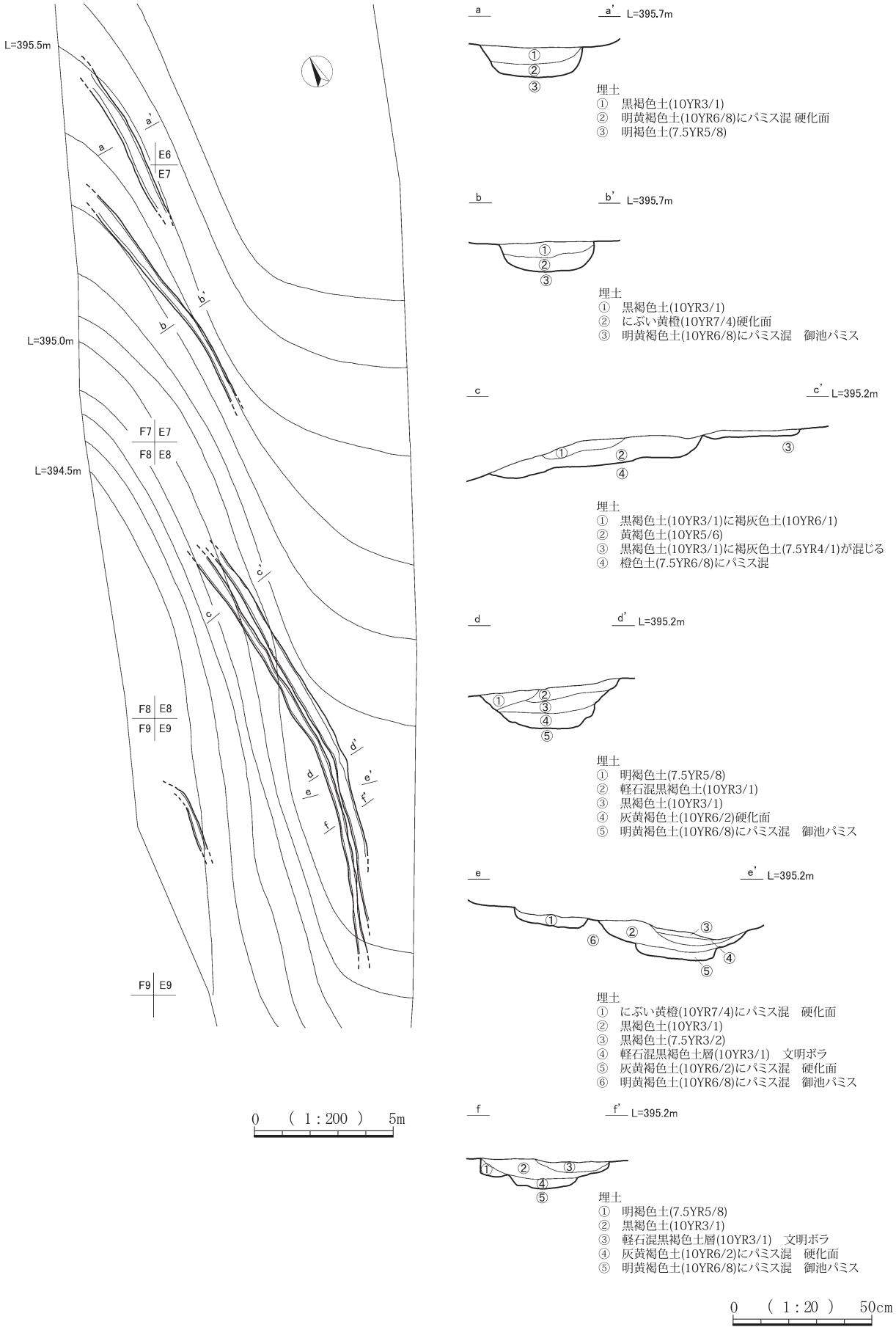
いずれの硬化面も，周辺からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。



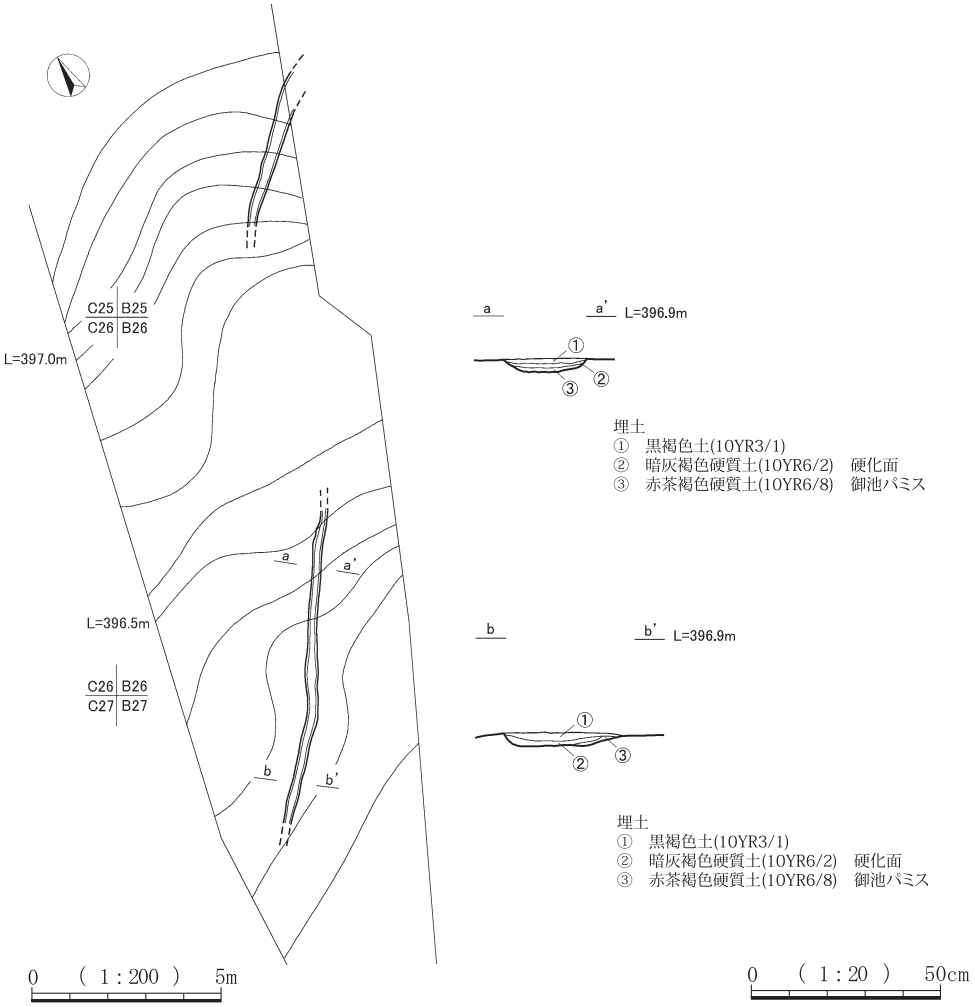


S＝1/800

第73図　帯状硬化面配置図



第74図　Ⅲ層上面検出帯状硬化面検出状況・断面



第75図　Ⅳa層上面検出帯状硬化面検出状況・断面

帯条硬化面1～5(E･F-6～9区)

E･F－6～9区のⅢ層上面で検出された 5 条の硬化面は，いずれも等高線に沿ってほぼ南北に走っている。両端は削平されているが，調査区外に伸びていたものと考えられる。幅は20cm から，広いところで 50cm程度である。検出された長さは硬化面 5が最も短く 2.5mで，硬化面 1～ 4はそれぞれ 5m， 9m， 15m， 17mであった。

なお，硬化面3と 4は隣接し，ほぼ平行に走っていた。

どの硬化面も検出面での埋土はⅡ層の文明ボラの軽石を含むⅢ層の黒褐色土で，そのために検出時は，黒色の帯状を呈していた。

その黒色土を取り除くと暗灰褐色の硬化面が検出され，硬化面の土を取り除くと，Ⅳb 層に該当する御池軽石層まで掘り込まれていた。

帯条硬化面 6 ～7(B･C-25～ 27区)

B･C-25～27区でⅣa 層上面から 2 条の硬化面が検出された。いずれも南西から北東方向に等高線を横切る形で走っている。

硬化面は，検出された場所からさらに南西及び北東方向に向かって伸びていたものと考えられる。

幅は20cmから，広い所では30cm程であった。

いずれの硬化面も検出面での埋土はⅢ層の黒褐色土で，そのために検出時は黒い帯状を呈していた。その黒褐色土を取り除くと，暗灰褐色の硬化面が検出された。

その硬化面の土を取り除くと，いずれも深さ 5cm 程度の浅いⅣb 層に該当する御池軽石層までの掘り込みが確認された。

第４章　自然科学分析

前原和田遺跡における放射性炭素年代
（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

前原和田遺跡は、鹿児島県霧島市福山町佳例川比曽木野（北緯 31°　42′　54″、東経 130°　53′　7″）に所在し、シラス台地上に位置する。測定対象試料は、Ⅳa層、Ⅳb層出土土器付着炭化物の合計 5 点である（表 1)。炭化物が採取された土器は、縄文時代中期末～後期初頭に位置づけられている。

２　測定の意義

縄文時代中期末～後期初頭にかけての遺物について、その前後関係を年代測定によって明らかにする。

３　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから 1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径 1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）δ ^{13}C は、試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準
試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0 yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977)。^{14}C 年代はδ ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2 %であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが 100 以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ＝ 68.2 %）あるいは 2 標準偏差（2 σ＝ 95.4 %）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラ

ムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCal v4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果

試料の測定結果を表1、2に示す。

試料5点の^{14}C年代は、4050 ± 30yrBP（No.4, 58）から3880 ± 30yrBP（No.2, 230）のかなり狭い範囲に収まり、誤差（±1 σ）の範囲で一致するものも認められる。

暦年較正年代（1 σ）は、5 点ともおおむね縄文時代中期末から後期初頭頃に相当し（小林編 2008）、土器編年上の位置づけに整合的な結果と見られる。これらの中で最も古い(No.4, 58)，2番目に古い(No.5，241)の2点と、最も新しい(No.2，230)の 1 σ 暦年代範囲は重ならないが、他の試料の間には較正年代の重なる範囲がある。

試料の炭素含有率はすべて 50 %以上で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表 1　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

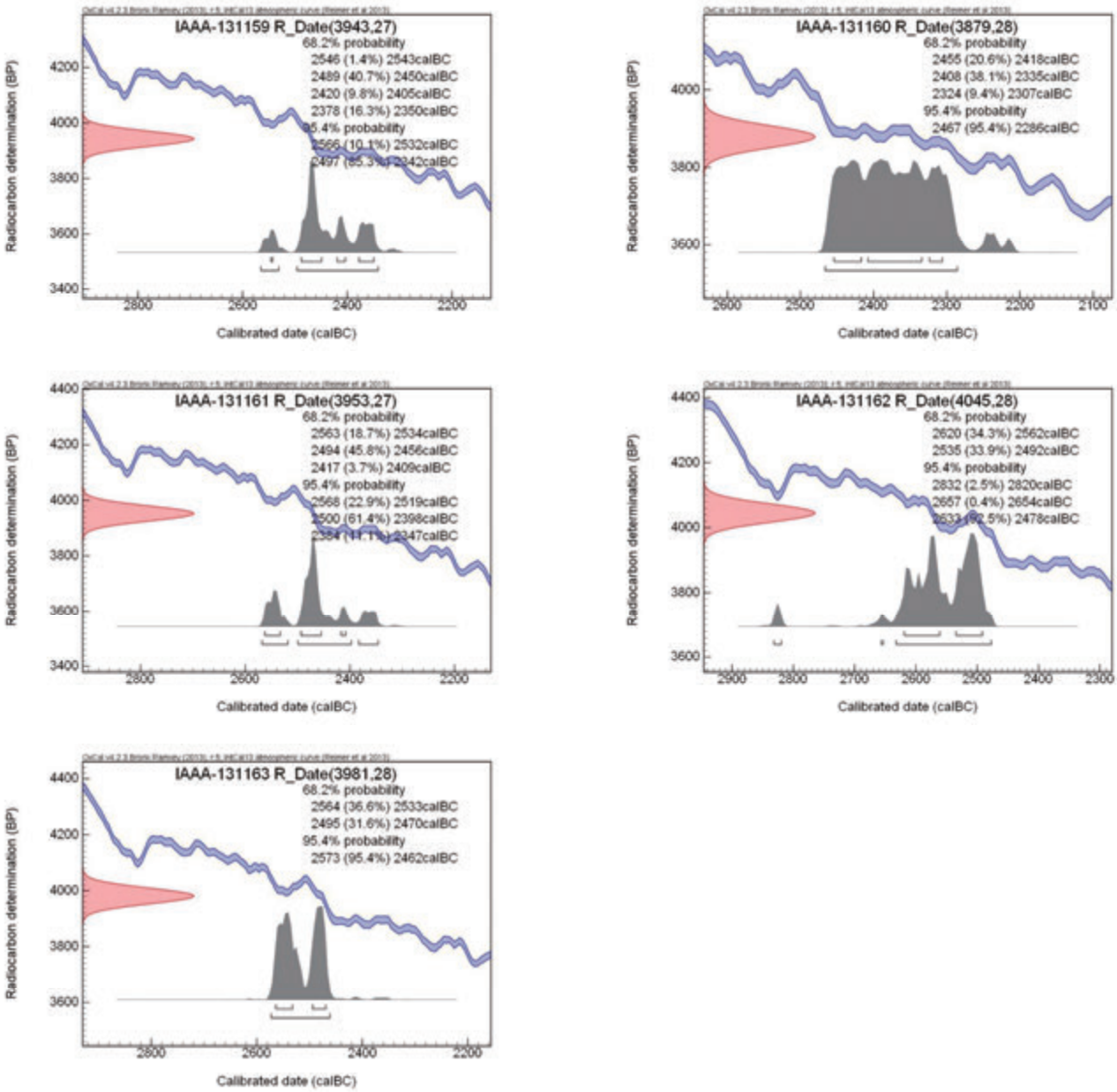
測定番号	試料名（掲載番号）	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C（‰）(AMS)	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-131159	No.1(123)	層位:Ⅳa	土器付着炭化物	AaA	-24.53 ± 0.33	3,940 ± 30	61.21 ± 0.21
IAAA-131160	No.2(230)	層位:Ⅳa	土器付着炭化物	AaA	-28.08 ± 0.63	3,880 ± 30	61.69 ± 0.22
IAAA-131161	No.3(115)	層位:Ⅳa	土器付着炭化物	AaA	-25.61 ± 0.43	3,950 ± 30	61.13 ± 0.21
IAAA-131162	No.4(58)	層位:Ⅳa	土器付着炭化物	AaA	-25.46 ± 0.86	4,050 ± 30	60.43 ± 0.22
IAAA-131163	No.5(241)	層位:Ⅳb	土器付着炭化物	AaA	-25.19 ± 0.61	3,980 ± 30	60.92 ± 0.22

［#6007］

表２　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用^{14}C年代、較正年代）

測定番号	δ^{13}C 補正なし Age (yrBP)	δ^{13}C 補正なし pMC (%)	暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
IAAA-131159 (123)	3,940 ± 30	61.27 ± 0.21	3,943 ± 27	2546calBC- 2543calBC(1.4%) 2489calBC- 2450calBC(40.7%) 2420calBC- 2405calBC(9.8%) 2378calBC- 2350calBC(16.3%)	2566calB- 2532calBC (10.1%) 2497calBC-2342calBC(85.3%)
IAAA-131160 (230)	3,930 ± 30	61.31 ± 0.20	3,879 ± 28	2455calBC- 2418calBC(20.6%) 2408calBC- 2335calBC(38.1%) 2324calBC- 2307calBC(9.4%)	2467calBC-2286calBC(95.4%)
IAAA-131161 (115)	3,960 ± 30	61.05 ± 0.20	3,953 ± 27	2563calBC- 2534calBC(18.7%) 2494calBC- 2456calBC(45.8%) 2417calBC- 2409calBC(3.7%)	2568calBC-2519calBC(22.9%) 2500calBC-2398calBC(61.4%) 2384calBC-2347calBC(11.1%)
IAAA-131162 (58)	4,050 ± 30	60.37 ± 0.19	4,045 ± 28	2620calBC- 2562calBC(34.3%) 2535calBC- 2492calBC(33.9%)	2832calBC-2820calBC(2.5%) 2657calBC-2654calBC(0.4%) 2633calBC-2478calBC(92.5%)
IAAA-131163 (241)	3,980 ± 30	60.90 ± 0.20	3,981 ± 28	2564calBC- 2533calBC(36.6%) 2495calBC- 2470calBC(31.6%)	2573calBC-2462calBC(95.4%)

［参考値］



［図版］暦年較正年代グラフ（参考）

第5章　総　括

旧石器時代

Ⅻ層の出土遺物はナイフ形石器の時期と考えられ，Ⅺ層はナイフ形石器と細石核が混在する。細石刃と細石核は，石材が異なっており，別の細石核のブロック等の存在が予測される。平成15年度に調査された前原和田遺跡で出土した旧石器の遺物との比較，遺跡の広がり等について検討が必要である。

縄文時代

遺構

竪穴住居跡１基，土坑３基が検出された。竪穴住居跡と土坑１号は埋土に大量の御池パミスが混入するが，土坑１号の掘り込みは御池パミス堆積ピークの上面から観察でき，竪穴住居跡も御池パミス降灰以降の所産であると判断した。土坑２号，３号は御池パミスの混入がみられないため降灰以前のものと捉えたい。３号土坑からは磨石と石皿がセットで出土した。再利用を視野に入れた貯蔵の状態の可能性もあるが，出土位置が床面からやや浮き上がった状態であることから判断は保留する。

遺物

Ⅰ類は，胴部に貝殻条痕文，口縁部に貝殻腹縁刺突による刻みを有し，口唇部内面に段を有することから岩本式土器と判断した。

Ⅱ類は，押型文土器で，豆粒状の楕円押型を横方向に施文する。

早期の土器は出土個体数が限定されることから，キャンプサイト的な利用が推測される。

Ⅲ類は，凹線文間に二叉状工具による押し引き状の刺突や連続刺突を施し，胎土に滑石を混入する並木式土器である。胎土そのものに滑石を混入することから，九州西海岸側からの持ち込みと考えられる。出土はⅣa 層からが大半を占め御池火山灰ピークの上位と捉えられるが，御池火山灰の堆積自体プライマリーなものか，はっきりしない。

Ⅳ類は，口唇端部に突帯をめぐらせ，口唇から突帯にかけ弧状に粘土紐を貼り付ける。粘土紐上には貝殻腹縁により刺突を施す。かつて河口貞徳氏によって提唱された協和式土器に近い。

Ⅴ類は，口縁部の文様帯をわずかに肥厚，もしくは段を設けて肥厚帯風に形成するもので，肥厚部下面に接合痕がみられるものと，みられないものがある。また，文様帯有段部に指頭による連点を施すものもみられる。文様は貝殻腹縁による刺突文や鋸歯文，沈線による同様な文様を施すことを特徴としており，中尾田Ⅲ類，大平式土器の一群と捉えている。遺物の出土はⅣb層（御池パミス堆積のピーク）からその上位Ⅳa 層にかけてみられ，類似な土器を出土する概知の遺跡と同様の傾向を示す。放射性年代測定の結果，Ⅵ類土器よりやや先行する年代値が得られている。

Ⅵ類は，本遺跡出土遺物の主体を占めるもので，大振りな凹線で文様を描く特徴は阿高式土器の系譜を引くものである。中には胎土に滑石を含むものもあり，西海岸側からの搬入品と考えられるものも含まれる。一方，器面調整に貝殻条痕を強く残す在地色の強いものも一部みられる。しかし，より大隅半島寄りの遺跡の出土傾向と比較すると，器面に貝殻条痕を残すものは少なく，ナデ調整を行う西海岸の影響の色濃い土器の出土が多い。本遺跡から，３kmほど南に所在する一本松遺跡の遺物出土状況と非常に類似しており，西海岸側からの影響と在地の土器を考える上で興味深い地域と言えよう。

Ⅶ類は，口縁部をやや肥厚させ，口唇部に凹点，短沈線を施す。外器面には弧状，Ｓ字状の凹線，縦位，斜位の沈線が施される特徴から南福寺式，出水式系の土器と捉えた。Ⅵ類同様に，西海岸側から川内川上流域の影響が色濃い。

Ⅷ類は，胴部外面にみられるミガキ痕，器形から上加世田式土器と考えられる。

Ⅸ類は，口縁部のみの出土のため，全体的な器形は不明であるが，内外面に施される入念なミガキ調整と，器形から入佐式土器と考えられる。

Ⅹ類は，編布編みの痕跡が底部に残される。縄文時代晩期の組織痕土器である。

ⅩⅠ類は，縄文時代晩期後半に位置づけられる干河原段階の浅鉢である。

参考文献

○　鹿児島県教育委員会1981『中尾田遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(15)

○　末吉町教育委員会1981『宮之迫遺跡』末吉町文化財調査報告書２

○　志布志町教育委員会1985『中原遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(9)

○　志布志町教育委員会1985『倉園Ａ・土光・風穴遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(10)

○　福山町教育委員会2003『一本松遺跡』福山町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)

○　福山町教育委員会2005『前原和田遺跡』福山町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)

古墳時代

本遺跡周辺で古墳時代の遺物が検出された遺跡は霧島市福山町佳例川に所在する寺屋敷遺跡や小坂本Ａ遺跡など数か所あるが，その中で遺構が確認されている遺跡は，供養之元遺跡の溝状遺構と城ヶ尾遺跡の竪穴住居跡４基のみである。

その意味で，今回の調査で検出された３基の古墳時代相当の竪穴住居跡は，古墳時代における当地域の生活の様相を考察する上で，貴重な発見である。

時期を考察する際，遺構内遺物をもとに考察する方法が一般的に用いられる。しかしながら，本遺跡の住居内から出土した土器の大部分は小片であり，それらを用いての土器型式の詳細な検討は困難である。従って３基の検出層は同じだが，住居跡間の時期差は不明である。

唯一，竪穴住居跡１号から出土した甕１点（p.72参照）については脚部が欠損しているが，完形に近いところまで復元できたので，これを用いて時期を考察する。

この甕の特徴は，以下の３点である。

特徴①　底部から胴部にかけて開き，頸部が窄まり，口縁部にかけて緩やかに立ち上がる。

特徴②　口縁部外面と胴部の境界付近はヘラナデ調整が施され，稜線が不明瞭である。

特徴③　胴部下半はヘラ状工具により調整が施されているが，粗雑でケズリ痕が残る。

これは，南九州市川辺町の堂園遺跡Ｂ地点の調査で出土した成川式土器の特徴にほぼ当てはまる。その特徴とは『甕形土器には，口縁部内面と胴部とでハケメ調整やヘラナデ調整を方向を違えて強く行い，境界に明瞭な稜線を形成するという中津野式土器の一つの指標を持ちながら，口縁部の外反度合いが弱い土器が多いのが特徴的である。また，これらの土器の多くは，口縁部外面と胴部の境界に，ヘラナデ調整や指頭押圧調整，あるいは胴部上端から口縁下部まで掻き上げ調整が施され，稜線は不明瞭な点も挙げられる。さらに，胴部下半ではヘラナデ調整が雑になり，ケズリ痕が残る』（八木澤2008）〈註1〉である。そして，同遺跡の報告書では，その形式を『堂園タイプ』としている。

現在，成川式土器の編年については，中村編年（中村1987）〈註2〉が最も多く用いられている。

それにあてはめると，竪穴住居跡１号の『堂園タイプ』と考えられる甕は，中津野式土器と東原式土器との過渡期に位置付けられ，その時期は弥生時代終末期から古墳時代前期の間に該当する。住居の使用された時期も，甕の時期と同一と仮定すれば，ほぼ同時期と考えられる。

一方，『堂園タイプ』は，芝原遺跡（2013関・長野）でも出土しており，同遺跡の報告書では，「甕２類」に分類した上で，器形の特徴を『（口縁部の）外反は緩やかとなりながら内側の稜線は残されている。胴部形状は，長胴から短胴となり，脚部は総じて小振りの傾向が認められる。』『（器面調整では）胴部下でのヘラナデや工具ナデ等の調整手法からヘラケズリ等の調整手法への変更が見られる。』としている〈註3〉。

ただ，今回の調査で出土した甕１点のみで時期を考察するには無理もあろうが，今後『堂園タイプ』の出土例の増加を待ち，編年の再検討も含めて考察を深めていきたい。

古墳時代以降について

畝状遺構

畝状遺構は，検出された面積は狭いが，未調査区にも広がると考えられる。それにより，周辺ではかつて畠作が行われていたことが分かる。畝間の掘り込みの深さは，Ⅲ層までに留まっており，大規模な深耕は行っていないと判断される。耕作深度が深くないことからダイコンやゴボウなど深く根を伸ばす根菜類の栽培は考えにくい。

今後は，科学分析等を利用して，栽培されていた作物を明らかにできれば，栽培作物の解明のみに留まらず，当時の社会構造等を解明する手がかりを得られる可能性がある。

帯状硬化面

今回の調査で２か所で古道と考えられる帯状硬化面が検出された。当遺跡と同様，近隣の前原和田遺跡の調査（1998，2000:県埋文セ）でも，Ⅲ層の上面から同様の硬化面が9条検出されている。

双方の遺跡の硬化面は，現在の県道に沿うような形で方向的にも一致しており，一連の古道であった可能性も考えられる。

【註】

註1　八木澤一郎「第Ⅵ章　調査のまとめ　第2節　弥生時代終末～古墳時代初頭の堂園遺跡」『堂園遺跡Ｂ地点』pp.242-243.鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(123)2008.

註2　中村直子「成川式土器再考」『鹿大考古第6号』pp.57-76 鹿児島大学法文学部考古学研究室.1987.

註3　関明恵・長野眞一「第４章　第２節　出土の古墳時代遺物」『芝原遺跡４』pp.243-245.鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(178)2013.

参考文献

○ 鹿児島県立埋蔵文化財センター2013『芝原遺跡4』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(178).

○ 金峰町教育委員会2005『下掘遺跡』金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書(20).

写真図版

図版1

前原和田遺跡遠景

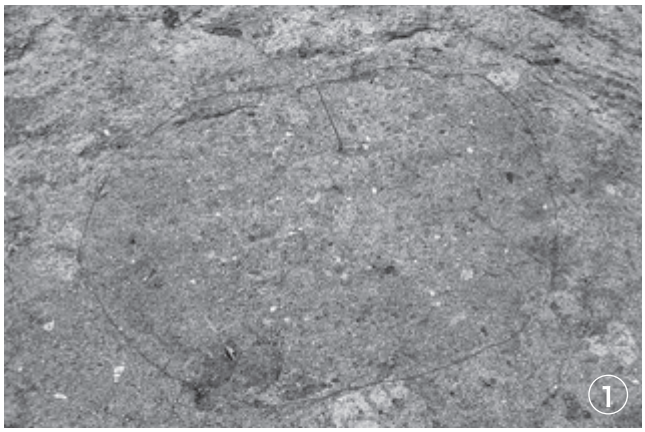
図版2

① 発掘調査作業状況　② B-33・34区土層断面

① 7T土層断面　② B・C-25・26区土層断面　③ 9T堆積状況　④ 2T土層断面
⑤ 旧石器　遺物出土状況　⑥ 旧石器　完掘状況　⑦ 縄文早期　遺物出土状況

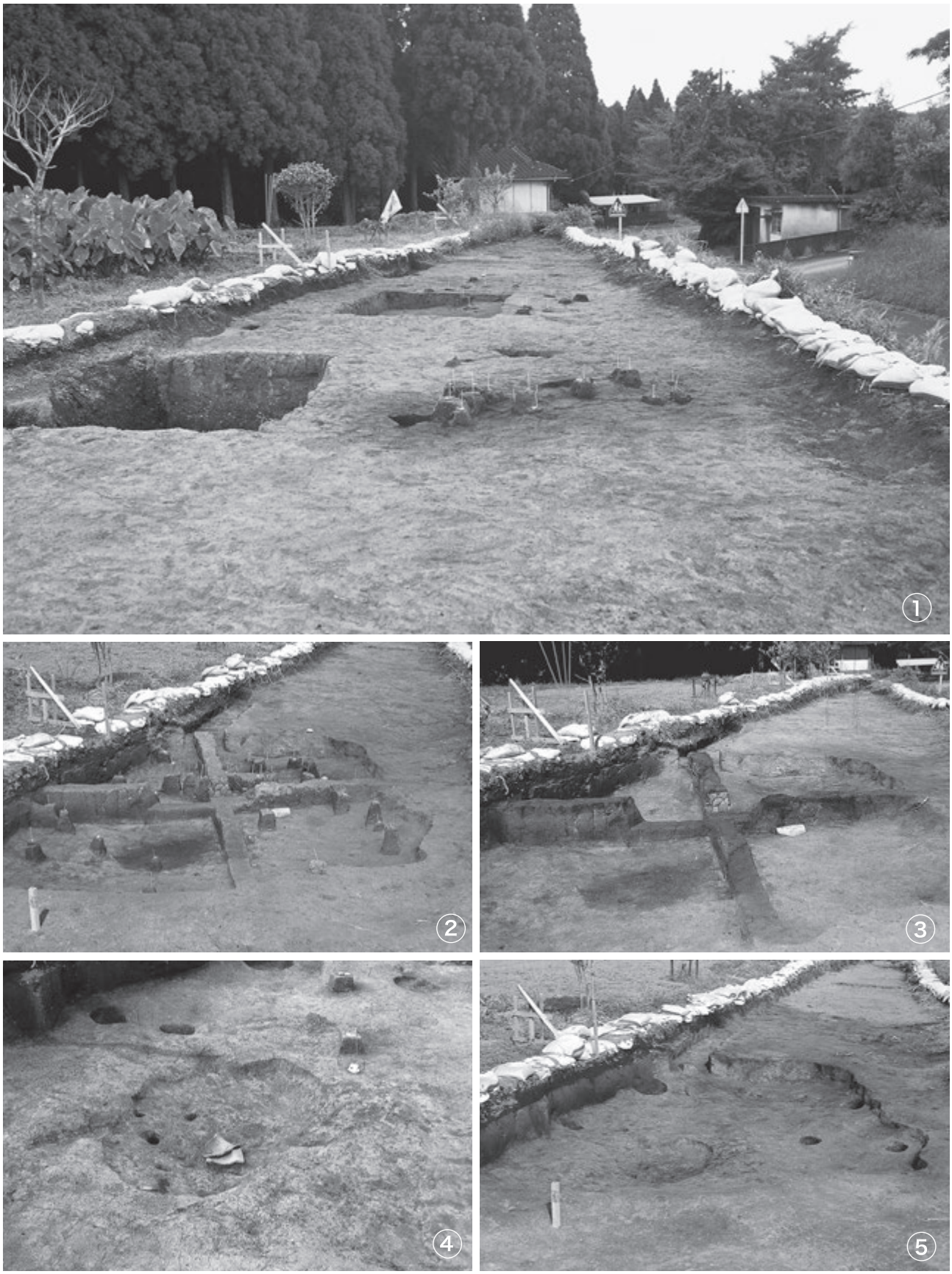
図版4

① 縄文　竪穴住居跡検出状況　② 縄文　竪穴住居跡遺物出土状況　③ 縄文　竪穴住居跡埋土断面　④ 縄文　竪穴住居跡完掘状況
⑤ 縄文　土坑1号礫出土状況　⑥ 縄文　土坑1号完掘状況　⑦ 縄文　土坑2号埋土断面　⑧縄文　土坑2号完掘状況

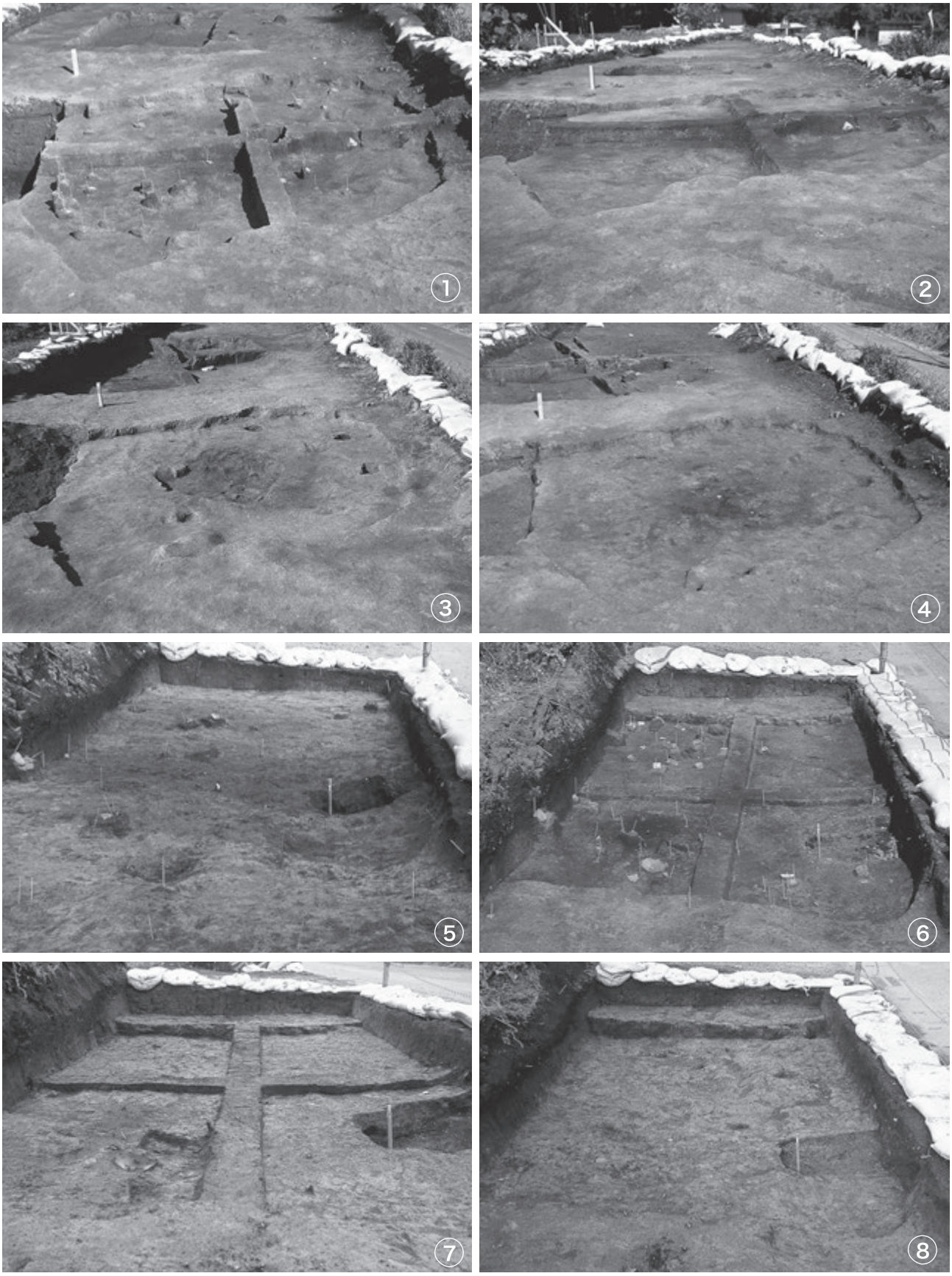


① 縄文　土坑3号検出状況　② 縄文　土坑3号遺物出土状況及び埋土断面　③ 縄文　土坑3号完掘状況
④ V層上面黒曜石ブロック検出状況　⑤ Ⅳ層遺物出土状況

図版6

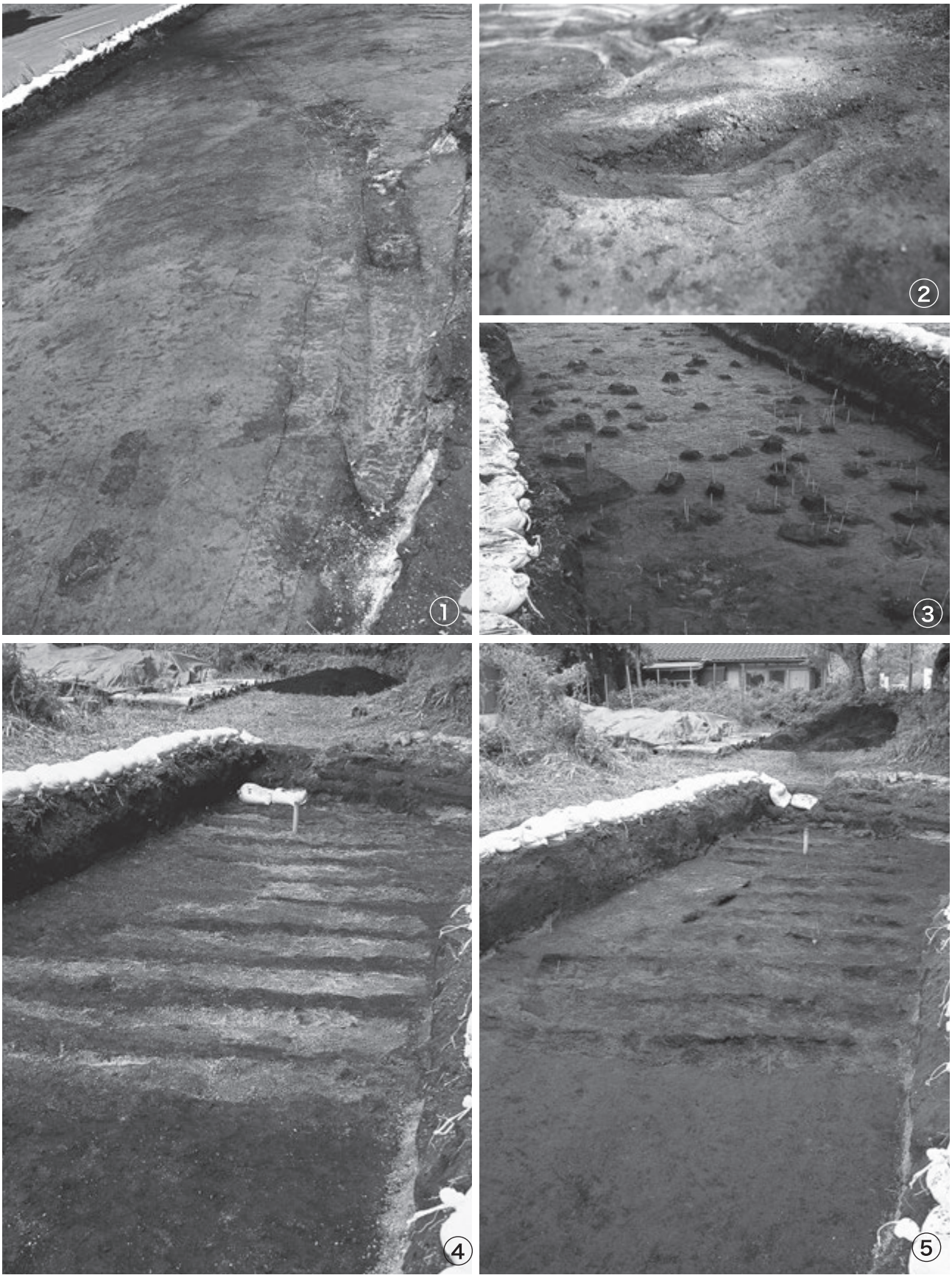


① 古墳　竪穴住居跡1・2号検出状況　② 古墳　竪穴住居跡1号遺物出土状況　③ 古墳　竪穴住居跡1号埋土断面
④ 古墳　竪穴住居跡1号内遺物出土状況　⑤ 古墳　竪穴住居跡1号完掘状況

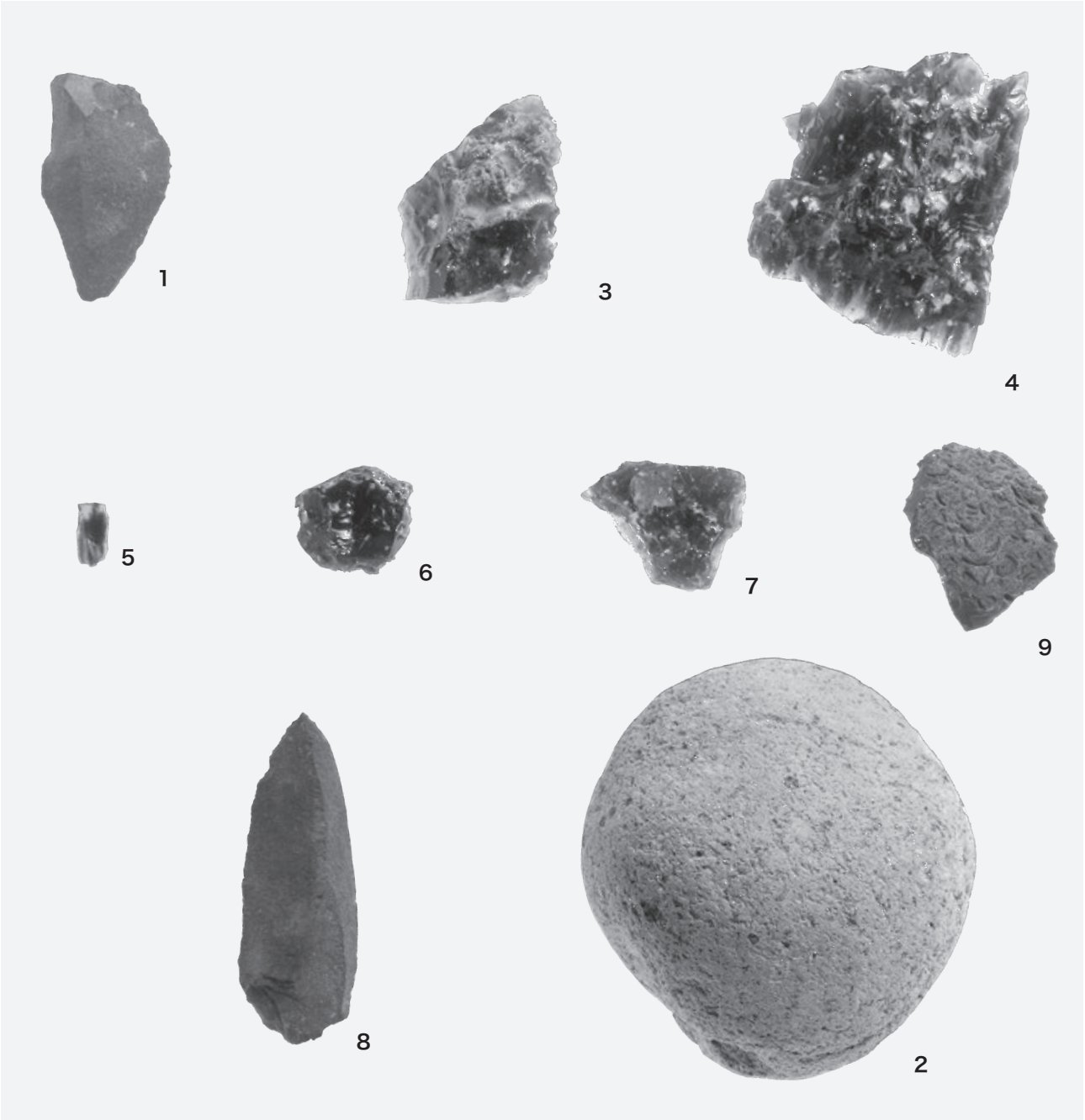


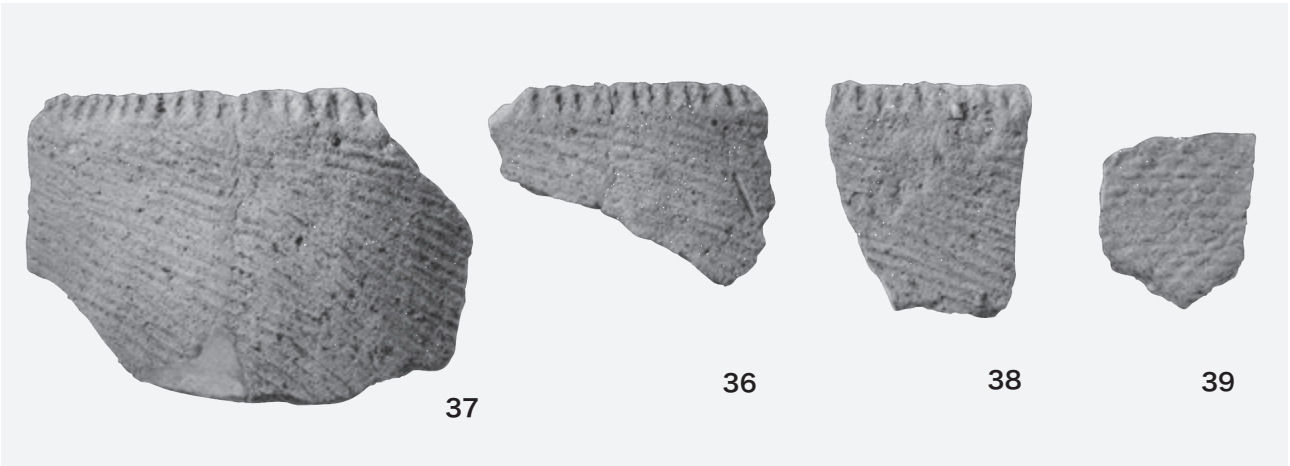
① 古墳　竪穴住居跡2号遺物出土状況　② 古墳　竪穴住居跡2号遺物出土状況　③ 古墳　竪穴住居跡2号床面検出状況
④ 古墳　竪穴住居跡2号完掘状況　⑤ 古墳　竪穴住居跡3号検出状況　⑥ 古墳　竪穴住居跡3号遺物出土状況
⑦ 古墳　竪穴住居跡3号埋土断面　⑧ 古墳　竪穴住居跡3号完掘状況

図版8



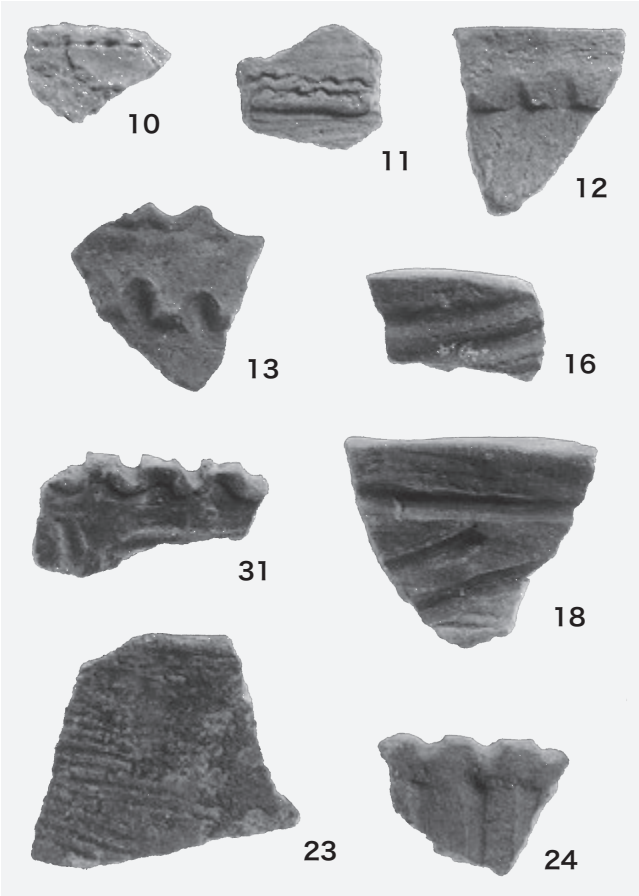
① 帯状硬化面検出状況　② 帯状硬化面埋土状況　③ Ⅲ層遺物出土状況　④ 畝状遺構検出状況　⑤ 畝状遺構完掘状況

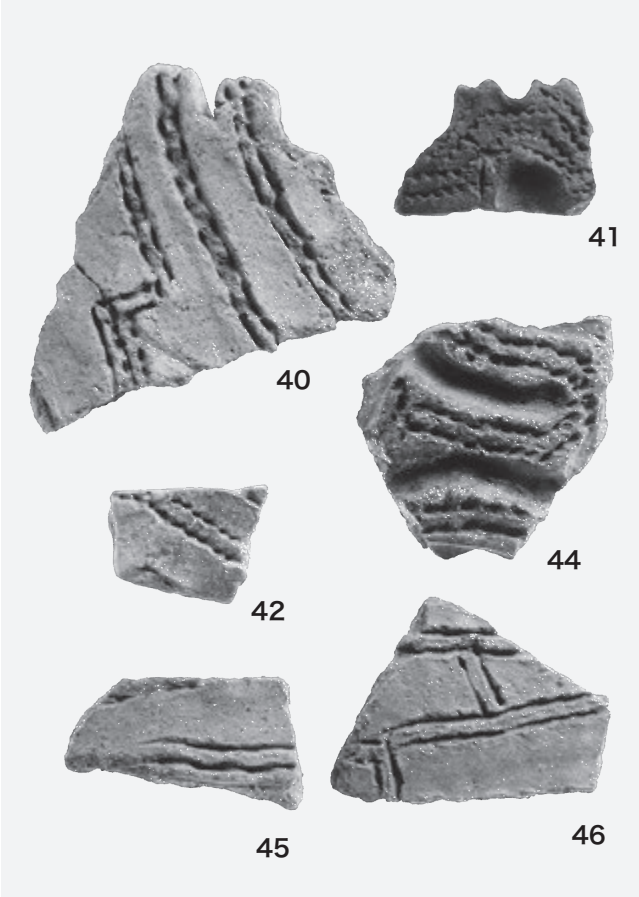


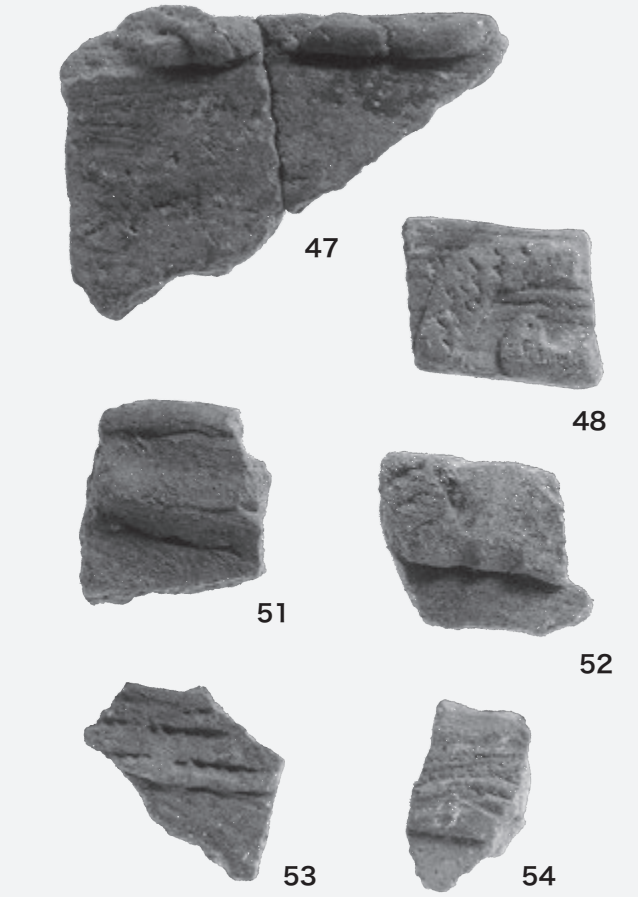


旧石器時代石器, 縄文時代Ⅰ・Ⅱ類土器

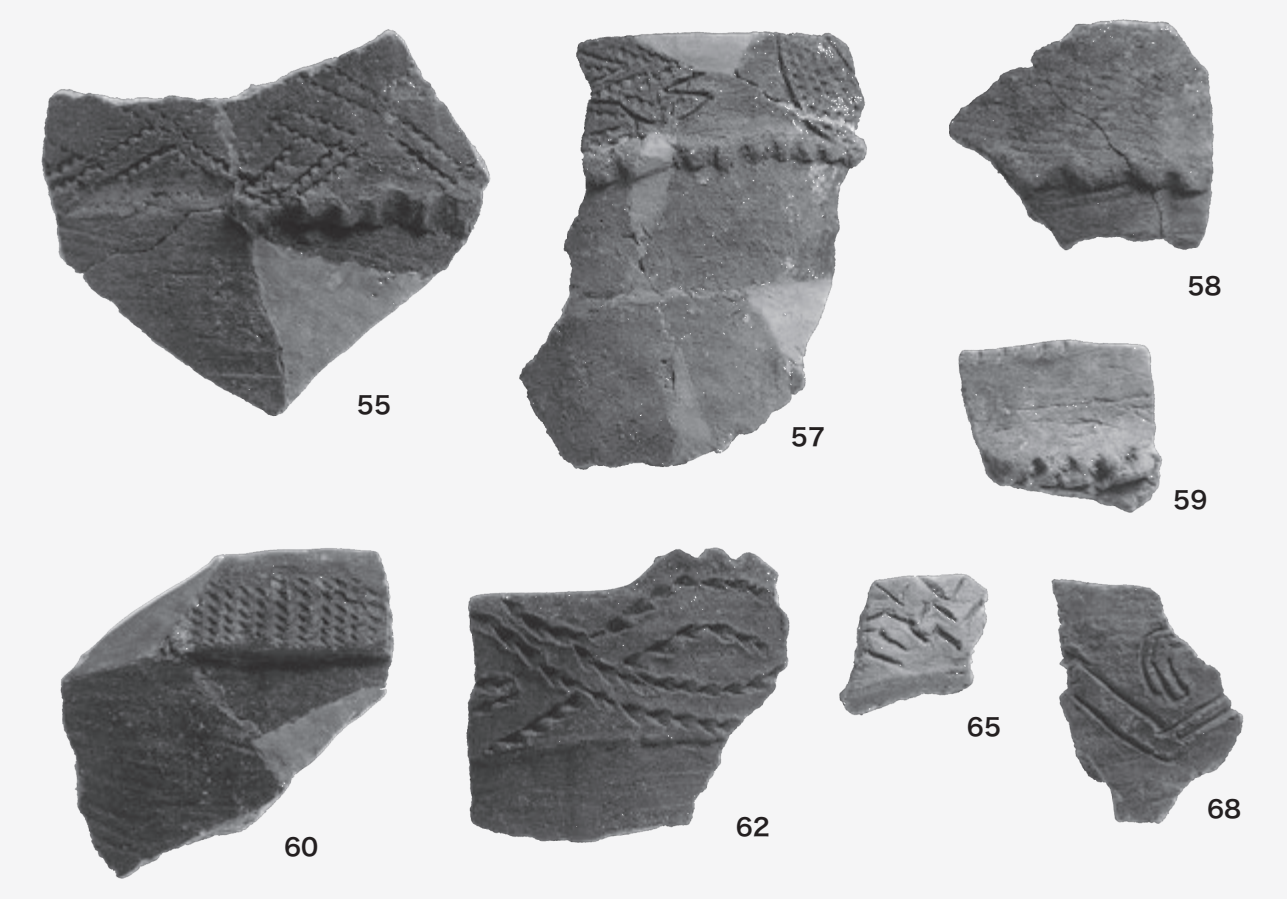
図版10

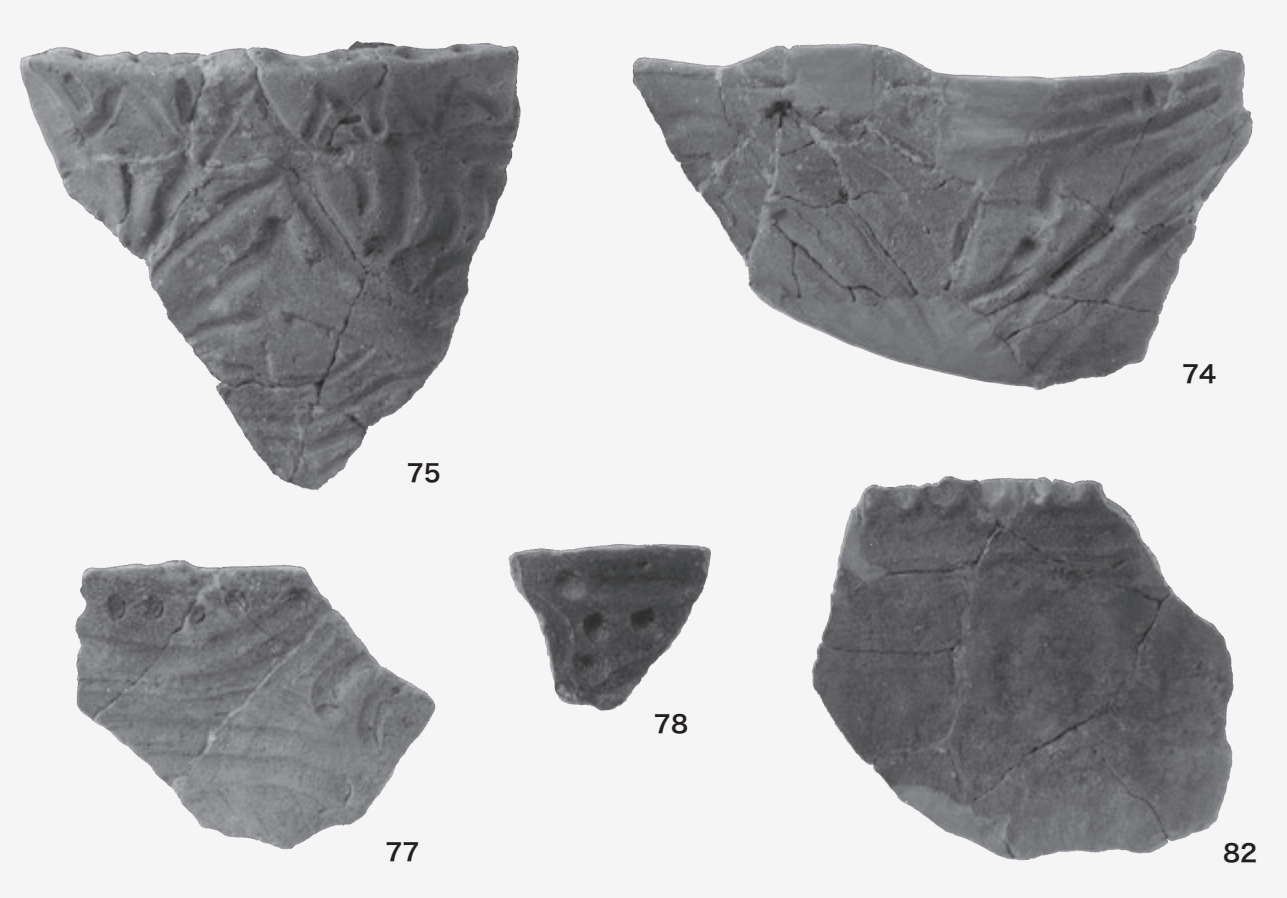






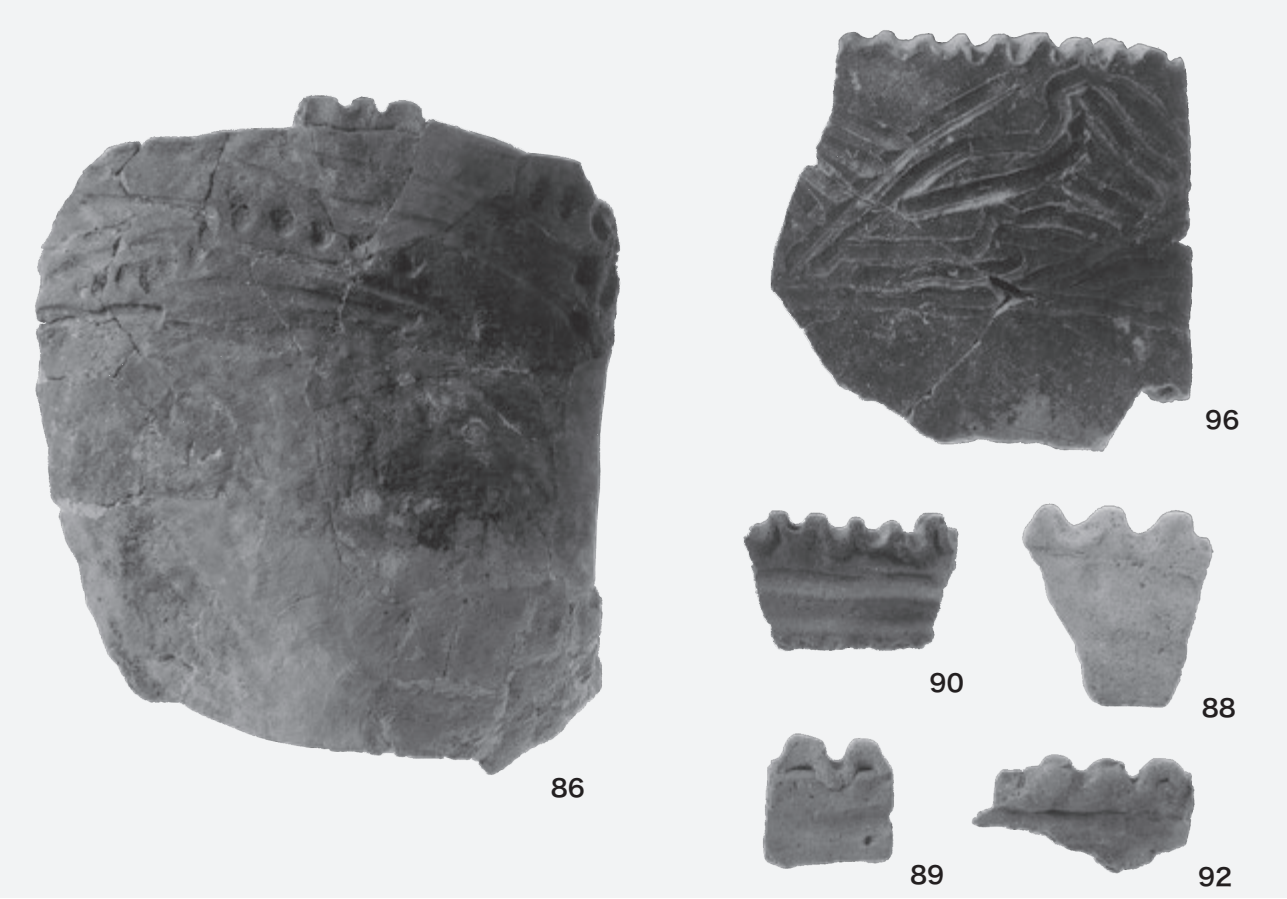
縄文時代竪穴住居跡出土土器, Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類土器

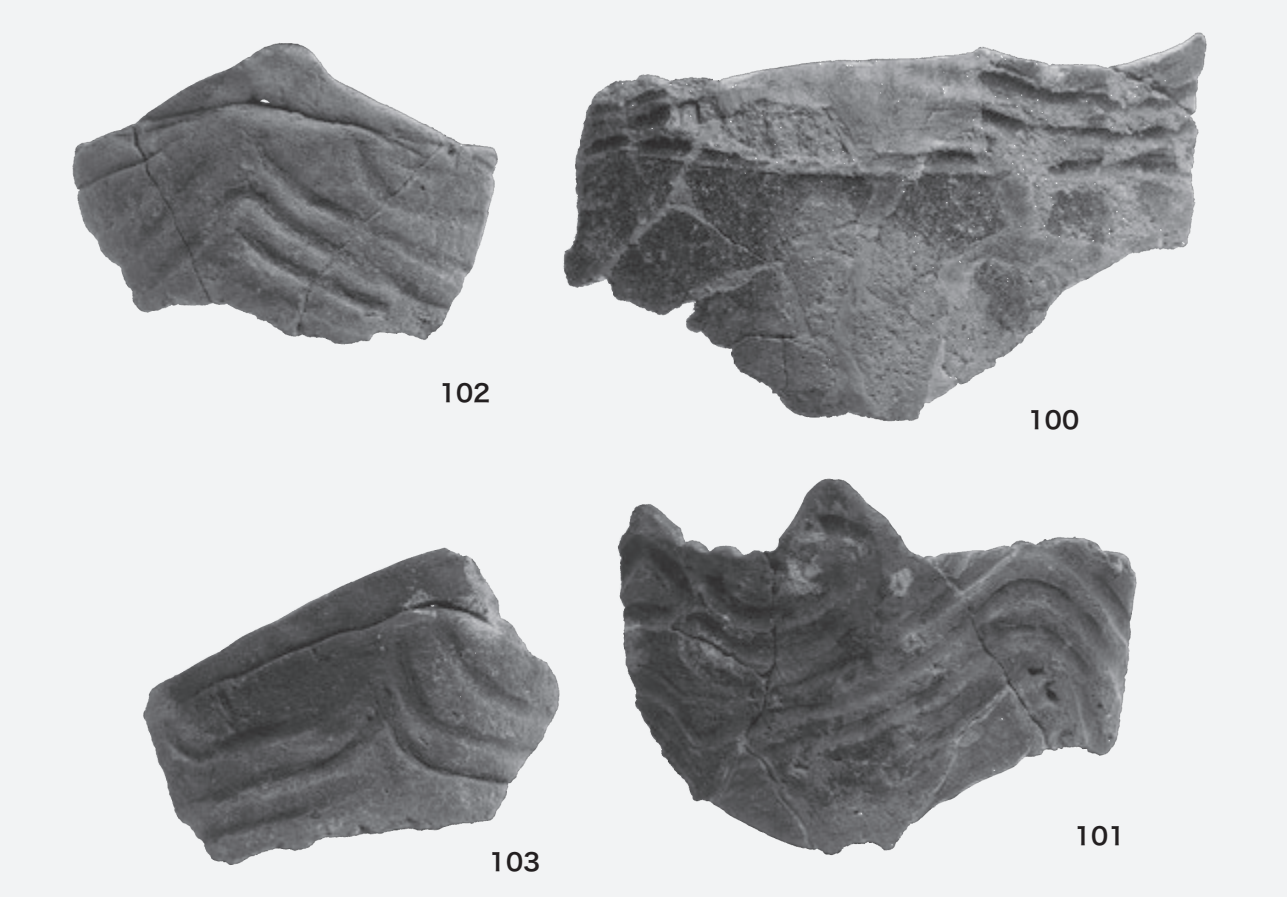




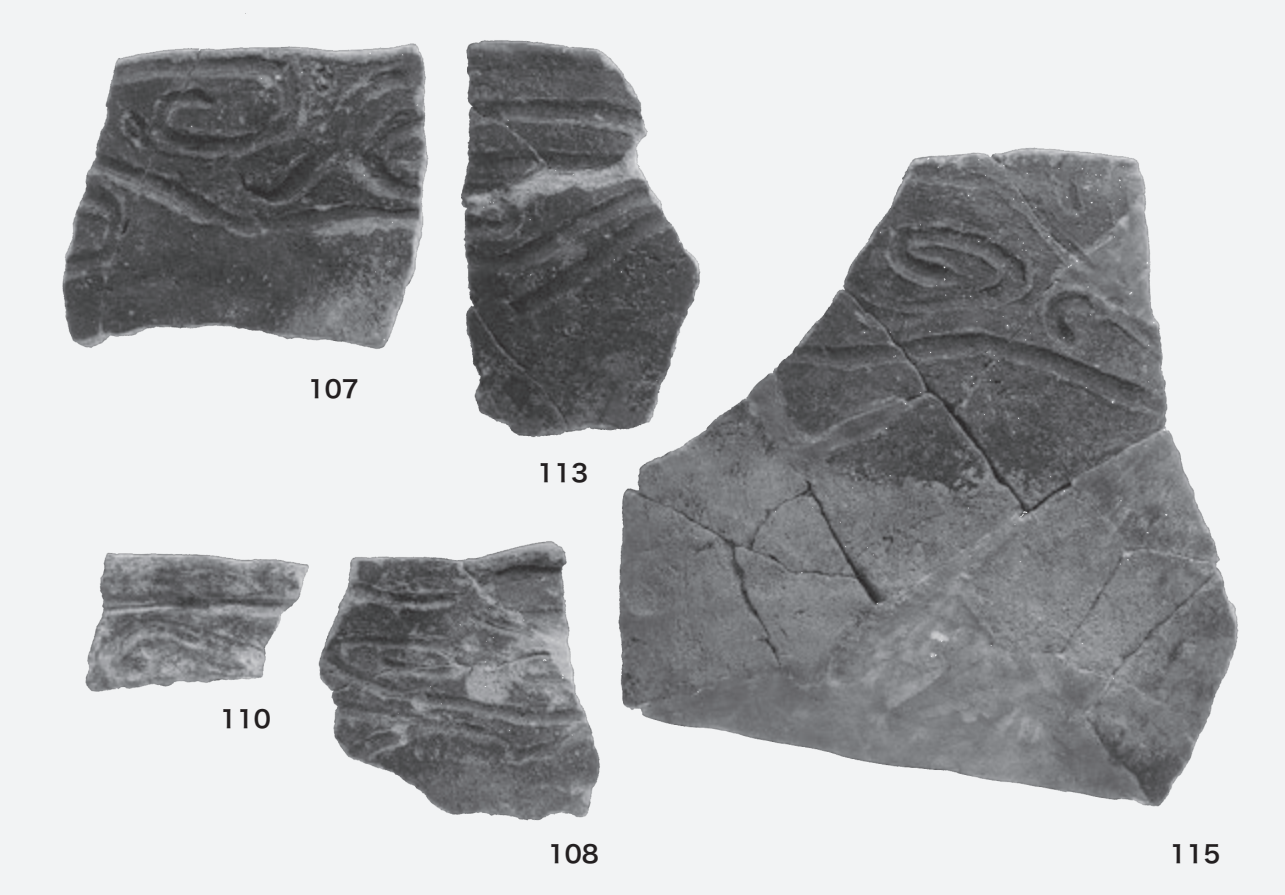
縄文時代Ⅴ・Ⅵ類土器

図版12



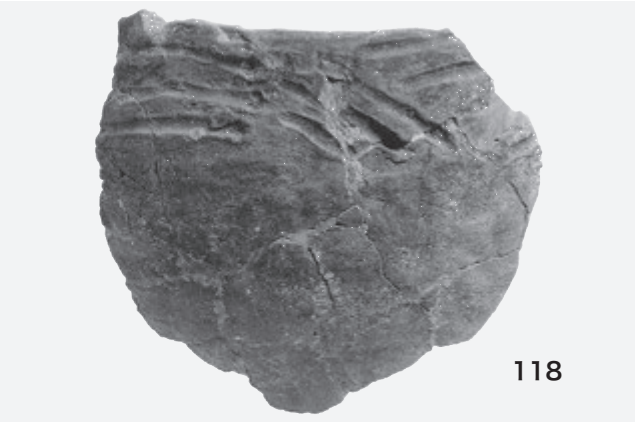


縄文時代VI類土器(1)



縄文時代Ⅵ類土器(2)

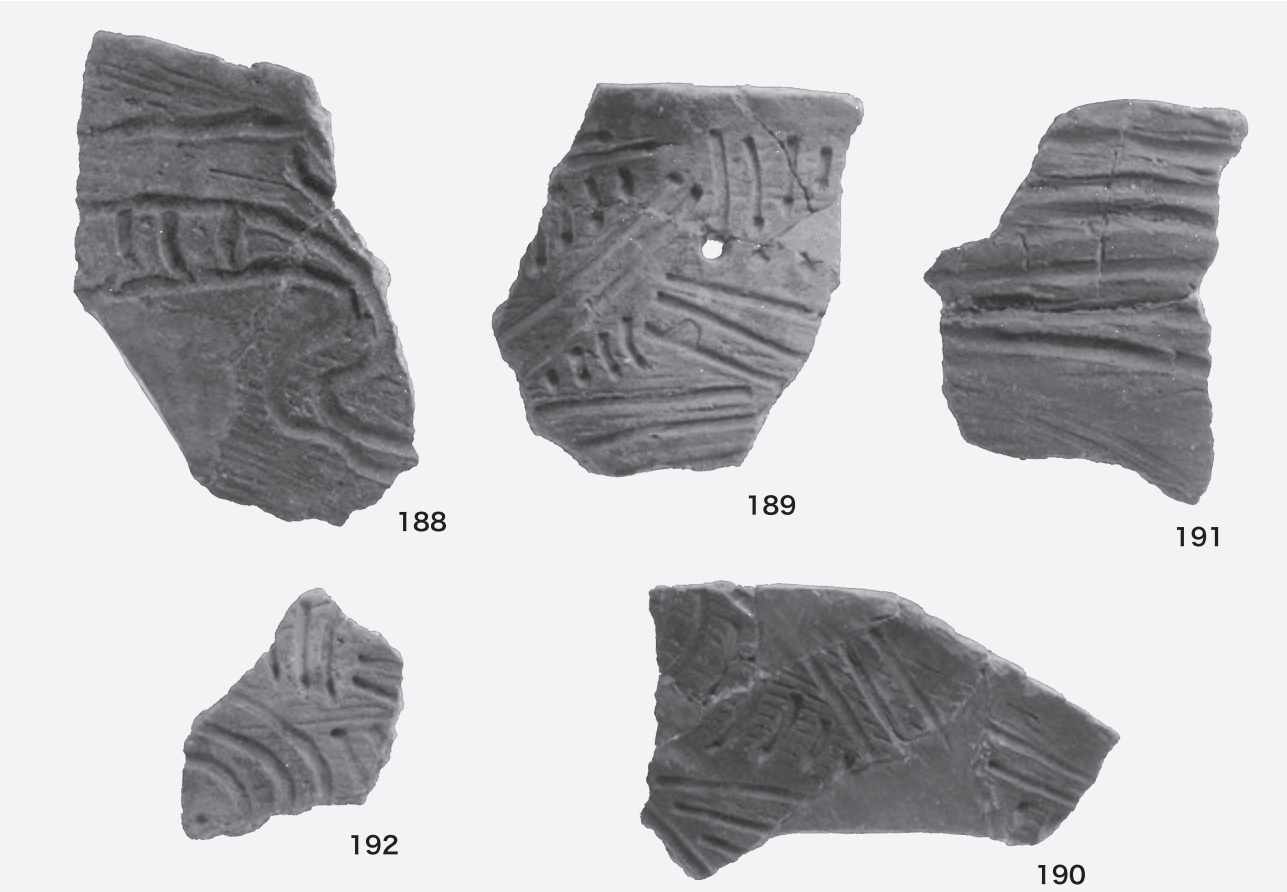
図版14

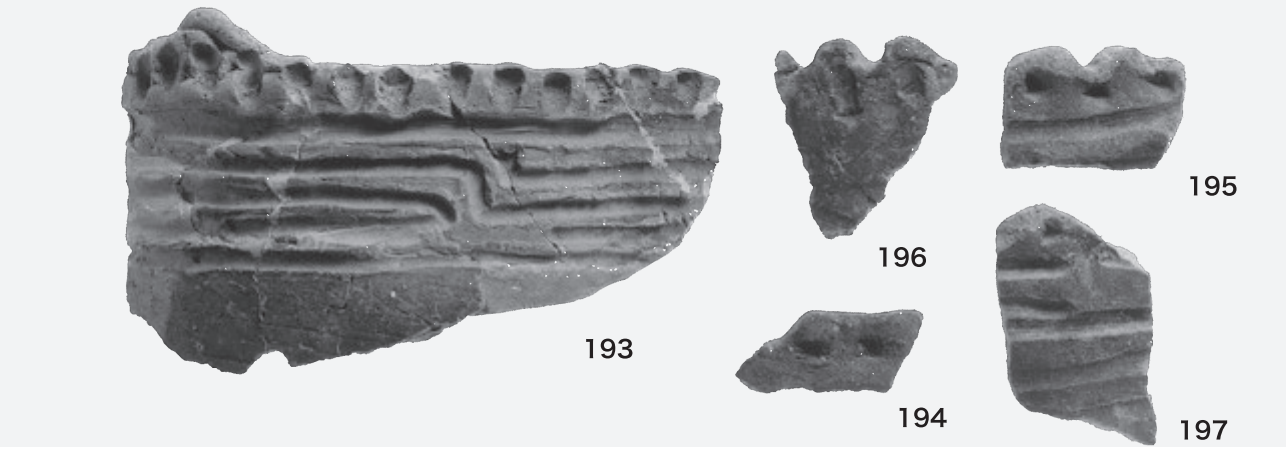


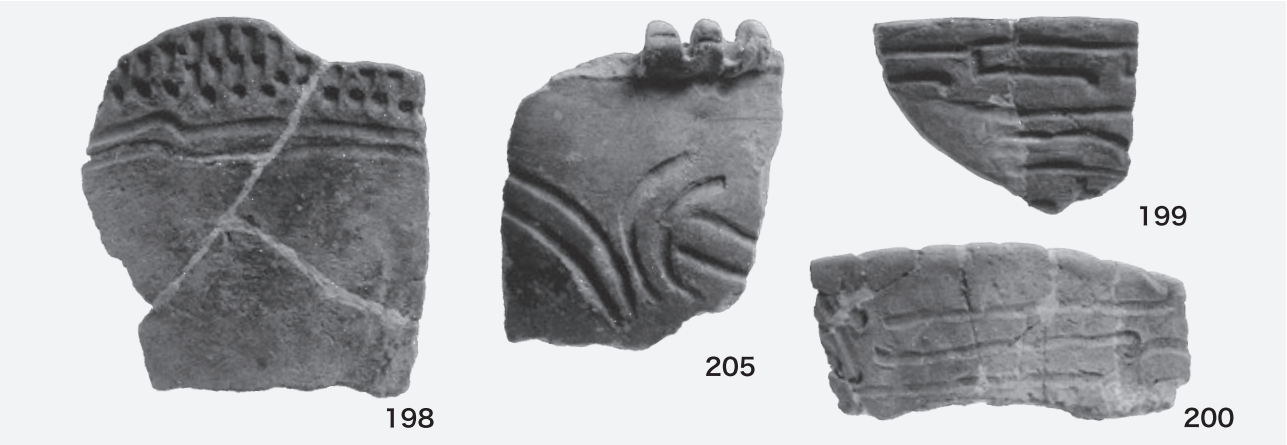
縄文時代Ⅵ類土器(3)

縄文時代VI類土器(4)

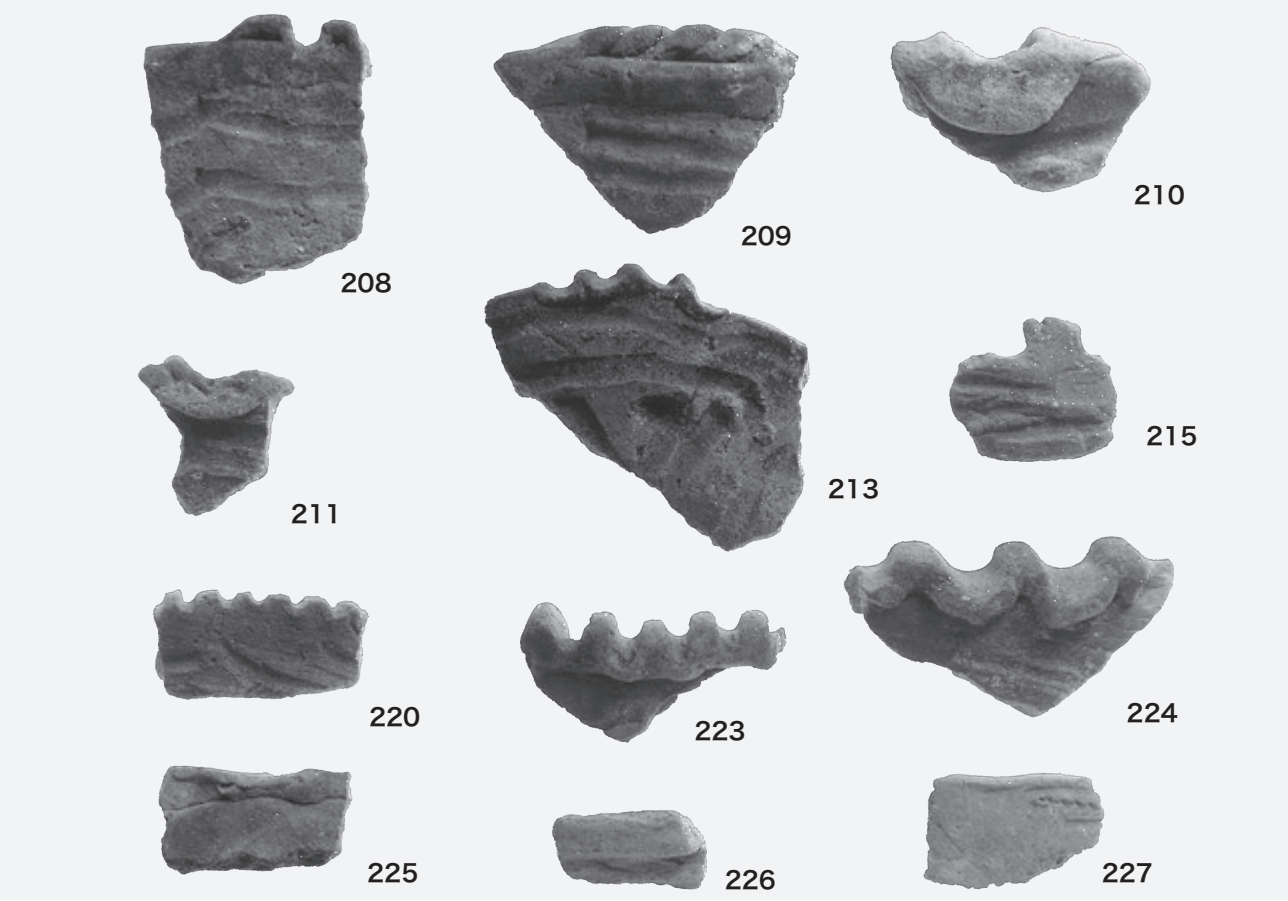
図版16

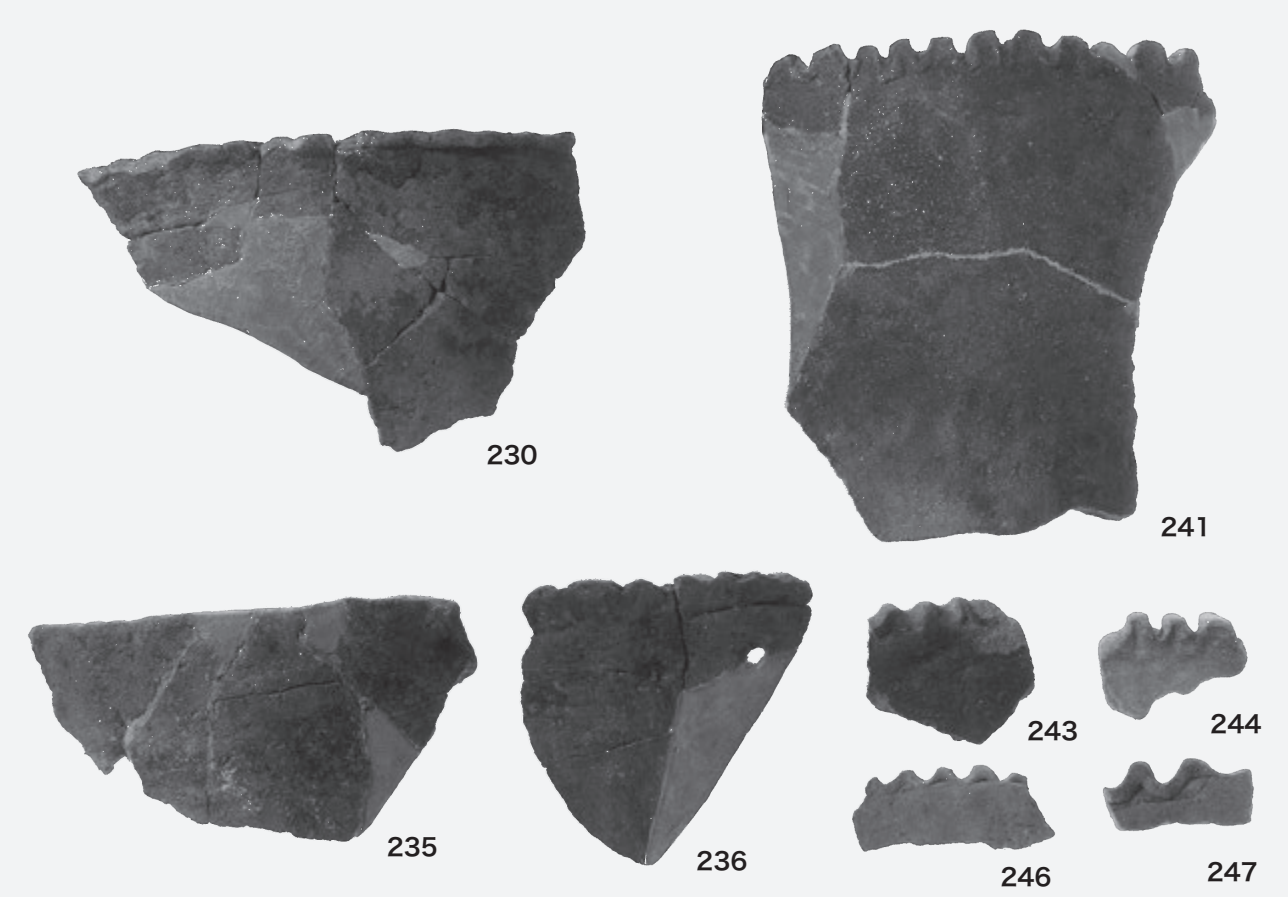






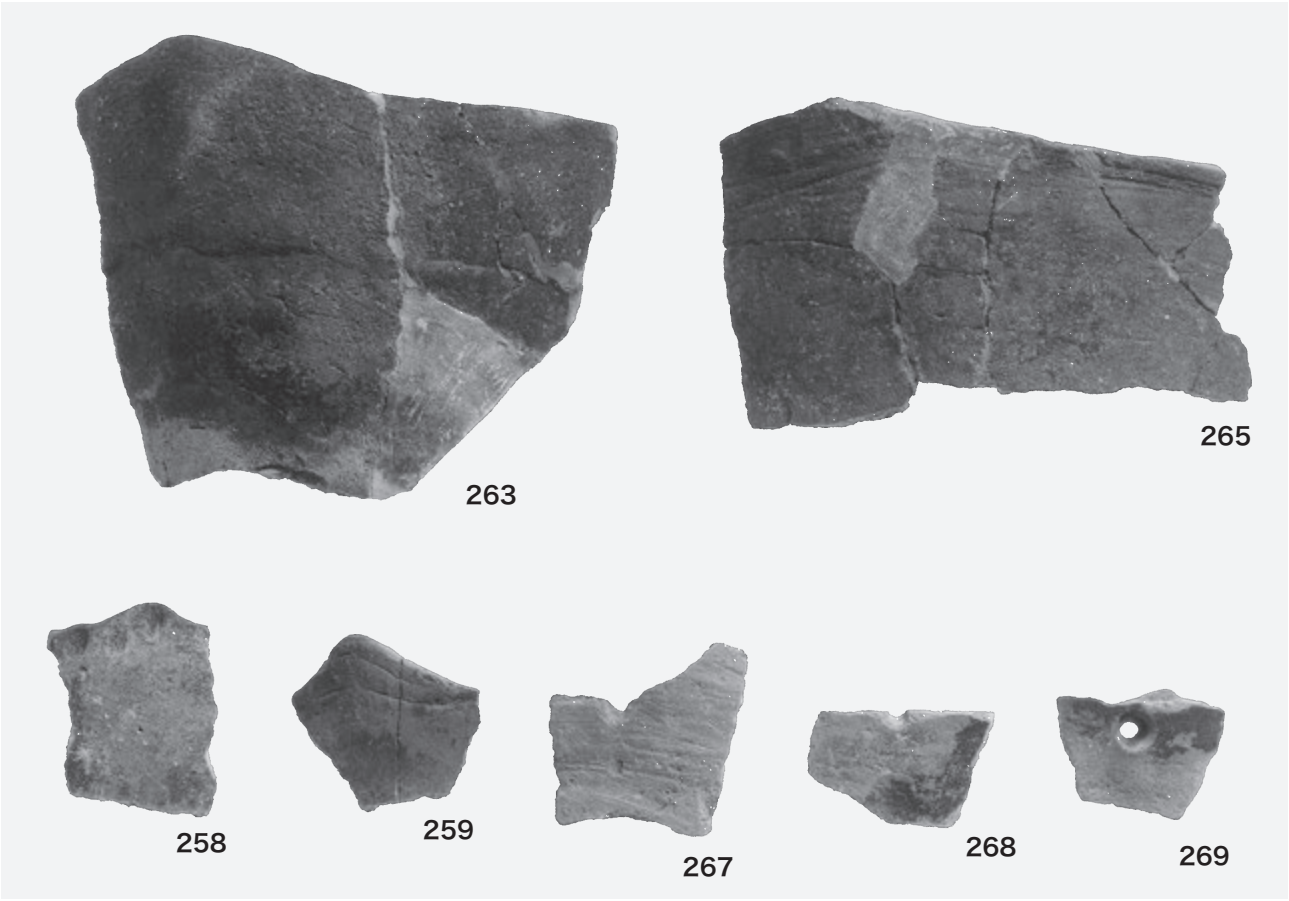
縄文時代VI類土器(5)

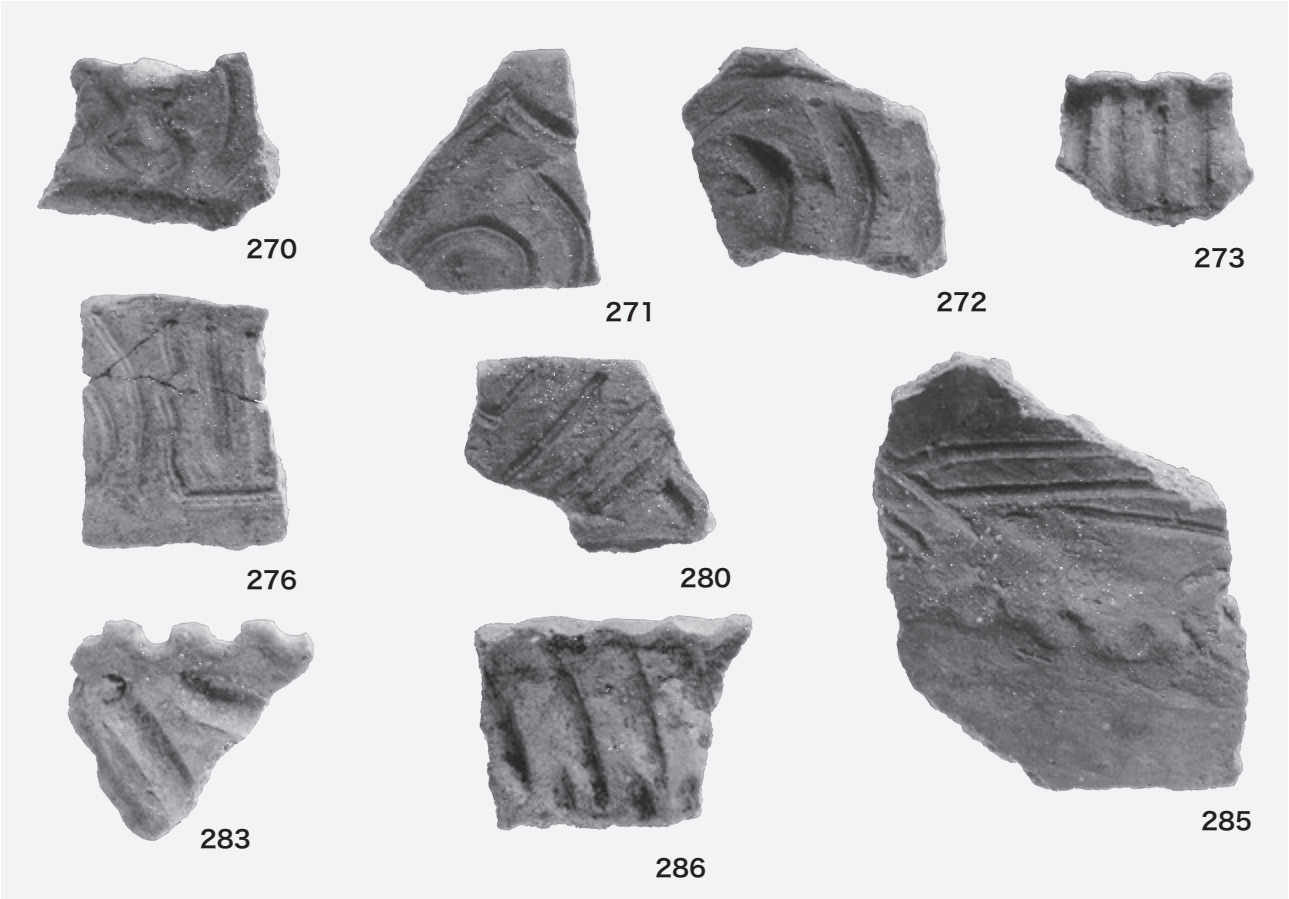

208
209
210
211
213
215
220
223
224
225
226
227


230
241
235
236
243
244
246
247

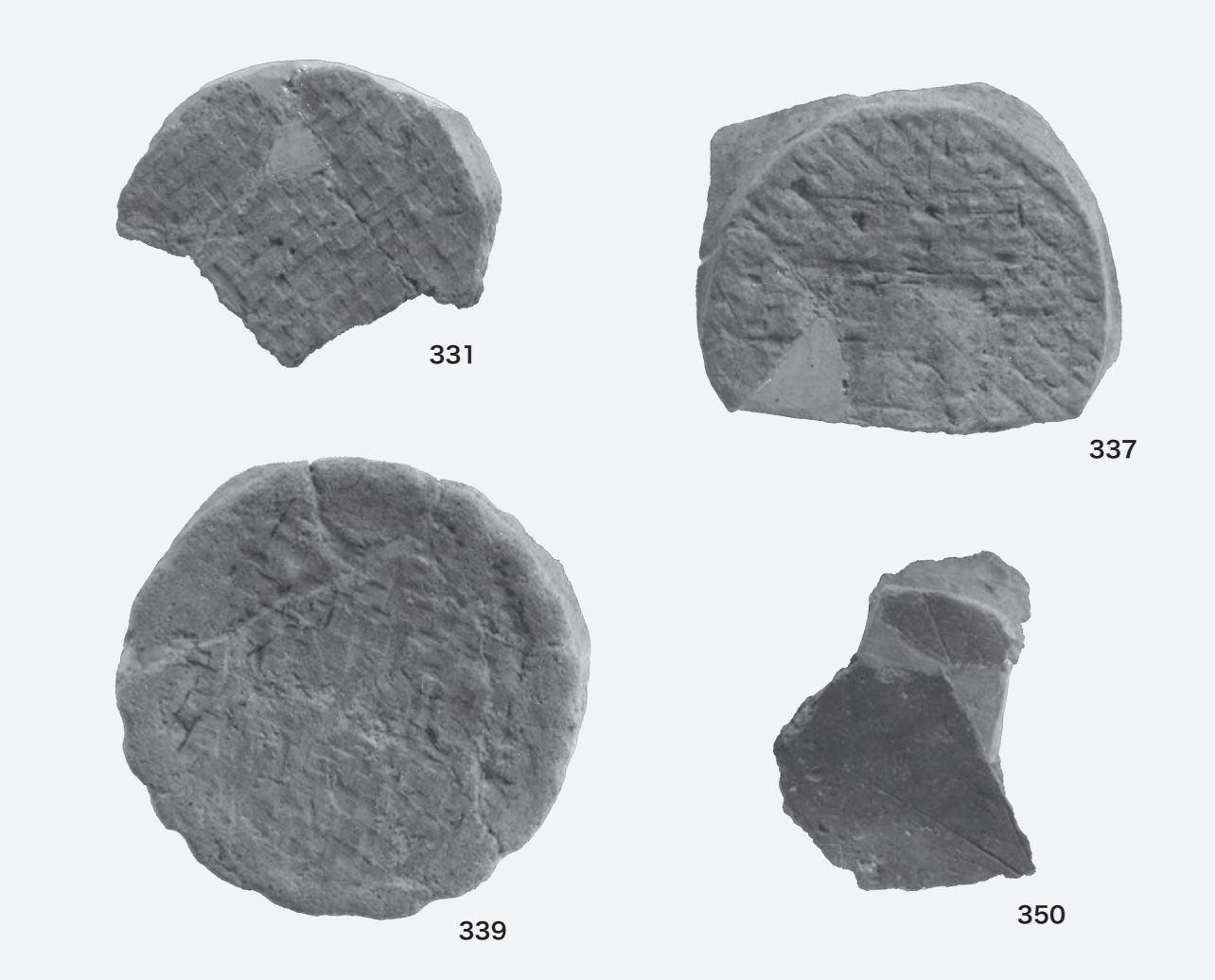
縄文時代Ⅵ類土器(6)

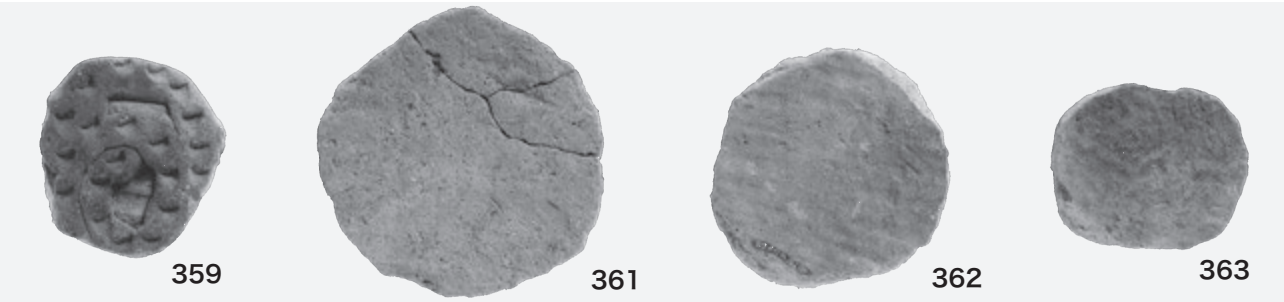
図版18





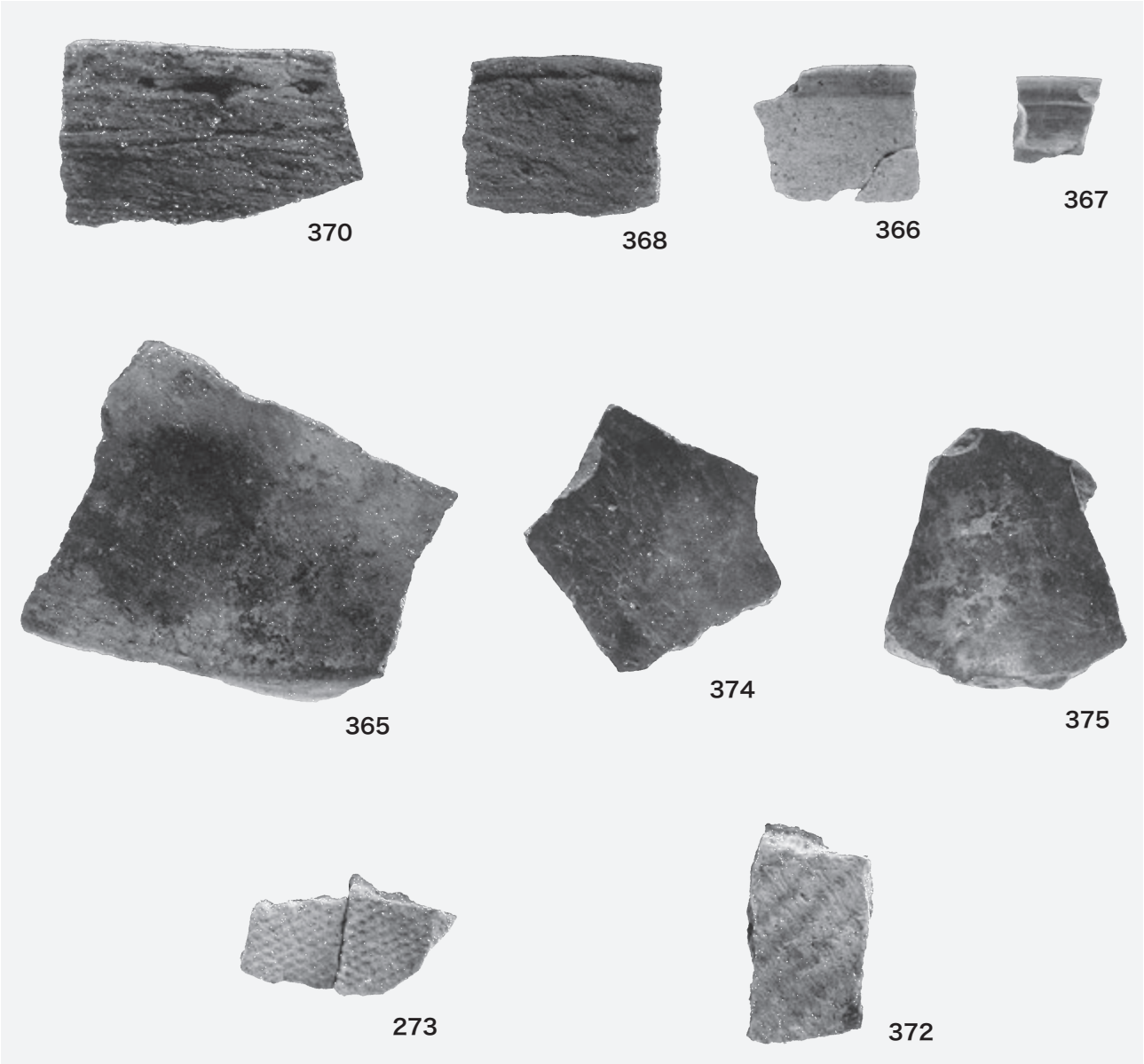
縄文時代Ⅵ・Ⅶ類土器



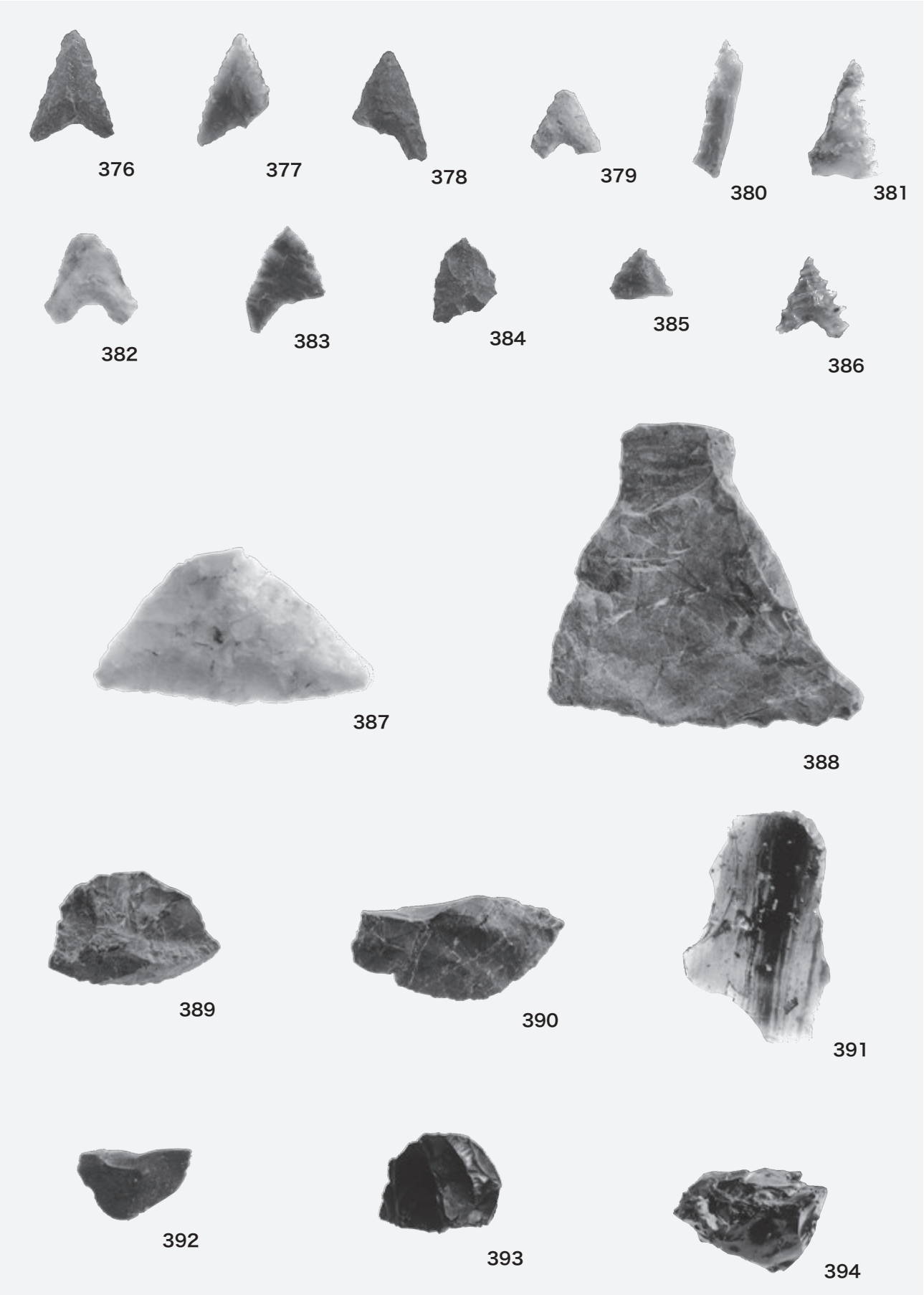


縄文時代土器底部, 組織痕土器, 円盤状土製品

図版20

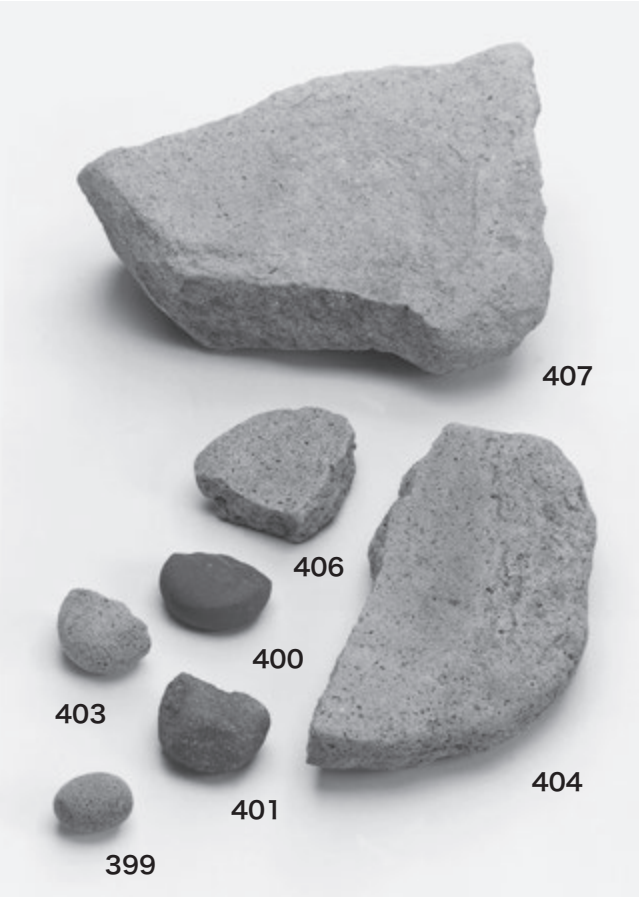


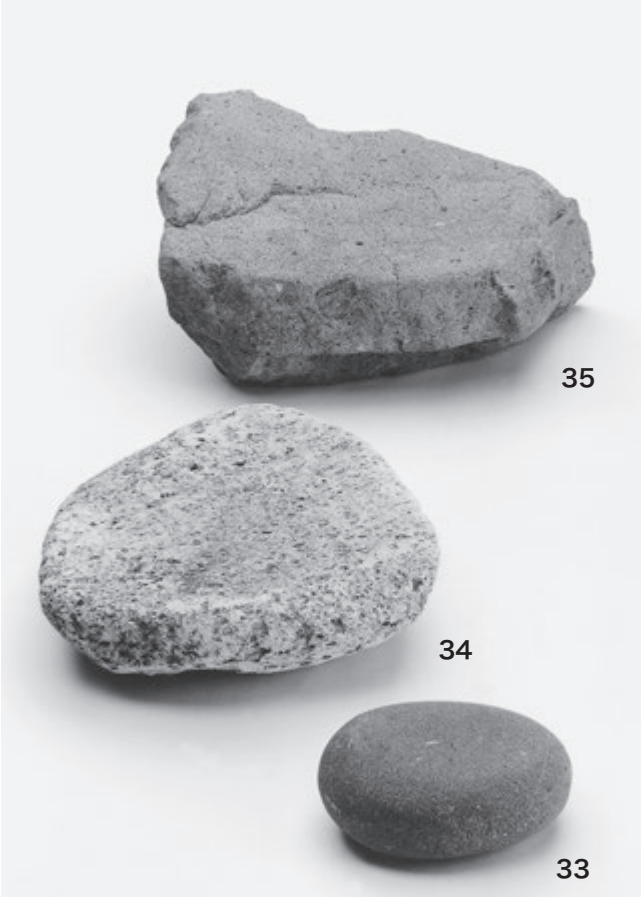
縄文時代Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ類土器


376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394

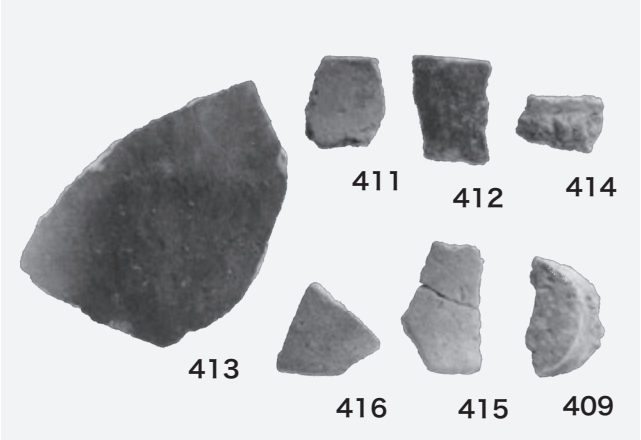
縄文時代石器(1)

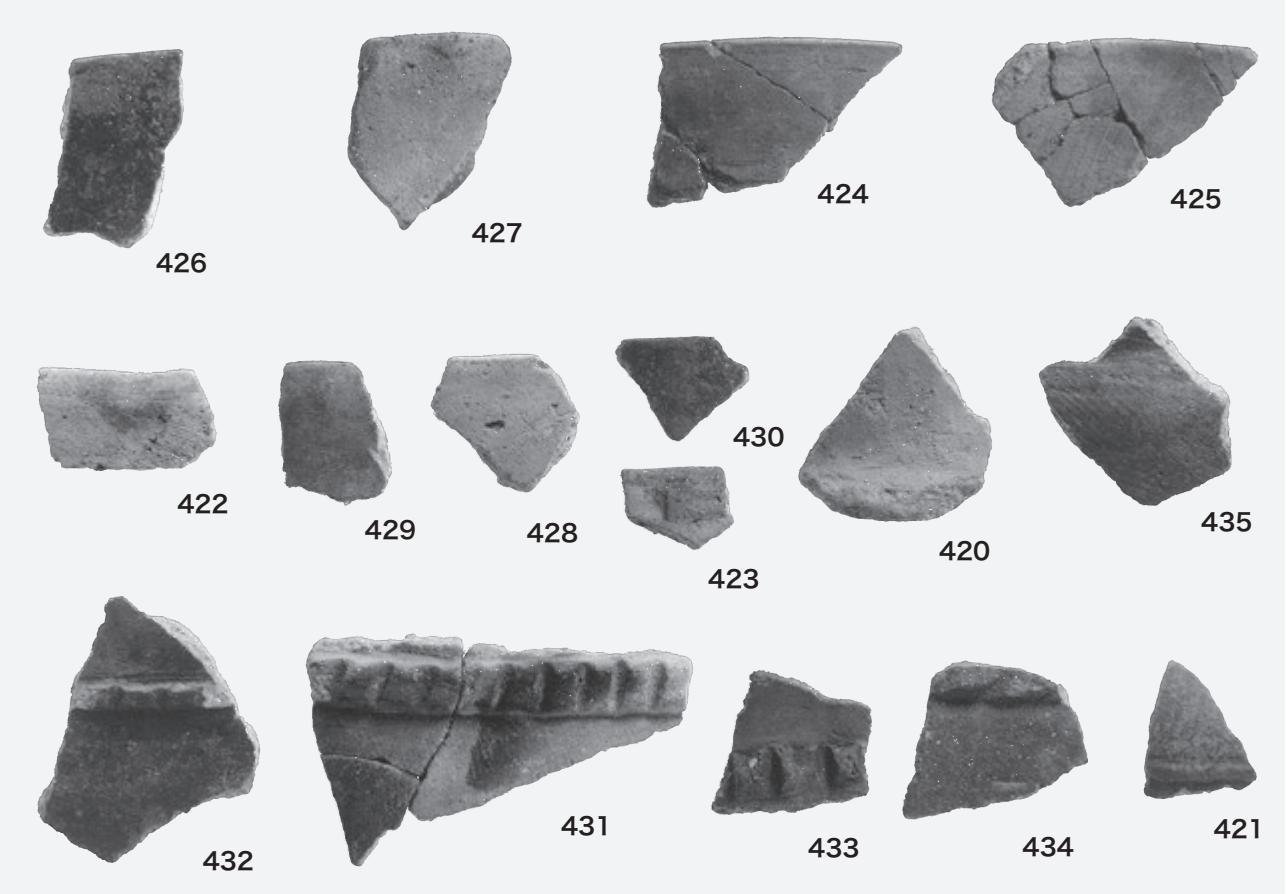
図版22





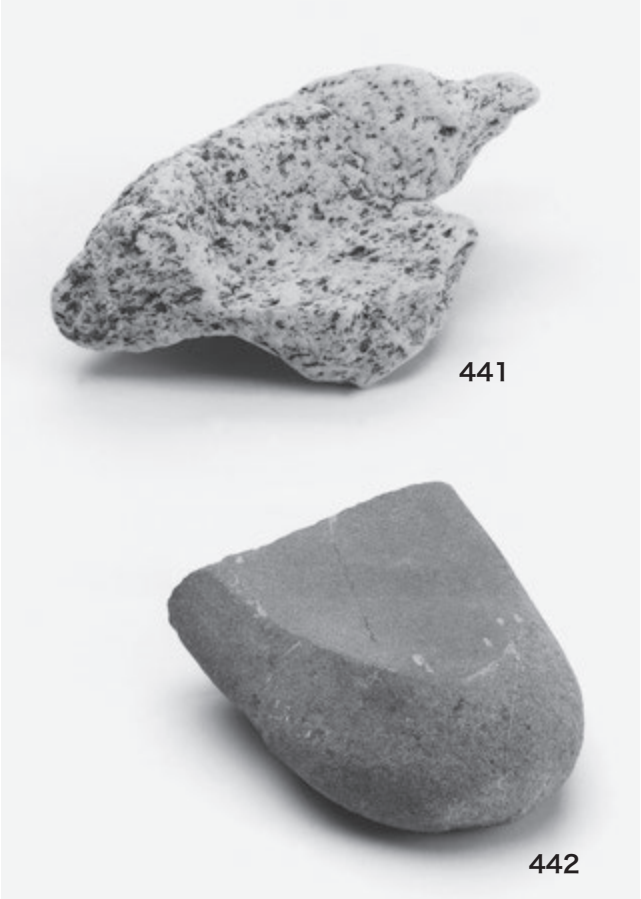
縄文時代石器・土坑3号出土石器

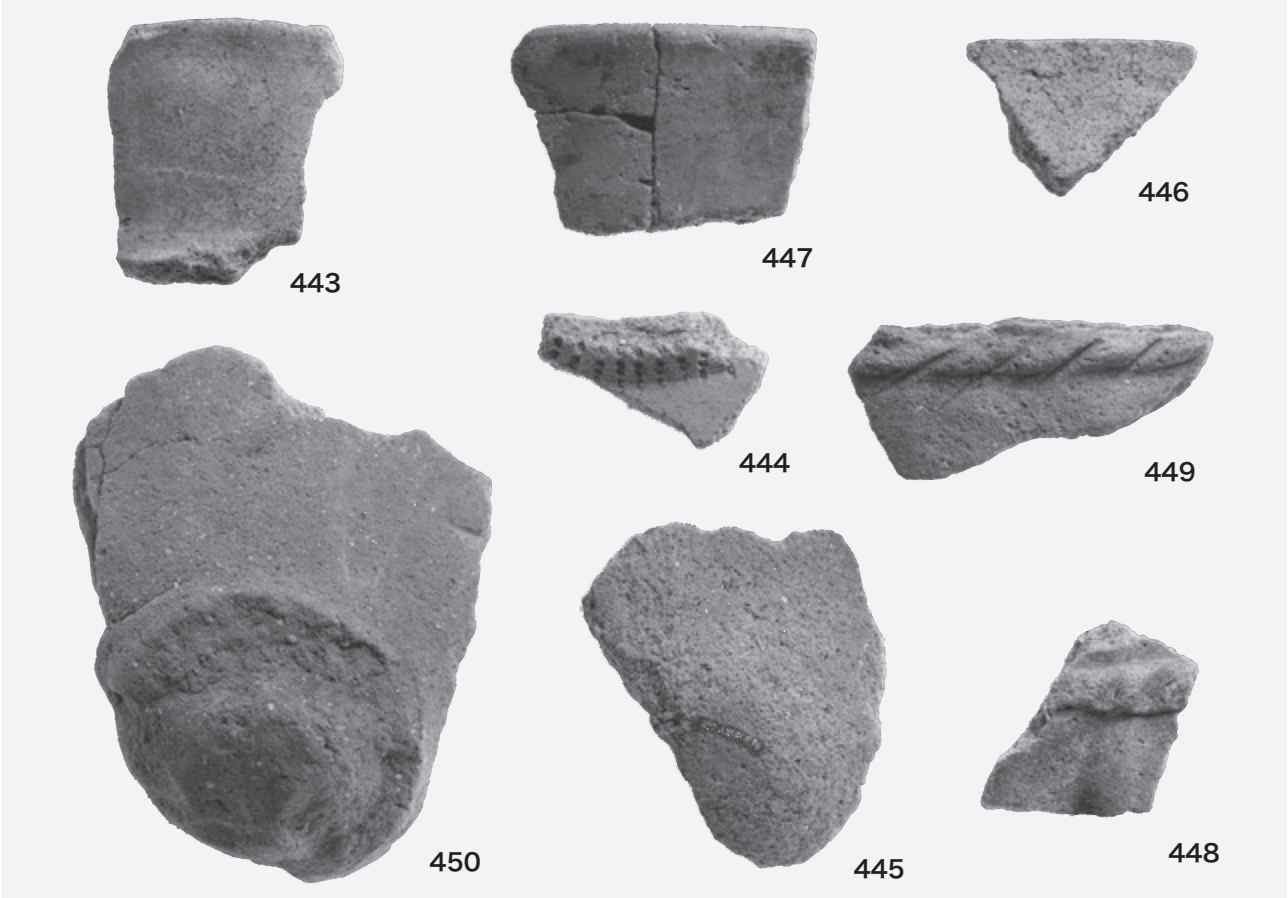




古墳時代竪穴住居跡1号・2号内出土遺物

図版24





古墳時代竪穴住居跡3号内出土遺物, 古墳時代出土土器

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（181）
一般県道大川原小村線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅰ）

前原和田遺跡

発行年月　平成26年3月
発　　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
印　　刷　日進印刷株式会社